

智的約定法



洋学文庫
文庫8
C 158
6



417 7961

增訂的氏約定法卷之壹

第一編

目次

第一章

約定ノ種類及ヒ無印ノ約定一般ノ要領

第二章

無印ノ約定ノ式樣及ヒ解釋

第三章

約ヲ立ツル双方ノ論

第四章

約定ノ讓与ニ因テ双方變ムル論

第五章

新債ニ因テ旧債ヲ改ムル論

民法

以上

增的氏約定法卷之壹

大葉拙藏譯述



第一篇

第一章

約定ノ種類及ヒ無印ノ約定一般ノ要領

羅馬公師云ク元來「ツブリゲリレヤ」ト云ヘル

語ノ正義ハ約ヲ立ツル雙方迭ヒニ盡クス所ノ

義務ニシテ不全ノ義務ツクシヤン天理ノ義務ト異別レテ

更ニ此語ヲ用ヒタリ「蓋レ不全ノ義務天理ノ義

務トハ即チ慈愛ヲ竭レ恩惠ヲ施スノ類ニシテ

我ヨリ之ヲ竭レ之ヲ施スモ彼ヨリ匹敵ノ義務

ヲ責ムルヲ能ハス便チ義務ノ未夕完カラサル

モノニシテ固ヨリ彼我匹敵ノ義務アル約定ノ

字義論

同法書

如キニ非ルナリ然レテ英國公師ハ此語ヲ以テ
洽子ク契約ノ義ニ用ヒス只一種ノ約定ニ此語
ヲ用ヒ而ノ更ニ「コントラクト」ノ語ヲ以テ双方
匹敵ノ義務ヲ盡クシ彼我均シク責任ヲ受ケレ
ムル約定ノ語ニ用ヒタリ故ニ此「コントラクト」
ノ語ハ人ト約定シテ迭ヒニ義務ヲ盡クスノ義
トス例ヘハ人ノ債ヲ負フテ之ヲ償フノ義務ア
ルカ如キ互ヒノ好誼アル各般ノ約定ニ用ユル
ナリ然レモ約定取結フ所ノ事件ニ從テ用ユル
所ノ文字モ亦一トラス「コントラクト」エギリ
メント「プロメツレ」ノ語ノ如キ皆是ナリ唯其用
ユル所ニ從テ各別アルノミ即チ「コントラクト」
ノ語ハ互ヒニ責任ヲ免レサル約定ニ用ヒ而メ

無印ノ約定ニ專ラ供用ス「エギリメント」ノ語
ハ無印ノ約定外ニ用ユル「稀ナリ」
「プロメツレ」ノ語ハ彼我匹敵ノ好誼ヲ持ニ我ヨリ事ヲ約
束スル際ノミニ用ユルナリ然レテ今爰ニ敢テ
精シク字義ヲ論スルヲ欲スルニ非ス更ニ約定
ノ種類ヲ別ツツ以テ緊要トス故ニ此書ノ本論
便テ無印ノ約定ノ詳論ニ涉ル前豫メ其別ヲ論
スル「左ノ如シ

凡ソ約定ハ區別レテ三等トス第一「裁廳簿記」
約定第二「有印」ノ約定第三「無印」ノ約定トス
一 裁廳簿記ノ約定ハ簿記裁廳ノ承諾點檢ヲ
經ルモノニシテ頗ル重件ノ約定トス而メ此約
定ハ專ラ土地ノ事件ニ關係シ毎ニ簿記廳ニ於

約定種類
モトラス「ボテリ」
裁廳簿記ノ
約定

有印ノ約定
有印ノ約定

テ其正否ヲ検査ス及令ヒ其券面上誤謬アリト
虽モ官ノ誤謬状ヲ携ルニ非レハ私ニ其不正ヲ
訟フル一能ハス然レモ若シ規則外ノ裁判ヲ受
ケ或ハ規則ニ適フト虽モ欺罔ニ出ルハ其訟
ヲ受ル裁廳ニ於テ之ヲ破毀スルノ權アリ故ニ
其不正ヲ訟ヘントスルハ更ニ破毀スルノ權
アル裁廳へ上申スルヲ以テ煩路トス然レモ其
約定既ニ行ハル、間ハ双方訟ヲ起レテ之ヲ争
フ一能ハス概レテ論スレハ簿記ハ約定ノ不正
欺罔ヲ既ニ扞防セルモノナリ然レモ其欺罔ニ
レテ之カ為メ害他人ニ及ブハ其人猶ホ訟ヲ
起レ或ハ之ヲ虛無ト為ス一得可キナリ
二 有印ノ約定ハ其約條ヲ書記スルノミナラ

ス約ヲ立ツル人之ニ調印レ而メ彼ノ本人ニ引
渡スヲ以テ此約定ノ式様典格トス約ヲ立ツル
人ノ署名及ヒ其月日等ハ其證ノ正否ニ拘ハラ
サルナリ必ス書記調印レテ而メ彼ノ本人ニ引
渡スヲ以テ正確トス然レモ此約定書ノ引渡ニ
就テハ敢テ本人ヨリ本人へ即時ニ渡サ、ルモ
亦此引渡ヲ正確ト為ス一アリ蓋シ言語ナクシ
テ引渡ス一アリ或ハ現ニ未タ引渡サ、ルモ唯
言語ノミヲ以テ引渡ス一アルヲ以テナリ例へ
ハ調印スル本人證人ノ目前ニ於テ引渡ス旨趣
ヲ陳ルト虽モ猶ホ其本人之ヲ所有スル一アル
カ如シ故ニ約定書ヲ引渡ス人約定ノ全權ヲ委
シテ更ニ別人ニ引渡シ其人彼ノ本人ノ代人ニ

非スト虽モ既ニ以テ正確ノ引渡ト為ス_トアリ
約ヲ立ツル人約定書ヲ引渡スニ彼ノ本人ニ非
ス更ニ別人へ引渡レテ約束ヲ遂ル_ト得ルト
虽モ此ノ如キ約定ノ引渡レハ直チニ其用ヲ成
サス必ス約條ヲ遂ルニ及ヒ始テ其用ヲ為スモ
ノヲ謂フ是ヲ以テ此ノ如キ約定ハ毎ニ別人ニ
引渡レテ彼ノ本人ニ引渡ス_ト無レ
三 單一ノ約定トハ口約ノミナラス後令ヒ書
記スルト虽モ凡テ調印ナクシテ引渡ス約定ヲ
謂フ故ニ英律ニテハ各般ノ約定ヲ口約ト有印
トノ二種ニ區別レ其三種_ヲ記ノ約定ノ如キハ
別ナルモノト為サス蓋レ書記ノミニシテ調印
ナキ約定ハ視テ口約トナレ_レ倣用性質全ク口約

ニ異ナル_ト無レ是ヲ以テ口約ト書約トニ區別無クシテ口
約ト有印トニ區別アリ_レ欺罔律ヲ按スルニ約定ハ必ス書記
署名セサル可カラス又近時議院、議定ニ於テハ約定
ヲ正實ニセントスルニハ書記署名ヲ以テ實ニ
欠ク可カラサルモノトス_レ然レ_レ此書記署名ハ
約定ノ成部分ト為サス却テ後日約定ノ證據典
格ト為スニ過キスレテ實ハ此典格アラサルモ
既ニ十分ト為スニ足りトス書記署名ノミニテ
ハ約定ノ倣用性質ヲ喪スル_ト能ハス爰ニ無印
ノ約定ヲ一層正確ニシテ其倣用ヲ慥ナラシメ
ントスルニハ猶ホ一ノ欠典アリ乃チ通例無印
ノ約定ニ要スル_レ所ノ專ヲ悉ク補益スルヲ以テ
更ニ緊要ト為ス可シ是レ所謂_{コシテ}約原ナルモノニ

無印ノ約定有印
ノ約定性質別テ
ルノ論

約意停止
論

レテ實ニ無印ノ約定ハ書約口約ニ拘ラス此約
原ヲ以テ正約最要ノモノト為スナリ
四 又有印ノ約定ニ就テ守ル可キ禮典ノ要件
ハ無印ノ約定ニ屬ス可ラス今此兩約定ニ就テ
性質ノ別アルヲ論セントス允ソ無印ノ約定ヲ
正確ニセントスルニハ約原ヲ以テ必要トス又
書記調印ノ約定ニ於テハ約ヲ立ツル人十分遺
藏ナク約意ヲ明言スルニアリ故ニ約原ニ拘ラ
ス公平廳ニ於テモ其人ノ約定施行ヲ拘束スル
ヲ免レ難レ又印約欺罔ニ由テ得ルニ非ス且ツ
債主保護ノ為ニ設クル法律ニ背カサレハ擅
ニ之ヲ与フルモ果シテ正約ト為ス可キナリ
約意ノ停止ハ有印ノ約定ニ適用セラレテ無印

ノ約定ニ適用セラレス然レモ無印ノ約定ニ包
含スル所ノ條件ハ彼レニ對シテ停止ノ效用ヲ
為ササルニ非ス蓋シ規則ヲ論スレハ無印ノ約
定ニ載スル所ノ條件ハ後令ヒ未タ結末ノ決定
ニ至ラストモ亦彼レニ對シテ決意ヲ推測ス
可キ證據ト為スヲ以テナリ然レモ亦約ヲ立ツ
ル人約内ノ條件ニ就テ誤謬不正ヲ證スルノ自
由アルヲ以テ敢テ其約意ヲ以テ停止ヲ決定ス
ルニ非ルナリ有印ノ約定ハ全ク之ト相反シ其
約意ニ因テ起ル權利ハ斷然決定ノ條件トシ欺
罔強迫或ハ双方不能カカ又ハ結約ノ趣意不正
ナルカニ在ラサレハ必ス正確無毀ノ約定トス
若シ其レ然ラサレハ後令ヒ約定面ニ於テ更ニ

民法

約定沈滅ノ論

無印約定要領

疑フ可キ道理ナレト虽モ皆印約ヲ破ルニ足ルナリ
 有印ノ約定ハ其性質他ノ約定ヨリ一層重件ニ
 属スルヲ以テ同一ノ關係ニ因テ取結ヒタル他
 ノ無印ノ約定ヲ沈滅ス即チ簿記ノ約定ヲ以テ
 有印ノ約定ヲ沈滅スルカ如シ而シテ有印ノ約定
 ハ彼レニ同カアル約定ノ外之ヲ廢シ之ヲ破ル
 一能ハス
 以上無印約定ノ性質ヲ略論セリ此ヨリ又一層
 精シク其要領ヲ論スル一左ノ如シ
 無印ノ約定ハ二人若クハ數人ニテ取結ヒ双方
 ニテ之ヲ行フト行ハサルト約束ス之ヲ決ス
 ルニハ第一双方ノ同意一致アラサル一ヲ得ス

約定ノ同意

第一ニハ良善正確ノ約原アラサル一ヲ得ス第
 三ニハ約定ノ目的アラサル一ヲ得ス而シテ此要
 領中又左ノ二條ヲ要ス即チ第一双方決約ノ能
 カアル可キ事第二約定ノ目的正理ニ出ツ可キ
 事
 約定ヲ書記シ及ヒ之ニ調印スルニ法律ニ因テ
 要ス可キ一アリ或ハ他ノ件ニ仍テ要ス可キ一
 アリト虽モ此等ノ事ハ爰ニ論セス暫ク後篇ニ
 譲リ而シテ此篇ハ專ラ約定ノ同意ト約原トヲ論
 スルヲ旨トス即チ左ノ如シ
 第一 無印ノ約定ヲ結ンテ双方均シク遵守セ
 ントセハ必ス其人互ヒニ同意一致ノ約束アラ
 サル一ヲ得ス故ニ一方ノ承諾ノミニシテ双方

同意セス強テ一方ヨリ毀ムルカ如キハ得テ真
ノ約定ト認めサルナリ約定ハ必ス双方同意一
決セサル可カラス一方ノ承諾スルカ如キハ
之ヲ守ラサルモ亦責ムル所ナシ双方書上ニテ
約定ヲ決セントスレハ同レク書上ヲ以テ承諾
ヲ見スノ外他ノ方法ヲ用エ可カラス他ノ方法
ヲ用エルキハ得テ正約ト為サ、ルナリ約定ハ
其人ノ同意一致ヲ以テ實ニ緊要トス故ニ書簡
ヲ以テ約定ヲ需ムルハ其約意ニ取テ餘事ヲ
雜ユルナキ同趣一意ノ承諾書アルニ非レハ
亦得テ正約ト為サ、ルナリ蓋レ其必ス同趣一
意ノ答書ヲ要スル所以ノモノハ即チ双方書簡
ヲ贈答レテ互セニ同意ヲ示ス迄テハ尚ホ約定

ヲ拒ムノ權ヲ有スレハナリ然レモ若シ遠地ニ
書簡ヲ送リテ約ヲ結ハントスルハ書簡ヲ送
レテヨリ答書ノ來ル期日迄ハ我レニ於テ彼レ
亦約定ヲ結フノ意アリト考定ス故ニ未タ其答
書ヲ得スレテ我ヨリ先ツ之ヲ廢約ト為スニ非
レハ其期日中ニ答書來ルヲ以テ双方ノ約定全
ク成ルモノト決定ス
ボレル氏爰ニ之ヲ詳明スルヲ左ノ如シ凡ソ
賣買ノ約定ニ於テハ約時現在スル双方ノ同意
ハ勿論其時臨マサル者ト虽モ約事關係ノ者ハ
書簡若クハ代人ヲ以テ俱ニ同意セサルヲ得
ス其時臨マサル者ノ同意ヲ得ント欲スルニハ
即チ商事ヲ取結ントスル本人ヨリ先ツ書ヲ贈

テ高車取組ノ次第ヲ申達シ其書彼レニ達シテ
後テ承諾ノ答書到ルヲ以テ始メテ同意ヲ得ル
モノトス而シテ我ヨリ取組ント欲スル意ハ彼ヨ
リ其決答ヲ復スル迄テ尚ホ連續シテ絶サル
トス若シ我レ某地ノ一商賈ニ高車ヲ取組ント
欲シ商品若干ノ分量若干ノ價ヲ定メ巨細書簡
ヲ以テ之ヲ彼地ニ言送り然ルニ其書未タ彼地
ニ達セサルニ俄ニ我カ模樣變レ乃チ之ヲ購求
スルコト得ス仍テ破談ノ書簡ヲ追答スルカ或
ハ初回ノ書簡未タ彼地ニ達セサルニ我レ暴カ
ニ死亡スルカ或ハ我レ癡狂シテ知覺ヲセテカ
如此キ變起ルハ仮令ヒ彼レニ於テ此變ヲ知
ラズ初回ノ書簡ニ由テ高車承諾ノ趣ヲ答アル

一 虽モ猶ホ未ク賣買ノ正約アリト為ス可カラ
ス蓋シ彼レ我カ書ヲ受取り我カ高車ヲ承諾ス
ル迄テ我カ本意連續ヒス既ニ途中ニ於テ變異
スルヲ以テ到底同意一致ノ約定ヲ得ル能ハサ
レハナリ又若シ最初書簡ヲ以テ約定ヲ取結ハ
シトセシ時彼レ唯口上ヲ以テ之ヲ辞スレハ更
ニ車ヲ改メテ創ムルニ非レハ最初約ヲ結ハン
トスル人前約ノ責任ヲ受ルコトナシ
又爰ニ被告ヨリ原告ニ對シ日ヲ期シテ物品ヲ
鑑定シ原告ノ撰ヒニ從テ之ヲ賣典スルコト約
シ而シテ原告其期日ニ至リ高車ヲ鑑定シテ更ニ
破談ノ意ヲ演ヘナルハ被告約ヲ踐テ再ヒ變
スルコト能ハス蓋シ其期日ニ至リテ双方共貨物

約定^し互行^す規^則

可否ヲ論セサルヲ以テ原告ハ則チ貨物ヲ承
諾シテ買約ノ同意ヲ推測スルニ足ルヲ以テナ
リ
前文ヲ按スルニ約定ハ必ス双方ノ同意一致ア
ラサル可カラズ然レモ約ヲ立ツル時ヨリ双方
均シク事ヲ行ハサルニ猶ホ棄約ニ付セサルモ
ノアリ蓋シ約ヲ立ツル人共ニ均シク事ヲ行ハ
サレハ必ス棄約ニ属ス可キモノアリト虽モ亦
一般ニ此規則ヲ以テ推シ難キモノアレハナリ
即チ爰ニ乙ヨリ丙ニ對シ討索ス可キ金子アル
ヲ以テ之ヲ訟ヘントスル処甲ヨリ乙ニ對シ暫ラ
ク其訟ヲ延期ヤシトシカ為メ丙ヨリ乙ニ償フ
可キ證書ノ金子ヲ拂フ可キト約シタリ此約

定ニ於テハ乙ハ必ス延期ノ約束ニ因テ束縛セ
ラル、ニ非ス然レモ延期セサレハ亦甲ニ對シ
テ訟ヲ起ス能ハサルナリ又人恒ニ言ヘルアリ
汝此者ヲ代人トシテ一週間雇使スルト許サ
ハ我レ能ク其者一切ノ費用ヲ弁セント此約定
ニ於テハ必ス其人ヲ使フ約定ノ為メ束縛セラ
ル、ニ非ス然レモ若レ其人ヲ使ハハ保證人モ
亦約ノ如ク守ラサルト得ス九テ此ノ如キ約
定ニ於テ双方ノ同意アルハ固ヨリ論テシト虽
モ唯約ヲ立ツル時双方同時ニ守テ責任ヲ受ル
ノ約ニ非ス其約ヲ遂ルト否トハ全ク双方孰レ
カ一方ノ権内ニ在ルナリ
若レ夫レ約ヲ立ツル時双方直チニ行フ可キ約

定ニ非ス而ノ双方匹敵ノ趣意約原アラサル片
ハ則テ以テ正約ト為ス可カラズ故ニ仲裁ノ決
ニ委レテ被告ニ責ヲ歸セントスルノ詞訟ニ於
テケシヨシ氏断レテ云ク今日ノ事件ニ於テハ
原告ヨリモ亦均シク仲裁ノ決断ニ由ル可キ同
意證據ヲ出スヲ以テ緊要トス若シ此證據アラ
サル片ハ則テ双方互行ノ同意ナク全ク被告ノ
ミノ片諾タルヲ以テ必スレモ被告ニノミ責任
ヲ受レムルノ理アル可カラズ又爰ニ甲乙書約
ヲ以テ商事修業ノ為ノ二年間留學スルヲ決
スト虽モ西氏彼ヨリ商法ヲ教授スル互行ノ約
定ヲ承諾スルニ非サレハ必ス其約定ニ因テ束
縛セラレ、トナレズ乙氏原告ノ為ノ商業ヲ以

テ十二月間雇使セラレ、書約ヲ結ヒ而シ乙氏
ヨリ暇ヲ乞フ迄テ尚ホ此約定ヲ以テ歲月ヲ續
ク可キ事件ニ於テハ全ク互行兩諾ノ約ニ非ル
ヲ以テ受理セラレサルトニ決シタリ即チ原告
最初乙氏ヲ僱使スルノ約ヲ承諾セサルヲ以テ
ナリ

前則外ニ出ル
約定ノ論

前ニ論スル如ク約定ノ式様ニ關係スルトナシ
又爰ニ約定双方ノ責任トナリ或ハ双方ノ責任
トナラサル規則外ニ出ルモノアリ即チ童兒ト
約定スルカ如キハ其人元來特別ノ權利アルヲ
以テ其約定ニ就キ童兒ヨリ成人ヲ訟フルト
得ルト虽モ成人ヨリ童兒ニ對シテ之ヲ訟フル
ト能ハサルナリ又若シ人欺罔ノ約定ニ因テ請

同法省

求ヲ受ルルハ欺罔ノ所以ヲ陳テ之ヲ拒ムコトヲ
得ルト虽モ欺罔ノ約定ヲ以テ已レノ詞訟ヲ助
クルト能ハス蓋シ人其身ノ曲ヲ以テ已レシ利
スル能ハサレハナリ又日曜日賣買ノ約定ハ其
賣人ニ對シテ虛無トナスコトヲ得ルト虽モ買人
ハ固ヨリ賣人ノ商道ヲ知ラサルヲ以テ亦訟ヲ
起スコトヲ得ルナリ又約定ハ欺罔律ニ照シテ署
名セサル所以ヲ以テ其一方ヲ拘束スルコトナレ
然レモ其人ヨリ欺罔律ニ從テ事ヲ行ヒタル一
方ニ對シテ訟ヲ起スコトヲ得ルナリ蓋シ此ノ如
キ場合ニ於テ其障碍トスル処ハ唯約定ノ證據
ニアルノミニシテ必竟原告ノ署名ヲ正認セサ
ルハ被告ノ過失タルヲ以テナリ

代人約定論

凡ソ人他人ニ代テ約ヲ立ツルハ彼令ヒ其人
最初ヨリ本人ニ代テ約ヲ立ツルノ命ナレト虽
モ後テ本人其約ヲ確定スレハ則チ最初ヨリ命
ヲ下レタルニ異ナラス爰ニ甲乙合併シテ油ノ
商業ヲ営ミ而シテ甲ハ乙ノ承諾ヲクシテ別人ト
油賣拂ノ約定ヲ取組タリ然ルニ其後乙右ノ事
ヲ聞及ニテヨリ一旦其約定ヲ辞スト虽モ後テ
又口約ヲ以テ其事ニ同意レ買人ニ油ヲ見本ヲ
引渡レタリ此事件ニ於テハ乙一旦甲ノ約定ヲ
辞スト虽モ後テ重テ其約ヲ確定セシニ因リ
共ニ責任ヲ受ク可キコトニ決定セリ然レモ此ノ
如キ場合ニ於テハ代人必ス本人ニ代テ約ヲ立
ツルノ證ヲ陳サル可カラズ又爰ニ甲夫婦ト乙

黙約ノ論

トノ詞訟アリ此事件ハ元來原告甲ヨリ被告乙ニ對シ地ヲ借渡ス一ヲ約シタリ然レモ約定昏ニ因ル片ハ代人ハ甲ノ代人ニ非スレテ同人妻ノ代人ト乙一人ト取結ヒタル一明カナリ然レモ後テ甲ハ借主乙ヨリ一旦地代ヲ受取タルニ因リ即チ同人妻ノ約定確定ノ姿ニテ乙ニ對シ訟ヲ起スノ權アル一ヲ論シタリ于時裁廳之ヲ断レテ云ク元來甲ノ與カラサル約定ヲ後チ確定シタル虞ニ因テ乙ニ對シ訟ヲ起スノ事故ト為ス可カラス約ヲ立ツル時代人甲ニ代テ事ヲ商ルノ明言アルニ非レハ今日ノ事件原告ノ議論ヲ助クル一能ハサルナリ
允ソ約ヲ立ツルニ双方ノ同意一致ヲ要スル一

專ラ明細ニ適用ス明約ハ則チ約ヲ立ツル時少シモ事ヲ包マス双方約義ヲ公言明弁スルモノヲ云フ例ハ牛一頭ヲ渡シ或ハ木材拾荷ヲ渡シ或ハ貨物ノ代價ヲ償フ等ノ如ク一々事ヲ明細ニ約諾スルニアリ黙約ハ則チ然ラス約スル時一々事ヲ明奉スルモノニ非ス全ク法律ヲ以テ双方守ル可キ義務約束ヲ推測スルモノニレテ元來双方同意アルニ非ルナリ法律ニ由テ之ヲ觀ル片ハ双方ノ明約アルニ非ス唯双方ノ所為事情ヲ考察シテ以テ其竭ス可キ義務ヲ測リ守ル可キ約束ヲ推定スルニアリ即チ明約ハ互ヒニ明許スル言語ヲ照シテ其守ル可キ義務ヲ定メ黙約ハ公理至誠ニ基テ其守ル可キ約束

民法

ツ推定ス例へハ我レ若シ高車ノ為メ人ヲ雇傭
シ或ハ人ヲ役シテ工事ヲ作サシムルハ法律
ニ於テ暗ニ其勞ニ報ユル費用ヲ償フ可キ義務
アルヲ推定ス或ハ我レ若シ高買ヨリ定價ノ
約ナクシテ器物ヲ持來ル時ハ法律ニ於テ暗ニ
其眞價ヲ償フ可キ義務アルヲ推定ス
裁官ホルトル氏云ク凡ソ法律ニ於テ推定スル
約定ノ義務ハ必ス性理ニ基ク所トス蓋シ黙約
ハ一方約束アルノ外推シテ法律ヲ以テ其義務
ヲ定ムルモノナシ而シテ明黙兩約ノ區別ヲ證ス
ルハ即チ其方法ニアリ明約ハ現ニ双方約スル
所ニ因テ明約タルヲ證シ黙約ハ双方ノ關係事
情ヲ推シテ黙約タルヲ證スルナリ然レモ一旦

約定ノ證アルハ兩約共ニ之ヲ破テ生スル所
ノ利害更ニ異ナルヲ示シ故ニ銀行ニ於テ人ヨ
リ元金ヲ預ル時ハ其預ケ人ヨリ出シタル手形
ニテ金子ヲ拂フ可キ義務アルヲ暗ニ約諾ス
故ニ若シ銀行ニ於テ之ヲ拂ハサレハ即チ預ケ
人黙約ニ基テ訟ヲ真シ其損失ヲ恢復スルノ毫
モ明約アルニ異ナラス是ヲ以テ訟事ニ於テハ
兩約ノ間區別アルヲ示シ今爰ニ黙約ノ例ヲ悉
ク論セント欲スレモ却テ長文贅述ニ涉ルヲ以
テ唯的例一二ヲ挙テ其要ヲ見ス一左ノ如シ
爰ニ運夫或ハ他人ニ貨物ヲ引渡スニ兼テ命ア
リテ貨物引渡ノ上之ヲ捌ク可キヲ定メ置キ
而シテ後チ其人ニ貨物ヲ引渡スルハ即チ其人例

ノ如ク之ヲ捌クハ法律ニ於テ其人當然ノ義務トス蓋シ法律ニ於テ其人貨物ヲ受取ルハ既ニ此義務アルノ約束ヲ包含スルヲ以テナリ又若シ某ノ商道ニ限リ一般普通ノ習慣アル土地ニ於テ高買代人ヲ用エルハ法律ニ於テ代人已レノ作意ヲ用エルトナク必ス其土地ノ習慣ニ從テ事ヲ行フヲ義務トス又若シ某氏ノ婦死シ而シ其夫ノ留守中之ヲ葬ラントスル時我レ其夫ニ代テ分位相當ノ葬費ヲ弁給スルハ佞令ヒ其夫之ヲ知ラスト虽モ我レニ對シ法律ニ於テ埋葬ノ費用ヲ返弁スルノ義務勿ル可カラズ又死後管理人トナル者死者ノ遺産ヲ受取リ而シ其留守中他人代テ死者相當ノ分位ニ應シ

黙約商法ノ習
慣ニ出ル論

葬費ヲ辨給スルハ其人ニ對シテ之ヲ償フノ義務勿ル可カラズ若シ夫レ某ノ商事某ノ場所ニ於テ其土地普通ノ習慣アリ而シ此習慣ニ于係シテ約ヲ立ツルハ特ニ此習慣ニ拘ラサルトテ明約スルニ非レハ暗ニ此習慣ニ從テ約ヲ立ツルトテ約諾ス然レモ此習慣ハ必ス其土地一般一定ナラサルトテ得ス此一定ノ習慣タルトテ證明スルハ則テ視テ之ヲ双方約定ノ根元トス故ニ双方ノ權利義務ニ至テハ更ニ習慣ニ從テ結ビタル約定ト考定ス古來英國達迷塞河ノ習慣ニテ船工ハ特ニ船舶修理ノ為メ代價ノ拂期限ヲ定ムルニ非レハ船工其修費ヲ懸貸スルヲ以テ例トス

曾テ此事ニ付テ詞訟アリ「エレンボロ」氏即チ
此案ヲ断シテ云ク今日原被双方ノ事件ニ就テ
ハ別ニ修費拂期限ノ約定アラサルヲ以テ即チ
習慣ニ從テ暗ニ取結ヒタル約定ト考定ス習慣
ニ從ヘハ修費ヲ懸貸スルヲ以テ先例トス故ニ
被告船ニ於テハ原告ノ船舶ヲ修理スルト虽
モ其船舶ヲ拘留シテ代價ヲ討索スルノ權利ア
ラサルナリ又人商事ノ習慣ヨリ起ル黙約ノ為
メ責任ヲ受ル事ハ仮令ヒ其人此習慣ヲ知ラサ
ルト虽モ猶ホ其習慣ニ因テ責任ヲ免カレサル
「アリ例ヘハ元金^金為替會社ノ習慣ニ因テ仲商^{ブローカー}
其主人ノ為メニ約ヲ結ヒ而シ其身ニ詐リナク
勘定ノ差數ヲ拂フキハ即チ主人ヨリ仲商ニ對

黙約ハ一家習
慣ニ出テサル論

シ之ヲ返辨ス可キ黙約アリテ主人ニ於テ其習
慣ヲ知ルト知ラサルトニ拘ル「ナシ仲商ハ其
主人ニ對シ既ニ拂ヒタル差算ノ全數ヲ回復ス
ルノ權利アルナリ」
然レモ商事ノ習慣其土地一般ニ游ラス唯一家
ノ法ニ出ル時ハ約ヲ立ツル人兼テ此家法ヲ知
ルニ非レハ以テ遍子ク此習慣ヲ守ラシムル「
能ハス故ニ約定双方ノ間兼テヨリ取引ノ先例
アルハ銀行ニ於テ利息ヲ徴收スル「得ル
ト虽モ其人預メ此ノ如キ一家ノ習慣ヲ知ルノ
證アラサルハ負債主銀行一家ノ習慣ニ因テ利
息ノ責任ヲ受ル「ナシ又船貨請合會社ノ習慣
ニテ若シ損失アレハ仲商ト請合人トノ勘定ヲ

法律省

黙約先例ニ出ル
論

以テ利息ヲ引去ルノ社風ナリト虽モ仲商兼テ
此習慣ヲ知ラサレハ請合人双方ノ計算ニ於テ
此ノ如ク利息ヲ引去ルヲ能ハス又曾テ裁官ニ
スト氏陪審立會ノ審判ニ於テ断レテ云ク凡ソ
某ノ土地ニ於テ某ノ高車某ノ職業ニ一般普通
ノ習慣アリ而シテ或ル人其土地ニ於テ他人ノ某
高車某職業ニ就テ備設スルハ則チ其土地ノ
習慣ニ從テ其人ヲ用ヒタルト考定ス然レモ
歟西既ニ治療ヲ施シ幾多ノ藥品ヲ費用スルト
虽モ其證據ナキハ醫師一家ノ習慣ヲ以テ醫
料ヲ討ムルト甚タ謂レナキニ似タリトス
凡ソ約定双方ノ間從來先例ヲ踏テ事ヲ行ヒ來
ルハ即チ迭ヒニ先例ノ黙約アルト判然タリ

黙約ハ何謀ニ出
ル論

故ニ利息ヲ拂フニ双方一定ノ方法ヲ以テ計算
シ來ルハ則チ其例ニ因テ利息ヲ討ムルノ權
利アリ又後令ヒ公平裁廳ニ於テハ組合社員ノ
利息ヲ計算スルニ過分ノ元金アル者ニハ別ニ
利息ヲ与フルトナシト虽モ既ニ會社ノ習慣ニ
因テ此ノ如キ利息計算ノ先例アルハ亦其利
息ヲ与ヘサルト得ス
凡ソ黙約ハ人惡意ヲ企ツルノ所為ニ因テ起リ
而シテ裁廳ニ於テハ必ス其證ヲ執テ此ノ如キ黙
約ヲ聽カサルトナシ蓋シ天下何人モ惡意ヲ企
テ我レニ利スルト得可カラズ故ニ後チニ論
スル如ク土地ヲ借領スル者其地主ノ為メニ地
價ヲ償フノ黙約ヲ以テ訟ヲ受ルトアリ又若シ

人アリ他人ノ奉公人ヲ誑惑シテ故ラニ擁庇ス
ルハ其主人ヨリ其者ニ對シ奉公人ノ工方職
業ノ為メ詞訟ヲ起ス一得ルナリ又若シ被告
ヨリ原告ヲ誑導欺テ一旦貨物ヲ分散人ニ賣却
セシメ而シテ後ケ遂ニ其品ヲ已レノ利用ト為ス
片ハ原告ヨリ被告ニ對シ其貨ノ本價ヲ恢復ス
ル一得ルナリ又若シ夫已レノ妻ヲ擯斥シテ
一モ必用品ヲ資給セス而シテ他人ヨリ之ヲ資給
スル片ハ彼令ヒ其夫復テ已レツ抵當トシテ妻
ニ貨物ヲ給ス可カラサル公布ヲ出シ置クト虽
モ黙約ニ因テ夫其人ニ對シ代價ノ責任ヲ免ル
、一能ハス然レテ後チニ論スル被告ヨリ原告ニ
對シ惡意ヲ以テ強テ金子ヲ拂ハシムル事件ノ

黙約ハ推定ノ
意ニ出ル論

如キハ彼令ヒ之ヲ償フ可キ正約ナレト虽モ亦
推シテ償ノ約アルヲ以テ論定ス此等ノ諸例ハ
皆此種類ニ屬スルナリ
黙約ハ又時トシテ双方ノ黙許或ハ推定ノ同意
ニ出ル一アリ故ニ地主地借ニ對シ其地ヲ退ク
カ然ラサレハ地價ヲ拂フ可キヤ其可否ヲ問フ
ニ借主何等ノ返答ニ及ハス尚ホ依然トシテ其
地ニ住居スル片ハ即チ暗ニ地主ノ言入承諾ノ
理ヲ以テ論シ借主乃チ地價ヲ拂ハサル一得
ス又爰ニ貧民アリ此區内ニテ脚ヲ傷メタルヲ
以テ之ヲ隣地ノ旅舎ニ伴ヒ其場ニ於テ貧民檢
査ノ檢査ヲ受ケ其官吏ノ允許ヲ經テ醫官治療
ヲ施ス片ハ醫官ヨリ其官吏ニ對シテ治療ノ諸

費ヲ討ムルノ權利アリ蓋シ貧民途中急病ニ罹
 ルハ其土地ヨリ必需品ヲ給与セサルヲ得
 ス故ニ官吏知テ妨ケス醫官ノ治療ヲ受ケレム
 ルハ則チ我ヨリ治療ヲ需メタルニ異ナラス
 是レ脚ヲ傷フ土地ニ於テ其諸費ヲ償フ義務ナ
 キ所以ナリ又若シ人アリ不正子ヲ養テ我カ本
 系ノ子孫ト定メ而シ其子他人ノ養育ヲ受ルニ
 本父視テ之ヲ妨ケサルハ暗ニ父ヨリ其人ニ
 對シ養育ノ諸費ヲ償ハサルヲ得ス然レモ此
 裁決ヲ執テ必ス正律ト定ム可キヤ猶ホ未タ疑
 議ヲ免レサルナリ
 事情ニ因テハ全ク約定ノ有無ニ拘ハラズ絶テ
 約束ノ如キモノ無レト虽モ其事ノ義務正理ヲ

黙約ハ明約ニ
 対シテハ論

考究シ法律ニ於テ暗ニ約束ヲ包含スルヲアリ
 又訟書ノ文意ニ因テ双方約定ノ事ヲ行フ判
 然タルハ則チ文意ニ從テ行事ノ約定アルヲ
 断決ス既ニ此ノ如ク双方事ヲ行フノ約定判然
 タルハ敢テ文中他意ヲ包含スルト為スル能
 ハス而シテ後令ヒ某事ヲ行フニ當リ從テ偶然生
 スル所ノ事ハ隨テ之ヲ行フ可キノ約定アリト
 為スルアルモ亦果シテ此ノ如キ意アリト為ス
 可カラサルナリ
 允テ前ニ述ル所ノ黙約ハ明約アラサル時ノ外
 必ス行ハル、モノニ非ス故ニ同一ノ事件ニ就
 テ既ニ明約アルハ後令ヒ欺罔ノ明約ハ虚無
 ニ歸ス可レト虽モ亦重テ黙約ノ為メニ束縛

セラル、一ナシ實ニ欺罔ノ約定ハ之ヲ廢棄ス
ル一ヲ得ルトモ全ク明約ニ因テ訟ヲ負スハ
ハ必ス其約定ニ因ラサル一ヲ得ス又商法ノ習
慣ハ明約ニ克ツテ能ハス故ニ甲ヨリ乙ニ精製
ノ塩豚若干量ヲ賣却スル一ヲ約定シ乙其肉ヲ
量リ其品位ヲ監ミ乃テ代料トシテ二箇月期限
ニテ拂フ可キ金券ヲ渡シタリ然ルニ其拂期限
ノ前ニ乙ヨリ甲ニ對シ先約ノ豚肉ハ我カ用品
ニ違ハサル趣ヲ報シタリ此事件ニ於テハ甲ヨ
リ乙ニ對シ塩豚ノ商法ニ於テハ聊カ腐敗スル
所アルモ皆精製ノ分トシテ受領ス可キ風習タ
ル一ヲ證據ト為ス能ハサル一ニ決定セリ又家
資讓与ノ語ハ暗ニ家資ヲ全領スルノ意ヲ包含

スルト虽モ明約アルハ隨テ廢セサル一ヲ得
ス又後令ヒ土地ノ習慣ニ因テ地借人其土地ヲ
退クハ暗ニ其前年ヨリ培養シタル諸穀功勞
等ノ為メ相當ノ料ヲ受ルノ權アリト虽モ新住
ノ地借人既ニ地主ト約定ヲ結ビテ此事ヲ決ス
ルハ習慣ノ默約ヲ以テ其明約ヲ破ル一能ハ
サルナリ

約原一般ノ規則

第二 凡ソ約定ヲ作ルニハ第一双方ノ同意一
致第一良善正確ノ約原アラサル一ヲ得ス是レ
前文既ニ論スル所トス而メ其同意ヲ要スルニ
至テハ既ニ概畧之ヲ盡シタリ故ニ此ヨリ以下
約定第一ノ要領即チ約原ノ事ヲ論述ス夫レ此
約原ハ法律公義ニ於テ無印ノ約定ヲ立ツルニ

民法

實ニ欠ク可カラサルノ要部トス而シテ此約原ハ
具ニ約定ノ意ヲ書記スルト虽モ必ス有ラサレ
ハ約定全ク虚レキニ歸シテ詞訟ヲ言防クテ能
ハス我カ法律ノ旧記ヲ按スルニ米國既ニ約原
ナキ約定ノ規則ヲ允ス¹アリ然レモ元來英國
ノ法律ニ固有スル規則ニ非ス而シテ約原ナキ約
定ニ¹エジエムパクチエム¹約原ノ義ノ語ヲ用ヒ
タルハ全ク羅馬ヨリ借用スルモノニシテ更ニ
約原ヲ以テ約定ノ正確必用ノ部分トスルハ佛
律ニ於テモ亦然リトス抑々惠慈ノ約定ハ必竟
善行ノ義務ニ基キ其人ノ面目ヲ重シテ之ヲ
守リ之ヲ決スルモノニシテ必ス當然ノ責任ヲ
起ス可キモノニ非ルナリ此約定ハ全ク偶然ニ

出テ此義務ヲ守ラサル者有リト虽モ取テ約ヲ
受ル人ノ大害トナルニ非ス法律ニ於テモ此ノ
如キ不全ノ義務強行セシムル¹能ハス殊トニ
印約ヲ施行シテ此約定ヲ強力遵守セシムルカ
如キハ必ス理アリト為サ、ルナリ蓋シ約原ナ
キ約定ヲ許ルスハ羅馬ノ法律ニ擬スル所ニシ
テ羅馬ノ法律ハ約定ヲ式格ニ從テ取結ヒ或ハ
官署ニ於テ取結ヒ而シテ後令ヒ其約定約原ナシ
ト虽モ以テ約定ノ双方ヲ束縛スルノ規則トス
無印ノ約定ニ用エル前條ノ規則ハ英律ニ於テ
殆¹ト欠ク¹ナシ實ニ書約及ヒ高買貿易ノ事
件ニ於テ約原ナキハ取テ障¹碍ト為スニ足ラス
ト為スト虽モ然レモ此法全ク破レタリ¹ブレツ

為替證書約原
ノ規則

キストーシ氏ノ法律釈義ニ云ク為替証書及ヒ
金子交換証書ニ於テモ約定ヲ有効正確ト為ス
ニハ更ニ約原ヲ以テ必用ト為スノ論判然タリ
元來規則ニ於テ此ノ如キ証書ト虽モ約原ヲ以
テ實ニ約定必用ノ部分ト為スノ論ヲ俟タスト
虽モ唯他ノ約定ト異ナル所アリ他ノ約定ニ於
テハ顯然約原アラサルヲ得ス金券ノ類ニ至
テハ其書欺罔ニ出テス又反對ノ意義アラサレ
ハ裁廳ニ於テ現ニ約原ナキモ推レテ約原アル
トニ決定ス然レモ亦被告裁廳ニ於テ金券等ノ
詞訟ニ就キ約原ナキノ證ヲ立ツルヲ得即チ
約定ノ本人例ヘハ金券ヲ出レタル人ト之ヲ承
諾シタル人トノ間ニ詞訟起リ而シテ原告ニ於テ

ハ證書ノ金價ヲ与ヘタルトヲ演ヘ又被告ニ於
テハ之ヲ受取ラサルトノ證ヲ陳ルモハ其詞訟
遂ニ受理セラレサルトニ至ル可シ又仮令ヒ原
告ハ金券ノ裏書ヲ受タル人ニテ本價ノ代リニ
之ヲ受取りタルニ被告ニ於テハ約原ナキヲ證
シテ已レシ利スルト能ハスト虽モ若シ被告モ
リ原告其他証券所持ノ者ニ對シ証書ノ代リニ
本價ヲ与ヘタルニ非ルノ證ヲ立ツルトヲ得ル
モハ被告ニ於テ其詞訟ヲ言防クトヲ得可シ
正確ノ約原アルヲ以テ無印ノ約定ヲ助クルモ
ハ元來約原不正ニ出レハ其約虚レキニ歸スル
ト論ヲ俟タサルナリ今爰ニ不正ノ約原ヲ論ス
ルヲ主旨トスルニ非レモ完ク不正ノ趣旨ヲ會

グット
良善ノ約原ト有
タル
実ノ約原ト區別
アル論

有セス法律ニ於テ十分ト認ル約原ヲ論スル
左ノ如シ

此事ヲ論スルニ就テハ先ツ有印ノ約定ニハ良
善ノ約原ト有實ノ約原トニ様ノ區別アルヲ
前論ス即チ良善ノ約原トハ血族ノ慈愛等ニ関
係シテ天理自然ノ義務ニ基キ又有實ノ約原ト
ハ通貨婚姻等ニ関係シテ公理ニ基クモノヲ云
フ然レニ無印ノ約定ニ就テ約原ヲ論スルハ
此兩語ヲ交換互用スルアリ
公師有實ノ約原ヲ區別シテ四種トス第一種ハ
我ヨリ貨物或ハ金子ヲ与フルニ彼ヨリ再ヒ消
却ヲ受ルノ約定ヲ以テスル事而シテ此償却ノ約
定ヲ以テ金子ノ貸借及ヒ貨物ノ鬻賣等ヲ為ス

モノハ皆此種類トス第一種ハ彼レ我カ為メニ
某ノ工事ヲ為ス片ハ我レ亦彼レノ為メニ某ノ
工事ヲ行フ可ク或ハ兩人共ニ婚スルヲ約スル
等ノ事或ハ彼レ某事ヲ行フ趣意ニ因テ我レ某
事ヲ耐忍スル事例ハ地借人己レノ住家ヲ修
理スルニ因テ地主ヨリ家屋ノ荒廢ニ就テ借主
ヲ訟ヘサルカ如シ或ハ又双方ノ耐忍ニ出ルモ
ノアリ乃チ甲氏ハ葡都里斯本ニ至テ通商ヲ為
ス可カラス又乙氏ハ佛港馬塞里ニ赴テ通商ヲ
為ス可カラス而シテ互ヒニ商業ノ技格ヲ避ク可
キ一ヲ約スルカ如シ第三種ハ人定價ヲ以テ某
事ヲ作スヲ約スル事而シテ此價ハ特ニ定ムルモ
ノアリ或ハ法律ニ因テ定ムルモノアリ即チ主

法律

人給料ヲ定メテ家僕ヲ僱使スルトテ約諾シ或
ハ特ニ傭使ノ金高ヲ定メテ傭使スル時家僕其
金額ヲ得ントセハ甘ンシテ其主人ノ用務ヲ為
スノ約定ニ於ル如シ若シ又金高ヲ定メスレテ
家僕ヲ一般ニ僱傭スル片ハ其主人ノ為メ從僕
相當ノ用務ヲ為ス可キ黙約ヲ以テスルナリ茅
四種ハ全ク茅三種ノ變体ニシテ倒底其意ヲ顛
倒セシモノニ過キス即チ我レ從僕ヲ僱使スル
ニ其ノ工率成就ノ上若干ノ給料ヲ与フル約定
ヲ以テスルカ如シ

智的約定法卷之一終

司
譯
法
印

知的約定法

卷之二

司
譯
法
印

司
譯
法
印

留氏約定法卷之二

第一篇

第二章目次

- 一 無印ノ約定ノ式樣
- 二 欺罔律ニ管係スル如何ノ論
- 三 一年内ニ遂ク可カラサル約定ノ論
- 四 約定ノ解^{コト}釈^シ
- 五 書約ニ及^レシ或ハ之ヲ説明スル口^{コト}證

智氏約定法卷之二

約定書記公用論

一 九ノ章一ノ約定ハ必スシモ書記ヲ要セサ
 ルナリ又ヨ無印ノ約定一般ノ規則トス若シ夫
 レ法律上ニ於テ特ニ此規則ニ反對シタル明條
 ナク又嚴ニ約定ノ證書ヲ望マサルハ縦令ヒ
 唯口約ノミヲ以テスルト虽モ正正確ノ約定
 ト為スナリ
 然レモ欺罔律ニ因リ及ヒ年給ノ賜典又ハ船舶
 ノ賣典等ニ至テハ法律ニ因テ必ス昏記セサル
 可カラズ出版權ノ賣典ニ於テモ亦然リトス近
 年立法上亦此法ヲ設ケ即チ負債主一旦定期律
 ニ因テ停止セラレタル負債ヲ消却スル約定或

ハ成男童年中ニ取結ヒタル負債償還ノ約定等
ハ其人書記署名スルニ非レハ虚シキニ帰セサ
ルコトヲ得ス

商賈ノ習慣ニ由テ為替証書、金子交換証書、其他
此ノ如キ通用証券ハ必ス其人書記署名セサル可
カラス然レ氏其書記ハ石筆ヲ以テスルモ亦可
ナリ必スシモ墨水ヲ用ユルニ及ハサルナリ
凡ソ正確ナル無印ノ約定ヲ作ラント欲セハ必
ス双方ノ同意ト良善ノ約原トニ基キ而シテ
並五セサル可カラサルコトハ既ニ屢々論スル所
トス今又爰ニ約定ヲ立ツルニ欺罔律ニ從フ氏
ハ、双方ノ同意約原等、必ス各上ニ頓然々ラサル
ヲ得サルコトヲ論ス可シ、蓋シ欺罔律ノ旨意ハ、約

ヲ五テ、其ノ責任ヲ受ル人、必ス署名セサル可カ
ラサルコト以テナリ故ニ約定ニ於テ一方ノ約意
ノミヲ存記シテ、之ヲ承諾スルモノ、同意ヲ存
記セサルカ、或ハ一方ノ約意ノミヲ十分存記シ
テ更ニ約原ノ因テ起ル所ヲ會スル能ハサルハ
ハ、乃ケ欺罔律ヲ以テ論スル、双方十分ノ約定
リト為ス可カラズ、然レ氏此規則ハ、独リ欺罔律
ニ限ル可カラズ、蓋シ約定ハ存記ヲ要セサル時
ト虽レ、尚ホ若シ双方ニテ其ノ一存ハ、則チ約定
ノ一部タルコトニ一致スル所ハ、他ノ口証ヲ取テ、
其條目ヲ増減スルコト能ハス、故ニ約定ハ、必ス各
中ニ、無印ノ約定ヲ正確トス可キ、各件ヲ全記寫
蓄スルコトヲ以テ緊要トス

九ツ正實ノ口約各約ヲ作ラントスルニハ、必ス
双方ニテ正實ト思量スル、理ヲ究メテ、以テ互ヒ
ニ言諾ヲ陳ヘサル可カラズ、若シ夫レ約定ノ意
義、喚トシテ明カナラス、更ニ双方ノ約意、暗昧ナ
ルハ、固ヨリ裁聽審官ノ能ク得テ双方ノ約意
ヲ推決スルコト能ハス、是ヲ以テ遂ニ其約定虚シ
キニ帰セサルコト得サルナリ、故ニ人アリ某ノ
社ト約ヲ立テ其社員ト成ラシムコトヲ足ルト
氏、双方ノ間、社則ホタ定マラサルニハ、未定ノ為
ノニ其約定虚シキニ帰セサルコトヲ得ス、然レ氏
既ニ社ヲ設テ、規則ヲ定メ、而シテ後々社中ノ一人
別人ト約ヲ立テ、乃チ其人ヲ後々社員トシテ待
タシムコトヲ決スルニハ、爰ニ未定ノ疑義アラサル

ナリ

約定ハ、縦令ニ未定ノ疑義アリト雖、尚カ裁聽
ニ於テ、未定ノ言諾ニ效驗ヲ與フルコトアリ、即チ
爰ニ寺務進退ノ權ヲ交換スルノ約定アリテ代
人ヲシテ以テ約ヲ謀ラシムルニ、代人ニ手数料ヲ
払フ可キコトヲ決シ、三分一ハ現金ヲ以テ払ヒ、残
ル二分ハ讓典ノ各目ヲ取出シタル時払フ可キ
ノ約定タリ、然レニ裁聽ニ於テ、讓典ノ各目ハ、所
有權讓典ノ各目ヲ云フカ、將テ交換証券ノ讓典
ヲ云フカ、此兩義ニ紛義ヲ生シタリ、然レ氏何レ
モ未ダ全ク渡サレタルニ非ス、是ヲ以テ、縦令ニ
約定各目ノ事ニ於テハ、不明未定ノ慮アリト雖
氏、原告ニ於テ、未ダ手数料ヲ討求スルノ時期未

民法

欺罔律ニ干係スル
如何ノ論

リタルニ非ス、欺罔定ニ於テハ、毫モ疑フ所ナキ
司ニ決定セリ、縦令ニ約定ハ、各約口約或ハ印約
ノ内、何レヲ以テ為スト多クモ、之ニ效カラズ
ニハ、法律ニ因テ必ス其用エル所ノ言語ニ、持式
アルニ非ス、是レ實ニ確然タル規則トス、蓋シ約
定双方ノ意思ヲ詳カニ會得スルコトヲ得レハ、其
用エル所ノ言語何タルモ、或ハ言語又則ニ適ハ
サル所アルモ、結局意ヲ違スレハ、取テ之ヲ甘ム
ルコトナレ

ニ 詐偽誣誕ノ約定ヲ禁シ、人民交際ノ欺罔ヲ
防カンカ爲メ、古未設ケル所ノ律アリ、執テ義ニ
從テ欺罔律ト稱ケルモ、是ナリ、欺罔律ニ論スル
所ノ各約ハ、必ス各記シテ責任ヲ受ク可キ人、

若シクハ其代人ニ因テ署名ナサハ、此可カラサ
ルナリ、而シテ此律ニ於テハ、未タ成シモ約定ノ性
質效驗ヲ變スルコト有ラス、尚ホ今日ニ至ルモ、約
定ハ必ス十分ノ約原ニ基キテ、具サニ双方ノ旨
意ヲ各記シ、且ツ一層正實ノ明證ヲ備ヘンカ爲
メ、猶ホ本人重テ之ニ署名セサルコトヲ得サルモ
トス

欺罔律ノ第一節三章ハ、不動産ノ所有權、及
ニ 張典ノコト、凡ニ此權利張典ニ就テリ約定ヲ
論シタリ

其第四章ニハ、約定ニ因テ訂証ヲ起ス可カラサ
ルニ五條ヲ挙ケ、即チ第一死後管理人ヲシテ、其身
ノ承産ヲ以テ、損失ヲ償フ約束ノ責任ヲ受ケシ

ハ、時、第二被告ヲシテ、他人ノ負債怠慢、或ハ過失等ヲ償フ、約束ノ責任ヲ受ツシムル時、第三人ヲシテ婚姻ノ約原ニ由テ、取結ヒタル約定ノ責任ヲ受シメントスル時、第四人ヲシテ土地借地遺産、差シクハ此類ニ關係シタル利息ノ約定、又ハ賣典等ノ責任ヲ被ラシムル時、第五一年外ノ約定ニテ、訂訟ヲ起ス可キモノ、但シ此約定ノ如キハ、本人差シクハ本人ノ委託ヲ受ツタル縣人ニ因テ、登記署名スルモノニアラサレハ、結約ノ日ヨリ一年内ニ遂ク可カラサル約定ニ付キ、人ヲシテ其責任ヲ受シムルコト能ハス

欺罔律ノ第十七章ニハ、十磅以上ノ貨物賣買ノ約定ヲ論シタリ、而シテ此後ニ至テハ、遍子ク

欺罔律中緊要ノ數章ヲ挙論スト、且、我等今爰ニ論セントスル所ハ、此律ニ從テ要スル約定ノ性質ト、約定ニ署名スル方法トノ大要ヲ論スルナリ

第一 欺罔律ニ於テハ、敢テ術語ヲ以テ認メタル正格ノ約定ヲ望マサルナリ、蓋シ約定ハ訂訟ヲ起ス前ニ記シタル、本人自筆ノ登記ニシテ、明瞭何レカ約定ノ意義ヲ含蓄スル所ノモノハ、縱令ヒ本人ノ署名ナクシテ、前約ヲ承諾スルノニ係ルト雖、得テ十分ノ約定ト爲スナリ、而シテ約定ノ一方ヲ守ラシムル、登記ノ約定アリテ、後々他ノ一方ヨリ登記署名スル一層ヲ出スルハ、則チ亦他ノ一方ヲシテ、其約ヲ守ラシムルニ足

司
法
省

十分署名如何ノ論

ル可シ、但シ、唇中必ス、約定ノ條件ヲ含ムル、或ハ
約定ノ條件ニ關係スル意義アラサルコトヲ得ス、
故ニ被告借地證唇、裏唇ヲ為シテ、則テ証唇中
ノ地所ヲ借用スルコトヲ承諾シ、或ハ被告ヨリ原
告ノ唇ニ唇ヲ、約定ノ意ヲ承諾スル趣ヲ陳タル
返唇ハ、則テ以テ十分ノ約定ト為スナリ、然レ氏
セリキスビル氏ノ著唇同版連唇録ト題シタ
ル一唇中ニ、被告ノ署名シタルハ、其唇出版約定
ノ條件ナキヲ以テ、被告其簿冊ニ署名スルト魚
氏此律ニ適スル約定ト為サ、ルナリ、蓋シ其唇
ニ署名スルト魚氏出版約定ノ關係ニ至テハ、唯
口約ノミニ出ルヲ以テナリ、又約定一方ノ目的
主意ヲ陳ルノミニテハ、此律ニ適スル約定ト為

スニ是ララス、而シテ約定ノ全意ハ、総テ唇中ニ顯ハ
レサルコトヲ得ス、是ヲ以テ、保證等ハ唇記ノ承諾
ヲ示スニ非レハ、守ル可キモノト為サ、ルナリ、
第二 其他欺罔律ニ於テ、約定ハ必ス責任ヲ受
ク可キ凡人ニ因テ、署名セサル可カラス、而シテ他
人之ニ署名スルニ非ス全ク凡人ノ署名アルヲ
以テ、實ニ十分ノ約定ト為スナリ
約定署名ノ位置ニ就テハ、其規則在ノ如シ、乃チ
本人ノ署名、書記全文ノ下トニ在ルハ、別ニ約
定ノ全文ニ係ル署名ト為シ、難キ明證アラサレ
ハ、斷然約定ノ全意ニ適スル署名トス、又若シ姓
名此位置ニアラサルモ、署名スル本人ノ意ニ因
テ、故サテニ例外ニ記シタル謂レアレハ、以テ全

同法

意ニ適スルト做スナリ、故ニ約定ヲ認ルニ、自
筆ヲ以テ余レ某氏、爰ニ何々ノ事件ヲ諾スルノ
辞ヲ以テ文ヲ用クハ、縦令ヒ本人已レノ姓名
ヲ約唇ノ下トニ記セス、又紙上ニ姓名ヲ唇記ス
可キ餘白ヲ存スト虽氏、既ニ以テ十分ノ署名ト
決定ハ、又被告自筆ヲ以テ、某氏ニ「ホツ」草若干
袋ヲ賣典スルノ辞ヲ以テ、約文ヲ用キ而シ、原告
ノ代人之ニ署名スルハ、則チ被告ヲシテ、此約
ヲ守ラシムルトニ決定ス、然レ氏若シ本人後日
自ラ署名ス可キ換據、自然唇上ニ頸ル、ハ代
人ノ署名ヲ以テ十分ト為ス可キハ、亦タ決セザ
ルナリ、而シテ唇中ニ記スル本人ノ姓名ハ、自筆ニ
出テサレハ、以テ其人ヲシテ、約定ノ責任ヲ受ケ

論
印刷ノ署名ヲ用ル

シメサルト判然タリ、然リ而シテ此律ヲ以テ論ス
ル所ノ署名ハ、縦令ヒ約定本人ノ自筆タラサル
モ、本人ト均シク姓名唇記ノ日推ヲ有スル者ノ
手唇ニ出テサレハ、以テ本人ヲシテ、約定ノ責任
ヲ受ケシムルト能ハサルナリ
若シ人廉ク已レノ姓名ヲ印刷シテ、用ユルノ習
慣ナルハ、則チ姓名ヲ印刷シテ用ユルモ、敢テ
手署名ルモ、ト異ナルトナシ、而シテ約定ノ一方
之ヲ承諾シテ、唇中ニ已レノ姓名ヲ加フルハ、
殊ニ以テ然リトス
欺罔律中ニ論スル約定ハ、本人ノ代人ニ因テ署
名スルモ敢テ不可ナルトナシ然レ氏約定ノ本人
人、自ラ代人ト成テ、署名スルト能ハス、代人ハ、必

代人署名ノ論

司法省

ス別人ヲラサルコトヲ得サルナリ、又原告ノ代人、
被告ノ不在中、約定唇ヲ認メ、而シテ兼テ原告ヨリ
他人へ給備スル貨物ニ就テハ、被告ヨリ原告ニ
對シテ、一切其責任ヲ受ク可キ言アルヲ以テ、乃
テ原告ノ代人自ラ其約定ニ、被告或ハ代人ノ姓
名ヲ加フルト雖モ、以テ十分ノ署名ト為サ、ル
ナリ、又客商買人ノ所望ニ因リ、其目前ニ於テ自
名ヲ以テ、唇記署名スル約定ハ、此律ヲ以テ論ス
ル、代人ノ署名ト視ルニ足ラサルナリ、然レモ仲
商ハ其職分元來買人賣人、双方ノ代人ヲ兼ズル
ヲ以テ、約定中仲商ノ署名アルハ、以テ約定双方
ノ責任トナラサルコトヲ得ス、競賣人モ亦此例ニ
因ル、然レモ若シ競賣人ノ伴當、約定中ニ證人某

氏ノ名ヲ以テ署名スルハ、以テ被告ヲ以テ約
定ノ責任ヲ受ケシムルコト能ハサルナリ
欺罔律ノ第一章第三章ニ云ク凡ソ約定ニ署名
スル代人ハ、必ス唇証ヲ以テ承入ヨリ、署名委託
ノ權ヲ有スル者ニ非ル可カラズ、然レモ其第四章
章及ヒ第十七章ノ論ニ從ヘハ、亦敢テ唇記ノ委
任ヲ要スルニ非ルコトヲ擧ケタリ、故此兩章ニ從
ヘハ、代人ハ口上委託ノ權ヲ以テ、署名スルモ敢
テ可ナラサルコトナシ
此律中ニ論スル署名ノ條件ハ、右印ノ約定ニ通
セサルナリ
三 以上欺罔律ニ因テ要スル約定署名ノコトヲ
論シタリ、以下又是ニ此律ノ第四章、即チ一年內

一年內ニ違フ可
カラサル
約呈ノ論

同法

ニ遂ク可カラザル、約定ノコヲ論スルコト如
レ
凡ソ約定ノ施行一羊外ニ及フモノハ、盡ク昏記
署名セサルコトヲ得ス、蓋シ規則ニ於テ、約定面ニ
双方其施行ヲ、一羊外ニ及ハス可キコトヲ登記ス
ルハ、此律ヲ以テ論スル所ノ約定ニ帰スルヲ
以テナリ、故ニ若シ約ヲ五ツル時、双方一羊内ニ
約義ヲ遂クルコト能ハサル實情見ハルハ、此ハ、縱
令ヒ一羊内ニ遂クルコトヲ得ルノ約ニテ既ニ約
義ノ一部ヲ行フトモ、此律ニ於テハ、以テ如キ
口約ヲ虚無ト為スナリ
故ニ数羊間局ヲ結フコト能ハサル口約ハ、都テ虚
無ニ帰セサルコトヲ得ス、而シテ本年内ニ且ツ遂ケ

且ツ解クコトヲ得可キ約定トモ、口約ヲ以テス
ルハ虚無ニ帰スルモノアリ、故ニ車工羊々借料
ヲ取テ且羊間馬車ヲ貸與スルノ約定ヲ結ビ、然
ルニ此商業ノ習慣ニ因テ、此年限中何時ニテモ、
借主ヨリ一羊ノ借料ヲ払フハ、乃チ解約ト為
ス可キカ如キハ得テ一羊内ニ遂ク可キ約定ヲ
以テ論ス可カラス、故ニ此ノ如キハ昏約ヲ以テ
セサレハ、果シテ虚シキニ帰セサルコトヲ得ハ、又
商賈伴當ヲ僱使スルノ約定ニ、初羊ハ五十磅、二
羊目ハ九十磅、三羊目ハ百十磅、四羊目ハ百三十
磅、五羊目以上ハ、百五十磅ツ、ノ給料ヲ払フ可
キ、約定ヲ以テ僱使スルハ、則チ一羊外ノ約定
ニシテ、必ス昏約ヲ以テセサルコトヲ得ハ、又人ヲ

一、年間傭使スルニ後日ヨリ始ムルノ約ヲ以テ
スルハ、約ヲ立ツルハヨリ計算スレハ則チ一
年内ニ遂ク可カラサルモノトス、故ニ必ス唇約
ヲ以テセサルコトヲ得ス、而シテ一、年以上傭使スル
約定ハ、縦令ニ事故ノ變遷ニ因リ、或ハ年内ニ
遂ク可キモノト虽モ、蓋シ亦此律中一年外ノ約
定ヲ以テ論ス可キモノトス、
然レモ商賈伴當ヲ傭使シ、其期限先ツ最初一年
間ヲ以テ定ムルト虽モ、約定後双方互ニ望ミ
アルモ尚ハ年月ヲ續ク可キ約定ノ如キハ一
年間傭使ノ約定ヲ以テ論スルナリ、故ニ此等ハ
必スレモ唇記ヲ要スルニ及ハサルナリ、而シテ定
律ニ於テ、一年内ニ全約ヲ遂クルコトヲ得可キモ

ノハ敢テ唇約ヲ要セサルナリ、既ニ約定ノ施行、
一年ヲ越エヘキ情實顯ル、ト虽モ、此ノ如キハ
必ス唇約ヲ要スル定則アルニ非レナリ、故ニ婚
姻ノ時、或ハ船舶到着ノ後、原告ニ若干金ヲ払フ
ノ約束、又ハ遺言唇約ヲ以テ金子ヲ残レ置ク号ノ
約定ハ、敢テ唇約ヲ要セサルナリ、又何時ニテモ、
百理当然ノ報知アルハ、約定ヲ解ク可キ如
キ、時期未定傭使ノ約定ハ、縦令ニ本年ヲ過ク可
キモノト虽モ、此律中一年外ノ約定ヲ以テ論セ
サルナリ
又此律ハ約定ノ双方約義ヲ本年内ニ遂クルコト
能ハサル、約定ニ通用セラレ、ナリ、故ニ貨物賣
買ノ口約ニテ、本年内ニ約定ノ貨物ヲ引渡スル

約定解釈ノ論

ハ、縦令ヒ其代價ハ一年ヲ越テ払フト虽氏、一年
外ノ約定ヲ以テ論セサルナリ、蓋シ一方既ニ貨
物ヲ渡シノ約義ヲ遂ケタルハ即チ一年内ニ属
スルヲ以テナリ然レ氏此論亦正説ト看ル可
カラズ、曾テ大ニ論スル所トス而シテ口約ヲ以テ、
一部ヲ一年内ニ遂ケサル為メ、訂訟ヲ起サレ、
其ハ既ニ他ノ一部ヲ一年内ニ遂ケルト虽モ、其
訂訟ヲ回復スルヲ能ハス
四 前款既ニ無印ノ約定ニ就テ、其性質要領式
様等ヲ論シタリ、今又進テ此約定解釈ノ事ヲ論
スルヲ尤ノ如シ
約定解釈ノ事ヲ論スル前、實地現行ノ規則トシ
テ、預メ注意ス可キ事アリ、凡ソ各約ノ解釈ハ、悉

解釈一般規則

ク裁官ニ属シ、即チ裁官ノ職掌ハ陪審ニ因テ約
定中、文辞ノ真義ト、其附屬ノ事情トヲ究ト究メ
タル後、各般ノ各約ヲ解釈スルニアリ、又陪審ノ
職掌ハ、約定ノ文辞全ク術語、或ハ商業ノ通語ニ
關係シテ、更ニ解明スルヲ能ハス、附屬ノ事情毫
モ究ムルヲ能ハサルカ、或ハ文中ノ一二通商術
語ニ關係スルヲアルカ、此ノ如キ時裁官ニ諮ラ、
其説明ヲ得ルニアリ、然レ氏此規則ハ各約ノこ
ニ適當ス可ク、蓋シ各約外ノ約定ニ至テハ、決議
實ニ陪審ニ歸スルヲ以テナリ
其他約定解釈ノ規則ハ、法律公義共一般曰様ニ
シテ、印約ニ於テモ、亦此規則ヲ用ユルナリ
凡ソ約定解釈ノ規則ハ、常ニ双方ヲシテ、約定

ノ承意ヲ遂ケレムルニアリ、乃チ約ヲ立ツル時
双方送ヒニ一致曰決スルノ意ニ從テ、其約義ヲ
遂ケレメ、以テ均レツ双方ノ公理ヲ得セシムル
ニアリ
約定解釈ノ了ニ就テハ公師「ハ」氏ノ説ヲ
以テ、最ニ我カ論ヲ輔クニ足レリトス、曰氏云
ク、若シ約定中ノ言語、一義ヲ取ル了能ハス、更ニ
數義ヲ含ムルハ、約ヲ立ツル時、約定ヲ為ス人ト
約定ヲ受ル人ト、互ニニ熟和會得スル所一義
ヲ取テ、其約定ヲ施行ス、若シ夫レ毎ニ約語ニ兩
義ヲ生スルルハ必竟約束ヲ為ス人ノ承心企ツ
ル所ノ辭義ニ非ス、蓋シ言語兩義アルルハ、人時
ニ臨ンテ隨意ニ事ヲ取舍シ、此レハ真ノ約旨ニ

非ス、彼レハ我カ尽ス可キ分ニ非ル等ノ言ヲ演
ル了ヲ得可ク、實ニ約定ヲ受ル人ノ承心承説ス
ル約定ト謂フ可カラサルナリ、然レハ則チ人己
レノ承意ニ非ル約定ニ、強誘セラレハ、ノ弊害、果
シテ生ス可キナリ、是ヲ以テ約定ハ、必ス約定ヲ
受ル人承諾シ、約定ヲ為ス人其意ヲ信シ、送ヒニ
一致曰決レタル、確實兩義ナキ字義勿ル可カラ
サルナリ、既ニ此ノ如クスレハ、人更ニ欺罔隱匿
ナク明カニ約ヲ立テ、以テ約束ヲ為ス人ノ真意
ニ違フノ弊無し可キナリ、然レハ亦約語ヲ解ス
ルニ、平常ノ通義ト、正格文法上ノ辭義ト、固ヨリ
異ナル所アルヲ以テ、人亦此兩義ヲ取舍シ、擅ニ
臨機事ヲ逞フスルノ道路ヲ防ク人、規則勿ル可

カラス、或ハ又約束ヲ為ス人、故意ニ西義賸賂ノ
語ヲ用ヒテ、遁路ヲ圖ルコトヲ拒防セサル可カラ
サルナリ、掌テテムユリエス氏セバステノ城兵
ニ對シ、若シ守兵降ルハ、誓テ流血殺傷、慘暴ノ
処置ヲ為ス可カラサルコトヲ約シタリ、守兵即ケ
約ニ隨テ降リシカハ、テムユリエス氏、皆其
兵ヲ坑ニス、干時此約定ヲ按スルニ、テムユリエ
ス氏ノ此約ヲ遂ケタルハ、偶然ノ發意ニ由ルモ
ノニシテ、守兵ノ實ニ信シテ、此約ヲ承諾セシモ
ノニ非ス、テムユリエス氏ニ於テモ亦守兵ノ果
シテ承諾ス可キマ否ヤヲ、最初ヨリ知リシニ非
ルナリ、是レテムユリエス氏、心中独リ自得シテ、
遂ケタルモノト云フ可キナリ、元來約定ハ、双方

ヲシテ、約ヲ立ツルハ、互ヒノ本意ヲ熟和セシメ、
以テ約定中斷然確定ノ一義ヲ取ルニアリ、實ニ
此規則ヲ以テ、法律性理ニ適フモノト云フ可キ
ナリ
九ソ約定ヲ解釈スルニ、其着目スル所ハ、双方互
ヒニ約スル所ノ主意ヲ發見シテ、效カラ典フル
ニアリ然リ而シテ、此主意ヲ達スルニハ、他ニ術ナ
シ唯約定ノ言語ヲ解釈スルノ一ニ有リ是ヲ以
テ、解釈ハ何ノ規則ニ因リ、何ノ理ニ基ク可キヤ、
之ヲ釋ルコト最モ緊要トス、故ニ今又石ニ此規則
ヲ揭示ス
第一凡ソ約定ハ、双方ノ意思ニ隨テ、百理ノ解
釈ヲ為サ、ル可カラス、例ヘハ若シ人麦酒二十

解釈有理ニシテ可
キノ論

ハルレ量ヲ、乙氏ト約定スルト虽モ、若シ其人
麦酒ヲ費用スルハ、二十「バルレ」量ノ麦酒ヲ
有セサル可シ、又油ヲ内ル、ニ、樽亦夕調ハサル
ヲ以テ、注又ノ油ヲ受取ラサルコトヲ陳ルト虽モ、
之ヲ口實トシテ、詞訟ヲ言防クニ足ラサルナリ、
蓋シ約定ノ主件ハ、原ト油ニアリ、敢テ樽ニ非ル
ヲ以テナリ、我等後ニ至テ、詳カニ説ク如ク、凡ソ
約定言諾ノ意義ヲ解釈スルニハ、宜シク其主件
ヲ考究スルヲ以テ緊要トス、又若シ一時馬ヲ借
用スルノ約ヲ五ツルハ、則テ法律ニ於テ、其人
借用中、自ラ馬ヲ養フノ約義アルコトヲ含蓄ス、又
人アリ金子償還ノ約ヲ五テ、而シテ誰レ彼レノ名
ヲ指サ、ルハ、則テ其人約魚ノ主スル人ニ對

シテ、私ノ可キノ約束タルコトヲ以テ了解ス、又人
祭日ニ金子ノ償却ヲ約シテ、其當日ニ私ヲ為サ
ルハ、則チ後日ニ至リ、償却ノ訂ナラ受レハ、
何時モ私ノ可キノ約義アルコトヲ以テ解釈ス、又
人婚姻ノ後テ翌年中ニ一男ヲ設クレハ、百磅ノ
金ヲ私ノ可キ約ヲ五ツルハ、婚姻ノ後一羊ノ
コニシテ、結婚ノ後一羊ヲ去フニ非ルノ約義ヲ
以テ以テ解釈ス
又百磅ノ金子ヲ私ニ之ヲ六期ニ平分シテ、十
六磅十三「シ」ルリシク「四」ベシト為シ、一磅ノ全
數ヲ消却スル迄ヲ續テ私ノ可キノ證券ヲ與フ
ルハ、則チ裁廳ニ於テ、百ノ文字ヲ補フ可キコト
ニ決定ス、又證券中ニハ、甲氏乙氏ニ債ヲ負ヒ、其

前則ノ制限

金子ハ磅ト、其他種々ノ小貨幣アリテ一採ナラ
ズ、而シテ負債ノ金高ヲ消却スルニ、何金ヲ以テ消
却ス可キトモ、明カニ貨幣ノ名称ヲ記サス、唯通
用貨幣ヲ以テ、一千七百七十ヲ拂フトノ記シ
テ、磅ノ文字ヲ脱セリ、干時此事件ニ於テハ、磅ノ
文字ヲ補テ、始テ負債主約定中ノ金子、消却ノ意
タルヲ判然ニシテ、乃テ負債主約定中記載スル
所ノ、金子償還ノ為メ、磅ヲ以テ払フ可キ約義ヲ
示シ、決定セリ、而シテ為替證券中、磅ノ文字ナキ
キハ、則テ證據画面ニ記シタル、上ハ、各々ノ金高ヲ以
テ助ク可キナリ
約定ヲ解釈スルニハ、有理當然ヲ旨トシ、須ラク
双方ノ約意ヲ遂ケシム可シト云々、然レ氏亦約

定ヲ解釈スルニ、宜シクモ二條ニ注意セサル
可カラズ、即チ第一約定ハ、其人ノ為メニ、必スレ
モ約スル所ノ主意ヲ達セシムル、良好ノ道ヲ索
ムルヲ以テ足レリトスルニ非ス、亦必ス其人陳
示所ノ約意ニ就テ、有理ノ正証ヲ視サル可カラ
ズ、第二解釈ハ、必スモノ制限アラサル可カラズ、
即チ約定ノ言語文辭ハ、約意ニ從テ置ク所ノ辭
義ヲ以テ了解スルニアリ、蓋シ裁聽ニ於テハ、妄
リニ約定中ニ在ラサル言語ヲ加フルコト能ハズ、
或ハ直チニ言語ノ明義ニ及シテ、解釈スルコト能
ハサルヲ以テナリ、然レ氏約定双方ノ意思判然
タルハ、縱令ヒサシク言語ヲ矯ル所アルモ、其
意ニ從テ效驗ヲ與ヘサル可カラズ、蓋シ約定ハ、

解釈自由ヲ要スルノ論

用エル所ノ言語ニ從フヨリ、双方ノ意思ニ從テ、
約意ヲ遂ケレムルヲ貴フニアルヲ以テナリ
第一 約定文辭ノ解釈ハ、必ス自由ヲサレ可
カラス、約定ヲ自由ニ解釈スルトハ即チ約定中
ニ用ユル言語ノ意味、特ニ制限アラサレハ、必ス
普通一般ノ意義ニ隨テ、解明スルニアリ、故ニ意
義ヲ制限スル道理アラサレハ、不定ノ言語ハ、一
般ノ通義ニ從テ了解スルコトヲ得可キナリ
商事ノ約定ニ於テ、縱令ニ約定ハ施行ノ方法ヲ
定メ、而シテ若シ其方法ニ變アルハ亦重テ他ノ
方法ヲ尽シ、以テ約ヲ遂ク可キコトヲ定ムルト
モ、其人此方途ニ違テ、約定ヲ遂クルモ亦敢テ之
ヲ為メ詞訟ヲ言防クコトヲ妨ク可カラサルナ

商事ノ約定

解釈自由ナル可キ
ノ論

第三 凡ソ約定ノ解釈ハ、惠慈ヲ旨トシテ以テ
及テ尤テ其約ヲ助ク可キナリ、約定ノ解釈ハ慈
ク双方陳ル所ノ言語ヲ照考シテ以テ其本意ノ
如ク、效驗ヲ興フ可キニアリ若シ陳ル所ノ言語
ニ、疑義ヲ生スルハ、必ス全文ヲ商量シテ以テ
其意ヲ決ス可キナリ、若シ約定ノ言語全ク錯乱
シ、更ニ双方ノ真意ヲ正認スルコト能ハサルハ、
遂ニ其約虚シキニ歸セサルコトヲ得ス、然レハ双
方既ニ約ヲ立ツル上ハ、必ス何レカ意義アラサ
ルコトヲ得ス、故ニ言語分明アラサルヲ以テ、約定
ヲ虚無ト爲ス如キハ、勉テ之ヲ忌避ス可キコト
ス、然レハ不明ノ約ヲ助クルモ、既ニ程度アルヲ

約定(言語(普通)
意味(用)ニ
論

以テ、敢テ約定ヲ解明スルニ、双方陳ル所ノ口供
ト、更ニ及對ノ解釈ヲ以テ、強テ約定ヲ遂ケレム
ルヲ冀フニ非ルナリ
若シ約定ノ言語兩義ヲ含ム、一ハ法律ニ適シ、一
ハ法律ニ適セサルニハ、其法律ニ適スルモノヲ
取テ、法律ニ及クモノヲ捨ツ可キナリ、故ニ人一
區ノ房室ヲ讓與スルヲ約スル證昏ノ如キハ、法
律ニ於テ讓與スルヲ得可キ、房室ノ之ノ意ヲ以
テ解釈ス、若シ又約定ヲ解スルニ、一ヲ以テ解セ
ハ、則テ其約ヲ為ラト為ス可ク、又及對ノ一ヲ以
テ解セハ、則テ言語全ク通スルニ非ルモ、更ニ別
ノ知驗ヲ生スルニハ、其知驗アルモノヲ取テ其
約ヲ即ク可キナリ

序四 凡ソ約定ノ意義ハ、則テ約定中ニ用エル
言語ノ純粹昭明ナル語味ヨリ生スル所トス、故
ニ約定中ニ用エル言語ハ、一般通商ノ慣習等ニ
管スル如キ主件ニレテ、普通ノ意味ト異ナル所
アルカ、或ハ文勢賢ニ約定双方ノ意思ヲ遂ケレ
ムル為メ、普通ノ意味ヲ以テ解スルヲ能ハサル
カ此等ノ事情アラサレハ、必ス普通純粹ノ辭義
ニ因テ解セサル可カラズ、嘗テ之ト曰一ノ規則アリ、
即テ約定中ノ文勢ト、双方ノ意思トニ因テ用
エル所ノ言語普通外ノ意義ヲ以テスルカ、或ハ
言語ノ正義ニ因ルニハ、約定ノ効カヲ果スルヲ能
ハサルカ、此等ノ事情非レハ約定中ノ言語ハ、必
ズ正統普通ノ意義ニ從テ、解釈ス可キナリ

爰ニ給料回復ノ詞訟アリ、政事件ハ、原告ノ姉被
告ノ妻トナリ、被告ヨリ其妻使用ノ為トシテ、兼
テ原告ニ若干ノ給料ヲ送附ス可キ約定アルヲ
以テ、原告ヨリ被告ニ對シ、其給料ノ残金ヲ討索
セシメ、原告ノ欲シタリ、然ルニ被告ノ答ニ、兼テ政事
ニ付テ、原告ノ記シタル證據存ヲ出シタリ、而シテ其
證據存中ニハ、若シ被告ノ妻「E」氏ト、親睦同居、或
ハ其通等ノ所行アルニハ、送ル所ノ給料ヲ止ム
可キトテ記シタリ、是ニ於テ此事件ヲ審査スル
ニ、抑約定ノ主意トスル所ハ、縱令ニ何ノ子細ナ
クモ都テ男女ノ交通往來ヲ禁スルノ意タルニ
過キサルトニ決定セリ、爰ニ於テ再審ヲ經タル
ニ、裁廳尚ハ其文意ヲ明クシテ「E」氏ハ、其通
ノ所為アラサルニ、別ニ疑念ノ證アルヲ以テ、則
チ前裁ヲ以テ、十分正確ノ解明ヲ受タルトニ決
定セリ、蓋シ證據存中ノ言語ハ、唯姦通ノニ非ス
交通往來ヲ絶ツノ意味、更ニ判然タルヲ以テ、原
被双方約スル所ノ主意ハ、「E」氏ト被告ノ妻ト
兩人ノ交通ヲ禁スルノ意タルニ過キス、縱令ニ
子細ナクモ、既ニ妻男ノ謁見ヲ經タルニハ、亦タ
男ト交リテ絶テタルト云フ可カラズ、便チ尚ハ
送ヒニ往來スルヲ以テ論ス可キナリ、双方約ス
ル所ノ言語、既ニ政ノ如クナレハ、以テ一般普通
ノ字義ヲ以テ解セサル可カラサルナリ
又職工ヨリ勉ナラ速カニ注文ノ物品ヲ納ム可
キ約定ヲ為スニハ、之ヲ調フル工夫ノ手練ト、工

右規則外ノ論

夫從來ノ用意トヲ參酌シテ、以テ相當ノ時間内
ニ納ム可キノ意義ト与スナリ
約定ハ、前ニ論スル如ク、通例ノ詳義ヲ以テ、解釈
ス可キモノト虽氏、亦此例外ニ出ルモノアリ、乃
チ約定中ニ用ユル所ノ言語ヲ解スルニ、通例ノ
意味ヲ以テスルハ、果シテ不都合ノ條理ヲ生
スルカ、或ハ約定人ニ對シテ、其素思ニ非ル意外
ノ責任ヲ被ラシムルカ、此等ノ弊ヲ生スルハ、
通義ヲ捨テ、他義ヲ取テ、以テ解釈セサル可カラ
ス、是レ約定ノ言語ヲ解スルニ、通義ヲ以テスル
ハ、約定人ノ素思ニ及スルハ、以テ施行ス可キ
一例トナスナリ
商事ノ約定ニ於テハ、用ユル所ノ言語、習俗ニ因

商事ノ約定

全約惠量スルノ論

テ、解釋ノ字義ト、尤ニ異ナルモノアリ、而シテ此ノ
如キ意義ハ、以テ證據ト為サル、了アル可シ、故
ニ商事ノ約定ハ、商賈ノ習慣ニ從テ、解釈セサル
可カラス、若シ約定ノ言語、其ノ地界ノ商業ニ於
テ、特別ノ意味ヲ含蓄スルハ、縱令ニ約定ノ意
義ヲ解明決定スルハ、素ト裁官ノ掌トル所ト虽
モ、陪審ニ因テ其意義如何ヲ決定スルナリ
第五 約定ハ其主意ト全文トニ因テ、解釈セサ
ル可カラス、故ニ必ス章句ノ全文ヲ彼此照考シ
テ、以テ約定双方ノ意思ヲ審査ス可シ其審査ス
ル所、一章句ニ係ルモノト虽氏、亦能ク全文ヲ考
察セサル可カラス
約定双方ノ意思ヲ遂ケレシムルカ為テ、止ムコトヲ

言語交換ノ論

多クモルヲスルリトモヤシヤン
文則ノ解釈ヲ求ラ
サルノ論

得サルハ、約定中ノ言語ヲ交換スルアリ、即
チ若シ二月ニ約テ、後チ數年間ノ借地證文
ヲ記シ而シ、其定期間、毎年「ミカイレマス」ノ祭日
九月二ト、レ「グーデー」ノ祭日「ニカイト、二期ニ借
料ヲ収ム可キ約定ナルハ、法律ニ於テ此二期
ノ祭日ヲ、上下ニ交換シ、レ「グーデー」ミカイレマ
ス「ト」ト為シ、以テ約定ノ定期間中、借料ヲ払ハ
レムルナリ
又約定ヲ解スルニ、文法上ノ解釈ヲ以テスルハ
ハ更ニ明瞭ナリトモ、若シ約定ノ全文ヲ商量
レテ、文法上ノ解釈、更ニ真正ノ約意ト看取ル
能ハサルハ、則チ文法ニ拘泥スルコトナリ、全文
ニ依ルコト以テ、約定真正ノ意義トナスナリ

セテラルコト
一般ノ言語ヲ解ス
ル論

約定中一般ノ言語ヲ解スル規則ハ、則チ其語
ニ前々ツ所ノ數語ニ因テ、其意義ヲ制限ス、故ニ
一般不定ノ言語モ、其前々ツ所ノ語ニ因テ、制限
セラレ、意味アルノ外、他ノ意義ヲ取テ效驗ヲ
與ヘサルナリ、而シテ規則ハ、約定ノ解釈ニ用ヒ
ラル、モノニシテ、若シ亦約定ノ言語唯一義ニ
歸スルハ、互ヒニ相連接スル言語ヲ照考シテ、
以テ其義ヲ解明ス、即チ一般ノ言語ヲ解釈スル
規則ノ變則トス
若シ約定中、主眼トスル言語ノ意味判然タラス
レテ、疑義ヲ生スルハ、其言語ノ真義ヲ確定シ
テ、双方ノ本意ヲ察見センコト為メ、字義ノ解明ヲ
為サレテ、以テ其如何ヲ決定ス、然レモ若シ約定

約定外ノ注
意タルノ論

中、主用ノ言語判然トレテ、毫モ疑義ナキハ、敢
テ此解明ニ因テ、其字義ヲ次スルニ非ルナリ
凡ソ約定ハ、約定外ノコトニ拘ラス、必ス約定中ニ
含蓄スル條目ニ從テ、解釈スルヲ例トス、然レ氏
亦偶々裁廳ニ於テ約ヲ立ツル時、双方ノ本意如
何ヲ確定センカ為メ、縦令ヒ口約ナリ書約ナリ、
約定後ノ説明中ニ、判然セストモ、双方約定後
ノ所為ヲ檢査シテ、以テ其意ヲ次スルコトアリ、而
シテ若シ後ニ約定ヲ変シタル換挿アルハ、裁廳
ニ於テ之ヲ元来ノ約定トシテ檢査シ其變化ニ
因テ、約定双方ノ疑件ヲ審カニス、公義ニ於テハ、
前約ヲ解釈スル為メ、第二ノ約定各モ亦能ク換
査ス、約定ノ主意ヲ透ケンカ為メ、双方日時ニ記

西義不明ノ言語ヲ
論ス

約定、解釈、結約、
土地ニ從テ奇ノ論

章句抵觸ノ論

スル所ノ諸昏ハ、又ラ一約定トレテ解釈ス、然レ
此約定ノ本意ヲ遂クルニ、各々分明ノ欣賞アル
可キヤウ、解釈セサル可カラス
約定中兩義不明ノ言語ヲ用ヒ、而シテ一ヲ取テ
解スレハ、双方ノ本意ニ及キ彼一ヲ取レハ其意
ニ適スルハ、則テ法律ニ於テ、其適スルモノヲ
取テ、真正ノ解釈ト為スナリ
若シ約定ノ諸部分互ヒニ抵觸シテ、共和連合セ
ザルハ、双方ノ真意ヲ透クルニ足ルモノヲ取
テ、效驗ヲ與ヘ、其約意ニ及クモノハ必ス廢斥ス
而シテ若シ約定中ノ二句全ク抵觸シテ、共ニ西五
レ難キハ、前句ヲ取用シテ後句ヲ投捨ス
第六 凡ソ約定ハ、之ヲ取結ヒタル國ノ法律ニ

因テ解教ヒサル可カラス、是レ毫モ疑フ可カラ
サル規則トス、約ヲ五ツル土地ノ法律ニ因テ、正
確ト為スモノハ、到ル処得テ正確ノ約定ト為シ、
又約ヲ五ツル土地ノ法律ヲ因テ、虚約ニ帰スル
モノハ、到ル処虚約ニ帰セサルコトヲ得、故ニ童
子ノ為メ、必用品ニ非スレテ、迫例所用ノ為メ、押
ビタル金子ノ勾当アリ、以テ証ハ、元永鎮格蘭ニ
於テ起リタルモノニシテ、被告ハ、亦夕童羊中十
リ、然ルニ被告責任ノ事ニ就テハ、蘇格蘭ノ法律
ヲ採スルニ、證據トシテ取ル可キモノナレ、裁官
「エルド」氏云ク、余此事件ヲ採スルニ、此ノ如キ
約定ハ、英倫ノ法律ニ於テ虚シキニ帰スルヲ以
テ、蘇格蘭ノ法律ニ於テ亦虚無ト為スノ言ヲ

右規則外人論

保證スルコト能ハス、抑々約定ハ、之ヲ取結ヒタル土
地ノ法律ニ従テ決スルヲ例トス、今日ノ事件ニ
於テハ、毫モ虚無ト為スノ正證アルニ非ス、故ニ
其國法ニ於テ、正證ナキモハ、之ヲ執テ實事ト認
メ、我々國法ヲ及ボス能ハサルナリ
然レモ若シ約ヲ五ツル時、双方最初ヨリ其約ヲ
他國ニ於テ、施行スルノ目的ヲ以テスルモハ、亦
敢テ前則ヲ以テ論セサルナリ、以テ時ハ其約ヲ施
行スル土地ノ法律ニ従テ、解教セサル可カラス
此國ニ於テ取結ヒタル約定ト為シ、其約定中ニ
用ユル言語ノ意味ニ因テハ、亦結約スル土地ノ
習慣ニ注意シテ證據ヲ是メ、以テ約定ヲ解教ス
可キモノアリ、即チ爰ニ林橋酒ヲ賣ル約定ヲ取

土地言語論

林橋酒

土地言語ヲ解スルハ
陪審ニ歸スルノ論

約定ハ解スルノ論

結ヒタルニ、其土地ニ於テハ、此語ヲ以テ林檎ノ
汁ノ義ニ用ユル習慣ナルハ、則チ此字義ニ從
テ、約定ヲ解釈セサル可カラズ
然レモ前歎ノ如ク、土地ノ習慣ニ從テ、特別ノ意
味アル言語ヲ用ヒタル約定ハ、全ク其土地ノ習
慣ニ從テ取結ヒタルヤ否ヤヲ決セサル可カラ
ズ、夫レ之ヲ決スルハ陪審全權ヲ參照シテ、以テ
判決定スル所トス、而シテ唯約定ヲ立ツル土地ニ、
一種ノ習慣アルノミニテハ、法律ニ於テ、必ず約
定ノ意義、以習慣ニ從フモノト決スルコト能ハサ
ルナリ、有司須ラク茲ニ注意セシムルハアル可
ラス

第七 約定ヲ解釈スル他ノ規則ハ、其約ヲ立ツ

ニテ強ク解スルノ論

ル人ニ對シテ、更ニ強ク解釈スルニアリ、故ニ約
定ノ意義曖昧ニ屬シ、疑ト双方ノ真意ヲ決スル
コト能ハサルハ、其曖昧ノ語ヲ用ヒタルモノニ
對シテ更ニ強ク、而シテ其語ノ為ニ狂惑ヲ受ケ
金子ヲ出シタルモノニ對シテ、一層恩惠ヲ加ヘ、
寛ニ解釈ス可キモノトス、例ヘハ永世産ノ地主、
一般ニ人ノ名ヲ指サス、某氏ニ終止土地ヲ授典
スルコトヲ約スルハ、其約束ヲ受タル人、終身所
有ノ土地ト解釈ス、又若シ運夫ヨリ貨物損失ノ
時、責任ヲ受ク可キニ連相違、ノ各付ヲ出スルハ、
其人ニ對シテ、利得歎ナキ方ヲ以テ守ラレムル
ナリ

此解釈ノ規則ハ、元來言語ノ疑義、又チ欺罔ノ紛

前則ノ制限

暗約定ニ附屬論

撥ヲ破ル為ニ、設クルモノト雖モ、然レ氏冥ニ
酷烈ノ最則ト謂フ可キモノナリ、故ニ此規則ヲ
用エルハ、解釈結局ノ処置ニシテ他ノ解釈ノ規
則ヲ以テ又フ能ハサル時ノ外、決シテ施行ス可
カラサルモノトス故ニ約定疑件ヲ生シタル時
ノ外、用エ可カラサルモノニシテ、縦令ニ疑義ヲ
生スルモ、先ツ約定ノ全文ヲ参照シ、双方ノ心意
ニ注意シテ後解ノ百術尽キタル時ニ非レハ妄
リニ用エ可カラサルナリ
第八 其他約定ヲ解釈スルニハ、左ノ規則ニ注
意スルコト亦極メテ肝要トス
凡ソ約定ハ之ヲ取結フ本人ノミナラス、尚ホ本
人ノ名代ニ立ツ者モ、亦均シク約定ノ責任ヲ受

約定全体ニ属シ或ハ
各銘ニ属スルノ論

レナリ、^ニ法律ニ因テ此ノ如ク推定スル所ト
ス、故ニ死後^ニ管理人ハ、遺言人存余中、破約シタル
約定、又ハ約定本人ノ技能手練ヲ要ス可キモノ
ノ外、本人ノ死後、破約シタル各約ニ就テハ、必ス
責任ヲ受ク可キコトニ決定ス、而シテ死後管理人ノ
如キハ、縦令ニ約定中ニ姓名ヲ記セサルモ、本人
ト均シク約定ニ就テ訂訟ヲ起スコトヲ得ルナ
リ
数名ニテ、一事ヲ施行スルノ約定ヲ立ツル者ハ、
暗ニ其者全体ノ責任トナリ、各個銘々ノ責任
トナラサルナリ、之ヲ法律ノ通理トス、而シテ約定
ノ各人ヲシテ、特ニ責任ヲ受ケレシメントスルニ
ハ、必ス約定中各人別々ノ責任トナル、明諾アラ

主人ト代人トノ約定ノ論

サルコトヲ得サルナリ、然レ氏数人連合シテ約ヲ
立ツルニ各人別々ノ責任トナルノ明語ヲ以テス
ルハ、得テ正則ト為ス可カラス、蓋シ正則ト為ス
者ハ、縦令ヒ此ノ如キ明語ナレトモ、蓋シ正則ト為
ラ示レ、陰ニ連合セサルハ、各人ノ利益、別々ノ
解釈ニ帰シテ、則チ各人ノ責任ト為ル可キコトニ、
解明セラル、ヲ以テナリ、又此ト相及レテ、縦令
ヒ約定中、各人別々ノ責任ト為ル言語アリトモ
氏、然レ氏若シ約定ノ言語疑義ヲ生シ易ク作ラ
ル、ハ、ハ、約定ノ利益連合ニ帰スレハ、連合ヲ以
テ勘シ、各人ニ帰スレハ、各人ヲ以テ決シ、敢テ約
定中各人責任ノ言語アルトモ否トモ拘ラサルナ
リ

口證、昏約ニ如ク
ルノ論

主人ト代人トノ約定ヲ解釈スル規則ハ主人ヨ
リ代人ニ與ヘタル權威ニ縦令ヒ一般ノ言語ナ
レトモ、主人ノ目的ヲ遂クルニ用ユル、当然必
需ノ各推ヲ含蓄スルコトニ決定ス
且、凡ソ昏約ニ及ク、口證ノ規則ニ就キ爰ニ約
定中ニ用ユル言語ニ毫モ疑義ナキハ、其約定
ノミヲ以テ、双方意思ノ基本ト為スナリ、此ノ如
キハ、則チ昏約ニ及對スル、口證ヲ容ルコトナシ、
縦令ヒ口證ニ因レハ、双方ノ意思約定中ノ言語
ト、全ク異ナル所アリトモ、亦必ス許ルコトナ
レ、是レ公平裁廳ニ於テモ、既ニ一般施行スル所
ノ規則トス、然レ氏口證ニ因テ、昏約ヲ變スルコ
ト能ハサル規則ハ、蓋シ証拠法ノ一部ニシテ、約定

規則ノ詳明

法ノ部分ニ非ルナリ、然レ氏元來約定ハ、双方用
ユル所ノ又義ヲ詳ニシテ、後ヲ始ナラ約定ノ何
タルヲ知ルニアリ、既ニ其詳義ヲ審ニスレハ、則
チ双方ノ意思亦判然タリ、故ニ口証ノ存約ニ如
カサル規則ヲ爰ニ論スルハ、亦大ニ約定ノ解釈
ヲ助ケルヲ以テ知レ可キナリ、即チ此ニ規則
ヲ詳明ス
爰ニ代言人存約ヲ以テ、我々職業ノ社中ニ、一人
入社ノ了ラ承諾セリ、此時ハ其人亦タ入社セ
ニ非ス、唯約定ノミヲ以テス、然ルニ代言人ノ社
中、商業ノ時日、亦タ確定シタルニ非ルナリ、干時
此事件ニ於テハ、社中商業ノ時日、亦タ確定セサ
ルヲ以テ、社ハ則チ双方約束ノ日ヲ以テ、同社ニ

商事ノ約定

ンモノトス、而シ其人ヲ代言人ノ簿記ニ登記ス
ル迄テハ其約定ヲ以テ放實有ラスト為スノ口
證ハ、得テ受理セラレサルナリ、蓋シ口證ハ存約
ニ及スルヲ以テナリ、然レ氏以テ置頗ル嚴ナリ、
蓋シ口證ヲ考フルニ、其約定元來不正ナルニ非
ス、口證モ亦敢テ約定ノ言語ニ及對セシニ非ル
ヲ以テナリ
商事ノ約定ニ於テハ、繼令ヒ口證ニ因テ商事通
語ノ意義タルヲ陳ルト亟氏、約定中ノ言語明瞭
ニシテ、毫モ疑ハシキ廉ナク、言語一般ノ通義ニ
シテ、別ニ異義ヲ含マサルナリ、ハ、商業習慣ノ口證
或ハ約定ノ又意ニ適ハサル双方ノ意思ハ、必ス
口供ニ因テ許ルスナリ、而シ其口供ヲ許ルス

ハ商事ノ事件ニ於テ約定ノ言語通例ノ意味ニ
用ヒサルモノヲ説明スルカ、或ハ存約ニ適レタ
ル一般普通ノ言語ヲ補フコトヲ容スニ過キサル
ナリ、故ニ仲商歟^{ウレト}脂^{ウレト}ノ賣買ヲ取次キテ、買券^{ウレト}賣券^{ウレト}
ノ両存ニ署名シ、其買券ハ「^{ウレト}」氏ノ為ニ買フ
コトヲ以テ存キ始メ、又賣券ハ我カ主人「^{ウレト}」氏
ノ為ニ賣ルコトヲ以テ書キ始メ、別ニ買主賣主
ノコトヲ記ス、干時此事件ニ於テハ、歟^{ウレト}脂^{ウレト}商業ノ習
慣ニ因テ、此約定ヲ遂ルニハ、買主ヨリ約定ニ手
署セサル主人ヲ擯却シテ、仲商ヲ相手取ルノ口
證ヲ陳ルト魚氏、受理セラレサルナリ、又通例ノ
式^{ウレト}撮^{ウレト}ヲ以テ認メタル、危難^{ウレト}請合^{ウレト}證^{ウレト}存ニテ、其文中
ニ此船舶ノ請合ハ、船舶技師^{ウレト}返テ二十四時間ト

国土ノ習慣

レ、而シテ船舶無事陸揚ケ返テ二十四時間ト記
シタリ、此事件ニ於テハ、船舶船貸共ニ合セラ、二
十四時間ノ危難請合ト為スノ口供ハ、習慣ニ因
テ證據アリト魚氏、受理セラレサルナリ、又若シ
物品ノ品位模倣ヲ言ハス、存約ヲ以テ貨物ヲ賣
典スルニハ、其品ハ某ノ品位某ノ模倣タルコト
陳ルト魚氏、此口供ハ受理セラル、コトナレ
又土地ヲ退去スル地借人ノ請求ニ就テハ縦令
ヒ土地ノ習慣行ハル、ト魚氏、若シ約定中土地
退去ノコトニ就テ、既ニ明瞭ノ言語アルニハ、凡習
ノ證據ハ、除去セラル、ナリ、借地證存中退去ノ
言語ニ就テ、更ニ確實明瞭ノ是ノナレト魚氏、亦
凡習ニ拘ハラサルコトアリ、故ニ借地證存中ニ前

為替證書

手播種ノ収獲ニ付テ、明條アルハ、土地ノ凡習
ヲ以テ事ヲ決スルコト能ハス、又「ウエツブ」氏ヨリ
「アリユム」ノ氏ニ對シタル事件ニ於テ、土地ノ
凡習ニ因テ、退去ノ地借人ハ、新承ノ借地人ヨリ
歎房ノ料ヲ収ム可キ權アリトス、然レ氏借地證
文中ニ、土地退去ノ時、新承ノ借地人ヨリ既去ノ
借地人ニ拂フ可キ金額ノコトヲ記スルト雖モ、其
内ニ歎房ノ為メトシテ、故メテ払フ可キ分ヲ載
セス、故ニ此事件ニ於テハ、借地證各ニ從テ、即ケ
凡習ヲ即破シ、退去ノ借地人歎房ノ為メ、代料ヲ
取收スルノ權ナキコトニ決是セリ
為替證書、又ハ金子交換證書ニ就テモ、亦此例ヲ
以テス、乃チ此證書ノ如キハ、口證ニ因テ必ス變

各書ヲ接續スル
論

スルコト能ハス、故ニ若シ其證各中ニ期日ヲ是メ
テ、書面ノ金額ヲ払ヒ、或ハ何時ニテモ、需ニ應シ
テ之ヲ払フ可キ、十分ノ約束アルハ、金子ノ払
ヒ期日ヲ延滞ス可ク、或ハ便宜ニ從テ払フ可ク、
又ハ其ノ元金ヨリ払フ可キ等ノ口證ハ、必ス受
理セラル、コトナシ、又證各面ニ記シタル者ノ内
一人ハ、唯保證人タルヲ陳ルノ口證ハ容ルスコ
ト能ハス、又若シ證各ヲ以テ、誰カニ金子ノ償還ヲ
約スルハ、被告ニ於テ其證各ハ、唯原告ニ對シ
無害ノ証ヲ為ス迄テ、約定タルヲ以テ、訂証ヲ
防言スルコト能ハサルナリ
欺罔律ニ從テ十分ノ約定トスルモノハ、二通ノ
約定書ニテ、互ヒニ關係ナキモノヲ接續セント

口證ヲ許ルス規則

スル口證ハ、先例ニ於テ既ニ廢棄セラレタルコ
アリ、又他ノ約定ニ關係シテ、一方ヨリ一方ニ口
授シタル部分ハ、此律ニ於テ十分ノ約定ト為ス
可カラズ、蓋シ此ノ如キハ、口證アラサレハ、得テ
十分ト為スコト能ハサルヲ以テナリ、然レ氏彼此
相關係シ、纏ナテ一約ト為ス書類ハ、則チ一約定
トシテ解釈処分ス
前ニ述ル如ク、口證ハ書約ヲ變スルコト能ハスト
魚氏、然レ氏亦偶々書約ヲ詳明スル為メ、口證ヲ
許ルスコトアリ、裁判官「ケンダ」氏、此規則ヲ論シテ
云ク、凡ソ解釈ノ規則ニ就テ我カ一般ノ規則ト
スル所ノモノハ、則チ書約ノ言語ニ疑義ナキ時
或ハ約ニ從テ討ボスル者ニ對シテ、言語適當ニ

更ニ疑義ヲ生セサルモ或ハ約定ノ主件ニ關係
シテ、疑義艱難等ナキモハ、約定ヲ解釈スルニ必
ニ、一般普通ノ意味ニ從テ以テ例トス、此ノ如
キハ、双方ノ意思ニ隨テ述ル各外ノ口證ヲ全ク
聽ルスコトナレ、然レ氏元素約定ハ、結約ノ時其人
ヲシテ約意ヲ述ヘレムルヲ以テ、真ノ解釈ト為
スナリ、故ニ又一般ノ規則外ニ措ク可キモノア
リ、即チ若シ言語ノ真義ニ疑ヲ生レ、或ハ附屬ノ
事情ニテ、言語ノ用法適當ナラサルモハ、言語ノ
真義ヲ察ムルニ必ス各外ノ證據ニ憑ラサレハ、
他ニ之ヲ察ムルノ術勿ル可レ、而メ此ノ如キ言
語ノ審査ハ、外国文ヲ以テ記シタル約定、或ハ古
代ノ約定ヲ解釈スルニ勢ヒ止ムコトヲ得サルニ

出ルモノニレテ學術ノ言語顯ハル、時商賈ノ
通語ヲ用ヒタル時、習慣或ハ他ノ事故ニ因テ、言
語普通外ノ意味ヲ含ム、或ハ其人居住スル土
地ノ習慣ニ因テ、特別ノ意味ヲ含ム時等ニ至テ
ハ、悉ク然ラサルコトヲ得ス、而テ此等ノ場合ニ於テ
口證ヲ許ルスハ、敢テ各約ノ權ヲ奪フト為スニ
非ス、口證ヲ以テ乃テ約定ノ一部分ト爲シ其實
言語ヲ詳明シテ以テ、一定ノ意義ヲ示シ、或ハ約
定ノ主件ヲ定メテ以テ各約ノ效驗ヲ輔クルモ
ノト謂フ可キナリ
此規則ニ從ハ即テ口證ハ、各外ノ疑義ヲ説明
スル爲メニ、次レテ容ルストナレ故ニ「ゼ」氏ニ
男兒數名アリ、其内一人ニ遺産ヲ讓ル可キ約定

ニテ、其ノ一人ヲ指シテ云フ、口證ハ、容ルスト
ナク、約定不明ノ爲メ、遺産ノ讓與全ク虚レキニ
歸スルナリ、又習慣法ニ於テハ、欺罔律ニ拘ラス
無印ノ各約ニ約原ナキヲ以テ、其約原ヲ示スノ
口證ハ容ルストナレ、又若シ爲替證各中ニ受取
リタル金價ニ百磅ト記シ、然ルニ其各ノ上端ニ
ハ、算數ノ文字ヲ以テ、二百四十五磅ノ證各タル
コト示シ、且ツ此多數ニ適當ノ印ヲ用ヒタリ、此
事件ニ於テ其證各ハ多數ヲ以テ正記ト爲スノ
口證ハ、受理セラル、コトナレ
書外ノ疑義ヲ生シテ、之ヲ説明スル爲メ口證ヲ
許ルズ規則ニ至テハ、先例ヲ援テ之ヲ詳明
ス、即テ爰ニ人アリ曰名ノ土地ニケ所ヲ有シ、又

書外ノ疑義ヲ辨ス
ノ論

書約ニ増補ヲ容ル
ス口證ノ論

ヲ我カ從弟「テ」氏ニ、遺産トシテ讓ルノ約定アリ、然ルニ從弟ニ亦日名ノモノ二人アリ、于時此事件ニ於テハ、裁判官「ビエラ」氏ノ論スル如ク、其遺産ノ何レヲ讓ル可キト否トハ、毎ニ口證ニ因ラズハル処トス
欺罔律ニ由ラサル約定ニ於テハ、曾テ紙上ニ餘白ヲ存レテ口證ヲ容ルスノ論アリ、即テ十磅ニテ物品賣典ノ唇約ヲ約ヒ、而シテ其渡ス可キ物品ノ分量ヲ記ルス為メ、紙上ニ餘白ヲ存レ置ク時ニ於ルカ如シ、此ノ如キハ敢テ妨クルコトナシ、蓋シ賣典ス可キ物品ノ分量ヲ陳ル迄テハ、ホト完全ノ約定アリト為ス可カラズ、故ニ今論スル所ノ規則ニ違フモノト謂フ可カラズ、實ニ近時ノ一

唇約ニ口證ヲ加フル
ヲ容ルサル論

事件ニ於テ、被告ヨリ唇翰ヲ以テ物品ヲ注文シ而シテ其書中ニ代價ノ払期限ヲ記ルサス、然ルニ原告ヨリ物品ト勘定唇ヲ送りタリ、于時此事件ニ於テハ、其書面ヲ以テ欺罔律中ノ正約ト為ス可カラズ、故ニ物品ハ懸貸ヲ以テ賣典シタル、口證ヲ聽ルス可キコトニ決シタリ
然レ氏一旦約定ヲ書記スルハ則テ其規則ニ從ハサルコトヲ得ス、而シテ欺罔律ニ通スルト否トハ、唇外ノ口證ニ因テ変スルコト能ハズ、故ニ締約前或ハ締約ノ時、双方送ヒニ口上ヲ以テ均シク約定ノ部分トシテ約諾セシコトアリ、其時之ヲ約定中ニ唇記セサルヲ以テ、乃チ其一部ヲ書約ニ加ヘントスル口證ノ如キハ、必ズ受理セラレサ

習慣法に於て前約ヲ
廢棄スル口證ノ論

ルナリ、蓋シ口證ノ為メ、唇約ヲ變スルヲ以テナ
リ
然レモ亦約定ヲ唇記セサルモ、口證ヲ容ルズ
アリ、即チ約定ノ全件、既ニ悉ク口上ヲ以テ過キ
来ルモハ、縦令ニ毎ニ然ラサルモ過ル所ノ事ハ
終ラ約定ノ部分トシテ、之ヲ受理ス、蓋シ然ラサ
レハ約定ノ始メヨリ經過セシ事件ハ終ニ唇約
ヲ以テスルトモ、其除カル、丁アルヲ以テナリ、
然レモ約定ヲ終ニ書記スルモハ、其唇記中ニ在
ラサル事件ヲ以テ、約定ノ部分ト為サ、ルヲ以
テ例トス
習慣法ニ於テハ、約定ヲ唇記シテ後チ、双方ニ於
テ之ヲ却破スル已前何時ニテモ書記セサル新

欺罔律ノ約定

約ヲ以テ全ク前約ヲ廢棄解約スルコトヲ得、或ハ
新約ヲ以テ前約ヲ増減スルコトヲ得ルナリ、此約
定ノ如キハ、一部分唇約、一部分口約ニ因テ成リ、
其ニ接合シテ以テ證明スルコトヲ得ルナリ、故ニ
七週間ニ金ニ「コイ子ヤ」ヲ以テ馬ヲ雇用スルノ
約定アリ、于時裁官「エレンボロ」氏漸シテ、其馬
ヲ雇フモ、双方共ニ雇主馬ヲ使用シテ驚愕セン
ハルモ、ハ悉ク其災難ノ責任任ス可キコトヲ明約
シタル口證ヲ聽ルシタリ
凡ソ欺罔律ノ約定ニ於テハ、破約前ニ唇記セサ
ル約定ヲ結ンテ之ヲ解約スルコトヲ得可キヤ、此
レホタ次セサル所トス、ゴツ「ス」氏ヨリ「ニ」ユセン
ト氏ニ對シタル事件ニ於テハ、裁廳ニ於テ解約

有印ノ約定

スルコトヲ得可キノ説ニ歸シタリ、然レ氏欺因律ニ於テ、書記ヲ要ス可キ約定ニテ既ニ之ヲ登記シ、重子テ之ニ新條ヲ如ヘントスルハ必ス其新條ハ花ニ登記セサル可クラス、然ラサレハ登記トシテ、斷然受理セサルナリ
有印ノ約定ニ於テハ、其約シタル事件ヲ遂クル時期方法ヲ延滞シ、或ハ之ヲ變化スル為メ、後ニ結ビタル無印ノ約定ハ、前約ヲ遂ケサル訂証ヲ防言スルコト能ハス
又書約ニ全ク記セサルコトヲ増加スル為メ、屢々習慣ノ證據ヲ容ルコトアリ、然レ氏欺ノ如キ證據ニ因テ、別ニ言語ヲ約定ニ如ヘントスルキハ必ス其意味、唇約ノ言語ニ違背スルコト能ハス

習慣ノ證據

國土ノ習慣

此規則ヲ詳明スル為メ、國土ノ習慣ヲ以テス、乃チ土地ノ習慣ニ因テ、借地人前年播種ノ收穫ヲ得、或ハ賠償ヲ払テ直ケニ前年ノ土地ヲ耕耘スルコトヲ得、又ハ終身ノ借地人死スルキハ、地主ニ貢税ヲ払フ等ノ習慣アリテ、約定中特ニ其事ノ如何ヲ明記セサルキハ、則チ此習慣ニ因テ、約定ノ功用ヲ管理ス、又若シ約定中借地人退去ノ方法ニ就テ、更ニ議定ヲ為サ、ルキハ退去ノ借地人ハ、土地ノ習慣ニ從テ、前年播種ノ收穫ヲ納ムル權アルコトニ決定セリ
又縱令ヒ賣券買券中ニ明記ナレトモ、凡、商業ノ習慣ニ因テ、從承見本ヲ以テ、各賣ヲ為スノ口證ハ、許ルス可キコトニ決定セリ、爰ニ船舶雇證唇ヲ

商業ノ習慣

以ラ「トリニダツト」ニ於テ、船舶ニ十分ノ砂糖、及
ヒ糖蜜等ヲ搭載ス可キ「ト」ヲ約定セリ、此事件ニ
於テハ、被告商業ノ習慣ニ從テ、「トリニダツト」ニ
於テ、此品ヲ桶ニ盛リ、約定通り遂ケタル口證ヲ
許ルス可キ「ト」ニ決定セリ、又若シ見本ヲ以テ品
物ヲ賣興スルハ其見本ニ適ハサル物品ヲ返シ
或ハ除キ去ル商業習慣ノ口證ハ、受理セラル、
ナリ
又唇約ヲ以テ、一年間工夫ヲ雇僱シ其約定中ニ
茶日ノ事ヲ記セス、此事件ニ於テ、僱主ノ許可ナ
ク、工夫自ラ休日ヲ取ル、商業ノ習慣タル「ト」ヲ示
ス口證ハ受理セラル可キ「ト」ニ決定セリ、然レモ
船舶雇證唇ニテ、船賃ハ、雇主シタル羊毛一磅ニ

約定不明ノ為ソ
法律ニ因テ言語
ヲ増加スル論

「ト」ニ「パン」ニ羊毛雇主セサル細荷ニ「ト」ニ「パン」ニ羊毛
ハ分一「ト」ニ羊毛雇主セサル細荷ニ「ト」ニ「パン」ニ羊毛
羊毛ヲ雇主スル費用ハ船主ニテ負フ可キ「ト」示
スノ口證ハ、受理セラル「ト」ナリ
法律ニ於テ約定不明ノ為メ、之ヲ破毀スルヲ欲
セサルハ即テ普通ノ意味ニ於テ、約定ニ屬ス
可キ言語ヲ補益ス、而メ其補益スル所ノモノハ
双方果シテ會得ス可キモノニシテ、必ズ約定ノ
意味ヲ増加スルニアリ、故ニ貨物賣興ノ唇約ニ
之ヲ刊渡ス時期ヲ定メサルハ、法律ニ於テ相当
ノ時間ヲ以テ刊渡ス可キ言語ヲ増加シ、而メ其
代料ヲ払フ可キ明條ナレトモ其法律ニ於テ之
ヲ払フ可キ約束ヲ含蓄ス

口證ハ縦令と約定ノ大意ニ違背スルト虽氏其
約定元承強迫欺罔ノ約原ニ出ルハ毎ニ昏約
ヲ破毀スルコトヲ得ルナリ此規則ハ我等手編ス
ル所ノ大理ニ及スルニ非ス蓋シ此ノ如キ口證
ハ約定況シテ效驗ナキヲ證明スルニ至ルヲ以
テナリ故ニ商品ノ代價ニ就テ欺罔ノ誤認ハ縦
令と賣約中ニ其代價ノコトヲ口證ニ因テ承スト
虽氏必ス訂証ヲ防言スルコトヲ得ルナリ

司
法
印

智的約定法

卷之三

第一編

第三章

約定ヲ為ス人ノ論

凡ソ約定ハ之ヲ遂クルニ其權利ニアリ即チ約
 定ノ權利約ヲ受ル人数名^{連合ニ}歸スルハ其
 人必ス其約定ヨリ生スル詞訟ニ於テモ亦共同
 連合セサル可カラス、若シ權利各自ニ歸スルハ
 ハ、各人權利ナ異ニシテ以テ詞訟ヲ起サ、ル可
 カラス、然レ凡約定ハ元ト一ニシテ、約定ヲ受ル
 人、連合各自ノ兩種タルヲ能ハス、若シ約定一ニ
 シテ兩種ヲ兼ヌルハ、則チ一ハ連合、一ハ各自

約定ノ權利ハ
 連合及ヒ各自
 ニ屬スルノ論

論右兩種ヲ決スルノ

ト判然タラサルヲ得サルナリ
約定ノ権利連合ニ属ス可キヤ、或ハ各自ニ属ス
可キヤ、此區別ヲ決定スルニハ、約定ヲ受ル人ノ
利益ト約定ノ言語トニ注意セサル可カラス、蓋
シ約定ノ利益ト約定ヨリ起ル詞訟ノ利益ト、兩
十カウ連合ニ歸スルハ、縦令ヒ言語ハ各自ニ
属シ、或ハ連合ト各自ニ割レ、而メ其利益約定ヲ
受ル人ノ内唯一人ノニニ歸シ、或ハ約定ヲ受ル
人ノ関係均シカラスト、虫凡、一般連合ノ約定ヲ
以テ論定ス之ヲ約定解釈ノ定則トス此ノ如キ
ハ、各自ノ語ヲ以テ論スルヲ能ハス、夫レ此ノ
如キ約定ヲ、何故連合ニ因テ論スルヤ、其之ニ歸
スル所以ノミノハ、則チ約定ノ利益連合ニ属ス

連合ノ利益

ル時、裁廳一事件ノ詞訟ヲ教名ニ容ルスニ至テ
ハ、何レヲ取テ裁判ヲ與フ可キヤ、必ス疑惑ヲ生
ス可キヲ以テナリ、若シ約定ノ言語、判然連合ヲ
顯ハスハ、縦令ヒ互ヒノ利益各自ニ割ル、ト
虫凡、必ス詞訟ニ於テ連合セサル可カラス、然レ
凡約定ノ言語、連合ノ解釈ヲ受ル時モ、猶ホ約定
ヲ受ル人ノ利益ニ從ヒ、連合若シクハ各自ヲ以
テ論セラル、トアリ
若シ約定ヲ為ス人約ヲ遂クルニ於テ連合ノ利
益ヲ有シ又其破約ニ於テ連合ノ損害ヲ受ルハ
ハ、必ス連合シテ詞訟ヲ起サ、ル可カラス
教名ニ對シテ金子ヲ拂フ可キ約定ハ、其人数名
連合ノ約定ニシテ、其約ヲ遂クルニ於テハ、教名

言語連合シテ各人別ニ詞訟ヲ起スヲ得ルノ論

黙約ノ論

均シク連合ノ利益ヲ生ス、故ニ数名ノ内、一人已レノ配当ヲ得ル為メ、獨り詞訟ヲ起スヲ能ハス、詞訟ハ必ス一同連合セスンハアル可カラス、而メ全額ノ内各人取ル可キ配当アルハ、以テ別ニ詞訟ヲ起スノ原由ト為スニ足ラサルナリ
人若シニ人以上ニテ約定ヲ結ビ、而メ陽ニ連合ノ語ヲ用ユルトモ、陰ニ各自ノ解釈ヲ受ルハ、其言語ヲ連合ノ意ト為サス、即チ各人各個ノ約定ヲ以テ解釈ス、故ニ約定ヲ受ル人、自己ノ損害ヲ被ムルハ、獨り詞訟ヲ起スヲ得可シ
凡ソ法律ノ解釈ニ、含蓄ヨリ生スル約定ハ、約ヲ立ツル人ノ利益ト併立シ、其利益連合ナルハ、連合ヲ以テ論シ、又各自ナルハ亦各自ヲ以テ

共有借地人ノ論

論スルナリ、故ニ地主借地證文ヲ甲乙丙ノ三氏ニ授與スルハ、其地所有ノ為メニ起ス黙約ノ詞訟ハ、必ス借地人連合シテ起サ、ル可カラス
蓋シ三人連合ノ地所ニ属スルヲ以テナリ
共有ノ借地人、各有ノ地所、及ヒ利益證画面ニ顯ハレ、而メ各人所有ノ地所ニ就テ、営ム所ノ職業ヲ分テ、損益亦從テ異ナルハ、縱令ヒ約定ノ言語連合ヲ示ストモ、必ス各人詞訟ヲ殊ニシテ起サ、ル可カラス、然レモ若シ之ニ反シテ證画面中各人共同シテ、一事ヲ為シ、一業ヲ営ムノ意義判然タルハ、縱令ヒ各人各有ノ地ヲ領ストモ、必ス共ニ連合シテ詞訟ヲ起サ、ル可カラス、若シ夫レ共有二人ノ借地人、共同シテ地稅ヲ収

連合借地人論

ムルノ證昏ヲ認ムルハ、縦令ヒ其地稅ハ迭ヒ
ノ權利利益ニ從テ納ム可キモノト雖、之ヲ回
復スルノ詞訟ハ、必ス連名ヲ以テ起サ、ルヲ
得ス、然レモ若シ其地所地稅共判然ト異ナル
ハ、亦必ス詞訟ヲ異ニス
借地人連合シテ約定ニ管係スルハ、必ス亦連
合シテ詞訟ヲ起サ、ル可カラス、是ヲ以テ連合
ノ借地人連合ノ地ニ關係シタル、約定ノ詞訟ヲ
起サレトスルニハ、必ス連合スルニ非レハ、獨り
離レテ詞訟ヲ起スル能ハス、然レモ若シ連合ノ所
有地ニ就テ明約ヲ結ビ、他人ニ拘ラス、獨り地稅
ノ消却、或ハ他ノ職業ヲ行フヲ決スルハ、則
チ別ニ詞訟ヲ起スルヲ得ルナリ、而シテ若シ共

無印ノ約定ニ自
連合及ヒ各自ノ
權利

同ノ借地人連合ノ借地人、或ハ共有ノ遺物ヲ受
ル人等ニ因テ明約ヲ結ビ、以テ其人全体連合ノ
義務ヲ遂クルヲ決スルハ、連合ノ約定ニ歸シ、
或ハ各人各自ノ義務ヲ遂クルヲ決スルハ、
各自ノ約定ニ歸スルナリ
若シ無印昏記ノ約定ニテ、之ヲ遂クルハ、連合
ノ利益ヲ生シ、遂ケサルハ、連合ノ損害ヲ被ム
ルヲ判然タルハ、縦令ヒ約定ノ言語各自ニ歸
シ、或ハ衆人ニ代テ一人ノ結約ニ出ルト雖、必
ス連合ヲ以テ詞訟ヲ起サ、ル可カラス、若シ之
ニ反シテ各人各自ノ利益ヲ生シ、從テ各自ノ損
害ヲ被ムルハ、必ス各人別ニ詞訟ヲ起サ、ル
可カラス、然レモ其人實ニ約定關係ノモノタルヤ、

或ハ損害ヲ受ルカ、原告ノ人負連合ナルカ各自
ナルカ、將タ詞訟ノ權利誰ニ屬スルヤ、此等ヲ決
セントスルニハ必ス約定外ノ事情、約定雙方ノ
位置、及ヒ約原ノ性質等ヲ、能ク究査セシムルハ
ル可カラス
若シ人アリ約定ヲ受ル人、数名ニ因テ某ノ職業
ヲ行フ為メ、其人ニ若干ノ金子ヲ拂フ可キ、約束
ヲ為ス片ハ、則チ其人一統ノ為メニ立ツル連合
ノ約束タルヲ以テ、必ス詞訟ハ連合ヲ以テ起サ
ル可カラス、而メ此ノ如ク約ヲ立テ、各人受取
ル所ノ配当金ヲ示シ而メ全額ノ内各人之ヲ回
復セシトスル詞訟ノ如キハ以テ防言スルニ足
ラサルナリ

然レモ最初金子ヲ拂フニ、纏メテ全額ヲ拂ハス
後ニ分賦シテ各人ニ拂フ可キ約定ノ如キ各人
亦各自ノ詞訟ヲ起スルヲ得ルナリ、凡ソ黙約ノ
詞訟ニ於テハ、原告ノ人負ト詞訟ノ連合ト各自
トノ原因ハ、全ク黙約ニ由テ生スル、約原ノ性質
ヲ以テ決定ス、若シ其約原連合ヨリ生スル片ハ、
法律ニ於テ連合ノ黙約ヲ以テ決シ、乃チ各人連
合シテ詞訟ヲ起スルヲ得可ク、又約原各人各自
ヨリ生スル片ハ、法律ニ於テ各人各自ノ黙約ヲ
以テ決シ、必ス各人詞訟ヲ異ニシテ以テ起サ
ル可カラス、若シ数人連合シテ、某ノ工藝ヲ營ミ、
或ハ某ノ職業ヲ遂ル為メ、連合ノ傭夫ヲ僱使ス
ル片ハ、乃チ之カ為メ、傭夫ヨリ連合ノ報償ヲ為ス、黙

約アルヲ以テ決シ、若シ各人傭賃ヲ別テ受取り、
工藝職業モ亦從テ異ナリ更ニ他人ニ拘ルコトナ
ク各人各己ノ工藝職業ヲ営ム所ハ、總テ法律ニ
於テ各人各自ノ約束アルヲ以テ決定ス

第一篇

第四章

委託ニ因テ約定ヲ為ス人ノ變化

往時習慣法ニ於テハ、人詞訟ノ拒防ヲ避シカ為
メ、物件回復ノ權利ヲ他人ニ委託スルコト得ス、
然レモ現今習慣法ノ定則ニ於テハ、單一ノ約定
及ヒ回復権ニ屬スル人々ノ各約ハ、委託ヲ容ル
スト、^{アライ}受託人ナレテ負債主ノ同意ニ及ビ、自
己ノ姓名ヲ以テ詞訟ヲ起サシムルニ及ハサル
ナリ

然レモ此規則ハ、尙艱難ヲ起スノミ、蓋シ詞訟ノ
委託ハ、公義ニ於テ既ニ之ヲ正確トス、故ニ法律
裁廳ニ於テ委託ニ注意シテ、宜シク之ヲ保護シ

法律ニ於テ委託ス
可カラサル物件
回復権ノ論

法律ニ於テ詞訟
委託人ノ姓名ヲ
用ユキ論

受託人ナシテ委託人ノ姓名ヲ以テ、詞訟ヲ防言
スルコトヲ許ルス可キナリ

法律ニ於テ負債主ヨリ受託人ニ金子ノ償還ヲ
約シタルニ非レハ、必ス詞訟ハ毎ニ委託人ノ姓
名ヲ以テ起サ、ル可カラス、蓋シ詞訟ノ委託ハ、
元來委託ヲ受ル人ニ其姓名ヲ用ユ可キ権ヲ與
フルヲ以テナリ、而メ若シ其委託人死スルハ、
受託人死後管理人ノ姓名ヲ以テ詞訟ヲ起ス
ヲ得可シ

負債主若シ委託ノコトヲ承諾シテ、明ニ受託人ニ
金子ヲ拂フ可キコトヲ約スルハ、則チ受託人已
レノ姓名ヲ以テ、詞訟ヲ起スコトヲ得ルナリ、而メ
證唇ノ金子ヲ償還ス可キ人ハ、負債ノ受託人ニ

受託人ノ姓名ヲ
以テ言明ル
得ルノ論

對シテ、約定ノ為メニ詞訟ヲ受ケ、又受託人ハ自
己ノ姓名ヲ以テ詞訟ヲ起スコトヲ得ルナリ

然レハ委託ヲ受タル約定或ハ他ノ物件、当然公
義裁廳ノ管轄中ニ來ルハ、受託人負債主ヨリ
金子償還ノ約束アル有無ニ拘ラス已レノ姓名
ヲ以テ、此裁廳ニ出テ詞訟ヲ起スコトヲ得ルナリ、
故ニ若シ受託人更ニ特別ノ事情アリテ既ニ正
理ヲ失シ、遂ニ此裁廳ノ裁判ヲ仰カレコトヲ欲ス
ル時、假令ハ委託人受託人ノ姓名ヲ以テ、詞訟
ヲ為スコトヲ妨ケ、殊トニ委託人負債主ト密約アリ
テ、暗ニ事ヲ妨クル時等ニ於テハ、受託人自名
ヲ以テ請求ノ為メ、詞訟ヲ言防クコトヲ得ルナリ、
然レハ公義裁廳ニ於テハ、唯請求ノミニテ、負債

委託方法

或ハ約定ノ受托人ノ起シタル詞訟ヲ受理スル
トナシ、蓋シ委託人ノ姓名ヲ以テ、法律ノ詞訟ヲ
遂ケシムルナ一般ノ規則ト為スヲ以テナリ
從前約定ノ委託ハ、必ス慥カナル證存ヲ以テ授
與ス可キト決定セリ、然レモ現今定則トスル
所ハ負債或ハ物件回復ノ權利ヲ委託スルニ、敢
テ特別ノ式様ヲ要スルニ非ス、元金ヲ人ノ使用
ニ委託スル存付等ハ、則チ其人ニ元金ノ委託ト
ナルナリ、又負債ノ委託ハ、口約并ニ存約ヲ以テ
行フトナ得、而メ若シ約定ノ證據ヲ引渡シテ委
托ヲ為ス片ハ、敢テ別段存證ヲ要セサルナリ、若
シ約定存ヲ現ニ引渡スト能ハサル片ハ、之ニ摸
擬ノ證ヲ引渡スヲ以テ、既ニ十分ト考定ス

第一篇

第五章

舊債交換ニ因テ約定ヲ為ス人ノ變化

我等爰ニ亦舊債交換ノ事ヲ論ス可シ、元來此名
稱ハ、英米兩國ノ法律ニ於テ、近世ノモノニ屬ス
ト虽モ、其處置ノ規則ニ至テハ、既ニ久シク確定
スルモノトス

字義論

此語ハ元來民律ヨリ來ルモノニシテ、
氏ハ、此語ヲ以テ舊債ヲ新債ニ交換スルノ字義
ト定メタリ、而メ新債ノ約ヲ立テ、以テ舊債ヲ消
却スルカ故ニ、新舊ノ交換ハ、則チ負債償還ノ義
務ヲ消滅スル方法ノ一タルヲ以テ論シタリ、夫
レ此字義ヲ案スルニ、舊債ノ交換ハ新クニ、別人

新負債主投入論

加ハテスシテ行フヲ得可シ、即チ負債主舊債
ヲ免ル、趣意ヲ以テ債主ト改メテ新約ヲ立ツ
ル時ニ於ルカ如シ、又負債主金子交換證^{チロウレノト}券ヲ債
主ニ授與シ、債主ハ之ヲ前債消却ノ為メ、負債主
ヨリ受領スルノ明約ニ於テ、前債ヲ消却スルニ
於ルカ如シ
又舊債ノ交換ハ、^{ニテ}新負債主ノ投入ニ由テ生スル
ナリ、即チ乙氏丙氏ニ債ヲ負フ所乙氏ト甲氏ト
ノ間ニ新約ヲ結ビ、甲氏ハ乙氏ノ負債ヲ引受ケ
テ、丙氏ニ拂フヲ約諾シ、即チ甲氏負債主トナ
リテ、乙氏ヲ放ルスルハ、甲氏ト丙氏トノ新債ト
ナリテ、乙氏ノ舊債ヲ交換ス、然レニ此ノ如キ時
ハ乙氏ヨリ丙氏ニ對シタル、元來ノ責任消滅ス

新債主投入論

ルヲサ以テ肝要トス
又舊債ノ交換ハ、新債主ノ投入ニ由テ生スルナ
リ、即チ乙氏ヨリ甲氏ニ對シテ、負債ノ請求アル
処、之ヲ丙氏ニ授與シ、而メ甲氏ハ丙氏ニ金子ヲ
拂フ可キヲ約諾シ、丙氏乃チ甲氏ノ新債主ト
成ルルハ、甲氏此約ヲ守ラサルヲ得ス、是ニ因
テ甲氏ヨリ乙氏ニ對シタル前責ハ消却セラル
、ナリ

新負債主投入論

舊債ノ交換ハ、亦新負債主ト新債主トノ投入ニ
由テ生スルナリ、然レニ必竟右ノ二例ト其理ナ
同フス、即チ若シ甲氏ハ乙氏ニ負債アリ、乙氏ハ
丙氏ニ負債アリテ、三名同時ニ會シ、互ヒニ約ヲ
立テ、乙氏負債ヲ免カレテ、甲氏丙氏ノ負債主ト

為ルヲ決スルハ、則チ甲ト丙トノ間ニ新債
ヲ生シ、甲ハ乙ノ代リニ丙ヲ債主トシ、又丙ハ乙
ノ代リニ甲ヲ債主トシ、而メ乙氏獨リ甲丙ノ
間ニ立テ管係ヲ免カル、ナリ、爰ニヒートン氏
車ヲ「アンギール」氏ニ賣典シ、其後「アンギール」氏
復タ其車ヲ「エース」氏ニ再賣セリ、而メ「エー
ス」氏ハ「ヒートン」氏ニ「アンギール」氏ノ拂フ可キ
車價ヲ償フ可キヲ約シ「ヒートン」氏ハ又「エ
ース」氏ヲ車價ノ債主トスルヲ諾シタリ、此
事件ニ於テハ、「ヒートン」氏ト「エース」氏トノ間
ニ新約ヲ生シテ、之カ為メ「ヒートン」氏ヨリ「アン
ギール」氏ニ對シタル負債ハ、消滅シテ「アンギ
ール」氏ノ責任トナラサルヲ決シタリ、此ノ如ク

新入ノ、債主負債主投入シテ、責任ヲ變換スルニ
至テハ必ス其人悉ク同意一決セサルヲ得ス、
然ラサレハ元來ノ討求、全ク消滅スルニ至ル可
カラス、三人ノ内一人同意ニ服セサレハ、既ニ整
約ト称ス可カラス、故ニ三人同意シテ後チ決ス
ルハ、一人其約ヲ離ル、一能ハス、必ス三人均
シク守ラサルヲ得サルナリ
噲氏約定法卷之三終

同法

譯
法
印

增氏約定法

卷之四

曾氏約是法卷之四

目次

第二編

異様、人ト、約是

第一章

約是、不相當、人或ハ約是、責任ヲ受ケ
ル人ト、約是

第二章

約是、相當シタ、異様、人ト、約是

右第一章目次

一 總論

二 智覺ノ是ラサ、人ト、約是

三 醉人ト、約是

- 四 童子ト、約定
- 五 嫁婦ト、約定
- 六 外國人ト、約定
- 七 重罪人ト、約定
- 八 分散人ト、約定
- 九 覆商ト、約定
- 十 強迫ト、約定

啗氏約定法卷之四

第二篇

異様ノ人ト、約定

第一章

約定ニ不相當ノ人或ハ約定ノ責任ヲ受サ
ル人ト、約定

一 總論

凡ソ約定ヲ立テ雙方均シク之ヲ遵守セントス
ルニハ必ス事ヲ行ヒ事ヲ廢スル互ヒノ同意一
致ヲササル一ヲ得ス是レ前ニ屢々論スル所ト
ス然レ凡人素ヨリ約定ノ事ヲ理會ス可キ思慮
ヲ備フルニ非レハ其人約ヲ立テ之ヲ守ル可キ

約定能力論

法律ニ於テ能カ
リト定ムルノ
論

同意一致アリト謂フ可カラス故ニ約定ニ同意
一致ハルハ是非ヲ断シ道理ヲ判スルノ思慮
能アリテ後ヲ始メテ生ス可キモノト是ヲ以
テ約定雙方ノ内何レカ事ヲ判断スルノ能力ナ
キ或ハ法律ニ因テ未タ此能力ヲ備ハサズモ
ト定メタルモノ歟此等ノ人ニ因テ結ビタル
約定ニ於テハ雙方必ス奇ル可キ約定アリト為
ルハ一能ハズ實ニ互ニ同意ヲ要スル法律ニ於
テハ兩体一心ヲ以テ約定ニ適フノ大理トス故
ニ正確ノ約定ヲ結ハントスルニハ詢トニ約定
ノ能力ヲ以テ緊要ノモノト為スナリ
然レハ法律ニ於テハ凡ソ天下ノ人皆約定ノ能
カヲ備フルモノト定メ置ナリ故ニ人若シ此能

二約定不能カニ性質

カナキヲ名實トシ約定ノ責任ヲ免トレントス
ルハ之ヲ免カレトスルモノニ對シテノ處
置極メテ嚴ヲサハル可カラズ實ニ不能カニ因
テ責任ヲ免カントスルハ一ツ得セシムルハ容易ニ行
ハル可カラサハルナリ故ニ狂亂シテ精神ノ軟弱
ナル者或ハ成齡ニ至ルト莫モ道理ニ闇キ者或
ハ約定ノ事ニ未熟ノ者モ彼ヨリ欺罔ヲ受テ結
ビタル約定ニ非レハ此等ノ不能カニ因テ法律
公義共其人ヲ免助スルノ理由ト為ス一能ハス
然レハ亦精神不足スレテ其人ニ對シテ約定全ク
不利ニ歸スル片ハ欺罔不明ノ約定ヲ推定スル
原因ト為スナリ
凡ソ約定ノ不能カハ完全ナルモノアリ或ハ制

天性ノ白痴

限セラルルモノアリ而ノ双方共ニ約定虚無ニ
歸スルモノアリ又唯約定ノ不能力成ク守護ヲ
受ルモノハ責任ヲ免コルモノアリ故ニ智
覺ナキ人或ハ童子トノ約定ト雖モ亦ニ完ク救
實ナキト謂フ可カラズ即チ今下條ニ論スル如
ク欺罔ヲ受ルノ外人無印ノ約定ヲ結ビテ其責
任ヲ免コルモノハ又法律ニ於テ責任ヲ免
レ守護ヲ被ムラシムルモノト約定ヲ結フハ
其不能力ニ因テ已レテ益スル一能ハ是則チ
童子ト約定ヲ結フノ規則トス而ノ童子成ク欺
罔ヲ受タル人或ハ強迫ヲ受タル人ハ破約ノ請
訟ニ於テ十分防言スルノ權利アリトス

二 智覺ノ足ラサル人トノ約定

狂癡人

凡ソ智覺ノ足ラサルモノニ二種アリ一ハ生来
物理解解スルノ知力ナキモノニシテ天性
ノ白痴ト云フ故ニ法律ニ於テハ之ヲ無知ノ者
ト定ムルナリ然レ凡人既ニ我カ両親ヲ知り己
レノ年齢ヲ辨ハ成ハ此ノ如キ一通リノ事理ヲ
辨知スルハ既ニ天性ノ白痴トシテ論スル一
ト其ニハ狂癡人トス此レハ元来物理了解ノ
知力ヲ備フルト莫ク病難痛哭成ク不遇ニ因テ
遂ニ物理辨別ノ精神ヲ失ヒタルモノヲ謂フ知
覺ノ足ラサル人ノ約定ニ付責任ヲ決スルニハ
右ノ區別ニ注意スル一緊要ナリ
古例ニ依ハハ狂癡人地所讓與ノ證書ヲ虚無ト
為ハ一ヲ得タリ然レ其後ニ至テハ縱令ニ狂

へ各般、印約ヲ虚無ト為ス、一ヲ得トモ比自
ラ訴テ此約ヲ免カス、一能ハス蓋シ成敗ノ人
誰レモ己レ、不能カヲ辨シテ詞訟ヲ免カス、
一ヲ聽サズ且ツ精神回復ノ後、至リ狂癲中ノ
所為何タルヲ知ラサレテ以テナリ然レモ近世
此規則ヲ変革シ既ニ今日ニ至テハ本人又ハ代
人出テ、約束ヲ為シ或ハ之ニ押印セシ時狂記
中ニテ何事モ辨別ナカリシ趣ヲ辨スル一ヲ得
ルナリ
又近時、新例ニ於テ無印ノ約定ノ責任ニ就テ
ハ知覚ノ是ラサレモ、位置殆ント童児ノ位
置ニ髣髴ナリ而シテ今定則トスル所ハ狂人必
用物ノ約定及ニ狂人ノ保護資財、為メ取締ヒ

狂人用物約定論

タル約定ニ就テ其相手トナルモノ狂人精神ノ
是ラサレニ乘シテ毫モ利益ヲ得サレ、証跡判
然タルハ則テ狂人其責任ヲ受ク可キナリ
爰ニ馬車花ニ馬具ヲ備候シタル詞訟アリ此詞
訟ニ於テ被告ハ狂人ニシテ書約ヲ以テ件ノ馬
車馬具ヲ借受ケ屢々之ヲ使用シ而シテ其馬車馬
具ハ狂人ノ位置身ノ相當ノモノニシテ原告ニ
於テハ更ニ結約ノ時狂人ト認ルノ謂レナキ一
ニ決シタリ然レモ其後狂人結約ノ時實ニ狂乱
中ニアリシヤ否ヤ之ヲ決セシカ為メ再審ニ及
ビシ處被告ハ結約己前ヨリ今日ニ至ル迄テ狂
乱中ニテ己レノ土地貨物等ヲ處置スルノ知力
ナキ一ニ決シタリ又此審彈ニ於テ凡ソ狂人ノ

約定ハ法律ニ於テ全ク虚無ニ歸ス可キノ議論
ヲ生レタリシカ亦或人狂人ノ約定ハ童児ノ約
定ト一般約定能力ノ有無ニ拘ラス其人ノ位置
身カ相當ノ必用品ニ就テハ必ス責任アル可キ
イテ以テ辯駁セリ于時裁判官アボット氏論シテ
云ク元来今日亂ル所ノ器具ハ被告ノ身カ相當
ノモノニシテ被告自ラ命シテ之ヲ受領シ殊ニ
又原告ニ於テハ被告ヲ狂人ト認ル道理ナキヲ
以テ原告ノ詞訟ハ則テ妨害スルヲ得可キイ判
然タリ是ニ於テ原告遂ニ裁決ヲ得タリ
然ルニ亦此裁判ヲ停止セシカ爲メ或人法律ニ
於テ狂人ノ約定ノ詞訟ヲ虚無ト爲スノ理アル
イテ論シテ云ク凡テ先例ニ拘ラス一般ノ通理

ヲ索スルニ狂人ノ位置ハ明ニ其約定ノ能力ナ
ク法眼ヲ以テ之ヲ觀ルハ生体ト雖モ其能力
ナキニ至テハ既ニ死体ニ異ナラス是ニ由テ之
ヲ觀レハ亦自然童児ト異ナル所アル可シ夫レ
童児ハ生来不能力タルニ非ス故ニ成齡ニ至レ
ハ其約定ヲ改定スルイテ得ルナリ然レバ狂人
狂亂中ノ約定ニ至テハ決シテ其人ヲシテ守ラ
レハルノ理アル可カラズ爰ニ必用品ト贅物ト
ノ區別或ハ印約ト簡約トノ差別ヲ爲スニ及ブ
可カラサルナリ
于時アボット氏亦論シテ云ク余今般ノ事件ヲ
考フルニ固ヨリ使用ノ用具ハ被告ノ位置相當
ノモノニシテ被告自ラ約シテ之ヲ命シ自ラ取

テ之ヲ受領セリ夫レ之ヲ論究スルハ原告ニ
於テ馬料回復ノ權利ヲ破毀ス可キ正證アリト
謂フ可カラズ然レハ則テ豈ニ今日ノ詞訟ヲ虛
無ト為スノ理アラシヤ是レ我カ説ク建ツル所
以トス然レハ今日ノ事ハ所謂ル未來ノ約定及
ニ締約ノ時彼レ既ニ智覺ノ足ラサルヲ知テ取
締ヒタル約定ト全ク區別シテ以テ論定ス蓋シ
智覺ノ足ラサルヲ知テ締ヒタル約定ニ於テハ
之ト約定ヲ取締ヒタル人彼レ精神ノ足ラサル
ニ乘レテ私利ヲ計リ欺用ヲ逞フレタル事件ニ
歸スルヲ以テナリ此ノ如キハ亦隨テ施ス所ノ
處置アリ必スモ今日ノ例ヲ以テ之ニ及ボハ
ニ非ルナリ但シ精神ノ乏レキハ約定未來ニ屬

スレハ或ハ其足ラサルニ因テ拒防スルイツ得
或ハ得ナシイタリ余今斷然其是非ヲ決スルイ
能ハス此時裁官バ一レ及ヒボレロイトノ兩
氏ハ「アボツト氏ノ説ニ同意シ而テ裁官リツツ
ハ「ト一ト氏論シテ古ク爰ニ約定ヲ取締フ時其
人狂亂中ナレハ則テ狂亂ノ為メ印約ノ類ハ虛
無ト為ス「ト得ハト雖モ必ス此規則ヲ以テ推
ス可カラズ凡ソ某事ニ就テ狂亂ノ体アリト爲
モ亦概シテ狂亂ト認ル可カラザルモノアリ此
ノ如キ人ニ資給シタル必需品ノ約定ニ就テハ
狂人ノ規則ヲ以テ論ス可カラズ夫レ源ク今日
ノ事件ヲ審査スルニ締約ノ前ニ締約ノ時共
被告本心ヲ失ヒ既ニ智覺ノ足ラサルト列然ク

りト爲モ此廬ヲ以テ毫モ區別スル所アル可カ
テス又狂人ノ約定ニテ唯必需品ノニ限ラズ
他ノ約定ニ於テモ等レク責任ヲ受ルベキアリ是
レ前段ノ道理ニ出ル所トス即チ爰ニ工夫アリ
某ノ會社ニ屬シタル場所ニテ工事ヲ管シタル
ヲ以テ其工料ヲ討求セリ而シテ此社長ハ狂人被
告ニシテ初メ工夫ト工事ノ取結ヲ爲シタルモ
ノナリ然レニ其後狂人ノ審査アリテ社長ハ工
事ノ約定前ヨリ既ニ狂乱タルハ判然タリト雖
モ原告ニ於テハ「**締結ノ確り被告ノ狂乱タルハ**
ヲ知リテ締結シタルハ非レニ決シタル」于時
裁官「**テンドゲン氏此事ヲ斷シテ云ク今日ノ詞**
訟ニ至テハ爰ニ毫モ狂乱ニ乘レテ原告欺罔ヲ

行ヒタルノ證ナキヲ以テ乃チ防言スルベキ得
可キトニ決シタリ
又「**一**」氏ヨリ「**モ**」レ「**一**」氏ニ對シタル事件ニ
於テ狂人ハ元來鉛工ニシテ家作造管ノ爲メ種
々ノ器具ヲ購求セリ此事ハ一千八百九十五年ノ
事ニシテ其翌年八月ニ至リテ此事ニ付詞訟ヲ
起レ乃チ其吟味アリテ實人ハ一千七百九十七
年ノ五月ヨリ既ニ狂人タルハ「**一**」氏ニ決シタル然レ
ニ「**一**」氏ハ代人歎息シテ狂人ノ廬ヲ以テ右
物品ノ買金ヲ回復セントセシカ爰ニ賣与ノ方
法ニ於テハ少シモ不明ノ「**一**」ヲキテ以テゲラン
ト氏之ヲ受理スル「**一**」ヲ欲セズ且ツ論シテ云ク
爰ニ狂人ノ約定ハ「**百約**」虛無ニ歸スルヲ以テ正

理トスルハ此理ニ基テ今日ノ事ヲ決スルモ
更ニ難シスル所ナレト雖モ亦必ス事情ニ因テ
其酌無シハアル可カラズ原告若シ狂人ノ慮ヲ
以テ約定ヲ虚無ニ歸ス可キ一ヲ正理ト認ルハ
則テ法律ニ照ラシテ之ヲ裁シ而シテ回復ヲ得
レハ原告ヲシテ回復セシム可キナリ
又逆順ノ裁決ニ若シ人外願ハ平静ニシテ毫モ
狂乱ノ体ナク而シテ債物購求ノ約ヲ結ビ其約定
ニ不明ノ一ヲク既ニ代價ヲ拂ヒ物品ヲ得約義
全ク整フハ其後狂人或ハ狂人ノ代人狂乱ノ
一ヲ演説スルト爲モ此ノ如キ約定ハ破約ト爲
ス、能ハス又若シ原告地所買取リノ約ヲ結ビ
賣約ノ通り買金相當ノ抵當ヲ差入レ而シテ約

ノ時既ニ狂乱中ニシテ物理ノ辨知ナレト爲ル被
告ニ於テハ更ニ狂乱タル一ヲ知ラズ亦不明ノ
一ヲク金子ヲ受取ルハ其後日原告ヨリ買金討
還ノ詞訟ヲ起スト爲モ回復スル一能ハサハナ
リ
然レモ若シ人結約ノ時事ノ辨別アリテ狂乱ノ
体ナキハ其前後狂乱ノ体ナリト雖モ之ヲ狂
人ノ證據ト爲ハ可カラズ蓋シ狂人狂氣回復ノ
間行ヒタム事ハ之ヲ確實ト認ルヲ以テナリ然
レモ其約定ハ疑義ヲ生スルハ其前後狂氣ノ慮
ヲ以テ結約ノ時モ亦狂乱中ナリト疑フ生ハ可
キナリ

三 醉人トノ約定

明法

凡ソ醉人トノ約定ハ公義ニ於テモ其人他人ノ
 奸謀ニ陥リ或ハ他人ノ欺用ニ因テ酩酊シタル
 ニ非レハ十分酩酊中ニ取結ヒタルモノト雖モ
 虚レキニ歸セサル一ニ決シタリ是レ一時行ハ
 ル所ノ規則トス然レハ通理ヲ案スルニ人既
 ニ本必ク亡ビ道理ノ辨識ヲクシテ取結ヒタル
 約定ハ綴令ニ已レニ出テ他ノ欺用ニ因ラサル
 モト雖モ必^其約虚レキニ歸セサル一ツ得ル
 故ニビツト氏ヨリ不ミツス氏ニ對シタル事件
 ニ於テ裁官ニエレンボロ一氏斷レテ方ク人十分
 酩酊中署名シタル約定ハ必^其虚無ニ歸セサル
 一ツ得ル是レ其人既ニ約定ノ本心ヲキク以テ
 ナリ同氏其後亦此例ニ從テ裁決セシ一ツアリ現

今確定ノ規則ニ於テハ若レ人ノ約ヲ立ツル時
 醉中ニテ更ニ已レノ所為何タルヲ辨識セズ然
 ルニ他ノ一方既ニ其醉体ヲ兼知レテ取結ヒタ
 ル約定ハ全ク虚レキニ歸セサル一ツ得ル此規
 則蘇格蘭ニ於テモ亦然リトス米國ニ於テハ人
 酩酊シテ本心ヲモヒ更ニ物理ノ辨識ヲキニ至
 リテ取結ヒタル約定ハ盡ク虚無ニ歸セシム故
 ニ人已レノ嗜心ニ由テ酩酊ト覺シ他人ノ欺用
 ニ由テ亂醉セサルモノト雖モ其人己レノ約定
 ヲ虚無ト為ス一ツ得ルナリホヒ一氏方ク人亂
 醉シテ既ニ道理ヲ失フニ至ル氏ハ元ヨリ約定
 ノ能力ナキヲ以テ證明スル一ツ得ルナリ
 然レハ醉人ノ約定ニテ其人責任ヲ受ク可キモ

ノアケ即チ結約ノ時既ニ酷動中ト雖モ其人係
必ノ為メ必需品ヲ資給スルカ如キ事情止ル
ツ得サハニ出ルモノハ其人責任ヲ免サルハ
能ハス故ニ商賈醉人ニ必需品ヲ資給スルハ
綴令ニ賣與シタル物品ノ數不足スルト雖モ解
醉後尚ホ其人物品ヲ所持スルハ商人代料ヲ
回復スルヲ得ルナリ

四 童兒トノ約定

九ツ人生レテ二十一歳ヲ以テ始メテ約定ヲ取
結フ十カノ能カルハ年齢トス蓋シ人此年齢ニ
至レハ綴令ニ其人粗鹵輕卒ノ約定ヲ結ビ或ハ
他人ノ欺罔ヲ受ルハモ既ニ法律ノ守護ヲ
及ボス可カラサルハ年齢トシ此規則ニ往時封建

ノ制度ヨリ来ルモレニシテ其時世ニ在テハ借
地人此年齢ニ至レハ戰時領主ノ為メニ軍役ヲ
勤ムル十カノ体力ヲ備ハタルモトス故ニ軍
務ニ臨ンテ後見ノ守護ヲ寄セザルナリ
童兒ノ約定ハ綴令ニ全ク童兒ノ利益ヲ生ハ可
キモノト雖モ必需品ヲ資給スル款或ハ二十一
歳ノ後チ童年中ノ約定ヲ改定スル款ニ非レハ
必ス守ル可キモノト為サス之ヲ童約一般ノ規
則トス
然レハ法律ニ於テ童兒ハ現金或ハ債金ニ有
理ノ必需品ヲ購フ約定ニ就キ結約ノ能カラン
モノトス而メ結約ノ時童兒金子アリト雖モ債
金ニテ必需品ノ約定ヲ結フ一ツ得ルナリ故ニ

童児ノ約定ニ付テハ左ノ箇條ヲ検査スルイモ
最ニ緊要トス

第一 必需品

第二 必需品ニ在ラサル物品此ニ就テ亦注意
ス可キト左ノ如シ

第三 童児ノ約定ニ付テ父母或ハ後見人責任
ヲ受ク可キノ論

第四 童児成齡ノ後童年中ノ約定ヲ改定スル
ノ論

第五 童児ト約定ヲ為ス人責任ヲ受ルノ論
此レヨリ童児訴訟ノ防禦ニ付テ答辯證明ノ方
法ニ說明スルイ左ノ如シ

第一 凡ソ童児ノ身ニ直切ナル必需品ハ飲食
衣類住所及ニ藥品等トス此物品ハ何レモ相當
ノ價ニテ童児ノ有限家資ニ相應セサル可カラ
ズ此物品ノ約定ニ就テハ童児タリニ責任ヲ免
カレセラルナリ

此必需品ト云ハル語ハ童児生計ノ物品ノミニ
限ル可カラズ猶ホ且ツ玩具服飾等ノ物品ヲ除
クノ外更ニ童児常用ノ物品ヲ兼テ云ヒ而シテ必
用ノ語ハ童児ノ年齢ノ有限位階ニ照ラシテ解釋
ス可キ言語トス故ニ童児陸軍ノ甲冑丹ミシテ
其僕從ノ衣服買入ノ約定ニ就テハ之ヲ必需品
ト決定ス此ノ如キハ童児責任ヲ免カレ、イヲ
得ハ然レハ童児同隊中ノ兵卒ノ為メニ笠紐ヲ
注文スル約定ニ付テハ既ニ責任ヲ受ルイナリ

必需品ノ論

又童児義勇隊ノ兵卒トナリテ童児ノ購ヒタル
制服ノ約是ニ就テハ責任ヲ免カレサルナリ
レシホロシ氏云ク國家危急ノ際ニ臨ンテ少年
躬ヲ軍隊ニ加ハリ國家ノ防禦スルニ至テハ必
ズ童児此戎服ヲ以テ必需品ト謂ハサルナリ得
ズ然レトモ爰ニ未タ二十一歳ニ滿タサル英國海
軍ノ將校ヤリ此者未タ此任ヲ受ケル前六十八
磅ノ時辰鎗ヲ購ヒシカ其代償ノ責任ヲ受ケル
一ニ決定セリ蓋シ童児此ノ如キ物品ヲ以テ必
用トスル正證ナキヲ以テナリ又若シ童児馬ヲ
雇使スルニ元來馬ヲ使用ス可キ位置ニアル歟
或ハ医官ノ命ニ因テ身体運動ノ為メ特別ノ事
情アル歟此ノ如キ必用ノ由ヲ以テ雇使スルハ

ハ童児馬料ヲ拂フ可キ責任ヲ免カルナリ能ハス
又若シ童児借地證書ヲ與ヘテ土地ヲ領用スル
ハ其地代ヲ償ハサルナリ得ス而シテ童児ノ事
精ニ從ニ必用ナル家屋ノ借料ハ皆テモ亦然リ
トス
童児ノ妻ニ必用ナルモノハ童児ニ取テモ亦然
リトス然レトモ未タ其女ノ來テサレ前婚姻ノ為
メ用意スル所ノ物品ニ至テハ未タ後テ妻之ヲ
借用スルト雖モ童児夫トナリテ其責任ヲ受ヘ
一トシ又童児ハ明黙何レカ懸念ニテ其正子ニ
資給シタル必需品ニ就テハ責任ヲ免カルナリ
能ハス又童夫或ハ童父母ハ其妻或ハ正子埋葬
ノ約定ヲ取結フイテ得ルナリ而シテ童寡婦ハ童

童兒教育ノ責任
ヲ受ルル論

夫埋葬ノ約定ヲ取結フ一ツ得ルナリ
童兒必用品ノ為メ取結ニタル負債ヲ或ル人童
兒ノ為メ或ハ童兒ノ依頼ニ由テ償フハ法律
ニ於テモ元来ノ債主ニ代テ童兒ニ對シ其金子
回復ノ為メニ訴訟ヲ起ス一ツ得ルナリ
童兒負債ノ為メ裁決ヲ經テ拘留セラレ可キ所
或ル人其負債ヲ償ヒ拘留ヲ解クハ縱令ニ其
負債必用品ノ為メニ非ストモ童兒返金ノ責
任ヲ免カレハ一能ハス然レモ童兒未タ裁決ニ
至ラレハ内拘留セラレ、時償ヒタル負債ニ付
テハ自ラ別事トシ又蘇格蘭ニ於テ童兒ノ捕拿
セラレハ、收ハンカ為メニ償ヒタル金子回復
ノ訴訟ヲ起シ而シテ童兒ノ為メ此答辯ヲ立ント

スルニハ蘇格蘭ノ法律ニ於テモ亦此事ヲ拒防
スル一ツ得ル趣ヲ證明スル一緊要ナリ
又童兒ハ其身ニ取テ後來利益トナル善キ教育
ヲ受ル為メ學費ヲ拂フ可キ約定ニ付テハ責任
ヲ免カレハナリ「マンバ」氏ヨリ「スコット」氏
ニ對シタル事件ニ於テ三名ノ裁官此事ヲ論シ
テ云ク童兒ハ讀書習字ノ教育ヲ受ル為メ若シ
ノ學費ヲ拂フ可キ約定ヲ取結フ一ツ得ルナリ
又「ボツケ」氏ヨリ「ガン」氏ニ對シタル
事件ニ於テ年十四歳ノ童兒ハ會膳寄宿及ヒ
入校ノ為メ相當ノ入費ヲ拂フ可キ約定ニ就テ
責任ヲ受ル一ニ決定セリ
然レモ若シ童兒其父母或ハ後見人ノ手ヲ經テ

明治法律

童兒為他處手
三拂ヒタル金子
童兒責任トシタル

入校スルハ人暗ニ其父母復見人ヲ信用シテ
然ルツ得ルツ以テ其約定ノ責任ニ至テハ童兒
ニ歸スルナリ
爰ニ婦未タ其夫ト同居セザル前ニ人其婦ノ失
費ヲ拂ヒタル金子ニ存キ乃チ夫婦ニ對シテ起
シタル訴訟アリ此事件ニ就キ原告ト被告ト妻
トハ兄妹ノ間ニシテ此妻未タ被告ハ嫁シ来ラ
ザル前兄妹共各々其親ヨリ三百磅ノ讓金ヲ受
タリ而メ其妹未タ成婚ニ至ラザル前兄ヨリ其
妹ノ為メニ女工修業ノ費用トシテ其師ニ四十
磅ノ謝金ヲ拂ヒタルアリ此時妹ヨリ兄ニ書
ク贈テ其信懇ヲ謝レ且ツ都合次第返金ニ及フ
可キ趣ヲ申送りタリ然レ此妹ノ此書ヲ記シタ

タルハ未タ童年中ノ一ニテ其後更ニ返金ノ正
約ヲ為シタルニ非ルナリ于時裁官ケンヨシ氏
此事ヲ斷シテ古ク兄其妹ノ為メニ出シタル金
子ニ存テハ之ヲ必用品ト考定ス可カラズ故ニ
此ノ如キ金子還償ノ事ニ就テハ法律裁廳ニ於
テ受理スル一能ハサルナリ
又童兒修業奉公ノ約定ニ對シタル訴訟ハ決シ
テ言防ク一能ハス此事ハギルバルト氏ヨリ「
レツテエ」氏ニ對シタル訴訟ニ於テ詳カナリ
即チ此訴訟ニ付裁廳ニ於テ此ノ如キ約定ハ習
慣法及ヒエリサバツトノ定律ニ於テモ約定ノ
為メニ童子ヲ束縛ス可カラザル一ニ決シタリ
而メ裁廳論シテ古ク若シ修業中童兒ニ不品行

ノ事ヤルハ其主人之ヲ訓諭戒スル歟或ハ
亦勸解裁廳ニ訴ヘテ定律ノ如ク處罰ヲ受レハ
ル歟ノ處置ヲ為ス可キナリ然レハ約定ノ為メ
童児ニ對シテ賠償ヲ為サレムルハ故ニ被
害當理タルハ決定セリ

然レハ倫敦ノ習慣ニ因テ「ウエストミンスター」
ノ裁廳ニ於テモ童児ハ修業奉公ノ約定ニ有自
ラ訴訟ニ加ハリテ責任ヲ受ルハ得可シ近世
ノ事件ニ於テ上等裁廳ノ說ニ給料ヲ以テ童児
ヲ雇使スルノ約定ハ總令ニ職務怠慢ノ片ハ之
ヲ仲裁ニ委シ且ツ罰トシテ給料差引取極アリ
ト爲モ童児ノ為メニ有益ニシテ必ス守ル可キ
ノ約定トシ然レハ給料ヲ以テ童児ヲ雇使スル

ノ約定ニテ童児何時モ隨意ニ職務ヲ止ルハ得
欲スルハ休務中主人ヨリ給料ヲ加減ス可キ
約定ニ於テハ全ク虚シキニ歸セサルハ得ハ
蓋シ到底童児ノ為メ有益ノ約定ニ非ルヲ以テ
ナリ
又童児ノ借地證書ハ唯虚無ニ屬ス可キ理アル
ノミニシテ全ク之ヲ虚無ト為スモノニ非ス然
レハ童児自作ノ借地證書ハ必ス之ヲ正善トス
可シ若シ童児他人ニ命レテ此証各ヲ作ラシム
ルハ童児其責任ヲ作ルハ其約ヲ改定ス
ルト爲モ亦其責任ヲ受ルニ非ルナリ又童年中
取給ヒタル借地ノ約定ニ就テハ成齡ノ後相當
ノ地價ヲ償ハサルハ得ス

民法
第...
第...

第二 凡ソ童兒ノ必需品ニ付テ其有無ヲ決セ
シトスルニハ法律ニ於テ童兒ノ實位真情ヲ考
究セサル可カラス只其外額ヲ以テ定ムルナ
シ人若シ童兒ヲ見テ最初必需品ト熟ルモ其
真ノ必需品ニ非ルモノヲ懸債スルハ童兒其
約定ノ責任ヲ受ルナラズ故ニ童兒ハ母ニ其父
ヨリ必需品ヲ資給シアル歟或ハ商人ヨリ既ニ
十不必用品ノ用意アリテ別ニ之ヲ購フ可キ謂
レナキ歟此ノ如キ時更ニ一高實ヨリ其ノ必用
品ヲ給與スルハ縱令ニ其情ヲ知ラストモ
原告ニ對シテ童兒責任ヲ受ルナラズ商人童兒
ニ懸債シ為スルハ預メ童兒ノ位置儲蓄等ヲ
スヲ以テ必ス一定ノ規則ト為ス可カラズ蓋シ

商人此情ヲ知ルハ陪審ノ殊トニ注意ス可キ所
ト爲モ亦双方ノ情ニ因テ此ノ如キ糾正ヲ全ク
無用ト為スナラズ以テナリ
凡ソ法律ニ於テ童兒ハ未タ商事ヲ行フ智力ヲ
備ハサルモノトシ故ニ童兒商業ノ為メ場所ヲ
借受テ或ハ童兒商事ヲ行フ為メ人ヨリ物品ヲ
資給シ或ハ童兒商業ノ為メ他人ノ尽シタル工
作等ニ就テハ童兒一人タリモ亦他人ト組合タ
リ此ノカ為メ責任ヲ受ルナラズ故ニ童兒後日
他人ト商事ノ組合ト為ル可キ約定ニテ金子ヲ
差入レ若シ破約スルハ其時差入レタル金子
ヲ其儘過料ト為ス可キ約定ヲ取結フトモ後
日約定ノ期日ニ至リテ童兒前約ヲ踐ニ組合ト

為ル一ツ欲セザル片ハ猶ホ最初差入タル金子
回復ノ権利アリト不然レハ童児他人ト組合ト
ナリ被告ヨリ借地證書ヲ取テ既ニ金子ヲ拂ヒ
其後組合連續シテ童年中暫時タリ片地所ヲ領
取スル片ハ成齡後ニ至リ既ニ拂ヒタル金子ヲ
回復スル一能ハサルナリ
人若シ荷物ヲ運夫ニ托シテ郵送シ而メ其荷物
童児成齡ノ後追テ達セザル片ハ童児其責任ヲ
受ル一ナシ
以前童児ハ商事ヲ營ム一能ハサルヲ以テ亦カ
散スル一ナシ然レハ其後ウエクトリヤノ定律
第十二第十三第百六篇第二百二十三章カ散ノ
條例行ハレテ再ニ此條例ヲ廢止スル追ハ童児

猶ホカ散ノ裁決ヲ守ル可キ一ニ決定セリ
又童児ハ必需品ト爲モ童年中定メタル計算ニ
付テ責任ヲ受ル一ナシ然レハ童児トノ此計算
ハ全ク虛無ト爲ルニ非ハ成齡ノ後重子ヲ改定
スル一ツ得ルナリ
又童児ハ必需品ノ為メニ與ハラル、ト第モ為
替證書ノ責任ヲ受ル一ナシ然レハ此證書ハ童
児ニ取テハ必ハ虛無ニ歸スル一ナシ而メ若シ
一二十歳ノ年齢ニ至リテ後テ證書ノ金子ヲ
拂フ一ツ承諾スル片ハ童年中負フ所ノ負債返
金ノ為メ實ニ以前託シタルモノト爲モ更ニ障
碍ナル一ナシ
法律ニ於テ元來童児ハ自身ニ金子ヲ專用スル

全カヲ備ハサルモノトス故ニ童児ハ負債回復
裁廳ノ書記ニ任スル一能ハ以テ又童児ニ債與セ
ル金子ニテ童児縱令ニ必需品購求ノ為メニ其
金子ヲ費用スルト雖モ童児責任ヲ受ル一ナレ
然レ此ノ如キ片ハ公義ニ於テ金子ノ債主ハ
必需品ノ為メ負債ノ請求ヲ遂ル一ヲ得ルナリ
然レ此亦必需品ニテ童児ノ為メニ拂ヒタル
金子ハ之ヲ回復スル一ヲ得ルナリ而メ縱令ニ
他人使用ノ為メ童児ノ受取タル金子ニ付テハ
童児責任ヲ受スト雖モ若シ童児偽テ他人ノ使
用ニ托シ竊カニ金子ヲ盜奪スル等ノ如キハ其
受領セシ金子ノ為メニ童児訴訟ヲ受ル一ナリ
然レ此ノ如キ片ハ原告ヨリ金子請求ノ原因

ヲ起スルヲ以テ緊要トス蓋シ此事元來童児ノ責
任トナシサレ約是ヨリ起ル片ハ必シモ破約ヲ
以テ不正ト為シ童児ニ責任ヲ受レル一能ハ
サレテ以テナリ
童児ニ賣與セル物品ノ訴訟ニ於テ其物品必用
品タルノ證據アル片ハ之ヲ陪審ニ附シ而メ裁
廳ニ於テ必需品ノ有無ヲ決定ス
若シ二人連合ノ約定ニテ内一人童児タル片ハ
訴訟ハ唯成人ノミニ對スルナリ而メ若シ原告
ヨリ兩人ニ對シテ訴訟ヲ起リ内一人童児タル
ヲ答辯シ受ル片ハ原告ヨリ童児ニ對シテ訴訟
ヲ主張スル一能ハ他ノ成人ニ對シテ訴訟ヲ
為スナリ然レ此原告必ス其訴訟ヲ止ル一能

父或は後見人
責任論

ハス改メテ別ニ成人ニ對シテ詞訟ヲ起スナリ
第三 凡ソ父タル者其兒ヲ教育スルニ兒ノ師
ト取結ヒタル為定ニ付テ全ク同意セサルハ
父ヨリ師ニ對シテ教育ヲ受ケルノ義務ヲ尽ス
ニ及ハス亦其為定ノ責任ヲ受ケルナリ而メ最
初ヨリ父命ヲ下シタルニ非ス且ツ師ト為定ヲ
結ヒタルニ非レハ縱令ニ必需品ノ為メトモ
父其兒ノ取結ヒタル負債ノ責任ヲ受ケルナク
全ク他人ト異ナルナリ
然レハ兒若シ父ノ家屋ニ住シ需ムル所ノ物品
實ニ必需品ニテ即チ父ノ居宅ニ於テ其物品ヲ
受取ルルハ推シテ父ノ責任ト為スニ足レリト
以又此ニ反レテ父其兒ニ金子ヲ附シテ物品ヲ

父其兒ト同居
論

購ハレメ或ハ他ニ出テ物品ヲ求ム可キナリ命
スルハ此事情ノ何レニ於テモ兒其父ヨリ物
品購求ノ命ヲ受タレト推定スルニ能ハス蓋
シ兒ノ為メ物品ノ必需品ト見ノ位置相當ナ
ルトノ事情ノミニテハ陪審ニ於テ實ニ兒其父
ヨリ命ヲ承タルナリ決シ難シトス
若シ夫タル者其妻ト別居シテ其兒ヲ妻ト同居
セシメ置クハ晴ニ妻ヲ以テ夫ノ代人ト做シ
兒ノ為メ必需品ヲ調ハシムルナリ若シ又父其
兒ヲ家僕ニ托シ置クハ縱令ニ家僕ノ不注意
ヨリ事起ルト雖モ父名ヲ以テ兒ノ為メ藥品ヲ
整フル點許アリト為スナリ又妻其夫ノ不在中
夫ニ告スニテ十七歳ニナル其女ノ食料ノ為メ

明治法律

不正子ノ父

他人ト約定シ結ニ後テ暫時ニシテ妻復タ其女
ヲ他所ニ轉居セシメタリ然ルニ此事ノ訴訟ニ
於テ夫ヨリ初度ノ食料ノ代價ヲ拂ヒタルハ明
瞭タル片ハ轉居セル二度目ノ食料ニ就テモ夫
ヨリ暗ニ結約ノ推テ妻ニ與ヘタルハトス故ニ
第二ノ約定ニ付テモ原告ヨリ夫ニ對シテ約定
ノ責任ヲ受ケシムルハ決定セリ
爰ニ不正子アリ其父之ヲ家ニ取テ養フ片ハ他
人ヨリ其児ニ資給シタル必需品ニ付テハ其父
代價ヲ拂フ可キ默約ノ責任ヲ受ルナリ而シテ若
シ其父兒ノ養育料ヲ年々拂フ可キハ養諾ス
ル片ハ父ヨリ以テ未資給ナサハルノ明告遺
ハ必ス永續シテ元ノ如ク給セサルハ得ズ然

父兒ヲ置テ逃走
ハルノ論

假父者レ母ニ對シテ永續資給セサルハ一ツ辭
タル片ハ假父後來ノ責任ヲ免カシ、一ツ得而
メ假父各種ノ失費ヲ拂フ後テ續テ又レク兒ヲ
養育スルハ一ツ欲セサル片ハ母ヨリ假父ニ對シ
テ其兒養育ノ為メ訴訟ヲ起スル能ハス
父己レノ兒ヲ於テ逃走スル片ハ其兒ハ必需品
ヲ資給シタルハ一ツ對シテ責任ヲ受ク可キハ未
タ決セサル所トス然レモ其兒ニ資給シタル物
品ニ付實ニ事情有理ニ出ル片ハ父タル者亦其
訴訟ヲ拒防スルハ一ツ能ハス
習慣法ニ於テ義父ハ其妻先縁ノ兒ヲ養育スル
ノ義務ナレ然レモ若シ其兒ヲ家ニ取テ家族ト
認メ既ニ父タルノカヲ定ムル欲或ハ兒ニ資給

童兒成養ノ後童約
ヲ改定スルノ論

ハル必用品ノ為メ人ニ信ツ與フル欲、如キハ
父其責任ヲ受ルナリ而メ若シ義父妻ノ連未ル
先父ノ児ヲ養育シ之カ為メ散スル所ノ夫費ヲ
後日児ヨリ償ハシムルヲ以テ置サレハ児成
養ニ至ルト由モ改メテ金子償還ノ明約ヲ立ツ
ルニ非レハ父其児ヨリ夫費ヲ回復スルニ能ハ

第四

凡ソ童兒ノ約定ハ縱令ニ必用品ニ非ハ
ト雖モ其品童兒ノ利益ニ歸スル片ハ唯一時虚
無ト為ス一ヲ得ルノミニシテ其實全ク虚無ト
ナルニ非ハ之ヲ童約一般ノ規則ト以テ故ニ童兒
成養ニ至リテ後チ童年中ノ約定ヲ改定スルハ
ハ爰ニ後約ニ就テ新規ノ約原ナレト由モ童兒

其約ヲ守ラサレ一ヲ得ル但レ成養ノ後童年中
ノ約定ヲ改定シ更ニ童兒ヲレテ之ヲ守ラレノ
トトスルニハ必ハ童兒ノ隨意ヲササレ一ヲ得
ル決シテ他ヨリ欺罔ヲ働キ恐喝ヲ示レ或ハ無
智ニ乘レテ改定セシムル一ヲ得サレナリ
然レハ約定ノ改定ニ付テ毫モ欺罔恐喝等ノ所
為アラサレ片ハ裁官ヲシテ之ヲ定メ、定則ノ外
童兒約束ヲ守ル一ヲ承諾シ又ハ之ヲ守ルノ説
明ハ則テ前約ヲ改定スル一ト決定ス是レ代人
ノ約定ヲ後ニ本人承諾シテ守ル可キ本約ト為
スカ如シ故ニ童兒己レノ年齢ヲ倦リ兼テ成養
ノ後受取ル可キ金子ノ一部ヲ其受託人ヨリ受
取り而メ後チ實ニ成養ニ至リテ先カノ殘金ヲ

未成年者之規則

受取ラシト欲スル片ハ公義ニ於テ童児詐偽
ノ罪ニ陥リ殘金ヲ請フ片ハ則テ前キニ受取タ
ル高ク合算ス故ニ童年中既ニ拂ヒタル金子ハ
再ニ收取スル一能ハサルナリ
成齡ニ至リテ後テ童児ノミ虛無ト為ル一ヲ得
ル永續ノ約定ニ於テハ爰ニ童児成齡ニ至リテ
相當ノ時間内ニ童約ヲ改定スル一ヲ欲セザル
ノ明報ヲ出サス而シテ他ノ一方ニ於テ此事ヲ了
和スルニ非レハ則テ童約改定ノ一ヲ以テ論定
ス故ニ童児セーエス氏トノ組合ヲ離レシ一ヲ
欲シ成齡ニ至ル少シ前連テ組合ニ在リ而シテ後
テ成齡ニ至リテ相當ノ時間内ニ加入不承諾ノ
趣ヲ通セザル片ハ縱令ニ成齡後組合離ルハト

ニ成齡ノ後會社ニテ取結ヒタル約定ノ責任ヲ
免カル一能ハス又若シ童児地代ヲ拂フ可キ
借地證又ヲ記シ而シテ後テ成齡ニ至リテ地代ヲ
收ムル一ヲ承諾シタル片ハ後テ續テ此證書ヲ虛
無ト為ス一能ハス
若シ人成齡ニ至リテ童年中借受タル地所ヲ續
テ借領スル片ハ則テ借地證書ヲ改定シタル一
ト為スナリ此ノ如キ片ハ童年中延滞セル地代
ノ殘餘ニ付責任ヲ免カル一能ハス又童女婚
姻ノ約定ノ畧定ハ成齡ノ後改定レ始メテ守ル
可キ約定トス又童児土地ヲ購求シ同時ニ買金
ノ抵當トシテ之ヲ賣主ニ質入トナシ而シテ後テ
成齡ニ至リテ其購求ヲ改定スル片ハ質入モ亦從

テ改定レタルトナリ此及レテ若シ童児
質入ノ一ツ虚無ト為スルハ土地買入ノ原納ト
共ニ全約ヲ虚無ト為スナリ即チ土地所有ノ權
元ノ如ク本主ニ復歸ス
若シ童児懸金ニテ物品ヲ買取り之ヲ受領シテ
自用シ而シテ成齡ニ至リテ後之ヲ賣人ニ還ス
ナク亦ハ買約破談ノ一ツ通セズ久シク時間ヲ
經過シ其後自用スルハ買約改定ノ一ニ歸シ
テ買人物價ノ詞訟ニ就テ責任ヲ免カス一能
ハシ若シ又童児代價ノ代リ適^子用^子証券ヲ与フル
片ハ證券ノ名宛人歟或ハ證券所持ノ人歟其
現價ヲ拂ハサル一ツ得ス
又童年中ノ約定ヲ改定スルハ全ク童児ノ隨

意タルヲ以テ後子原約ノ事情ヲ變スル一ツ得
ルナリ此時ハ他ノ一方ニ於テ其約定ヲ為シタ
ル趣ヲ證明セシムルハ可カラズ成人負債ヲ
返済スル約束ニテ都合次第返済ス可キ意ヲ以
テスル片ハ必ズ欺カ都合ノ證據ヲ出サ、ル一
ヲ得ス故ニ童児ニ於テ此ノ如キ時ニ於テハ
再約ニ因テ復起スル元来ノ請求ノミナラス猶
ホ返済ス可キ未定ノ約定ヲ説明スル一ツ以テ
當埋トス
童年中ノ約定ヲ虚無ト為サシ一ツ欲スル片ハ
其約定ハ童年中拂ヒタル金子ヲ回復スル一
能ハ、是前キニ論スル所トス
第四世^ノタル^ノ定律第九第十第十四篇第五

童児ト約定ヲ爲ス
ルハ責任ノ論

章、因テ人童年中ニ結コタル負債返済ノ約束
ヲ成齡後ノ約定ヲ以テ其人ニ責任ヲ被ラレメ
或ハ童年中ニ結コタル約束ヲ成齡後ノ改定ニ
因テ其人ニ責任ヲ受レハル 就テハ責任ヲ受
ク可キ本人書記署名レテ自ラ約束ヲ改定ラレ
ルニ非レハ其人ニ對シ詢訟ヲ起シテ事ヲ防言ス
ルニ能ハサルノ法ヲ定メタリ 故ニ此定律以未
成人ナレハ代人ノ約定ガ本人承諾シテ署名ス
ルト童児ナレハ童約ヲ成齡ノ後書記署名シテ
改定スルト同理ニ歸ス可キトモ決定セリ 故ニ
名宛月日及ヒ金高ヲ記サス然レハ被告署名シ
テ原告ノ代人ニ授與シタル有証ノ約定ハ此定
律ヲ以テ論ス可キモノトハ但シ必キ其書ハ本

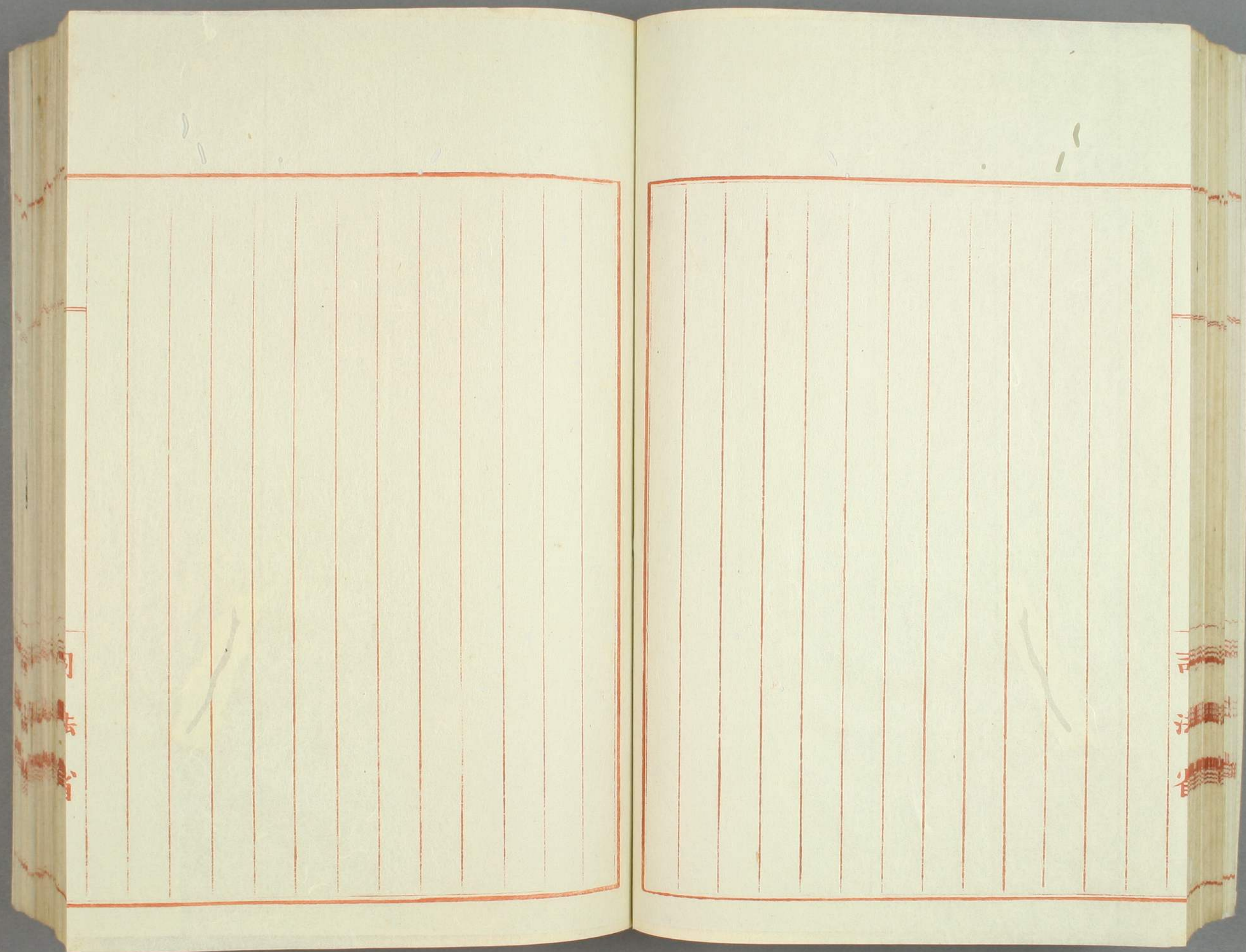
人ノ自署タラサル可カラズ代人ノ署名ハ得テ
十カト認ルニ足ラサルナリ
第五 夫レ童児ハ絶テ常人ノ有セサル特權ヲ
備フルヲ以テ一般ノ規則トス 故ニ童児ノ約定
ハ童児ニ取テノミ虚無ト為ス 一ツ得ルト弟ニ
他ノ一方ニ於テハ之ヲ守ラサル一ツ得ル蓋シ
法律ニ於テ童児ハ他人ノ欺罔ヲ受トテ守護シ
其身ヲ保安スルノ惠蒸アルヲ以テ約定ハ童児
ヲ助ケテ利益ヲ與ヘ成人ヲ助ケス責任ヲ受レ
ルヲ以テ當理トス 然ラサルハ童児不能力ヨ
リ毎ニ屢々利ヲ失レ害ヲ受ルヲ免カレサレハ
故ニ童児ハ成人ニ對シテ婚姻ノ約定破約ノ為

メ 詞訟ヲ起スルヲ得ルトモ成人ヨリ童児ニ
對シ之カ為メ等シク詞訟ヲ起スル能ハズ又縱
令ニ童児ハ元來高事ヲ管ル能ハサルヲ以テ
高約ニ付テ責任ヲ受ストモ成人ニ對シテ之
ヲ為メ詞訟ヲ言防クイテ得ルナリ而メ童児被
見人ト共ニ被告ニ田園ヲ貸スルヲ約定シ然レ
ニ被告ヨリ規約ノ時童年中ノ由ヲ以テ其地ヲ
受領スルイテ辨ハルハ信義ニ於テ被告約ノ如
ク地ヲ受テ借料ノ全額ヲ償ハサルイテ得ル又
金子ノ證券ニ付成人ニ對シタル詞訟ニ於テ成
人ヨリ證據ノ先主ハ童児タルイテ演ルトモ
成人詞訟ヲ言防クイ能ハサルナリ又兩人ノ組
合ニテ内一人ハ童児ニテ後與シタル連合ノ給

料ハ童児ニ對シテハ虛無ニ屬ストモ成人ニ
對シテハ正確ノ約定ト為ス可キナリ

曾氏約定法卷之四終

明法



司
法
譯
印

智
氏
約
定
法
卷
之
五

司
法
譯
印

司
法
譯
印

曾氏約定法卷之五

目次

五 嫁婦トノ約定

一 獨婦トノ約定 婚姻ニ就テ結末如何、
論

二 婚姻後取結ヒタル嫁婦トノ約定

三 連縁中妻ト取結ヒタル約定ニ付其妻
ヲ獨婦ト考定スルノ論

六 外國人トノ約定

七 重罪人トノ約定

同
去
省

增氏約定法卷之五

五 嫁婦トノ約定

一 獨婦トノ約定 婚ニ付テ結末如何

論

凡ソ女ノ未タ嫁セス獨身ノ内ニ取結ヒタル未
来ノ約定ニ付テ其約定ヨリ生スル所ノ利益花
ニ其約定ニ付テ詞訟ヲ起スノ權利ハ完ク其夫
ノ手中ニ落ルナリ然レ氏夫絶ヘテ此權ナキ
ト謂フニ非ス事情ニ由リ亦之ニ関カル權ヲ備
フルナリ但シ其夫約定破約ノ事ニ付詞訟ヲ起
ス中ハ破約ノ事夫婦同居ノ前後ニ拘ラス夫独
リ裁廳ニ出テ自ラ此詞訟ヲ為ス可ハサル

婦ノ約定ハ完ク
夫ノ手ニ落チサル
論

同書

ナリ、是ヲ以テ夫婦連縁中、夫其妻ノ詞訟權ヲ改
メテ、我カ有ト為シ置サレハ、妻没シテ夫之ニ後
ル、氏夫ハ唯死後管理人ノ名ヲ以テ、負債回役
ノ詞訟ヲ起ス、得ルノ故ニ妻未タ嫁セサ
ル内、取結ヒタル負債ニ付、嫁シテ後之ヲ回役ス
ルノ詞訟ヲ夫ト共ニ起シ而メ詞訟未タ落着ニ
至ラサル前、妻没スルハ一旦此詞訟ヲ停止ス
而メ此時夫若シ死後管理ノ証書ヲ取リ置ス
テ、重子ヲ死去スルハ、夫ノ死後管理人ニテ其
妻ノ詞訟權ヲ有スルヲ能ハス、故ニ此時ハ新々
ニ妻方ニ縁近ノ者此証書ヲ取テ、亡婦ノ詞訟權
ヲ執ルヲ得ルナリ

妻没シテ後、詞訟ノ權利ヲ夫ノ有ト為スニ付

テハ之ヲ定ムルヲ甚タ難ク未タ曾テ適當ノ先
例アラサルナリ然レ氏裁廳ニ於テ此權利ニ付
キ其夫ノ擔任不可キト能ハサルト決セント
スルニハ先ツ能ク其道ヲ考ヘ委シク其理ヲ糾
シ以テ其事情ヲ察シ而メ其權全ク妻ニ在ラス
實ニ夫ニ歸スルハ則チ之ヲ更ニ夫ノ引受ク
可キトト定ムルナリ就テハ其如ニ証抑ト執ル
可キ事情アラサルニ於テハ果シテ此ノ如ク決
スルヲ能ハス但シ何ニテモ其然ル可キ一ノ証
抑アルヲ以テ十分トス例ハ夫官裁ヲ經テ負
債回役ノ權ヲ備フル欵又ハ人ヨリ妻ハ拂フ可
キ金子ノ一部分ヲ既ニ受領セシ欵或ハ妻ノ未
タ嫁シ来ラサル前妻ノ名宛ヲ以テ記シタル金

妻其夫ニ後ル、
時ノ權利

子交換証書ヲ嫁シテ後夫婦小兒等生計ノ為メ
金子入用ノ時ハ此証書ヲ以テ金子ヲ辨達ス可
キ約束ニテ妻ヨリ之ヲ人ニ預ケ置シ如ク其夫
モ亦其預ケ主タル時等何レ歎此ノ如キ証抑ア
ルニ非レハ則チ夫ノ引受ノ可キト成ラサル
ナリ然レ氏妻未タ嫁セス獨身中ノ名宛ニテ記
シタル金子交換証書ヲ以テ妻ノ存命中唯其利
息ノミヲ人ヨリ夫ニ償ヒタルノミニテハ此証
書ヲ以テ全ク妻ノ權利ヲ夫ノ所有ト為ス可キ
正証ト為ス丁能ハサルナリ
又妻未タ夫ト同居セサル前妻ノ約定ヨリ起リ
タル貸金ニ付キ嫁シテ後其夫死シ妻之ニ後ル
ハ是全ク妻ノ有ニシテ夫ノ代人出テ、其

妻独身中ノ約定
ニ付夫責任トナル
論

債ヲ討求スル丁能ハス然レ氏貴重ノ約原アリ
テ妻ノ詞訟權ヲ他人ニ托シ置キ而メ夫死スル
時ハ則チ妻ノ責任ト成レ可キ歎此事未タ決セ
サル所トス
又夫婦同居前妻ノ取結ヒタル約定ニ付其夫ノ
責任ニ歸スル丁ハ事情ニ從テ決定ス蓋シ妻ノ
独身中取結ヒタル約定ニ付テハ縱チ夫ノ曾テ
共カラサルモノモ嫁シテ後ハ夫婦共ニ其責任
ヲ受ルヲ例トスルト虽氏猶ホ夫ヨリ債主ニ對
シ新規ノ約原ヲ添ヘテ再約ヲ為ス歎或ハ故ア
リテ其討求ヲ遲延セシムル歎此ノ如キ所為ア
ルニ非カレハ敢テ夫独リ詞訟ヲ受ル丁ナキヲ
以テナリ故ニ妻死スル時ハ縱令チ妻ト共ニ利

同書

益ヲ得ルトモ全ク夫ノ名ヲ以テ責任ヲ受サ
ルコトアリ即チ此ノ如キハ妻ノ存命中詞訟ノ權
ヲ全ク夫ノ有ト定メ置サレハ夫ハ唯死後管理
人ノ名ノミヲ以テ其責任ヲ受ルナリ而シテ妻其
夫ニ後ルハ其ハ乃チ婚姻前ノ約定ニ付キ妻ノ
責任ニ歸スルコトハ此理ニ出ル所トス又分散ノ
法例或ハ覆高ノ法例ニ從テ夫負債ノ赦免ヲ得
ルハ夫婦同居前其妻ヨリ償フ可キ負債ニ付
嫁後夫婦ニ對シテ其詞訟ヲ起サルハ氏夫ノ放
免ヲ以テ之ヲ言防クコトヲ得ルナリ

二 婚姻後取結ビタル嫁婦トノ約定

一 一般ニ論スルハ凡ソ嫁婦タル者ハ夫ト
同居中自ラ物品所有ノ權ヲ有スルコト能ハス故

ニ夫婦同居中ニ妻タル者金子或ハ物品ヲ所有
シ或ハ此物ヲ貸シ彼物ヲ賣与スル等ノ所為ア
ルハ其貸金並ニ物品回賃ノ權利ハ全ク夫ノ
手ニ歸スルナリ是ヲ以テ夫婦相談ノ上別居シ
而シテ別居中夫ヨリ妻ノ手當トシテ一週毎ニ若
干ノ金子ヲ給與シ其内ヲ妻幾何カ残シ置テ之
ヲ某ノ元金會社ニ委託シ而シテ後チ進物ノ名目
ヲ以テ妻之ヲ或ル人ニ賣与スルハ夫ヨリ其
買受タル人ニ對シテ之ヲ貸金トシテ回賃スルコ
トヲ得ルナリ又若シ嫁婦婚姻前ヨリ自用ノ預備
金トシテ地代ヲ被告ニ托シ置キ而シテ婚姻後妻
死スルハ夫ノ權ヲ以テ其預金回賃ノ詞訟ヲ
起スコトヲ得ルナリ又妻ノ勞力ヲ以テ受取ル可

キ金子及ヒ夫婦中他人ヨリ妻ニ拂フ可キ為替
証書等ニ就テハ夫之ニ加ハリテ其金高ヲ討求
回獲スル丁ヲ得ルナリ又妻ノ名宛ニテ拂フ可
キ証書等ハ夫ノ裏書ヲ以テ通用スル丁ヲ得ル
ナリ然レ氏此等ハ何レニ於テモ全ク夫ノ手ニ
歸スル者ニ非ス若シ同居中夫全ク詞訟ノ権利
ヲ我カ有ト定メ置ニ非レハ夫死スルニ及ヒ妻
獲ヒ其権ヲ我カ所有ト為ス丁ヲ得ルナリ
又夫ニ屬シタル金子又ハ物品ヲ或人只其妻ト
ノミノ約定ヲ以テ受取ルルハ縱令ヒ其人当時
夫アル丁ヲ知ラスト虽氏其夫物品ヲ追求シテ
回獲スルノ権ヲ具フルナリ而メ未來ノ約定ニ
於テ約定人兼テ婚姻ノ丁ヲ兼知ニテ其夫ニ相

談ナク妻ト約定ヲ取結フルハ最初ヨリ夫其妻
ニ約定ヲ取結フ可キ権ヲ與メ置スト虽氏夫ノ
所存次第其約定ヲ破談スル氏或ハ亦夫ノ同意
ヲ以テ結約セシメタル丁ニ謀ラウ氏取捨ノ権
全ク夫ノ手ニ歸スルナリ然レ氏若シ人婚姻セ
レ丁ヲ知ラステ其婦ト約定ヲ取結ヒ而メ婦
ハ當時我カ夫ヲシテ約定ヲ守ラシムルノ権ナ
ク且ツ結約ノ時預メ婦ヨリ其人ニ對シ夫ニ代
テ約ヲ立ツル趣ヲ告ケサルハ夫後日之ヲ改
定シテ其人ニ責任ヲ受シタル丁ニ至テハ蓋シ
当理ヲ得ルモノト謂フ可カラサルナリ
二 夫婦同居中妻ノ取結ヒタル約定ニ付夫ノ
責任ト成ルヲ論スル丁尤ノ如シ

夫責任ノ論

同書

凡ソ嫁婦ハ婚姻ノ慮ニ因テ我カ取結ビタル約定ニ付夫ヲシテ之ヲ守ラシムル權威ヲ具フル者ニ非ス亦婚嫁中妻ノ約定ニ付夫ノ責任トナシテハ夫管姻ノ慮ヲ以テ妻ノ物ヲ我カ所有ト為スニ拘ハラサルナリ事情ニ由リ縦令ヒ妻一物ヲ齎ラシ来ラサルモ夫ノ責任ニ歸スルナリ蓋シ夫我カ妻ノ約定ヲ引受ケ責任ヲ受ルニ至テハ全ク妻其夫ノ命ヲ受ケ夫ニ代テ約定ヲ取結ビタル推定ニ因テ決スル所トス之ヲ決スルハ全ク陪審ノ手ニ歸スルナリ故ニ若シ夫ヨリ妻ニ結婚ノ權ヲ与ヘタルニ付爰ニ其明証アリ歟或ハ理ニ於テ實ニ與權ノ事情顯ルハ歟ニ非ヤレハ妻ノ約定ニ付キ敢テ夫ノ責任トナシ

了非ルナリ

是ヲ以テ妻一人ニテ取結ビタル約定ニ付テハ結婚ノ前後明黙何レ歟夫其約ヲ承知スルニ非サレハ妻之ヲ夫ノ責任ニ歸セシムル了能ハス之ヲ独婦ノ約定一般ノ規則トス又夫ハ妻ノ取結ビタル欺罔ノ約定ニ付キ責任ヲ受ル了ナシ又妻ノ約定ニ付例ハ其夫家族ノ為メニ必用品ヲ調フル如キ約定ニ付テハ乃チ暗ニ夫ヨリ妻児ノ為メ此物品ヲ資給ス可キ權ヲ与ヘ置タル了ニテ夫其責任ヲ免カルハ了能ハス然レ氏猶ホ能ク陪審實ニ妻其夫ヨリ此ノ如キ權ヲ與ヘラレシコト有テ後チ其約定ヲ取結ビタル歟

夫死レテ妻其
権ヲ失フノ論

宜シク爰ニ注意セサル可カラズ蓋シ必需品外
ノ約定ニ至テハ尤ヨリ妻其夫ヨリ結約ノ権ヲ
與ハラレテ後チ取結ヒタル約定ニ非サレハ妻
ヲ夫ノ代人ト認ル丁能ハス縦令ヒ法律ニ於テ
夫其妻ニ命シテ結約セシメタル丁ヲ推定スル
ノ事情アリト虽氏別ニ明証アレハ此推定ヲ以
テ決スル丁能ハス即チ夫ノ責任トナルニ非サ
ルヲ以テナリ

凡ソ妻結約ノ權威ハ每ニ夫ヨリ與ハラレタル
推定ニ基クヲ以テ夫死スルルルハ妻其権ヲ失ヒ
且ツ妻并ニ小兒等ノ為ノ必需品資給ノ為メト
虽氏夫死後ノ家資ヲ抵当トシテ妻之ヲ命スル
ノ権ナシ縦令ヒ結約ノ時妻并ニ商人其夫ノ死

去ヲ知ラスレテ必需品ヲ購フト虽氏此意ヲ以
テ込夫ニ責任ヲ被ラシムル丁能ハス故ニ夫ノ
死後資給シタル必需品ニ付テハ夫ノ死後管理
人ノ責任ニ歸スル丁ナシ而メ之ヲ資給シタル
高賈ハ其寡婦ニ對シテ詞訟ヲ起シ代料ヲ回僕
スル丁能ハサルナリ
然レ氏近時ノ詞訟ニ於テ夫ノ狂乱中其妻ニ賣
与シタル必需品ニ就テハ夫ノ責任ト成ル丁ニ
決定セシ事アリ
凡ソ妻ノ取結ヒタル約定ニ付夫ノ責任トナル
ニ就テ之ヲ論スル丁左ノ如シ
第一 夫婦同居中ノ約定
第二 夫婦同意ノ上別居中妻ノ取結ヒタル約

司
法
省

夫婦同居中ノ
約定ニ付夫責任
ノ論

定或ハ夫ノ不品行ヨリ別居中妻ノ取結ヒタル
約定

第三 妻ノ不品行ヨリ別居中妻ノ取結ヒタル
約定

第一 凡ソ夫婦同居中妻自ラ取結ヒタル約定
ニテ元來其事実夫婦生計ノ為メニ物品ヲ調ヘ
タル中ハ則チ夫其約定ニ同意シタル推定ヲ決
スル善口實ト為スナリ故ニ夫婦同居中其妻分
ニ應シテ相当必用ノ從僕等ヲ傭使スル了ニ就
テハ自然妻其夫ヨリ黙許ノ權ヲ与ヘラレアル
ナリ又夫我カ妻ト一ノ家屋ニ居住シ而メ何物
ニ限ラス其家屋ニテ物品ヲ受取ル可キ了ヲ妻
ニ許シ置クキハ其物品ニ付キ多少夫ノ責任ト

同居中妻ノ取結
由テ夫ノ責任免セ

成ル可キ了ニ決定ス此ノ如キ夫ノ責任ハ強ク
夫ノ真情ニ拘ハルニ非ス其妻ヲシテ世上交際
ノ為メ夫ヨリ許シタル模様ニ干係スルナリ
故ニ夫ノ身分ニ拘ハラヌ妻ニ相應ノ權ヲ与ヘ
テ世間ニ出シタル時其行先ニ於テ妻ノ取結ヒ
タル約定ニ付テハ夫其責任ヲ免カル、了能ハ
ス
又妻家事使用ノ為メニ調ヘタル物品ニ付夫一
度ニ其代價ヲ拂フハ則チ陪審ニ於テ其他各
種ノ物品ヲ整ヘタル約定ニ付キ既ニ夫ヨリ妻
ニ其權ヲ与ヘタル証拠アルヲ以テ論定シ夫其
責任ヲ免カル、了能ハス
又夫婦同居中夫ヲ其妻ト同意ト推定スル了ハ

同法

物品ヲ給備スルハ
必ズ正實ニ出ツ可
キノ論

實ニ重キ了ニシテ縱令ニ同居中妻ノ所行ニ於
テ茲通等ノ不義アリト虽氏唯此蘆ノミニテハ
其妻ヲ離別スル前ニテ茲通後ノ約定ト虽氏矢
張り夫ノ同意ヲ以テ論スルナリ
原告ヨリ被告ノ妻ニ賣与セル物品代價ノ詞訟
ニ付原告ヨリ其物品ヲ渡ス前兼テ被告夫婦ノ
間睦シカラサルヲ以テ兩三年ノ間互ニ相別
レ而メ其別居中妻方ヨリ夫方ニ或ル時金子五
百磅ヲ拂ヒ呉レ度旨ヲ申送り其後亦重子テ夫
ヲ囚獄ス可キ趣ヲ申送りタリ然ルニ夫ヨリハ
兼テ数年ノ間其別居中衣類ノ手当トシテ年々
五十磅ツ、ヲ妻方ニ送りアリレニ妻何時モ之
ヲ調ヒテ着用シタル証拠アルニ非ズ于時此詞

訟ニ於テ裁官トレバ「氏論」ニテ云ク元来今日
ノ詞訟ニ付原告賣人ナル者畢竟妻ノ心底夫ノ
家産ヲ衰頽セシメントスルノ意ニ出ル了ヲ知
ラス且ツ夫婦ノ間既ニ不和ノ事情モ知ラスレ
テ全ク其夫ヲ信シ妻ノ分位相当ノ物ト察シテ
織物等ヲ給シタルニ於テハ夫ヨリ原告ニ對シ
テ妻ノ購ヒタル物品ノ代價ニ付之ヲ償ハサレ
了ヲ得ス然レ氏原告既ニ夫婦不和ノ了ヲ兼知
レ而メ妻其物ヲ注文スルハ全ク夫ノ家産ヲ傾
ケントスルノ心意ニテ原告暗ニ此事ヲ助ケン
トスルノ意ヲ以テ物品ヲ賣与スルニ至テハ夫
断然此ノ如キ代價ヲ償フノ謂レナシトス縱令
ヒ夫曾テ此ノ如キ代價ヲ拂ヒタル了アル氏審

同法審

查ノ上夫婦不和ノ事公然タルニ於テハ夫ノ責
任ニ歸スル理ナレ縦令ヒ高買全ク不和ノ事情
ヲ知ラスレテ賣与シタル物品ト虽氏其物品必
竟妻ノ分位ニ應セサルハ夫ノ責任ト成ル所
ハ唯分位相應ノ物品ヲ償フノミニテ他ノ品物
ニ至テハ夫ノ責任ト為スカラサルナリ
夫婦同居中妻物品注文ノ約定ヲ取結ビテ既ニ
其品ヲ買取り而メ夫其約定セルヲ知ルハ唯
夫ノ同意ヲ推定スルノミニシテ必ス真ニ同意
ト認メ以テ夫ニ責任ヲ受レハルノ正証ト定ム
ルニ足ラサルナリ故ニ此ノ同意ノ推定ハ縦令
ト夫面リ其妻ノ注文セル物品ヲ知ルト虽氏妻
既ニ衣類等十分ノ準備アリテ別ニ之ヲ購フニ

子モトモ
必用品ニ非ル物品
ノ論

及ハサル歟或ハ妻之ヲ注文セル所為ヲ夫不服
ナル歟何レカ此ノ如キ事情アルハ既ニ夫ノ
同意ヲ以テ論スルヲ能ハス且ツ夫ヨリ其物品
ヲ購フ可キ黙許アリト為スカラス因テ此ノ
如キ詞訟ニ於テハ夫ヲシテ約定ノ責任ヲ受レ
ムルヲ能ハサルナリ
又若シ商人夫ニ拘ハラス独リ其妻ノミヲ信シ
テ物品ヲ賣与シ而メ陪審ニ於テ其事情相違ナ
キトテ認ルハ夫之カ為メ責任ヲ受ルニ至ラ
サルナリ
若シ商人某氏ノ妻ヨリ注文ヲ受テ其分位ニ相
当スルト虽氏必用品ニ非ル物品ヲ賣与スルハ
陪審ニ於テ之ヲ妻其夫ヨリ買權ヲ受テ買得

タルト認メサルナリ故ニ此ノ如キ物品ヲ資
給スル商賈ハ其妻ニ夫ヲシテ約定ノ責任ヲ負
ハシムルノ権利アル歟其際ヲ能ク審査シテ後チ賣
与ス可キヲ例トス此ノ如キ賣買ノ詞訟ニ於テ
ハ妻其夫ヨリ物品購求ノ明許アルヲ示ス歟或
ハ妻物品ヲ買得テ自用スルト夫現在目撃ス
ルト虽氏不同意ヲ言ハサルノ証拠ヲ出ス歟何
レ歟此等ノ証拠アルヲ以テ則チ夫ヨリ妻ニ買
権ヲ与ヘタルト推定ス然レ氏妻過分ノ物品
ヲ購求シタル約定ニ就キ唯夫婦同居中ノ廉ノ
ニニテハ以テ夫ノ責任ト為スニ足サルナリ
又若レ夫ヨリ商人ニ對シ我カ妻ヲ信シテ向後
物品ヲ賣与致ス間敷趣ヲ明ニ通達スルハ通

妻商業ヲ營ム時
夫責任ヲ受ルノ論

達後右商人ヨリ以前ノ如ク物品ヲ賣与スルト
虽氏夫ノ責任トナルトナレ而レ此通達ハ通例
右商人ノ奴僕迄ヲ通知スルヲ以テ均シク其主
人ニ通シタルトト做スナリ然レ氏夫婦同居中
ハ誰レ彼レト特ニ人ヲ指ストナク唯一般ノ公
告ヲ出スノミニテハ此例ヲ以テ論ス可カラズ
乃チ必用品ニ付妻ノ取結ヒタル約定ニ就テハ
夫ノ黙許ヲ破ルト能ハス夫果シテ責任ヲ免カ
レサルナリ
又嫁婦ハ表向キ独リ其身ノ為メニ躬カラ商業
ヲ營ムトアリ此風習都府最モ昌シナリトス若
シ夫婦同居中夫其妻ノ高利ヲ行フトチ兼知レ
而レ夫モ共ニ其妻ノ高利ヲ射ル中ハ則チ妻其

夫ノ代人トナリテ商事營業ノ了ト推定ス故ニ
縦令ニ商品ノ受取書勅定書ノ類ハ妻ノ名宛ヲ
以テ記シ或ハ妻ノ名ヲ以テ貧院道路ノ税額ヲ
拂ヒ置ク共商人ヨリ妻營業ノ為メ給備シタル
物品ニ付テハ夫ノ責任トナラサル了ヲ得ス又
妻商事營業ノ為メ夫婦居テ同フセスト虽氏妻
其夫ノ命ニ因テ商事營業ノ釐頭ル、中ハ夫亦
責任ヲ免カル、了能ハス曾テ上等裁廳ノ詞訟
ニ妻其夫ノ同意ヲ以テ商業ヲ營シ而メ妻其商
業ニ付金子ノ証書ヲ相渡シ夫其利分ヲ受取リ
妻又或人ヨリ金子ヲ借用シテ死去シタルニ付
キ兼テ其妻ニ用立タル金子等回役ノ為メ其夫
ニ對シテ詞訟ヲ起シ其人ヨリ之ヲ裁廳ニ訴ハ

シ外時ノ裁官右ノ金子ハ全ク商事ノ為メニ借
用セシ金子ナル歟其緣由ヲ暇ト審査ス可キ趣
キヲ命シタリ蓋シ其金子亦以テ商業入用ノ為
メニ相違ナキハ夫ヨリ之ヲ償ハサル了ヲ得
サレハナリ然レ氏夫偶々妻ノ商業場ニ到リタ
ルノミニテハ商業ノ為メ妻ノ取結ヒタル負債
ニ付敢テ夫ノ責任ト為ス了能ハサルナリ
夫ノ命ナキニ妻其夫ノ各ヲ以テ死シタル金子
交換証書ニ付テハ夫ノ責任トナル了ナレ縦令
此証書ハ夫ノ負債ヲ払フ為メニ記シタル証
拠アリト雖モ夫ヨリ之ヲ記ス可キ權ヲ奪ヘタ
ル証拠ト為スニ足ラサルナリ又嫁婦ハ縦令ニ
必用品ノ為メト雖モ独權ヲ以テ借用シタル負

妻ノ記シタル金子
交換証書ニ付テ夫
ノ責任ト為ス能
ハサル論

同法

婦ト曰居スル
人責任論

債ニ付其夫ニ責任ヲ歸セシムルコト能ハス原告
ヨリ証書中ニ被告夫ノ所望ニ因テ其妻ニ金子
ヲ用達タル旨ヲ書如ヘタルモノニ非サレハ其
証書ヲ正書ト認メ夫ニ責任ヲ歸セシムルコト能
ハス然レ氏若シ妻債ヲ負テ必需品ヲ調ヒ而シ
必需品ノ為シ夫モ亦責任ヲ受ク可キ事情アル
ハ公義ニ於テ夫債主ニ對シテ約定ノ責任ヲ
免カシ、コト能ハス

男女共ニ曰居シテ公然婚礼ヲ行ハスト雖氏暗
ニ其身ノ妻トシテ辨ルレ置クハ商人ホク婚
姻ノ式ナクコト承知シテ其女ニ物品ヲ賣与ス
ルト雖氏其男責任ヲ免カシ、コト能ハス此ノ如
クハ礼ヨリ其男ノ曰意ヲ以テ論ス可キモノト

ス而シ商人ニ於テ其女ハ全ク被告ノ妻ニアラ
ザルコト承知スルト雖氏ホク夫婦ノ契約ナキ
報ヲ受シ返ハ夫張リ被告ノ責任ト成ラザルコ
ト得ス

男女曰居ト雖氏夫婦タルノ真情ヲ知ルコト能ハ
ス然ルニ唯推シテ被告ヲ夫ト定ムルノミニテ
男ニ女ノ責任ヲ負ハシムルハ又男女公然婚礼
ヲ行テ夫婦ト成リタルニ非サル廉ヲ以テ後々
互ニ相離ル、欲又ハ他ノ事故アリテ数年回
居ノ後再ヒ別ル、欲此ノ如キ謂レアリテ別レ
タル後ハ縱令ニ必需品ノ約定ト雖氏其男責任
ヲ免カシ、コト能ハス故ニ此ノ如キ夫婦ニテ男死
スルキハ元ヨリ其女必需品ヲ調フ可キ男ヨリ

離婚論

ノ 監新アヲウシナリ是ヲ以テ其女死後物品注
文ノ約定ニ自テハ男ノ死後管理人ノ責任ト為
ス可シ能ハス
九ノ夫婦一旦誓礼ヲ行テ曰居レ而シ後テ故
リテ僧徒ノ裁廳ヨリハ離婚ノ申渡ヲ受テ互ニ
相別ルハ男ノ明新ナクテ女ノ取結ヒタ
ル約定ニ付キテ最早男ノ責任トナルコトナレ
令ニ商人徒前ヨリ物品資給ノ習慣アルニ因リ
女ハ猶小嫁婦タルノ心得ニテ物品ヲ賣テスル
ト重氏別後ノ約定ニ付テハ男ノ責任ニ帰スル
コトナレ然レ氏外國ノ裁廳ニテ申渡サレタル離
縁ニテハ此ノ如キ商人ノ權利ヲ破ルコト能ハ
ス

別居証書論

第ニ 是ヨリ夫婦曰意ノ上別居中妻ノ取結ヒ
タル約定或ハ夫ノ不品行ヨリ別居中妻ノ取結
タル約定ニ付夫ノ責任トナル可キコトヲ説明ス
可シ
夫婦即時ニ別居ス可キ為ナニ記シタル証書ニ
テ夫ハ妻ニ羊給ヲ送ル可キ由テ妻ノ受托人ト
相約シテ受托人ハ其妻ノ負債ニ自別居ノ前
後ニ拘ハラス九テ夫ニ損害ヲ及ホス間敷旨ヲ
登記シタルモノハ乃ケテ正証ニシテ必ス遵守ス
可キ証書トス此レ上等裁廳ニ於テ漸然決定シ
公義裁廳ニ於テ亦此ノ如ク決定ス
然レ氏夫婦後日別居セントノ趣意ヲ以テ記シ
タル証書ニテ更ニ一決ノ趣意ナリ即時ニ相別

別居後夫責
任論

ル可キ為ノノ証書ニ非サルハ其書虚無ニ歸
セラルコトヲ得ス又婚姻前預メ後事ヲ慮リ他日
若シ夫婦別居スルハ夫ヨリ妻ニ若干ノ手当
ヲ為ス可レトノ約定ハ虚無トナルナリ又一且
別居シテ後夫婦再レ同居セシカ為メニ書面ヲ
以テ約定ヲ取結ヒ且ツ若シ後日已ムコトヲ得ス
再別スルハ夫ノ取ル可キ入金ヲ妻ノ所有ト
為ス可キ趣ヲ相約シ而メ妻ノ負債ニ付テハ妻
ノ母之ヲ別受ケ夫ニ損害ヲ及ホス間敷趣ニテ
取結ヒタル約定ニ至テハ果シテ正証ト認ム可
キ歟世事ホ夕決セサル所トス
雖令ヒ夫婦証書ヲ以テ別居レ而メ妻ハ別ニ生
計ヲ營ミ居ルト虫氏其身一己ニテハ独婦トシ

テ約定ヲ取結フコト能ハサルナリ然レ氏夫婦別
居シテ夫ノ分位ニ応シ夫ヨリ妻ノ為メニ十分ノ
手当ヲ給シ置クハ雖令ヒ高賈右資給ノコトヲ
知ラスレテ其妻ニ必需品ヲ賣与スルト虫氏夫
ノ責任ニ歸セラルコトナレ雖令ヒ別居ニ付証
書ヲ取替セタルニ非ス且ツ資金ノコトニ付キ夫
婦ノ間ニ書約ナレト虫氏此處ヲ以テ高賈ヨリ
夫ヲシテ必需品ノ責任ヲ受レムルコト能ハサル
ナリ又夫婦暫時別居シテ夫我カ不在中妻児等
ノ為メ十分必需品ノ手当ヲ為シ置キタルニ高
賈其情ヲ知り或ハ妻ノ自奉過分ニシテ夫ノ分
位不相当ノコトヲ知リナカラ其妻ニ物品ヲ賣与
スルハ夫ノ責任ニ歸スルコトナレ

凡ソ此等ノ契約ニ於テ夫ノ責任ニ成ルト否ト
ハ唯夫ヨリ其妻ニ結約ノ權ヲ與ヘタルト否ト
ニ因テ決定ス夫レ別居中夫其妻ノ約定ニ付テ
責任ヲ受サル所以ノモハ第一夫婦同居中ハ
妻ノ約定ニ付キ夫ヨリ之ヲ取結フ可キ點ヲ
リト云氏既ニ別居スルハ此點許ヲ以テ彌ス
ルコト能ハズ第二夫婦別居中夫ヨリ妻ノ生計ノ
為メトシテ十分手當ヲ給シ置クハ別ニ夫ノ
名ヲ以テ物品購求ノ約定ヲ取結フ權ヲ具フル
ニ非ス故ニ妻ハ其夫ノ代人トナリ夫ノ名ヲ荷
フノ權利ナキヲ以テ夫ハ其責任ヲ受ルコトナレ
是故ニ夫婦別居中商人其妻ニ物品ヲ賣与スル
ハ妻レリ事情ヲ糾サハルコト得ス若レ探査

ヲ遂スレテ唯妻ノミヲ信シテ物品ヲ賣与スル
ハ損失アルモ商人ノ自損自失タラサルコトヲ
得又嫁婦其夫ト別居中取結ヒタル約定ニ自
々夫ラシテ責任ヲ負ハレシメントスルニハ唯夫
婦別レ居ルノミニテハ以テ夫ノ責任ト為スル
足ラサルナリ故ニ原告ニ於テハ必ス夫婦別居
スルモ既ニ夫ヨリ其妻ニ結約ノ權ヲ与ヘアル
コト証抑ラ示サハル可カラズ蓋シ其証抑トハ必
ス夫ヨリ妻ヲ放逐セシト欲或ハ夫婦相談ノ上
別居セルト欲ノ趣ヲ証明スルコトヲ謂フナリ
然レ氏夫婦別居中商人ヨリ其妻ニ必用品ヲ賣
与セル契約ニ於テ右ノ如キ証抑ヲ出スハ夫
ヨリモ亦妻ニ相當ノ手當金ヲ約束連リ資給シ

民法
第...
第...

置タル趣ヲ証明セサル可カラズ然ラサレハ夫
責任ヲ免カレ、コ能ハサルナリ又妻其夫ヨリ
手当ヲ受テ別ニ生計ヲ営ムコトハ唯夫婦間ノ証
書ノミヲ以テ決定スルト虽氏別ニ婦ノ受托人
双方ノ間ニ加ハリテ取結ヒタル証書ニ非ナレ
ハ其証書虚無ニ属シ遂ニ復タ夫ノ責任トナラ
サルコトヲ得ス又夫婦別居中夫ヨリ妻へ永続ノ
手当トシテ其ノ貨物ヲ譲リ即チ之ヲ証書ニ記
シテ其品ヲ受托人ニ委託スルハ後日夫其妻
ニ必需品ヲ賣与シタル訂証ヲ受ルニ付キ必ス
受托人件ノ貨物ヲ受取テ証書ノ通り取行ヒタ
ル趣ヲ夫ヨリ証明セサル可カラズ
又夫婦別居後妻ヨリ其夫ヲ訴へ僧侶ノ裁廳ニ

於テ夫婦假離婚ノ決ヲ取リ夫ヨリ離婚後ノ
資金ヲ贈ル可キ裁判ヲ經ルト虽氏後チ夫ヨ
リ其金子ヲ給セサルハ輒チ夫名ヲ以テ妻
必需品ヲ注文スルノ黙許蘊生シ而シテ離婚後
其婦ニ必需品ヲ賣与シタル商人ハ先夫ニ対
シテ詞訟ヲ起スコトヲ得ルナリ又夫婦相談ノ
上別居シ而シテ妻ノ生計ニ付テハ一ノ取極モ
ナク其後妻ヨリ之ヲ裁廳ニ訴へ夫ニ対シテ
詞訟ヲ起シ離婚ヲ請ヒ事未タ落着ニ成ラサ
ル間夫裁廳ノ命ニ因テ妻ノ資金トシテ一箇
年ニ四百磅ツ、ヲ拂居タリ然ルニ落着ノ後
ニ至テハ夫ヨリ減シテ一箇年ニ三百磅ヲ拂
ヒタリ然ルニ其後妻ニ必需品ヲ賣与シタル

商賈アリテ其先夫ニ対シ詞訟ヲ起シタルニ
此時陪審其先夫ヨリ婦ニ送附ス可キ資金ハ
夫ノ分位ニ相当ナル歟否ヤヲ糾問シ而メ若
シ不相当ナルキハ則チ先夫タルモノ責任ヲ
免カレサルトニ決定セリ又其後ノ詞訟ニ於
テ必需品ノ為メ妻ヨリ夫ヲ訴ヘ妻其夫ヨリ
離縁後ノ資金ヲ取ル可キ裁許ヲ得タリ然ル
ニ其後夫ヨリ此事ヲ上裁廳ヘ上告シタルニ
夫最初ヨリ引續テ資金ヲ拂ヒ居タルヲ以テ乃
チ裁廳断レテ云ク若シ夫最初ヨリ資金ヲ拂ハ
サルキハ則チ改メテ新裁ヲ為ス可シト虽氏夫
ヨリ資金ヲ滞リタルニ非サレハ妻ヨリ夫ニ対
シテ必需品代價ノ詞訟ヲ起スノ謂レアル可キ

ラス且又資金ハ元来私ヲ以テ死行フ金子ト認
ム可カラズ是ヲ以テ縱令ヒ其金高ハ夫ノ分位
ニ執テ過不足ヲ論ス可カラズ夫ヨリ引續キテ
資金ヲ払ヒ居タル間ハ其妻ニ賣与レタル必用
品ニ付キ夫ノ責任ト為ス可カラサルトニ決定
セリ
夫ノ不義残酷ノ所為ニ因テ妻之ヲ裁廳ヘ訴ヘ
事未タ落着セス且ツ妻資金ヲ取ル可キ裁許ヲ
經サルニ其妻ニ賣与レタル必用品ニ付テハ夫
ノ責任トナラサルトヲ渴ス而メ縱令ヒ其後ノ
裁許ニ目ヲ商人其妻ニ必需品賣与ノ前日ヨリ
資金ヲ払フ可キトニ定マルト虽氏以廉ヲ以テ
夫資金決定前ノ責任ヲ免カル、ト能ハス

妻に金有る時
夫責任論

又夫其妻ニ十分ノ手当ヲ給ス可キコトヲ取極テ
約ノ如ク金高ヲ払フコトニ拘ラス猶ホ其妻ノ負
債ヲ償フ可キコトヲ約定スルハ則チ夫其負債
ノ責任ヲ受テ妻ノ約定ヲ承諾シタルコトニ決定
ス然レ氏若シ夫後約ヲ以テ妻ノ負債ヲ払フコ
トニ甘キ約事未定ニ属スルハ原告其夫ヲ訴フ
ルニ当リテ約事ノ情実ヲ詳カニ証明セサル可
カラス
夫婦別居中縱令ヒ夫ヨリ其妻ニ資給セストモ
氏妻既ニ自己ノ蓄財アルハ則チ夫其妻ニ賣
与セシメタル必需品ノ責任ヲ受ルコトアレバ
氏國王ノ親慮ヲ以テ其妻ニ賜ハル扶助金アリ
トモ氏散チ夫此處ニ依テ責任ヲ免カルコト能

妻ヲ放逐スル時
夫責任論

ハス
凡ソ夫不正ニ其妻ヲ放逐スルハ法ニ於テ夫
其妻ノ給養ニ付テ責任ヲ免カルコト能ハス而
ソ夫ヨリ其妻ヲ信ス可カラサルコトヲ新聞紙ニ
テ公布シ或ハ人毎ニ世趨ヲ通告スル氏別居中
他人ヨリ夫ノ地位ニ應レテ妻ニ賣与シタル必
用品ニ付テハ責任ヲ免カルコト能ハサルナリ
世ノ如キ事件ニ於テハ妻亦夕暗ニ其夫ノ名ヲ
以テ必需品調達ノ許可ヲ脱セズ必竟夫ハ其身
ニ悪行アルヲ以テ妻ニ聽ルレタル魚鱗ノ名目
ヲ取戻スコト能ハサルナリ
又夫自ラ我カ妻ヲ非道ニ遇待シ其妻後事ノ恐
レアルヲ以テ自ラ夫家ヲ逃脱スルニ至ル殘虐

所為ヲ受ルハ夫ヨリ妻ヲ放逐スルト曰理
ヲ以テ論定ス故ニ夫其妻ノ必需品ニ付テ均レ
ク責任ヲ受ルナリ是レ一定ノ規則トス而テ
如キ時夫ヨリ其妻ニ復歸ノ旨ヲ言送リタル
廉アリト雖氏別居中他人ヨリ妻ニ賣与シタル
必需品ニ付テハ夫此廉ニ因テ其責任ヲ免カレ
、ト能ハサルナリ然レ氏妻一遍ノ争論等ニテ
夫家ヲ私出スルハ人其妻ニ賣与シタル必用
品ニ付テ夫ノ責任ニ歸スルコトレ但レ妻家出
ノ後夫其妻ノ居処ヲ知リナクテ再々歸來ス可
キ旨ヲ言送ラサルコト判然タルハ夫其妻ノ必
用品ニ付テ責任ヲ免カレ、ト能ハス
曾テ「エ」レシ「ボ」ロ「氏」ノ裁決ニ若シ夫タル者

他ヨリ妻ヲ伴々来リテ我カ妾トナレハ妻ヲレ
テ夫家ニ在ルヲ得セシメサルニ至リ妻逐ニ轉
居レテ夫家ヲ去ルハ別居中夫ヨリ必ス妻ニ
必需品ヲ資給ス可キコト決レタリ是レ明斷ノ
裁許ニシテ「ハ」ウ「リ」ス「ト」ニ「ス」ニ「ツ」
新ノ時裁官ニスト氏并ニ裁官ハルコト氏モ以テ
ニ日意セリ然ルニ「ボ」ル「ウ」ド「ヘ」ツ「ア」ル「西」氏ノ
勾証ニ於テハ以テ説ニ及レテ裁許セリ是ヲ以テ
法律ニ通ハサルヲ論スルモノ亦數ナカラズ故
ニ夫不正ニ其妻ヲ去テ給助ナク、ルキハ他人
ヨリ其妻兒ニ賣与シタル必需品ニ付テ終ニ夫
ノ責任トナラサルコトヲ得ス
又若シ夫我カ妻ヲ戸外ニ放逐シ而テ其妻保安

ヲ慮リ夫ニ対シテ親睦平和ヲ謀ラシムル為メ裁
廳へ出願ノ事ニ付キ代理人ヲ頼ムハ乃チ妻
ノ依頼セル代理人ニ対シテ夫ノ責任トナラシ
ルコトヲ得ス而シテ代理人其夫費ノコトニ付夫ニ対
シテ訂約ヲ起スハ妻ノ資金ヨリ之ヲ償フ可
キ金子ノ有無ヲ問ハス夫ヨリ其夫費ヲ拂フ可
キコトニ決定ス又妻ニ道理アリテ裁廳へ離縁ノ
事ヲ出願スルニハ夫ノ名目ヲ借リテ代理人ヲ
傭使スルノ權アルコトニ決定セリ又妻其夫ノ同
意ヲ以テ家事不正ノ事ニ付人ヨリ裁廳へ告訴
セラレタル時其妻代理人ヲ頼ミテ其事ヲ辨シ
而シテ夫方ニテ妻代理人ヲ傭使スルコトヲ知ルニ
於テハ夫ヨリ代理人ニ対シテ其夫費ヲ拂フ可

キコトニ決定セリ然レモ爰ニ夫婦アリ妻其夫ノ
惡遇ヲ受ケ難儀ヲ被ムルヲ以テ夫ノ已レテ政
撃幽閉スル所為ヲ裁廳へ訴ヘシカ為メ代言
人ヲ傭使セリ然ルニ代理人ヲシテ此事ヲ遂シ
メシカ為メ人アリテ代理人ニ若干ノ金子ヲ貸
与スルトモ夫ニ対シテ其妻必用ノ為メ貸附
シタル金子トシテ其人夫ヨリ之ヲ回復スルコ
ト能ハス蓋シ此ノ如キ金子ハ妻ノ為メ必用ニ似
タリトモ實ハ夫ヲ責罰スル為メニ用達タル
金子タルヲ以テナリ又夫婦別居ノ為メ取替セ
ル証書ヲ得ルニ付妻ノ受託人ノ失費ニ就テハ夫
ノ責任ニ歸スルコトナリ

第三此ヨリ妻ノ不品行ヨリ別居中妻ノ取結ヒ

妻不義通ノ罪
アル時夫責任ヲ受
サルノ論

タル約定ニ付キ夫ノ責任ト成ル可キ事ヲ論ス
ル₁左ノ如シ
妻不義通ノ罪ヲ犯シテ自ラ夫家ヲ私走レ或ハ之
カ為メ夫ヨリ放逐ヲ受ケ或ハ夫ヨリ苛酷ノ過
待ヲ受テ止ム₁ヲ得ス夫家ヲ出走シタル後又
不義通ノ罪ヲ犯シ而メ夫其妻ヲ再ヒ納ル、₁ヲ
肯シセサルハ仮令ヒ夫ヨリ新聞紙等ヲ以テ
其妻ヲ信ス可カラサル₁ヲ商人一般ニ布告セ
ス亦人毎ニ之ヲ通知スル₁ヲ且ツ夫モ亦等
シク不義通ノ罪ヲ犯シテ遂ニ其妻ヲ放逐シ妻ヨ
リ再ヒ歸來ヲ欲シタル事情アリト虽モ其別居
中他人ヨリ妻ニ賣与シタル物品ニ付テハ真ノ
必需品タルモ夫其責任ヲ受ル₁ヲ而メ若シ

商人某ノ妻不義通ノ罪ニ因リテ放逐セラレタル
₁ヲ知ルト虽モ更ニ姦通ノ証拠ナキハ商人
物品ヲ妻ニ資給シ其品實ニ妻ノ為メニ必用ノ
証拠アル分ノミ夫ノ責任ニ歸ス可キナリ
然レモ夫ヨリ妻ニ年給ヲ与フ可キ₁ヲ妻ノ受
托人ト約定シ証書ヲ以テ互ヒニ別居スル後其
妻不義通スルハ仮令ヒ裁廳ノ申渡ニテ不義通ノ
罪状判然タリト虽モ此處ヲ以テ夫ヨリ既ニ取
極タル年給ノ残余ヲ償ハサル詞訟ヲ言防クニ
足ラサルナリ
又被告ノ妻不義通ノ罪アルヲ以テ被告之ヲ
忌避シ妻子ヲ家ニ棄置キ且ツ自家ノ名跡ヲ存
シ置テ自ラ他所ニ別居シ其別居中妻子ノ手當

ヲ為サス然ルニ妻依然トシテ猶ホ夫家ニ在ル
時他人ヨリ其妻ニ必需品ヲ賣与スルハ夫ハ
唯其家ニテ賣与シタル物品ノミノ責任ヲ受ク
可キ一ニ決定ス蓋レ此ノ如キ事情ニ於テハ其
妻ニ必需品ヲ賣与スル者容易ク其夫婦ノ間ヲ
察レ別居ノ情ヲ知ル可キ謂レナキヲ以テナリ
然レモ裁官「アイル氏」ノ説ニ若シ被告此ノ如キ
事ニ付キ商人ヨリ詞訟ヲ受ル時商人既ニ妻ノ
様子承知ノ事判然タルハ被告ニ於テ亦詞訟
ヲ言防ク一ヲ得可キナリ裁官「ブルラ氏」ハ此
事本理ニ適ハサルヲ以テ論シタリ
又「アンバ」「スコツ」ト兩氏ノ有名ナル詞訟ニ於
テ八名ノ裁官他ノ裁官三名ノ説ヲ駁シテ左ノ

如ク裁決セリ即チ妻若シ其夫ノ同意トサルニ
道ナク夫ノ家ヲ去テ久シク歸ラズ故ニ夫ヨリ
其妻ノ言ヲ信レテ物品等ヲ賣与ス可カラサル
一ヲ礙ト商人ヲ注意シタル後猶ホ商人其妻ニ
物品ヲ賣与スルハ彼令ヒ夫ヨリ妻生計ノ手
當ヲ給セス亦其妻ニ不義其通ノ罪ナレトモ
此ノ如キ賣与ノ物品ニ付テハ夫ノ責任ニ歸ス
ル一ナレ其品彼令ヒ必需品タリモ亦此ノ如ク
決定ス
又「レ」モ「ンド」氏ノ説ニ若シ妻其夫家ヲ私走ス
ルハ彼令ヒ其妻密夫ト私走シタルニ非ルモ
亦不義其通ノ事ニ非スレテ逃走シタルモ其妻
ヲ信レテ物品等ヲ賣与スル商人ハ得失已レニ

歸レテ夫ノ責任ト為ス可カラサルナリ
然レモ妻私走後歸來レテ其夫罪ヲ放ルレ再ヒ
納レテ親睦スルキハ夫其後テ妻ノ取結ヒタル
納定ノ責任ヲ免カル、一能ハス是レ更ニ出走
前ニ異ナルトナレ
又妻罪状アリテ一旦禁獄ノ刑ヲ言渡サレタル
時若レ妻獄吏ノ奸謀ニ因テ不當ノ場ニ置レタ
ル後妻約定ヲ取結フキハ仮令ヒ妻ノ必用品ト
虽モ夫ノ責任ニ歸スルトナレ
然レモ「マンバ」「スコット」兩氏ノ詞訟ニ於テ裁
官原告ヲ助クル説ヲ建テ若レ妻重罪ヲ犯レテ
囚人トナル時獄吏之ニ飲食ヲ給スルニ至テハ
夫其責任ヲ免カレサル一ツ以テ明律ト定メタ

一般規則

三 連縁中妻ト取結ヒタル約定ニ付其妻
ツ獨婦ト考定スルノ論

凡テ嫁婦ハ夫ト同居中取結ヒタル約定ニ付仮
令ヒ夫ト共ニテモ又ハ其身一人ニテモ人ツ詞
訟スル權利モナク亦人ニ詞訟ヲ起サル、能カ
モナレトス蓋シ正理ヲ攷ルニ妻ハ妻トテ別ニ
一体アルニ非ス法律定制ニ於テハ實ニ夫婦ヲ
以テ兩身一体ト做スナリ而シテ仮令ヒ妻不義或
通ノ罪アリテ遂ニ夫ト別居スルモ妻ノ諸權諸
物ハ皆夫ノ手中ニ在ルヲ以テ妻ノ諸約定等ヲ
遂ク可キ方畧ハ元來妻ノ身ニ備フルニ非ルナ
リ妻結約ノ能カナレトハ則チ此道理ニ因テ然

ルナリ夫婦同居中ハ妻其夫ノ管轄中ニ在ルヲ
以テ自ラ諸事ヲ可否許諾スルヲ能ハサルノ説
ニ由テ然ルニ非ルナリ

現今確定ノ説ニ從ヘハ夫婦證書ヲ取替ヒテ互
ヒニ別居シ夫ヨリ妻ニ別居ノ手當ヲ給シ唯更
ニ別レテ活計ヲ管マレムルノミニテハ夫婦ノ
縁未タ解ケタルト謂フ可カラス故ニ右別居中
タリニ其妻獨身ノ女ノ如ク人ト妾リニ約定ヲ
取結フヲ能ハス是ヲ以テ夫婦ノ縁猶ホ存在シ
後令ヒ夫ハ妻ノ負債ニ付責任ヲ受スト虽モ法
律ニ於テ其妻ハ必用品タルモ亦人ト約定ヲ取
結フヲ能ハス亦約定ニ付キ人ト訴ヘ人ニ訟ヘ
ラル、一ナレ而シテ妻ヲ信シテ約定ヲ取結フモ
ハ唯妻ノ面目ヲ重シレテ取結フヲ得ルノ

故ニ嫁婦ハ後令ヒ不義其通ノ事ニ付キ夫ト別
レテ假離縁ル夫假寢食ヲ共ニセサト成リ而シテ其
婦假リニ名ヲ設テ別居中他人ト約定ヲ取結フ
ト虽モ獨婦トシテ詞訟ヲ受ルヲナレ
然レモ他ノ諸規則ニ於ル如ク此規則ニ於テモ
亦自ラ規則外ニ出ルモノアリ即チ一般ノ規則
ニ於テハ假離縁ノ故ヲ以テ妻ノ約定ニ付キ夫
ヲ訴フルヲ得ス其離縁未タ全シカラサルヲ
以テ妻ヲ獨身ト認ルヲ能ハス然レハ則チ妻困
窮ノ場ニ至ルニ約定ヲ結フヲ能ハサルヲ以テ
自然飢渴ニ及フノ悲ミアル可ク又妻ニ物品ヲ

賣与スル人ハ其償ヲ討ムルヲ能ハサルノ歎キ
アラサルヲ得ス故ニ亦婦ヲ助ケ債主ヲ惠ミ
事情ニ因リ形况ニ從テ以テ決定スルノ法ナカ
ル可カラサルナリ

故ニ若シ夫罪状アリテ有期或ハ終身ノ流刑ニ

處セラル、カ如ク法ニ於テ其夫死体ニ属シ更

ニ夫タルノ正格ヲ失ヒタルモノト做ス由ハ其

妻一已ニテ人ト約定ヲ取結フヲ得而シテ獨リ

自ラ責任ヲ受ケテ其約定ニ付キ人ヲ訴へ人ニ

訟ヘラル、一ヲ得ルナリ又夫流刑ヲ受テ此國

ニ駐リ例ヘハ船獄中ニ繋カル、ト虽モ處刑中

ハ其妻ヲ獨身トシテ論定ス又其ノ詞訟ニ於テ

夫七年間ノ流刑ニ處セラレ而シテ滿期後モ猶ホ

他國ニ在テ此國ニ歸來セス然ルニ其妻ノ取結

ヒタル約定ニ付キ原告ヨリ其妻ヲ獨身トシテ

訴ヘタル時裁官アルウアント氏断レテ云ツ今

日ノ事件ニ就テ夫ノ流刑言渡レノ書類ヲ觀ル

ニ夫ハ先ツ此國ニナキ者ト做スヲ以テ原告ヨ

リ妻ヲ獨身トシテ詞訟ヲ起スノ權利アリ蓋シ

夫滿期後猶ホ他國ニ在テ此國ヲ省ミサルニ至

テハ既ニ原告ヨリ獨身トシテ詞訟ヲ起スノ理

アリトス然レモ被告ニ於テ夫ノ歸來ヲ以テ原

告ヨリ獨身トシテ訴ヘテ受クルノ謂レナキヲ

主張セント欲セハ則チ其証拠ヲ出ス可キトニ

決定セリ然レモ唯夫ノ勝手ニテ此國ニ歸ラサ

ルノミニテ未タ其人本國ヲ見捨テタルモノト

做サス故ニ此ノ如キハ妻ヲ獨身ト取ル可キ歟
此説未ダ正理ヲ得ルモノト謂フ可カラズ
又仮令ヒ夫ハ此國ニ對シテ外敵トナルニ其妻
婚姻ノ前後ニ拘ラス人ト取結ヒタル約定ニ付
キ其身獨リ詞訟ヲ起スル能ハス
然レモ夫若シ外敵トナリ而シテ其妻此國ニ駐リ
テ負債ノ約ヲ結フハ債主其妻ヲ獨身トシテ
訴フルト得ルナリ然レモ其夫唯外國人ニテ
長ク國外ニ在駐スルノミニテハ法律ニ於テ其
妻ヲ獨身トシテ責任ヲ受レハルナレ而シテ妻
自ラ獨身トシテ原告ニホレ原告モ亦真ニ獨身
ト信レテ共ニ結約スル約定ノ如キハ妻獨リ責
任ヲ受ク可キヤ未ダ決セサル所トス外國人一

且此國ニ住居シテ一時他國ニ出ルモノハ再來
ス可カラサル證據アルニ非レハ復タ此國ニ歸
ル可キモノ考定ス故ニ「¹」²」³」⁴」⁵」⁶」⁷」⁸」⁹」¹⁰」¹¹」¹²」¹³」¹⁴」¹⁵」¹⁶」¹⁷」¹⁸」¹⁹」²⁰」²¹」²²」²³」²⁴」²⁵」²⁶」²⁷」²⁸」²⁹」³⁰」³¹」³²」³³」³⁴」³⁵」³⁶」³⁷」³⁸」³⁹」⁴⁰」⁴¹」⁴²」⁴³」⁴⁴」⁴⁵」⁴⁶」⁴⁷」⁴⁸」⁴⁹」⁵⁰」⁵¹」⁵²」⁵³」⁵⁴」⁵⁵」⁵⁶」⁵⁷」⁵⁸」⁵⁹」⁶⁰」⁶¹」⁶²」⁶³」⁶⁴」⁶⁵」⁶⁶」⁶⁷」⁶⁸」⁶⁹」⁷⁰」⁷¹」⁷²」⁷³」⁷⁴」⁷⁵」⁷⁶」⁷⁷」⁷⁸」⁷⁹」⁸⁰」⁸¹」⁸²」⁸³」⁸⁴」⁸⁵」⁸⁶」⁸⁷」⁸⁸」⁸⁹」⁹⁰」⁹¹」⁹²」⁹³」⁹⁴」⁹⁵」⁹⁶」⁹⁷」⁹⁸」⁹⁹」¹⁰⁰」¹⁰¹」¹⁰²」¹⁰³」¹⁰⁴」¹⁰⁵」¹⁰⁶」¹⁰⁷」¹⁰⁸」¹⁰⁹」¹¹⁰」¹¹¹」¹¹²」¹¹³」¹¹⁴」¹¹⁵」¹¹⁶」¹¹⁷」¹¹⁸」¹¹⁹」¹²⁰」¹²¹」¹²²」¹²³」¹²⁴」¹²⁵」¹²⁶」¹²⁷」¹²⁸」¹²⁹」¹³⁰」¹³¹」¹³²」¹³³」¹³⁴」¹³⁵」¹³⁶」¹³⁷」¹³⁸」¹³⁹」¹⁴⁰」¹⁴¹」¹⁴²」¹⁴³」¹⁴⁴」¹⁴⁵」¹⁴⁶」¹⁴⁷」¹⁴⁸」¹⁴⁹」¹⁵⁰」¹⁵¹」¹⁵²」¹⁵³」¹⁵⁴」¹⁵⁵」¹⁵⁶」¹⁵⁷」¹⁵⁸」¹⁵⁹」¹⁶⁰」¹⁶¹」¹⁶²」¹⁶³」¹⁶⁴」¹⁶⁵」¹⁶⁶」¹⁶⁷」¹⁶⁸」¹⁶⁹」¹⁷⁰」¹⁷¹」¹⁷²」¹⁷³」¹⁷⁴」¹⁷⁵」¹⁷⁶」¹⁷⁷」¹⁷⁸」¹⁷⁹」¹⁸⁰」¹⁸¹」¹⁸²」¹⁸³」¹⁸⁴」¹⁸⁵」¹⁸⁶」¹⁸⁷」¹⁸⁸」¹⁸⁹」¹⁹⁰」¹⁹¹」¹⁹²」¹⁹³」¹⁹⁴」¹⁹⁵」¹⁹⁶」¹⁹⁷」¹⁹⁸」¹⁹⁹」²⁰⁰」²⁰¹」²⁰²」²⁰³」²⁰⁴」²⁰⁵」²⁰⁶」²⁰⁷」²⁰⁸」²⁰⁹」²¹⁰」²¹¹」²¹²」²¹³」²¹⁴」²¹⁵」²¹⁶」²¹⁷」²¹⁸」²¹⁹」²²⁰」²²¹」²²²」²²³」²²⁴」²²⁵」²²⁶」²²⁷」²²⁸」²²⁹」²³⁰」²³¹」²³²」²³³」²³⁴」²³⁵」²³⁶」²³⁷」²³⁸」²³⁹」²⁴⁰」²⁴¹」²⁴²」²⁴³」²⁴⁴」²⁴⁵」²⁴⁶」²⁴⁷」²⁴⁸」²⁴⁹」²⁵⁰」²⁵¹」²⁵²」²⁵³」²⁵⁴」²⁵⁵」²⁵⁶」²⁵⁷」²⁵⁸」²⁵⁹」²⁶⁰」²⁶¹」²⁶²」²⁶³」²⁶⁴」²⁶⁵」²⁶⁶」²⁶⁷」²⁶⁸」²⁶⁹」²⁷⁰」²⁷¹」²⁷²」²⁷³」²⁷⁴」²⁷⁵」²⁷⁶」²⁷⁷」²⁷⁸」²⁷⁹」²⁸⁰」²⁸¹」²⁸²」²⁸³」²⁸⁴」²⁸⁵」²⁸⁶」²⁸⁷」²⁸⁸」²⁸⁹」²⁹⁰」²⁹¹」²⁹²」²⁹³」²⁹⁴」²⁹⁵」²⁹⁶」²⁹⁷」²⁹⁸」²⁹⁹」³⁰⁰」³⁰¹」³⁰²」³⁰³」³⁰⁴」³⁰⁵」³⁰⁶」³⁰⁷」³⁰⁸」³⁰⁹」³¹⁰」³¹¹」³¹²」³¹³」³¹⁴」³¹⁵」³¹⁶」³¹⁷」³¹⁸」³¹⁹」³²⁰」³²¹」³²²」³²³」³²⁴」³²⁵」³²⁶」³²⁷」³²⁸」³²⁹」³³⁰」³³¹」³³²」³³³」³³⁴」³³⁵」³³⁶」³³⁷」³³⁸」³³⁹」³⁴⁰」³⁴¹」³⁴²」³⁴³」³⁴⁴」³⁴⁵」³⁴⁶」³⁴⁷」³⁴⁸」³⁴⁹」³⁵⁰」³⁵¹」³⁵²」³⁵³」³⁵⁴」³⁵⁵」³⁵⁶」³⁵⁷」³⁵⁸」³⁵⁹」³⁶⁰」³⁶¹」³⁶²」³⁶³」³⁶⁴」³⁶⁵」³⁶⁶」³⁶⁷」³⁶⁸」³⁶⁹」³⁷⁰」³⁷¹」³⁷²」³⁷³」³⁷⁴」³⁷⁵」³⁷⁶」³⁷⁷」³⁷⁸」³⁷⁹」³⁸⁰」³⁸¹」³⁸²」³⁸³」³⁸⁴」³⁸⁵」³⁸⁶」³⁸⁷」³⁸⁸」³⁸⁹」³⁹⁰」³⁹¹」³⁹²」³⁹³」³⁹⁴」³⁹⁵」³⁹⁶」³⁹⁷」³⁹⁸」³⁹⁹」⁴⁰⁰」⁴⁰¹」⁴⁰²」⁴⁰³」⁴⁰⁴」⁴⁰⁵」⁴⁰⁶」⁴⁰⁷」⁴⁰⁸」⁴⁰⁹」⁴¹⁰」⁴¹¹」⁴¹²」⁴¹³」⁴¹⁴」⁴¹⁵」⁴¹⁶」⁴¹⁷」⁴¹⁸」⁴¹⁹」⁴²⁰」⁴²¹」⁴²²」⁴²³」⁴²⁴」⁴²⁵」⁴²⁶」⁴²⁷」⁴²⁸」⁴²⁹」⁴³⁰」⁴³¹」⁴³²」⁴³³」⁴³⁴」⁴³⁵」⁴³⁶」⁴³⁷」⁴³⁸」⁴³⁹」⁴⁴⁰」⁴⁴¹」⁴⁴²」⁴⁴³」⁴⁴⁴」⁴⁴⁵」⁴⁴⁶」⁴⁴⁷」⁴⁴⁸」⁴⁴⁹」⁴⁵⁰」⁴⁵¹」⁴⁵²」⁴⁵³」⁴⁵⁴」⁴⁵⁵」⁴⁵⁶」⁴⁵⁷」⁴⁵⁸」⁴⁵⁹」⁴⁶⁰」⁴⁶¹」⁴⁶²」⁴⁶³」⁴⁶⁴」⁴⁶⁵」⁴⁶⁶」⁴⁶⁷」⁴⁶⁸」⁴⁶⁹」⁴⁷⁰」⁴⁷¹」⁴⁷²」⁴⁷³」⁴⁷⁴」⁴⁷⁵」⁴⁷⁶」⁴⁷⁷」⁴⁷⁸」⁴⁷⁹」⁴⁸⁰」⁴⁸¹」⁴⁸²」⁴⁸³」⁴⁸⁴」⁴⁸⁵」⁴⁸⁶」⁴⁸⁷」⁴⁸⁸」⁴⁸⁹」⁴⁹⁰」⁴⁹¹」⁴⁹²」⁴⁹³」⁴⁹⁴」⁴⁹⁵」⁴⁹⁶」⁴⁹⁷」⁴⁹⁸」⁴⁹⁹」⁵⁰⁰」⁵⁰¹」⁵⁰²」⁵⁰³」⁵⁰⁴」⁵⁰⁵」⁵⁰⁶」⁵⁰⁷」⁵⁰⁸」⁵⁰⁹」⁵¹⁰」⁵¹¹」⁵¹²」⁵¹³」⁵¹⁴」⁵¹⁵」⁵¹⁶」⁵¹⁷」⁵¹⁸」⁵¹⁹」⁵²⁰」⁵²¹」⁵²²」⁵²³」⁵²⁴」⁵²⁵」⁵²⁶」⁵²⁷」⁵²⁸」⁵²⁹」⁵³⁰」⁵³¹」⁵³²」⁵³³」⁵³⁴」⁵³⁵」⁵³⁶」⁵³⁷」⁵³⁸」⁵³⁹」⁵⁴⁰」⁵⁴¹」⁵⁴²」⁵⁴³」⁵⁴⁴」⁵⁴⁵」⁵⁴⁶」⁵⁴⁷」⁵⁴⁸」⁵⁴⁹」⁵⁵⁰」⁵⁵¹」⁵⁵²」⁵⁵³」⁵⁵⁴」⁵⁵⁵」⁵⁵⁶」⁵⁵⁷」⁵⁵⁸」⁵⁵⁹」⁵⁶⁰」⁵⁶¹」⁵⁶²」⁵⁶³」⁵⁶⁴」⁵⁶⁵」⁵⁶⁶」⁵⁶⁷」⁵⁶⁸」⁵⁶⁹」⁵⁷⁰」⁵⁷¹」⁵⁷²」⁵⁷³」⁵⁷⁴」⁵⁷⁵」⁵⁷⁶」⁵⁷⁷」⁵⁷⁸」⁵⁷⁹」⁵⁸⁰」⁵⁸¹」⁵⁸²」⁵⁸³」⁵⁸⁴」⁵⁸⁵」⁵⁸⁶」⁵⁸⁷」⁵⁸⁸」⁵⁸⁹」⁵⁹⁰」⁵⁹¹」⁵⁹²」⁵⁹³」⁵⁹⁴」⁵⁹⁵」⁵⁹⁶」⁵⁹⁷」⁵⁹⁸」⁵⁹⁹」⁶⁰⁰」⁶⁰¹」⁶⁰²」⁶⁰³」⁶⁰⁴」⁶⁰⁵」⁶⁰⁶」⁶⁰⁷」⁶⁰⁸」⁶⁰⁹」⁶¹⁰」⁶¹¹」⁶¹²」⁶¹³」⁶¹⁴」⁶¹⁵」⁶¹⁶」⁶¹⁷」⁶¹⁸」⁶¹⁹」⁶²⁰」⁶²¹」⁶²²」⁶²³」⁶²⁴」⁶²⁵」⁶²⁶」⁶²⁷」⁶²⁸」⁶²⁹」⁶³⁰」⁶³¹」⁶³²」⁶³³」⁶³⁴」⁶³⁵」⁶³⁶」⁶³⁷」⁶³⁸」⁶³⁹」⁶⁴⁰」⁶⁴¹」⁶⁴²」⁶⁴³」⁶⁴⁴」⁶⁴⁵」⁶⁴⁶」⁶⁴⁷」⁶⁴⁸」⁶⁴⁹」⁶⁵⁰」⁶⁵¹」⁶⁵²」⁶⁵³」⁶⁵⁴」⁶⁵⁵」⁶⁵⁶」⁶⁵⁷」⁶⁵⁸」⁶⁵⁹」⁶⁶⁰」⁶⁶¹」⁶⁶²」⁶⁶³」⁶⁶⁴」⁶⁶⁵」⁶⁶⁶」⁶⁶⁷」⁶⁶⁸」⁶⁶⁹」⁶⁷⁰」⁶⁷¹」⁶⁷²」⁶⁷³」⁶⁷⁴」⁶⁷⁵」⁶⁷⁶」⁶⁷⁷」⁶⁷⁸」⁶⁷⁹」⁶⁸⁰」⁶⁸¹」⁶⁸²」⁶⁸³」⁶⁸⁴」⁶⁸⁵」⁶⁸⁶」⁶⁸⁷」⁶⁸⁸」⁶⁸⁹」⁶⁹⁰」⁶⁹¹」⁶⁹²」⁶⁹³」⁶⁹⁴」⁶⁹⁵」⁶⁹⁶」⁶⁹⁷」⁶⁹⁸」⁶⁹⁹」⁷⁰⁰」⁷⁰¹」⁷⁰²」⁷⁰³」⁷⁰⁴」⁷⁰⁵」⁷⁰⁶」⁷⁰⁷」⁷⁰⁸」⁷⁰⁹」⁷¹⁰」⁷¹¹」⁷¹²」⁷¹³」⁷¹⁴」⁷¹⁵」⁷¹⁶」⁷¹⁷」⁷¹⁸」⁷¹⁹」⁷²⁰」⁷²¹」⁷²²」⁷²³」⁷²⁴」⁷²⁵」⁷²⁶」⁷²⁷」⁷²⁸」⁷²⁹」⁷³⁰」⁷³¹」⁷³²」⁷³³」⁷³⁴」⁷³⁵」⁷³⁶」⁷³⁷」⁷³⁸」⁷³⁹」⁷⁴⁰」⁷⁴¹」⁷⁴²」⁷⁴³」⁷⁴⁴」⁷⁴⁵」⁷⁴⁶」⁷⁴⁷」⁷⁴⁸」⁷⁴⁹」⁷⁵⁰」⁷⁵¹」⁷⁵²」⁷⁵³」⁷⁵⁴」⁷⁵⁵」⁷⁵⁶」⁷⁵⁷」⁷⁵⁸」⁷⁵⁹」⁷⁶⁰」⁷⁶¹」⁷⁶²」⁷⁶³」⁷⁶⁴」⁷⁶⁵」⁷⁶⁶」⁷⁶⁷」⁷⁶⁸」⁷⁶⁹」⁷⁷⁰」⁷⁷¹」⁷⁷²」⁷⁷³」⁷⁷⁴」⁷⁷⁵」⁷⁷⁶」⁷⁷⁷」⁷⁷⁸」⁷⁷⁹」⁷⁸⁰」⁷⁸¹」⁷⁸²」⁷⁸³」⁷⁸⁴」⁷⁸⁵」⁷⁸⁶」⁷⁸⁷」⁷⁸⁸」⁷⁸⁹」⁷⁹⁰」⁷⁹¹」⁷⁹²」⁷⁹³」⁷⁹⁴」⁷⁹⁵」⁷⁹⁶」⁷⁹⁷」⁷⁹⁸」⁷⁹⁹」⁸⁰⁰」⁸⁰¹」⁸⁰²」⁸⁰³」⁸⁰⁴」⁸⁰⁵」⁸⁰⁶」⁸⁰⁷」⁸⁰⁸」⁸⁰⁹」⁸¹⁰」⁸¹¹」⁸¹²」⁸¹³」⁸¹⁴」⁸¹⁵」⁸¹⁶」⁸¹⁷」⁸¹⁸」⁸¹⁹」⁸²⁰」⁸²¹」⁸²²」⁸²³」⁸²⁴」⁸²⁵」⁸²⁶」⁸²⁷」⁸²⁸」⁸²⁹」⁸³⁰」⁸³¹」⁸³²」⁸³³」⁸³⁴」⁸³⁵」⁸³⁶」⁸³⁷」⁸³⁸」⁸³⁹」⁸⁴⁰」⁸⁴¹」⁸⁴²」⁸⁴³」⁸⁴⁴」⁸⁴⁵」⁸⁴⁶」⁸⁴⁷」⁸⁴⁸」⁸⁴⁹」⁸⁵⁰」⁸⁵¹」⁸⁵²」⁸⁵³」⁸⁵⁴」⁸⁵⁵」⁸⁵⁶」⁸⁵⁷」⁸⁵⁸」⁸⁵⁹」⁸⁶⁰」⁸⁶¹」⁸⁶²」⁸⁶³」⁸⁶⁴」⁸⁶⁵」⁸⁶⁶」⁸⁶⁷」⁸⁶⁸」⁸⁶⁹」⁸⁷⁰」⁸⁷¹」⁸⁷²」⁸⁷³」⁸⁷⁴」⁸⁷⁵」⁸⁷⁶」⁸⁷⁷」⁸⁷⁸」⁸⁷⁹」⁸⁸⁰」⁸⁸¹」⁸⁸²」⁸⁸³」⁸⁸⁴」⁸⁸⁵」⁸⁸⁶」⁸⁸⁷」⁸⁸⁸」⁸⁸⁹」⁸⁹⁰」⁸⁹¹」⁸⁹²」⁸⁹³」⁸⁹⁴」⁸⁹⁵」⁸⁹⁶」⁸⁹⁷」⁸⁹⁸」⁸⁹⁹」⁹⁰⁰」⁹⁰¹」⁹⁰²」⁹⁰³」⁹⁰⁴」⁹⁰⁵」⁹⁰⁶」⁹⁰⁷」⁹⁰⁸」⁹⁰⁹」⁹¹⁰」⁹¹¹」⁹¹²」⁹¹³」⁹¹⁴」⁹¹⁵」⁹¹⁶」⁹¹⁷」⁹¹⁸」⁹¹⁹」⁹²⁰」⁹²¹」⁹²²」⁹²³」⁹²⁴」⁹²⁵」⁹²⁶」⁹²⁷」⁹²⁸」⁹²⁹」⁹³⁰」⁹³¹」⁹³²」⁹³³」⁹³⁴」⁹³⁵」⁹³⁶」⁹³⁷」⁹³⁸」⁹³⁹」⁹⁴⁰」⁹⁴¹」⁹⁴²」⁹⁴³」⁹⁴⁴」⁹⁴⁵」⁹⁴⁶」⁹⁴⁷」⁹⁴⁸」⁹⁴⁹」⁹⁵⁰」⁹⁵¹」⁹⁵²」⁹⁵³」⁹⁵⁴」⁹⁵⁵」⁹⁵⁶」⁹⁵⁷」⁹⁵⁸」⁹⁵⁹」⁹⁶⁰」⁹⁶¹」⁹⁶²」⁹⁶³」⁹⁶⁴」⁹⁶⁵」⁹⁶⁶」⁹⁶⁷」⁹⁶⁸」⁹⁶⁹」⁹⁷⁰」⁹⁷¹」⁹⁷²」⁹⁷³」⁹⁷⁴」⁹⁷⁵」⁹⁷⁶」⁹⁷⁷」⁹⁷⁸」⁹⁷⁹」⁹⁸⁰」⁹⁸¹」⁹⁸²」⁹⁸³」⁹⁸⁴」⁹⁸⁵」⁹⁸⁶」⁹⁸⁷」⁹⁸⁸」⁹⁸⁹」⁹⁹⁰」⁹⁹¹」⁹⁹²」⁹⁹³」⁹⁹⁴」⁹⁹⁵」⁹⁹⁶」⁹⁹⁷」⁹⁹⁸」⁹⁹⁹」¹⁰⁰⁰」¹⁰⁰¹」¹⁰⁰²」¹⁰⁰³」¹⁰⁰⁴」¹⁰⁰⁵」¹⁰⁰⁶」¹⁰⁰⁷」¹⁰⁰⁸」¹⁰⁰⁹」¹⁰¹⁰」¹⁰¹¹」¹⁰¹²」¹⁰¹³」¹⁰¹⁴」¹⁰¹⁵」¹⁰¹⁶」¹⁰¹⁷」¹⁰¹⁸」¹⁰¹⁹」¹⁰²⁰」¹⁰²¹」¹⁰²²」¹⁰²³」¹⁰²⁴」¹⁰²⁵」¹⁰²⁶」¹⁰²⁷」¹⁰²⁸」¹⁰²⁹」¹⁰³⁰」¹⁰³¹」¹⁰³²」¹⁰³³」¹⁰³⁴」¹⁰³⁵」¹⁰³⁶」¹⁰³⁷」¹⁰³⁸」¹⁰³⁹」¹⁰⁴⁰」¹⁰⁴¹」¹⁰⁴²」¹⁰⁴³」¹⁰⁴⁴」¹⁰⁴⁵」¹⁰⁴⁶」¹⁰⁴⁷」¹⁰⁴⁸」¹⁰⁴⁹」¹⁰⁵⁰」¹⁰⁵¹」¹⁰⁵²」¹⁰⁵³」¹⁰⁵⁴」¹⁰⁵⁵」¹⁰⁵⁶」¹⁰⁵⁷」¹⁰⁵⁸」¹⁰⁵⁹」¹⁰⁶⁰」¹⁰⁶¹」¹⁰⁶²」¹⁰⁶³」¹⁰⁶⁴」¹⁰⁶⁵」¹⁰⁶⁶」¹⁰⁶⁷」¹⁰⁶⁸」¹⁰⁶⁹」¹⁰⁷⁰」¹⁰⁷¹」¹⁰⁷²」¹⁰⁷³」¹⁰⁷⁴」¹⁰⁷⁵」¹⁰⁷⁶」¹⁰⁷⁷」¹⁰⁷⁸」¹⁰⁷⁹」¹⁰⁸⁰」¹⁰⁸¹」¹⁰⁸²」¹⁰⁸³」¹⁰⁸⁴」¹⁰⁸⁵」¹⁰⁸⁶」¹⁰⁸⁷」¹⁰⁸⁸」¹⁰⁸⁹」¹⁰⁹⁰」¹⁰⁹¹」¹⁰⁹²」¹⁰⁹³」¹⁰⁹⁴」¹⁰⁹⁵」¹⁰⁹⁶」¹⁰⁹⁷」¹⁰⁹⁸」¹⁰⁹⁹」¹¹⁰⁰」¹¹⁰¹」¹¹⁰²」¹¹⁰³」¹¹⁰⁴」¹¹⁰⁵」¹¹⁰⁶」¹¹⁰⁷」¹¹⁰⁸」¹¹⁰⁹」¹¹¹⁰」¹¹¹¹」¹¹¹²」¹¹¹³」¹¹¹⁴」¹¹¹⁵」¹¹¹⁶」¹¹¹⁷」¹¹¹⁸」¹¹¹⁹」¹¹²⁰」¹¹²¹」¹¹²²」¹¹²³」¹¹²⁴」¹¹²⁵」¹¹²⁶」¹¹²⁷」¹¹²⁸」¹¹²⁹」¹¹³⁰」¹¹³¹」¹¹³²」¹¹³³」¹¹³⁴」¹¹³⁵」¹¹³⁶」¹¹³⁷」¹¹³⁸」¹¹³⁹」¹¹⁴⁰」¹¹⁴¹」¹¹⁴²」¹¹⁴³」¹¹⁴⁴」¹¹⁴⁵」¹¹⁴⁶」¹¹⁴⁷」¹¹⁴⁸」¹¹⁴⁹」¹¹⁵⁰」¹¹⁵¹」¹¹⁵²」¹¹⁵³」¹¹⁵⁴」¹¹⁵⁵」¹¹⁵⁶」¹¹⁵⁷」¹¹⁵⁸」¹¹⁵⁹」¹¹⁶⁰」¹¹⁶¹」¹¹⁶²」¹¹⁶³」¹¹⁶⁴」¹¹⁶⁵」¹¹⁶⁶」¹¹⁶⁷」¹¹⁶⁸」¹¹⁶⁹」¹¹⁷⁰」¹¹⁷¹」¹¹⁷²」¹¹⁷³」¹¹⁷⁴」¹¹⁷⁵」¹¹⁷⁶」¹¹⁷⁷」¹¹⁷⁸」¹¹⁷⁹」¹¹⁸⁰」¹¹⁸¹」¹¹⁸²」¹¹⁸³」¹¹⁸⁴」¹¹⁸⁵」¹¹⁸⁶」¹¹⁸⁷」¹¹⁸⁸」¹¹⁸⁹」

倫敦商婦ノ論

以テスルト虽モ其約定ニ付人之ヲ獨身トシテ
訴フルト能ハス妻モ亦獨身トシテ人ヲ訟フル
ト能ハサルナリ又夫分散人トナリ分散ノ處置
ヲ遂スレテ身ヲ隠シタル後其妻ノ取結ヒタル
約定ニ就テハ仮令ヒ夫其後久シク國外ニ在ル
ト虽モ其約定ニ付テ妻詞訟ヲ受ル_{トナレ}然レ
氏夫國外ニ出テ、後七年ヲ歴テ音信ナキハ
既ニ死去ヲ以テ論定ス故ニ其妻自ラ約定ノ責
任ヲ受ク可キモノトス
倫敦ノ習慣ニ於テハ妻其夫ニ拘ラス獨リ商事
ヲ営ムモノアリ此ノ如キ商婦ハ府内ノ商事ニ
付キ府廳ニ出テ人ヲ訴ヘ亦人ニ訟ヘテ_ル、
アリ然レ氏府廳ニ於テモウエストミンストル

本離縁ノ論

裁廳ニ於ル如ク商婦ノ詞訟ニ於テ仮令ヒ其
婦本人ヲリト虽モ猶ホ夫ヲ以テ必ス詞訟ノ相
手ト為サ、ル可カラハ
此ノ如キ商婦ノ死後管理人ハ法律ニ於テ其婦
一已ノ高道ニテ取結ヒタル約定ニ付キ人ヨリ
詞訟ヲ受ル_{トナレ}仮令ヒ管理人負債ヲ償フニ
十分ノ遺産アリト虽モ之ヲ論スル_{トナレ}
凡ソ當然ノ裁權アル裁廳ノ言渡ヲ以テ夫婦ノ
縁全ク断絶スルハ妻ノ不能力忽チ脱シテ昔
時ノ能力ニ復シ未ダ嘗テ婚禮ヲ行ハサル時ノ
如ク約定ニ付テ自ラ責任ヲ受ルナリ
又夫婦同居中ニ妻ノ取結ヒタル約定ニ付キ夫
婦連名レテ詞訟ヲ起ス_{トアリ}故ニ例ヘハ妻ノ

妻其夫ト共ニ詞訟
ヲ為スノ論

司法省

医術ヲ以テ人ノ創ヲ治スルカ如キ事ノ勞力技
術ノ為メニ分明ナル約定アル歟或ハ証書等事
ノ名宛ニテ記シタルモノ歟或ハ証書ノ金子ヲ
事ニ拂フ可キ様記シタルモノ歟或ハ夫婦兩名
ノ宛ヲ以テ記シタルモノ歟此ノ如キ詞訟ニ於
テハ妻其夫ト共ニ詞訟ヲ起ス歟若シクハ夫一
人ニテ詞訟ヲ起スト得ルナリ又總テ詞訟ノ
原因妻ニ歸スルモ夫婦連名シテ其詞訟ヲ起ス
ト得ルナリ又斯ノ如キ事情ニテ夫婦連名ノ
詞訟ヲ起シ既ニ裁許ヲ經テ受取ル可キ金子ア
ルニ若シ拂期限前ニ夫死去スルモハ其妻之ヲ
受取ルト得ルナリ然レモ爰ニ夫婦アリ而シテ
家資ノ權全ク妻ニ歸シ然ルニ夫一己ノ權ヲ以

テ人ニ地面ヲ讓与スルモハ此地代回復ノ詞訟
ニ就キ夫一人ニテ詞訟ス可ク妻之ニ与カルト
ヲ得サルナリ

又嫁婦ハ死後管理人トナルト得ルナリ而シテ
死後管理人トナリタル嫁婦其夫ト同居中夫ノ
名代トナリテ用達タル金子ニ付キ其夫及ヒ「エ
」氏ヨリ証書ヲ取置クモハ其夫ノ死後ニ至リ
妻此証書ヲ以テ前書ノ金子ヲ「エ」氏ヨリ回復
スルト得ルナリ

六 外國人トノ約定

凡ソ外友ハ此國ノ臣民ト國內又ハ國外ニ於テ
約定ヲ取結フト得而シ其人ノ本國ト此國ト
親睦ナル間ハ其約定ニ付キ英國ノ裁廳ニ於テ

外敵トノ約定虛
無ニ歸スル論

同法省

詞訟ヲ為ス₁ヲ得ルナリ然レ₁外敵トノ約定
ハ若シ其人此政府ノ守護ニ因テ此國ニ來ル₁歟
或ハ此國王ノ免許ヲ受テ此國ニ住ム₁歟ニ非サ
レハ約定全ク虛無トナリ法律ニ於テモ公義ニ
於テモ本人又ハ代人ヨリ其約定ヲ遂ル₁能ハ
ス例ヘハ外敵アリテ英國住居ノ被告英商ト為
替証書ヲ取組ミ而シテ外敵其証書ニ書面ノ金子
ヲ敵國住居ノ英人原告ヘ相拂フ可キ旨ヲ稟書
レテ原告ヘ相渡レタリ故ニ原告其証書ヲ以テ
英住ノ被告ヨリ金子ヲ受取ントスレ₁被告之
ヲ渡サス故ニ原告遂ニ詞訟ヲ起シ和睦ヲ待テ
此國ニ來テ被告ヲ訴フルト虽モ元來外敵トノ
約定タルヲ以テ原告書面ノ金子ヲ回復スル₁

能ハス

又外國人トノ約定アリ其約未來ニ屬シ然ルニ
尚ホ約義ヲ遂サル内外人敵國トナル₁ハ解約
ニ歸セサル₁ヲ得ス

敵國常住論

然レ₁爰ニ外國人トノ約定アリテ詞訟ノ根元
始戦前ニ起ル₁ハ唯戦争中ノ₁詞訟ノ權ヲ傳
ノ和睦ヲ待テ再ヒ之ヲ起ス₁ヲ得ルナリ
允₁ソ英人久レク敵國ニ居住シ勝手ヲ以テ既ニ
其地ニ常住ヲ占ムル₁ハ其身英人タルノ權利
ヲ失ヒ我カ裁廳ニ來テ詞訟ヲ起ス₁ヲ能ハス然
レ₁若シ中立人敵國ニ於テ英人ニ物品ヲ賣与
レ其代料トシテ英人ヨリ受取リタル金子交換
証書ニ就テハ中立人我カ裁廳ニ出テ詞訟ヲ言

司法省

通ス一ヲ得ルナリ蓋シ約定ノ雙方外敵ニアラ
ス後令ヒ敵國ニ於テノ約定ト虽モ虚無ト為ス
ノ謂レナキヲ以テナリ即チ是レ「エレンボロ」
氏ノ論スル如ク嘗テ英佛戦争ノ時英人原告瑞
西國ニ常住ヲ占メ佛國巴里都ニ往テ物品ヲ賣
与レ英商被告亦同處ニ於テ之ヲ買取り即チ代
價トレテ金子交換証書ヲ渡シタリ此詞訟ニ於
テハ雙方元ヨリ外敵ニ非ス亦不正ノ賣買ニ非
ルヲ以テ原告詞訟ヲ言通ス一ヲ得タリ
又我カ國ト親睦ナル他國ニ常住ノ英人ハ我カ
敵國ノ人民ト商賣ノ取引ヲ為スニ永住スル土
地ノ人民ノ權利ヲ行フ一ヲ得ルナリ
凡ソ我カ國人敵國ノ軍艦ニテ外友ヲ生擒リ俘

囚トレテ英國ニ拘引スルモノハ俘囚中取結ヒ
タル約定ニ付キ後令ヒ禁獄中ト虽モ詞訟ヲ起
ス一ヲ得ルナリ又敵國ノ俘囚トナリタル英人
ハ之ヲ外敵ト考フ可カラス故ニ此俘囚ヨリ英
國居住ノ人ト取組ミ而シテ外敵ニ宛テ、裏書シ
タル証書ハ平和ノ後外人之ヲ用エル一ヲ得ル
ナリ

七 重罪人トノ約定

刑事民事ノ詞訟ニ於テ犯法ノ者ト定マリタル
モノハ乃チ準死ニシテ其身法律ノ守護ヲ失ヒ
犯法回復ノ為ニ非サレハ其身ノ權ヲ以テ裁
廳へ出ル一能ハス故ニ重罪人ハ貨物及ヒ詞訟
ノ權ヲ悉ク官ニ没入ス故ニ此ノ如キ罪人ハ後

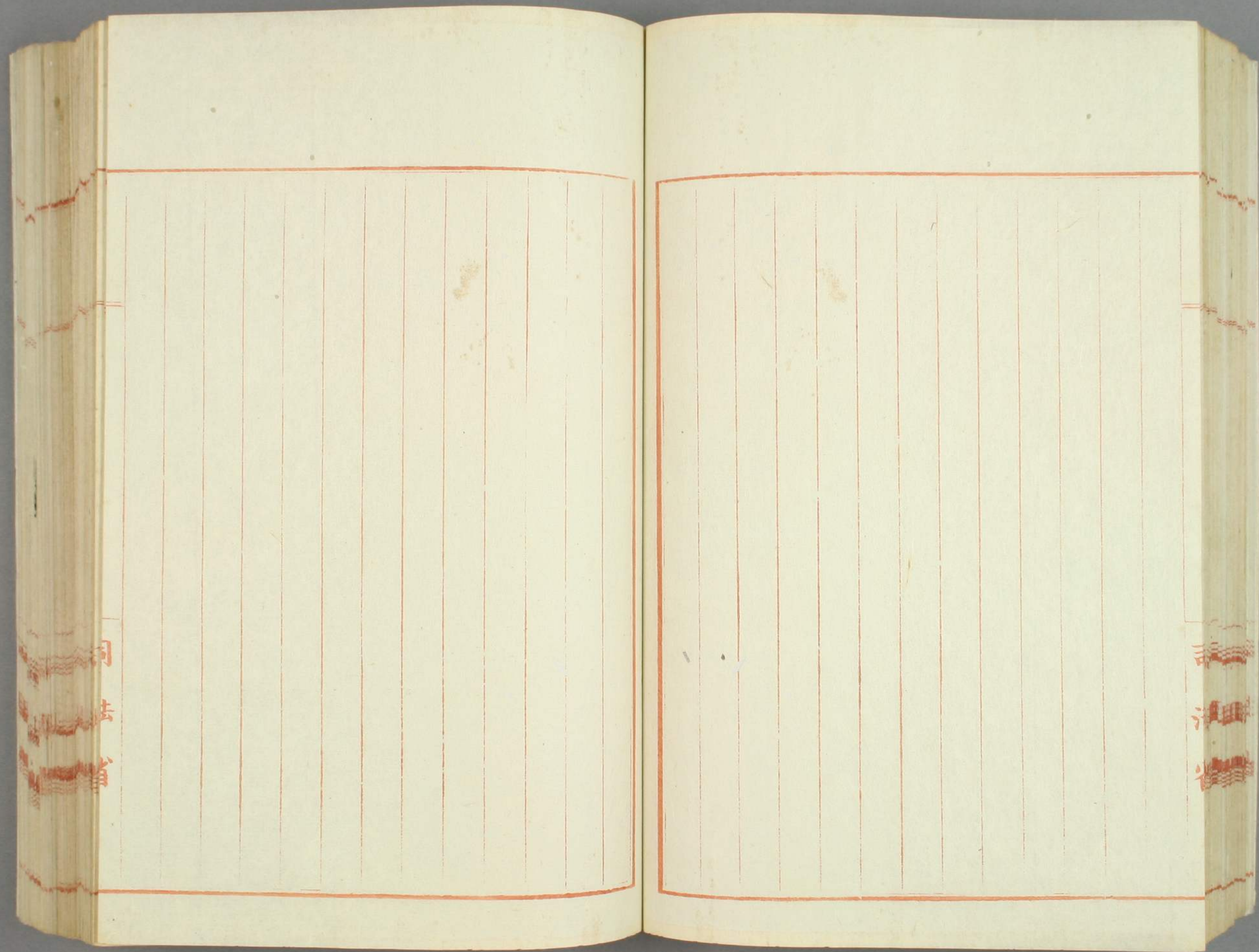
令七罪状決定ノ後ニ取起シタル自己請求ノ詞
訟ト虽モ犯罪ノ慮ヲ以テ論破セラル、ナリ
若シ人アリテ此ノ如キ罪人ニ物ヲ惠与スル片
ハ犯人其物ヲ受ル_レ得_ルト虽モ之ヲ我カ有
トシテ使用スル_レ能ハス蓋シ其之ヲ受ル_レ得
得ルハ元ヨリ犯人ノ身ニ之ヲ受ル_レ能カアリ
テ然ルニ非ス惠人我カ所為ヲ虚無ニシテ惠物
ノ討還ヲ得ル_レ能ハサルヲ以テナリ又犯人
ヲ全ク我カ有トシテ使用スル_レ能ハサル所以
ノモノハ惠人贈物ヲ討還スル能ハスト虽モ遂
ニ物品ノ官ニ歸スルヲ以テナリ
然レモ原告犯人タリト虽モ若シ他人ノ為ニ
詞訟ヲ起ス片ハ犯人ノ慮更ニ妨クル所ナレ故

權利一時停止
ノ論

ニ先後管理人ハ後令ヒ其身犯人タリ且詞訟ヲ
起ス_レ得_ルナリ又市宰ト平民トハ後令ヒ市
宰犯人タリト虽モ共ニ詞訟ヲ起ス_レ得_ルナ
リ
犯人法律ノ守護ヲ受ク可キ權利ハ一時停止セ
ラル、ト虽モ再ヒ此權利ヲ回復スル_レ得_ル
ナリ故ニ大赦ニ遇ヒ或ハ犯罪ヲ回復スル片ハ
約定ノ能力詞訟ノ權利モ亦從テ再復ス
又犯人處刑中取結ヒタル約定ハ後令ヒ其人ノ
不能力尚ホ未タ脱セナルト虽モ其約定ニ付キ
詞訟ヲ受ル_レアリ

啻氏約定法卷之五終

司法省



司
法
印

智氏約定法卷之六

草稿

司
法
印

司
法
印

目次

八分散人トノ約定

一分散前ニ取結ヒタル約定ニ付分散官証

ノ效驗官証トハハ分散聞濟ノ上官日

二分散人一旦官証ニ因テ免カレタル負債

ヲ償フ可キ後約ノ論

三官証ヲ得サル分散人約定ノ論

九覆商トノ約定

十強迫ノ約定

以上

八分散人トノ約定

一分散前ニ取結ヒタル約定ニ付分散官証

ノ效驗官証トハ分散聞書ヲ上官ヨ

凡ソ分散ノ官証一般ノ規則ニ於テハ債主負債

ヲ証明スルヲ能ハサルト分散人負債ノ責任ヲ

免カル、トトハ變換互用同一ノ言葉トス而シテ

債主ノ負債回復ノ権利ト分散人負債ノ責任ヲ

受ルトトハ同時並立ノモノトス

故ニ分散人分散セシ時既ニ拂期限ニナリタル

負債共ニ官命ニ由テ証明ス可キ討求又ハ此ノ

如キ負債回復ノ為メ其身ノ賠償ニ至テハ悉ク

一般規則

分散官証ノ效驗

司
法
省

此官証ニ因テ免カレ、トヲ得ルナリ
又分散人官証ノ許可アリテ後ニ捕縛ヲ受ケ或
ハ此官証ニ由テ証明ス可キ討求等ノ為ニ詞
訟ヲ受ルルハ其人裁廳ニ出ルヲ免カレ詞訟
ノ原因分散前ノ趣ヲ答辨シテ即チ出廳ヲ免カ
ル、トヲ得可シ

然レ氏分散官証ノ效驗ハ唯其人其貨ヲ免ルス
ト虽氏其他支係ノ賠償ニ至テハ決シテ之ヲ免
ルスコトナレ故ニ地主アリテ其借主ノ地面中ニ
在ル「エ」氏ノ貨物ヲ捕拿セリ而シテ借主其後分
散ニ及ビ官証ヲ受ケタルヲ以テ地主即チ詞訟
ヲ起シタルニ其貨物恢復ノ権アルトニ決定セ
リ

又分散ノ官証ハ分散人ノ組合並ニ連合約定人
ノ負債ヲ免ルスニ至ラサルナリ

一般ノ規則ニ於テ債主官命ニ因テ負債ヲ証明
スルルハ分散人官証ニ因テ其負債ノ責任ヲ免
カレ、ノミナラス猶又負債未済ノ為ニ生ス
ル償金モ免カレ、トヲ得ルナリ而シテ若シ債主
官命ヲ以テ証明ス可キ負債討求ニ付法律公義
ニ於テ裁判ヲ歴ルルハ債主ヨリ負債ノ外詞訟
ニ付費ヤス所ノ失費ハ分散ノ時未々其高決定
セサルト虽氏之ヲ同時ニ証明スルヲ得ルナ
リ
爰ニ債主官命ニ因テ証明ス可キ各種ノ討求ヲ
説述スルコトハ敢テ此書ノ主意トスル所ニ非ス

然レ氏猶ホ其要目ヲ挙テ論スルト左ノ如シ
第一債主ハ分散人ノ未ク分散ニ及ハサル前既
ニ拂期限ニナリタル負債ヲ証明スルノミナラ
ス猶又分散後ニテ負債証明ノ官命ヲ受ナル前
正實ニ取結ヒタル負債請求ニ就テモ債主結約
ノ時分散ノ報告ヲ得ス更ニ其情ヲ知ラサルモ
ノニ屬スル片ハ均シク之ヲ証明スルトヲ得ル
ナリ。

又貴重ノ約原アリテ金子或ハ其他何物ニ限ラ
ス分散人ニ貸與シ其人分散ノ時未タ拂期限ニ
至ラサルモノハ貸與ノ方法證書又ハ他ノ通用
ス可キ抵當ヲ取ル取ラサルニ拘ラス凡テ分散
ノ時満期ノ分ト做シテ証明シ而シテ此時残月ノ
利息ヲ引キテ他ノ債主ト等シク分散金ノ配當
ヲ得ルナリ

又分散官命ノ下ル時或ハ分散処分ノ願書ヲ出
シタル時分散人ノ為メ分散裁官ニ對シ或ハ詞
訟ニ管シテ保管人トナリ又ハ負債ノ責任ヲ擔
當スルモノハ縱令ヒ分散処分ノ願書ヲ差出シ
タル後或ハ右官命ノ出ル後ト虽モ其人分散人
ノ為メニ全債ヲ拂ヒ或ハ其内一部分ヲ拂フテ
全高ヲ皆濟スル片ハ則チ分散ノ席ヲ以テ債主
ヨリ裁廳へ証明スル負債ノ元債主ニ代テ同様
分散金ノ配當ヲ得共ニ其他ノ権利ヲ得ルナリ
又若シ元債主ヨリ負債ヲ裁廳へ証明セサル片
ハ其人自ラ之ヲ証明シ縱令ヒ分散ノ後保管人

ニ立ツト虽他ノ債主ト等シク配當ヲ取ル
ヲ得ルナリ但シ保管人トナリレ時其人分散ノ
情ヲ知ラサルニ非サレハ則チ前件ノ處置ヲ得
ルヲ能ハス

英王「ウイクトリヤ」ノ定律第^二第^三第^百第^六
第^百第^七第^十第^七第^章ニ云ク若シ分散人官命ノ出ル
前若シツハ分散ノ願書ヲ出ス前事ノ成否ニ由
テ辨フ可キ負債ヲ約定シ而シテ分散官命ノ下ル
前成否未タ決セサルト虽氏約定人出願スルヲ
當然ト思量スルハ右負債ノ金高ヲ定メシカ
為メ之ヲ裁廳へ出願シ金高ノ定マリタル處ニ
テ之ヲ証明シ而シテ後チ分散金ノ配當ヲ受取ル
トヲ得ルナリ若シ又成否未タ決セサル前預メ

金高ヲ定ムルヲ能ハサルハ事物ノ成功ヲ待
テ其負債ヲ証明シ先キノ債主ニ拂ヒタル配當
ニ拘ラス後チノ債主ト共ニ等シク配當ヲ受取
ルトヲ得ルナリ但シ約定人此ノ如キ負債ノ約
定ヲ取結ヒタル時全ク分散ノ情ヲ兼知シテ行
フハ右ノ處置ヲ得ル能ハサルナリ
又同書百七十八章ニ云ク若シ分散ス可キ商人
分散出願ノ前事物ノ成否ニ從テ辨フ可キ負債
ヲ約定シ其成否未タ決ヤス且ツ出願ノ前討索
ス可キ金高モ定マラス而シテ此書ノ他章ニ於テ
此ノ如キ負債ヲ証明スルトヲ許ルサ、ルハ
約定ヲ取結ヒタル人裁廳ノ指圖ヲ以テ相當ノ
金高ヲ証明スルトヲ得或ハ事物成功ノ後金高

未決償金証明不可
ラサル論

定マリタル所ニテ此ノ如ク証明スルヲ許ル
サル、ナリ
然レモ性質決レ難クシテ陪審獨リ之ヲ決スル
ヲ得可ク而ノ分散ノ時預定ス可カラサル償
金ハ縱令モ約定面ニテ之ヲ恢復スルノ権利ア
リトモモ分散ノ際ヲ以テ債主之ヲ証明スル
能ハス故ニ人若シ若干量ノ油ヲ其ノ價ニテ後
日相渡ス可キ約定ヲ取結ビ然ルニ未タ期日ニ
至ラサル前ニ買人分散ニ及ビ既ニ官証ヲ得タ
ルヲ以テ件ノ油ヲ受取ルヲ欲セス亦其代價
ヲ拂ハサルヲ以テ乃チ賣人ヨリ詞訟ヲ起ス
ル買人前約ノ責任ヲ免カル、能ハス兼テ約
定セシ物品ヲ分散前ニ受取ルヲ欲セサル時

モ亦然リトモ又仲商本主ノ命ニ及レテ元金ヲ
賣リタルトモ付本主ヨリ詞訟ヲ起サル、件ハ
仲商分散官証ヲ得タル際ニ因テ之ヲ言防ク
能ハス
又「ヤロツブ」イバルス西氏ノ詞訟ニ於テ被告ハ
其ノ約原アルニ因リ原告ノ名當ヲ以テ既ニ拂
期限ノ未リタル為替証書ノ殘金ヲ拂フヲ約
定セリ然ルニ被告其後新約ヲ立テ此上一ケ月
ノ時間ニ拂フ可ク違約ノ時ハ則チ過料ヲ出ス
可キヲ約シタリ然ルニ其後間モナク被告分
散ニ及ヒ既ニ官証ヲ得タルヲ以テ約ノ如ク殘
金ヲ拂ハス亦過料ヲモ出サス故ニ止ムヲ得
ス原告自ラ証書ノ金子ヲ引受ケタリ是ニ於テ

原告ヨリ被告ニ對シテ遂ニ違約ノ詞訟ヲ起シ
タリ干時此詞訟ニ於テハ原告元ヨリ右ノ金子
ニ付分散ノ時拂期限ニ及ヒタル負債トシテ証
明シタルニ非ス亦被告ヲ分散ノ保管人ト取り
テ証明レタルニ非ス故ニ被告分散ノ際ヲ以テ
責任ヲ免カレハ不能ハサルヲ決シタリ
又「アトワード」氏ヨリ「バートリツ」氏ニ對シタ
ル詞訟ニ於テ被告約ヲ立テ甲ヨリ原告ニ返浴
ス可キ負債ヲ引受ケ即チ甲ヨリ原告ノ為メ拂
フ可キ請合証書ノ利息ヲ償フ可キヲ約シタ
リ然ルニ其利息ハ六月十七日ノ拂期限タル処
甲氏并ニ被告ニ於テモ之ヲ拂ハサルヲ以テ期
限ニ迫リ止ムヲ得ス原告自ラ証書ノ利息ヲ
拂ヒタリ干時同月廿日被告分散ニ及ヒ官証ヲ
得タルヲ以テ原告ヨリ被告ニ對シテ詞訟ヲ起
シタル所被告分散ノ官証ヲ得タリト虽此ノ力
為メ被告利息ノ責任ヲ免カレサルヲ決定セ
リ是レ此ノ如キ討求ハ未決ノ償金ニシテ元未
分散ノ為メ証明ス可キモノニ非ルヲ以テナリ
又債主分散人ニ對シテ負債ノ為メ分散前ヨリ
詞訟ヲ起シ居リ其内被告分散ニ及ヒタルヲ以
テ此負債ヲ分散ニ付テ証明ス可キ負債ト為サ
ントスルニハ一旦分散前ノ詞訟ヲ停止スルニ
非サレハ之ヲ証明スルヲ能ハス而メ分散ニ付
キ前訟ヲ止メテ此ノ如キ負債ヲ証明スルヲハ
債主ニ取りテ却テ分散ノ處置ヲ欲スルニ出ル

同
六
省

所ニシテ其後被告分散ニ及ハサルモ敢テ前訟
ノ權ヲ妨クルニ非ルナリ

第四世「デヨ」ノ定律第六第十六篇第百二十
七章ニ云ク凡ソ人分散ノ官証ニ由テ負債ヲ免
カレ或ハ債主ト相對ニテ負債ヲ取極メ又ハ覆
高法ニ因テ負債ヲ免カレタルモ右分散失費
ノ外負債一磅ニ付十五「レル」ク各債主ヘ
拂フ可キ家資アルニ非サレハ此官証ヲ得ルト
虽ハ唯本人ノ捕拿禁獄ヲ免ルスノミ而ツ本人
ノ高具必用ノ家財及ヒ本人共ニ妻子ノ衣類ヲ
除クノ外後未所得ノ家資ニ至テハ悉ク分散受
托人ノ手ニ落ルナリ此受托人ハ分散ノ時本人
ノ貨物ヲ掌握セシメ如ク後未ノ貨物ニ至テモ均

シク捕拿スルノ權アリトス又同書同章ニ從ヒ
ハ分散シテ再ヒ官証ヲ得負債一磅ニ付十五
「レル」クゴヨ拂ハサル分散人ハ後日得ル所ノ
貨物ニ付受托人ニ對スルノ外何人ニ對スルモ
更ニ故障ヲ受ルナク十分所有ノ權アリトス
而シテ債主分散人ノ貨物ヲ取り右章中ノ事ヲ論
シテ分散人ノ詞訟ヲ言防クト虽ハ分散受托人
ノ手ヲ經タルニ非サレハ便チ之ヲ言通スト能
ハス又若シ分散前拂期限トナリタル負債ニ付
官証ヲ得タル分散人ニ對シテ詞訟ヲ起スルハ
縱令ヒ本人分散前債主ト相對ニテ負債返濟ノ
約ヲ立テ而ツ家資負債一磅ニ付十五「レル」ク
ゴヨ償フニ足ラスト虽ハ官証ノ廉ヲ以テ詞訟

ヲ言防クテ得ルナリ

國外ニテ取結ヒタル負債回復ノ詞訟ニ付若シ
其約定ヲ取結ヒタル國ノ法律ニ於テ分散ハ國
外ノ負債ヲ免ルスニ及フハ則チ分散ノ官証
ヲ以テ此國ニ於テ其詞訟ニ答辨スルヲ得可
レ然レモ國外ニ於テ分散ノ官証ヲ以テ負債ヲ
免ルスヲハ此國ノ人民ト此國ニ於テ取結ヒタ
ル負債ノ詞訟ヲ一般拒止スルニ足ラサルナリ
覆商蕪格蘭ノ裁廳ニ於テ負債ノ為メ已レノ貨
物ヲ出シテ其責メヲ免カレタルハ第四世「ウ
イル」レ「ム」ノ定律第六第七第五十六篇ノ法行ハ
レサル前ハ英國ニテ取結ヒタル負債回復ノ為
メ英國ノ債主ヨリ英國ニテ起シタル詞訟ヲ拒

止スルヲ能ハス然令レ債主蕪格蘭ノ裁廳ニ於
テ許サレタル負債主ノ放免ニ背クトモ亦然
ラサルヲ得ス蓋シ債主蘇國ノ法ニ從テ利益ヲ
得ルヲテ請求ヤス又負債主家資ノ配當ヲ受ル
ヲテ欲セサルヲ以テナリ然レモ第三世「ゲ」ヨ「
ヂ」ノ定律第四十九第二十七篇ニ從ヒハ新著大
島英國疆外地ノ裁廳ニ於テ覆商ニ許容セル負債
赦免官証ノ詞訟ニ於テハ爰ニ又例外ニ出ルモ
ノアリ即チ此官証ハ本國ニ於テ取結ヒタル負
債ヲ許容シ且ツ此國ニ於テノ詞訟ニ付其官証
ヲ以テ拒止スルヲ得ルナリ蓋シ新著大島ノ
裁廳ハ此國ニ在ル負債主ノ貨物ヲ管轄シ而シ
此國ノ債主ハ此國ニ於テ配當ヲ得ルノ権アル

ヲ以テナリ又蘇國居住ノ商人英國ニ於テ取結
ヒタル負債ハ蘇國ノ分散法ニ從テ取行ヘル貨
物ノ捕拿ニ由テ負債ヲ免カル、トヲ得ルナリ
蘇國ニテ取結ヒタル負債蘇國ノ分散法ニ因テ
拒止スルコトヲ得ルニ異ナルトナレ又阿爾蘭土
ノ分散法ヲ以テ受ケタル官証ハ英國或ハ蘇國
ニ於テ分散人ヨリ拂フ可キ負債共ニ阿爾蘭土
ニ於テ取結ヒタル負債ヲ拒止スルコトヲ得ルナ
リ
然レモ「ウエストミンストル」ノ裁廳ニ於テハ第
三世「ゲヨ」デノ定律第四十九第二十七章ニ從
ヒハ新著大島ニ於テ被告覆商トナリ官証ヲ得
タル原ヲ以テ後々裁廳へ出ルコトヲ許ルコトナ
スルコトヲ得可シ

二分散人一旦官証ニ因テ免カレタル負債
ヲ拂フ可キ後約ノ論

凡ソ債主負債回復ノ權利ハ分散人官証ヲ得ル
ニ因テ停止セララル、トモモ猶ホ近來迄テ英國
ノ法律ニ於テ分散人分散前ノ負債ニ基キタル
新約共ニ新規ノ約原ナレトモモ此ノ如キ負債
ヲ償フ可キ明約ニ效驗ヲ與ヘタリ而シテ其約定
ハ官証ヲ得タル前後ニ拘ハルコトナレ
然レモ其約定ハ分散人ノ官証ニ拘ラス必ス本
人自身ニテ拂フ可キ約定ニアラサルコトヲ得ス
輒チ其約定ハ本人ノ家資ヲ以テセス自ラ償フ

ノ約束タラサルヲ得ス是ヲ以テ法律ニ於テ
ハ分散人唯負債ヲ承諾スルノミニテハ縦令ニ
約定中ニ之ヲ拂フ可キ意ヲ含ムト虽氏到底其
内ニ定メタル金子ヲ拂フ迄テノ約義ニテ分散
官証ノ為メ猶ホ論破セラルヲ免レヌ又分散人
ノ時原告ハ拂フ可キ期限ノ未タタル負債ニテ
分散官証ノ為メ既ニ免カル可キ処其儀ナクシ
テ猶ホ存在スル所ノ負債ハ則チ之ヲ拂フ可キ
後約ヲ助クルノ約原ト為スノミナラス猶又分
散人ニ代テ最初金子ヲ立替ヘタル原告ニ對シ
テ之ヲ拂フ可キ責任モ均シク後約ヲ助クルノ
約原ト為スナリ其他此ノ如キ責任ハ分散人ヨ
リ拂フ可キ不定或ハ確定ノ後約ヲ助クルノ約
原ニシテ且ツ原告ニ對シテ利息マテモ償フ可
キ約定ヲ助クルノ約原ト為スナリ
然レ氏凡ソ分散人官証ヲ得タル後ハ其後約ヲ
立ツルニ本人又ハ本人ヨリ書面ヲ以テ推テ與
ヘタル代人ニ因テ書記署名セル約定ニ非サレ
ハ縦令ニ官証ヲ受タル後再約ヲ為スト虽氏分
散ノ官証ヲ以テ其責任ヲ免カル、ナリ是レ議
院ノ定律ニ由テ決スル所トス而メ分散人自筆
ヲ以テ認ムルモノト虽氏署名ナサ、ル片ハ之
ヲ十分ノ約定ト認ルヲ能ハス但シ本人ノ実証
ヲ示ス為メ書面ノ始端或ハ文中ニ我カ姓名ヲ
加フル片ハ既ニ以テ足レリトシ敢テ他ニ署名
ヲ要ムルヲナシ

分散人此約定ニ付
責任ノ論

然レモ若シ分散人唯不定ノ約定ヲ為レ即チ財
力ノ都合次第返金ス可キ約定ヲ為スモハ原告
ヨリ具サニ被告財力都合ノ次第ヲ証明セサル
可カラス

然レモ前ニ掲クル法律ニ就テハ英國ニ於テ近
未頗ル改革アリ即チ近來ノ分散法ニ於テハ分
散人一旦官証ヲ得タル後ハ縱令ニ後約ヲ立ツ
ルト虽モ此官証ニ由テ免カレタル負債ニ付テ
ハ決シテ討還ノ責任ヲ受ルコトナレ

三官証ヲ得サル分散人ノ約定

凡ソ分散人分散ノ官証ニ因テ停止セル負債ヲ
拂ハントノ約定ヲ除クノ外其他分散後取結フ
所ノ約定ニ付責任ヲ免カル、コト能ハス

詞訟ノ權受託人
スルノ論

然レモ分散受託人ハ分散人ノ家財職具商具其
他當人望ミノ必需品ニテ全價二十磅ヲ出テサ
ル物品ヲ除クノ外本人分散ノ時又ハ分散後ニ
テ未タ官証ヲ得サル前所持スル本人ノ家資ヲ
收領ス可キ權ヲ備ヘアルナリ而シテ此家資ト云
ヘル言語中ニハ所謂分散人自己ノ家資負債ノ
ミナラス猶ホ分散人ノ家資ニ干係レタル約定
破約ノ為メ其品受託人ノ手ニ入ラサル時或ハ
物品ノ定價下落セル時詞訟ヲ起シテ之ヲ回復
スルノ權美ニ其他本人ノ利益トナル可キ諸約
定ニ付テ詞訟ヲ起ス等ノ各權モ悉ク此語中ニ
含蓄スルナリ

故ニ受託人ハ本人分散ノ官証ヲ得ル前ニ取結

ヒタル負債約定ノ利益ヲ已レニ收領スルノ権
利アルナリ又若シ分散人分散官命ノ下ル前某
ノ工事ヲ作ス可キ約定ヲ取結ヒ而シテ官命下ル
前ニ稍々其端緒ヲ関キ分散後ニ至ラサレハ工
事ヲ全了スルヲ能ハス而シテ此工業ヲ果シタル
ハ分散人分散受託人ノ代人トナリテ遂ケタル
確証アルハ則チ約定全了ノ後受託人ニテ工
事仕料ノ全高ヲ回復スルノ権ヲ得ルナリ
又爰ニ甲氏乙丙ノ両氏ト七年ノ期限ヲ以テ一
週間三ギニト一ギニト三ギニト六分ハ我カニ三
ギニト三分ノ給金
ヲ以テ傭使セラル、ノ約定ヲ結ヒタリ然ル処
右両氏償金トシテ甲氏ニ五百磅ノ金高ヲ拂ヒ
兼子赤タ満期ニ至ラサル前甲氏暇ヲ取り其後

同人分散ニ及ヒタル時此破約ニ付詞訟ヲ起
スノ権利ハ全ク分散受託人ノ手ニ渡ル可キ
ニ決定セリ又分散人未タ官証ヲ受サル前受託
人別人ヨリ相當ノ約原ヲ以テ約定ヲ取結ヒ分
散人ノ家財等ヲ其終ニ差置キ其後官証下リタ
ル處ニテ其約定ニ拘ラス受託人分散人ノ家財
ヲ捕拿セリ然ルニ此詞訟ニ於テハ必竟受託人
ノ此ノ如ク為シタルハ元ヨリ当然ノ事ニ決定
ス蓋シ分散人未タ官証ヲ得サル間ハ受託人ニ
對シテ我カ家財保守ノ権アル可カラス全ク分
散人ノ過失ニ歸スルヲ以テナリ又此ト同理ニ
テ分散人未タ官証ヲ受サル前受託人ヲ知ラス
而シテ分散後債主トナリタル被告ノ為メニ已レ

判例
法
省

分散人受託人加ハラザレ
ハ詞訟ヲ為スヲ得ルノ論

ノ家屋ヲ破壊セラレ且ツ分散後所得ノ財産ヲ
捕拿セラレタリ然ルニ分散人原告トナリ其不
法ヲ咎メテ被告債主ニ對シテ詞訟ヲ起シケル
ニ右捕拿ノ家資ハ受託人ノ手ニ入ラスシテ其
債主ノ有トナリタリ是レ恰モ一度々押領シ
タルモノヲ後チニ改定スルノ理ニシテ原告ニ
於テ之ヲ回復スル能ハサルトニ決定セリ
然レ氏分散人分散後取結ヒタル約定及ヒ其後
所持ノ貨物ニ付本人ホタ官証ヲ受サル内ハ受
託人ノ權利完全ト云フ可カラス受託人ノ權利
ハ唯自ラ分散人ノ貨物撰抜ノ權アルノミニテ
撰抜ヲ行フ迄テハ貨主猶ホ分散人タルヲ以テ
縱令ヒ本人官証ヲ得サルト虽モ氏分散後本人ノ

取結ヒタル約定ニ就テハ正シク詞訟ヲ起スノ
權利アリトス

此事ニ就テハ現今規則明カニ確定セリ故ニ未
タ官証ヲ受サル分散人分散後取結ヒタル約定
ニ付受託人事ニ與カリテ利益ヲ欲スルニ非サ
レハ本人自ラ詞訟ヲ起スヲ得ルナリ
「チペン」ドル氏ヨリ「トム」リンソン氏ニ對シタル
詞訟ハ則チ右ノ主意ニ因テ決シタル先例ノ一
トス即チ此詞訟ハ代人ノ金子証書ノ事件ニ
シテ被告ヨリ原告ニ對シ其証書拂期限トナリ
シ前既ニ原告分散ニ及ヒタル趣ヲ答辨シ原告
之ニ善テ約定ノ工事ハ分散後ニシテ全ク其身
及ヒ家族活計ノ為メニ為シタル趣ヲ以テセリ

分散人自己ノ勞力
ニ付約定ノ論

此時被告重子テ答フルニ右ノ証書ヲ出シタル
片ハ未タ原告官証ヲ得タルニ非ルヲ論シタ
リ是ニ於テ雙方ノ議論ヲ停止シ原告遂ニ裁許
ヲ得ルヲ決シタリ又分散人未タ官証ヲ得サ
ル間本人ニ拂フ可キ証書ノ金子恢復ノ詞訟及
ヒ本人ノ賣典セル物品及ヒ工事ノ定價回復ノ
詞訟ニ於テモ則チ同理ヲ以テ決定ス
然レモ分散ノ時唯本人ノ身ニ拘リタル約定ニ
テ例ヘハ本人ノ技工勞力ヲ用ユルノ約定ヲ取
結ビテ未タ其事ヲ遂ケス且ツ本人ノ助力ヲ假
ラサレハ其約定ヲ果ス能ハサルカ如キハ受託
人本人ヲシテ助力ヲサシムルニ非サレハ約
如ク施行スルヲ能ハサルナリ又若シ分散後ニ

テ未タ官証ヲ得サル前分散人此ノ如キ約定ヲ
取結フ片ハ本人ノ分散ニ拘ラス本人自ラ詞訟
ヲ起スノ全権アル可キ歟未タ決セサルナリ
ゴールズ氏ヨリ「バルロ」氏ニ對シタル詞訟ニ
於テ分散人ハ職工ニテ未タ官証ヲ得サル間受
託人家資利益ノ為メニ職工ヲ傭使シ時々其仕
料ヲ拂フ可キ約定ヲ為ス片ハ分散人其仕料ヲ
受託人ヨリ回復スルヲ得ルヲ決定セリ然
レモ此詞訟ノ例猶ホ疑フ可キ所アリトス
上ノ規則ハ分散人其身ノ勞力ニ由テ起ル請求
ノ外適當ス可カラザルナリ故ニ原告分散人ハ
家財ノ仲商ニテ未タ官証ヲ得サル前被告ノ為
メニ家財運送ノ事ヲ受合ヒ之カ為メ数多ノ人

夫運車ヲ雇ヒ荷箱ヲ用意シ亦一二ノ家財ニ修復ヲ加ヘ且ツ之カ為メ多クノ失費ヲ散シタリ然ルニ原告分散ニ及ヒテ受托人ニ對シ右ノ費用ヲ我カ手ニ渡サレタキ肯テ望ムト虽其仕料全ク本人自己ノ勞カヨリ起リタルニ非ルヲ以テ分散官許ノ前後ニ拘ラス仕料皆受托人ノ手ニ入ル可キトニ決定セリ近來ノ詞訟ニ於テモ此例ニ從テ裁決セリトアリ即チ此詞訟ハ原告ハ未タ官証ヲ得サル分散人ニテ醫術ヲ業トシ然ルニ一友人ト約定ヲ立テ所有ノ藥品ヲ賣與シ而シ其俟其品ヲ所有シテ元ノ如ク醫業ヲ営ミ且又再ヒ新々ニ藥品ヲ懸金ニテ購求シ醫術ヲ施シ藥劑ヲ給シタリ故ニ分散ノ時病客被

告ニ對シ醫料回復ノ詞訟ヲ起シタリト虽元來未本人ノ自力ニ出テサルヲ以テ醫料本人ノ手ニ渡ラス受托人ノ手ニ落ツ可キトニ決定セリ然レ氏分散前分散人ノ取結ヒタル約定ニテ詞訟ノ權利全ク受托人ノ手ニ歸スルルハ受托人ハ已レノ權利ヲ投棄シ更ニ分散人自己ノ名ヲ以テ此ノ如キ約定ニ付詞訟ヲ起スヲ許ルサス蓋シ分散法ニ於テ此ノ如キ權利ハ全ク受托人ニ歸スルヲ以テナリ

九 覆商トノ約定

凡ソ覆商救助法ノ利益ハ官債ヲ除クノ外民間交際ノ負債請求ノ為メ英國及ヒ威爾斯士國ノ獄中ニ繫カル、各囚人ニ及フナリ今此條例ニ

覆商救助ヲ得ルノ論

刑
法
省

因テ赦免ヲ得ル處置ノ方法ヲ説明スルヲ左ノ如シ

凡ソ獄中ノ囚人ハ禁獄ノ初日ヨリ十四日間ニ赦免ノ歎願ヲ差出シ或ハ又此期日ヲ過クルト虽モ裁廳ニ於テ其事情ヲ當然ト思量スルモハ赦免ヲ受ルコトアリ若シ囚人自ラ此期中ニ歎願ヲ出サハルモハ債主ヨリ覆商法ニ從テ囚人ノ家資分配ノ上赦免ヲ乞フコトヲ歎願スルノ權利アルナリ

右何レノ道ヲ以テ願書ヲ差出ストモ差出シテ後ハ裁廳ニ於テ没收狀ト稱クルモノヲ施行ス此命令ニ由テ覆商ノ本人共ニ其家族着用ノ衣類夜具及ヒ營業道具職器其他此ノ如キ必用品

全價合セテ二十磅ヲ出テサル物品ヲ除クノ外本國外國ノ差別ナク本人ノ家資及ヒ赦免ヲ得ル前本人ノ手ニ渡ル可キ百般ノ物品權利等亦本人官裁ヲ經スレテ出獄ニ及ヒ而シテ未タ赦免ヲ得サル前本人ノ手ニ渡ル可キ物品或ハ赦免前本人ニ拂フ可キ各債共以上悉皆先ツ假受托人ノ手ニ引渡スナリ此假受托人ハ一旦領收ノ物品ヲ他人ニ讓與スルコトナク其俟預リ置クヲ任トス

没收狀下リテ後裁廳ニ於テ本人ノ家資諸物ノ本受托人ヲ命スルナリ而シテ此本受托人ハ即チ奉命ノ趣ヲ裁廳へ申達シ先キニ一時假受托人ノ管預スル家資共ニ權利等ヲ債主ノ為メ悉ク

司
法
省

受領スルナリ
 本人自ラ歎願ヲ出ス片ハ没收状下リテ後十四
 日内或ハ又債主ヨリ之ヲ出ス片ハ其令状ヲ本
 人へ通達ノ後十四日内或ハ又裁廳ニテ相當ト
 思量スル期日内ニ本人ヨリ負債差ニ請求及ヒ
 貨物ヲ明記セル一冊ヲ裁廳へ差出スナリ則チ
 之ヲ家産書ト云フ
 上ノ手順ヲ経テ後法ニ從テ本人處置ノ為メ囚
 人裁廳へ出席ノ時日場所ヲ定メ而メ本人ノ歎
 願及ヒ家産書ノ真偽ヲ彈シ差ニ例ニ從テ立合
 代言人ノ誓証ヲ施行セシメ毫モ相違ナキ肯聞
 濟ノ上ニテ裁廳ヨリ囚人ノ出獄ヲ許ルレ法律
 ノ利益ヲ蒙ラシムルノ裁許ニ及フナリ

裁免ニシテ
 借入ノ新約
 無効ニ
 認ムルノ論

覆商既ニ裁許ヲ経ル片ハ没收状下ル前本人ノ
 取結ヒタル負債又ハ債主或ハ債主ニ任ヌ可キ
 人亦本人ノ名ヲ以テ裏書セル通用金券所持ノ
 者等凡テ前段ノ一冊中ニ詳記セル数人へ對シ
 没收状下ル時満期負債ノ為メ悉皆赦免ヲ得ル
 ナリ
 故ニ此法律ニテ夫赦免ヲ得ル片ハ其妻未タ嫁
 セザル前ノ負債ノ為メ夫婦ニ對シタル詞訟ヲ
 拒止スルヲ得ルナリ且又婚姻前妻赦免ヲ得
 ル片ハ其妻ヨリ差出セル家産書中ニ記載セル
 負債ニ付夫婦ニ對シタル詞訟ヲ拒止スルヲ
 得ルナリ
 議院ノ定律ニ於テ人一旦覆商法ノ利益ヲ被ム

赦免不足ノ請求
ニ及ハサルノ論

リタル後ハ債主ヨリ既ニ赦免ヲ経タル負債ノ
為メ共ニ此負債消却ノ為メ取結ヒタル新約定
ニ因テ詞訟ヲ受ルト虽氏議院ノ定律ニ由ラサ
レハ他ノ法ヲ以テ再ヒ家資捕拿ノ官裁ヲ受ル
トナシ萬一覆商及ヒ其相續人等ニ對シ右新約
定ノ類ヲ以テ負債回復ノ詞訟ヲ起サル、其ハ
本人覆商法ニ從テ全ク赦免ヲ受タル趣ニ因テ
之ヲ拒止スルト得別ニ他言ヲ述ルニ及ハサ
ルナリ

覆商負債ノ赦免ヲ受ルト虽氏唯不定賠償ノ討
求ノミニテハ之ヲ免ル、ト能ハス故ニ賠償ノ
為メ取結ヒタル約定ニ從テ債主ニ配当金ヲ還
附セサルヨリ起ル討求ヲ免カル、ト能ハス且

赦免ハ家産書中ニ
載セサル負債ニ及ハサ
ル論

又赦免前ニ顯ハル、モノト虽氏此ノ如キ詞訟
ニ答フルト能ハス覆商ハ入獄ノ前負債回復ノ
為メ起サレタル詞訟ニテ延ニ裁許ヲ受サルモ
ト虽氏赦免ノ時決定セサル賠償ニ就テハ免
カル、ト能ハス而シテ覆商不正子養育ノ費用ト
シテ領地ヲ以テ償フ可キ約定ヲ取結フ片ハ本
人覆商法ニ因テ既ニ赦免ヲ経ルト虽氏其後引
續キテ不正子ノ諸費ニ付責任ヲ免カル、ト能
ハス

凡ソ覆商裁許ヲ経テ負債ノ赦免ヲ受ルト虽氏
當家産書中ニ記載セル負債ヲ免カル、ノミニ
シテ當時満期ノ負債ニ付債主ニ對シテ悉皆免
カル、ニ非ルナリ故ニ此書中ニ登記セサル負

債ニ就テハ之ヲ免カル、一能ハス然レハ債主
ヨリノ依頼或ハ内約アルヲ以テ故トニ載セサ
ルキハ亦然ラサルモノアリ蓋シ不正ノ家産書
ヲ出ス一ハ覆高法ノ趣意ニ戻リ約定虚シキニ
帰スルヲ以テナリ

然レハ家産書中ニ債主ノ登記負債ノ金高唯精
密ニ涉ラサルノミニテハ敢テ之カ為ノ本人ニ
對シ覆高法ノ利益ヲ奪フニ非ルナリ故ニ此書
中ノ文言ニ付縦令債主ノ記載元未本人ノ欺罔
ヨリ起ルニ非ス亦債主ヲ誑導スルノ意ニ出テ
サルハハ縦令ヒ文辞精密ニ涉ラサルモ得テ十
分ト為スナリ而シテ議院ノ定律ニ於テ此書中ニ
本人ヨリ拂フ可キ負債或ハ殘金等ノ登記精細

實高ニ涉ラサル所アルモ本人ノ惡意奸罔ニ出
テサルハ其誤謬ヲ問ハス雙方實高ニ直レ以
テ覆高法ノ利益ヲ被ラレムルナリ然レハ若
レ被告覆高元來欺心ナレト虽モ書中ニ全ク誤
リテ實高七磅ノ負債ヲ三磅トレテ認メタルニ
付原告債主ヨリ詞訟ヲ起スハ相違過大ナル
ヲ以テ既ニ前段ノ法律ヲ以テ之ヲ守護スル
能ハス且ツ本人赦免ノ廢ヲ以テ其詞訟ヲ拒止
スルヲ能ハサルナリ

覆高ノ赦免ハ本人ヨリ為替證書ヲ以テ拂フ可
キ負債ニ付其之ヲ所持スル人ノ姓名ヲ家産書
中ニ記レ或ハ姓名慥カナラスト虽モ何人カ必
ズ所持ノモノアルヲ載スルニ非サレハ決レ

為替證書
付
赦免
效驗
論

論
赦免時定價
決し難き負債

テ之ヲ免カレ、^レ能ハズ故ニ定律ノ如ク證書
所持ノ人名ヲ書中ニ認ムル中ハ其證書ニ拘リ
タル人ニ對シテ其本來ノ負債ニ就テモ悉ク
之ヲ免カレ、^レ得ルナリ
覆高ノ赦免ハ年給ヲ以テ拂フ可キ金子或ハ證
書又ハ其他此ノ如キ類ニテ後日拂フ可キ金子
等ニ及ホス^レ得ルナリ

凡ソ定律ニ依テ扱フ可キ負債ハ唯覆高裁許ヲ
受タル時現在金高ヲ定ムル^レ得可キ負債ノ
ミヲ謂フナリ故ニ負債ノ高不定ニ屬シ裁許ノ
時預定スル能ハサルモノハ此定律ノ赦免ニ因
テ其回復ヲ免カレ、^レ能ハズ故ニ覆高ノ赦免
ニ由テ既ニ拒止セル負債ヲ負債主ノ生命請合

證書ヲ以テ拂フ可キ^レ取極メ覆高ヨリ利息
ヲ拂フ可キ^レ約定レ或ハ債主ヨリ之ヲ拂ヒ
テ後テ本人ヨリ債主ニ之ヲ償フ可キ^レ約定
スル中ハ負債主ノ赦免ヲ以テ此約定ノ詞訟ヲ
拒防スルニ足ラサルナリ然レモ覆高赦免ノ時
既ニ金高ヲ決スル^レ得可ク例ヘハ年賦ヲ以
テ若干ノ金高ヲ拂フ可キ約定ノ如キハ赦免ノ
廣ヲ以テ負債ノ回復ヲ拒止スルニ足レリトス
但シ年賦ノ金子赦免後ニ至ル迄テ猶ホ残分ア
リトモ亦然リトス
爰ニ保證人アリテ覆高ノ為メ赦免前満期ノ負
債ヲ拂ヒ亦赦免後拂フ可キノ依頼ヲ受タルニ
付即チ其人ヨリ詞訟ヲ起サル、^レハ覆高赦免

同
法
省

赦免ハ欺罔ノ負債
ニ及ハサル論

ノ廣ヲ以テ之ヲ拒止スルヲ能ハス
覆高欺罔ノ約定ヲ以テ負債ヲ取結ヒ即チ信ヲ
破リ事ヲ飾リ或ハ返金ノ目途ナクシテ約定ヲ
取結ヒ或ハ又怒言笑語ヲ以テ負債ヲ拒防シ詞
訟ヲ延滞セシメ債主シレテ徒ラニ失費ヲ起サ
レメ或ハ犯法ノ言語ヲ用ヒ又ハ人ヲ誑惑シ或
ハ婚姻ノ破約ニ付詞訟ヲ起サレ又ハ詞訟ノ為
ノ償金ヲ拂フ可キ處遂ニ其儘已レノ負債ニ歸
シ或ハ邪好ノ所為ニ因テ他人ヘ拂フ可キ償金
ニ付或ハ誣言諛語ノ償金其他總テ本人ノ不義
非道ヨリ起リタル償金ニ付其儘本人ノ負債ニ
流レタルモノ等裁廳ニ於テ此等ノ事情ヲ正認
スルハ本人赦免ノ廣ヲ以テ之ヲ免カル、

没収状覆高論
訟ヲ妨ケサル論

能ハス然レモ此ノ如キ時ハ裁廳ニ於テ右不義
ノ負債ヲ除クハ直チニ赦免ヲ受ク可キ旨ヲ
申渡レ且ツ債主ヨリ交々右負債詞訟ノ為メ合
セテ二年ニ過キサル禁獄ノ上囚人即チ赦免ニ
及フ可キ旨ヲ言渡スナリ
覆高没収状下ル前取結ヒタル約定ニ付詞訟ノ
權利ニ至テハ分散人ノ處置ト異ナルヲナレ而
シ此ノ如キ約定ノ為メ本人ヨリ詞訟ヲ起スハ
ハ即チ没収状ノ廣ヲ以テ拒止セラル、ナリ然
レモ詞訟及ヒ賠償ノ原因唯本人ノ身ニノミテ
係シテ更ニ本人ノ家資ニ及ハサルハ又然ラ
サルモノアリ而シテ本人若シ此ノ如キ約定ヨリ
詞訟ヲ始メタル時没収状猶ホ效力アルハ後

同
去
省

テ本人赦免ヲ受ルト虽モ此廢ヲ以テ詞訟ヲ言
防ク丁能ハス然レモ歎願後ニテ赦免前本人ニ
拂フ可キ負債及ヒ其他ノ貨物ニ就テハ分散人
ノ處置ト相違アル可キヤ未タ疑議ヲ免カレサ
ル所トス蓋レ赦免前覆高ニ拂フ可キ負債又ハ
本人所得ノ貨物ハ悉ク受托人ノ手ニ落ルヲ以
テナリ然レモ爰ニ「テーロル氏ヨリ「ブカ十二氏
ニ對レタル詞訟ニ於テ覆高歎願後ニテ本人裁
廳ノ命ニ由テ禁獄中本人ヨリ約定ノ上賣典セ
ル物品ニ付詞訟ヲ起スノ權利アル丁ニ決定セ
リ是レ「キチニ氏ヨリ「ベルジ氏ニ對レタル詞訟
ノ先例ニ依テ決スル所トス蓋レ受托人雙方ノ
間ニ入ラサル片ハ右ノ約定ニ付被告ヨリ原告

約定不能カノ廢ヲ以テ其討求ニ抗スルノ言語
ナキヲ以テナリ此裁決ハ假令ヒ第一世「チヨ
「チノ定律第百十九篇ニ因ルト虽モ此篇ニ
ハ本人禁獄中他人ヨリ拂フ可キ負債貨物ニ付
目今行ハル、所ノ法律ト同一ノ箇條アルニ非
ス然レモ其實同理ヲ含蓄ス則テ目今行ハル、
第一第ニ「ウエクトウヤ」ノ定律第百十篇中ノ規
則ニ於テハ覆高裁廳へ出頭スル片ハ假受托人
雙方ノ間ニ加ハリテ本人ノ負債ヲ討求スルニ
非サレハ赦免前ニテ没収状下リタル後本人ニ
拂フ可キ負債ニ付本人自ラ詞訟ヲ起ス丁ヲ得
ルナリ

覆高ノ受托人ハ没収状下ル前而シテ赦免ヲ受サ

覆高ノ職ノ規則

司
法
省

ル間生計^レ為^レ本人ノ管ミタル工職ノ代料ニ
於テハ之カ為^レ詞訟ヲ言通ス^レ能ハス此ノ如
キハ詞訟ノ權利全ク本人ニ歸スルナリ
然レモ覆高赦免後他人ヨリ本人へ拂^テ可キ負
債回復ノ權利ニ就テハ官證ヲ受タル分散人ト
同日ニ論ス可カラズ事實頗ル懸隔セリ則チ分
散人官證ヲ得ルハ此ノ如キ負債ニ付更ニ他
人ノ手ヲ歷ル^レナク自ラ詞訟ヲ起スノ權ヲ有
シ覆高ニ至テハ全ク之ト相及レ其赦免ニ拘ラ
ス家産書中ニ載スル所ノ負債未タ皆済ニ及ハ
スレテ猶ホ殘金アルハ詞訟ノ權猶ホ受托人
ノ手ニ存在シテ本人之ヲ專ラニスル^レ能ハス
則チ受托人債主ノ為^レニ之ヲ處分ス

一旦赦免^シ終^ル負
債^ニ存^ス新^約虛^無
歸^スル^ノ論

然レモ一旦覆高法ノ利益ヲ蒙リ既ニ裁許^シ登
タル負債ニ付重テ新約ヲ立テ之ヲ償^フ可キ
モノ、如キハ本人ノ權全ク分散人ノ位置ト異
ナル^レナレ^レ假令セ其約定新規ノ約原^ヲ以テス
ルト虽モ英國ニ於テハ其約定ヲ以テ覆高并ニ
分散人共責任ヲ受ル^レナレ^レ
然レモ亦此ノ如キ約定ハ全ク虛無ニ歸スルニ
非ス是ヲ以テ被告ノ承諾セ^レ為替證書ニテ其
金高一部ハ覆高法ニ從テ赦免ヲ受ケ一部ハ更
ニ新債ニ屬スルハ即チ債主ヨリ此新債ノ金
高ヲ回復スルノ權アリトス
ウエクトリヤ^ノ定律第五第六第七百十六篇及ヒ
第七第八第九十六篇ニ云ク允^ソ分散法ノ字義

守護人命令ノ論

中ニ入ラザル商人又ハ此類ノ者ハ此商人トハ
商人ニ非ス平民ノ不用ノ物品既ニ負債三百磅以
下ニ満ルト虽モ官裁ヲ受シカ為メ分散裁廳へ
歎願ヲ出スヲ得ルナリ此定律ノ前書ニ因テ
覆商歎願ヲ出シタル後ハ未ダ官裁守護ノ命令ヲ
受サル内ト虽モ當時満期ノ負債ニ付本人詞訟
ヲ起スヲ能ハス

此定律ノ前書第十章ニ云ク守護ノ命令ハ出願
ノ前取結ヒタル負債ニ付詞訟ヲ拒止スルニ足
レリトス然レモ此官命ニ付第七第八ノ定律第
九十六篇第二十二章ノ言語ハ稍々異ナル所アリ
即チ此定律ニ因レハ此官命ハ唯負債主本人
ノ身ニノミ係リタル守護ニアラザリレカ將タ

此官命ニ因テ詞訟ヲ拒止スルヲ能ハサリレカ
一時茲ニ疑惑ヲ生レタリ然レモ其後漸ク良説
ヲ得テ兩書ノ法異ナル所ナキトニ決定セリ即
チ前書ニ依レハ出願前取結ヒタル負債ハ悉ク
拒止スルヲ得又後書ニ因レハ本人ヨリ家産
書中ニ拳ル負債ヲ拒止スルヲ得ルノ相違タ
ルヲ以テ到底官命ノ效驗一ニ歸スルトニ決シ
タリ
然レモ覆商一度モ此定律ニ因テ守護ノ命令ヲ
受ルルハ家産書中ニ負債ヲ誤認レ債主ヨリ其
過失覆商ノ欺罔邪曲ニ出ルヲ證スルニ非サレ
ハ假令モ誤認アリト虽モ債主不正ヲ咎メテ詞
訟ヲ言通スヲ能ハサルナリ

同
去
省

一般、先則

十強迫ノ約定

九ツ約定ヲ公明確實ニセントスルニハ前卷屢々論スル如ク法律ニ於テハ約定ヲ取結フ双方同心一致ノ要目ツ以テスルニ非サレハ未ダ曾テ正明ノ約定ト認ム可カラズ是ツ以テ恐威苛虐ニ出ル約定ハ法律ニ於テ之ヲ忌避シ全ク真約ト認ルヲナレ此ノ如キハ即チ称ケテ強迫ノ約定ト謂フナリ

古書中強迫ノ約定ニ付裁許ノ例跡レトセス然レモ現今ニ至テハ此類ノ詞訟甚タ稀ナリ故ニ爰ニ精レク此事ヲ論セス唯其要則ヲ挙ルツ以テ足レリトス概畧尤ノ如シ
強迫ノ道ニアリ一ツ實暴ト謂ヒ一ツ虚唱ト謂

通例ノ獄舎或ハ他ノ方法ツ以テ現ニ人ヲ禁獄シ而シテ其手法ニ及レ亦法ニ適スルモ既ニ苛酷ヲ以テスルハ則チ強迫ノ約定ニレテ虚無トナラサルヲ得ス或ハ又飲食飲乏等ノ如キ非常ノ苦難ヲ被リ人其苦ヲ避ケ其難ヲ免カレンカ為ノ遂ニ止ムヲ得ス約定ヲ取結フカ如キモ亦均レク強迫ノ約定ニレテ虚無トナラサルヲ得ス

然レモ本人裁廳ノ命ツ以テ禁獄中取結ビタル約定ハ虚無ト為スニ足ラサルナリ
爰ニ一旦詞訟裁許ノ後被告詞訟ノ好事實ナキヲ以テ原告ニ對シ若シ此地所讓与ノ證書ニ調

印為サ、ルニ於テハ此儘久レク獄中ニ繫キ置
ク可キ旨ヲ以テ劫カシ其儘獄中ニ繫キ置キタ
リ故ニ原告止ムコトヲ得ス獄中ニ於テ之ニ調印
レ赦免セラル、コトヲ得タリ然ルニ原告事ヲ遺
憾ニ思ヒ元ヨリ謂レナク獄舎ニ在リタルヲ以
テ證書ヲ虚無ト為サシコトヲ欲レタリ予時裁官
アリテマン断レテ云ク原告入獄ノ事ハ官法ニ
出ルヲ以テ之カ為メ強迫ノ例ヲ以テ其證書ヲ
虚無ト為スニ足ラサルナリ然レト元ヨリ詞訟
ノ原因ナク拘留セラレタルヲ以テ宜レク此廢
ツ以テ償金ヲ討ム可キ事ニ決定セリ
人若シ負債ノ為メ民事ノ詞訟ニ於テ實情ノ原
因ナク負債ノ為メ捕拿ヲ受ケ禁獄中取結ヒタ

ル約定ハ強迫ノ例ヲ以テ論ス可カラサルナリ
然レト爰ニ人アリ其所持ノ物品ニ付裁許ヲ以
テ既ニ賍物タルノ証拠アルニ因リ禁獄セラ
ル可ク而メ今此金子証書ヲ渡スハ放免ニナル
可キ旨ヲ以テ威迫レ故ニ其人ノ之ヲ恐レテ謂レ
ナク証書ヲ渡スハ則チ強迫ノ例ヲ以テ論定
レ其人約定ノ責任ヲ受ルコトナレ蓋レ所為全ク
虚喝妄誕ニ出ルヲ以テナリ
又此ノ如キ事件ニ付正明ノ規則トスル所ハ若
シ禁獄ノ事法律ニ適フハ即チ禁獄ノ目的ヲ
遂クル為メ施行スル所ノ約定ハ必スレモ虚無
ト為スニ非ス然レト禁獄ヲ以テ更ニ目途ニ及
レタル他ノ證書等ヲ遂ケレムルノ便宜ト為ス

同
法
省

強迫ノ種類

ハハ強迫ノ故ヲ以テ其書虚レキニ歸セサル
ヲ得ス

強迫ノ約定ニ付其方法四アリ第一生命ヲ奪フ
ノ恐喝第三四肢ヲ断ツノ恐喝第四四肢ヲ傷害
スルノ恐喝第四禁獄ノ恐喝トス

恐喝ノ約定ニテ唯毆撃或ハ土地貨物ヲ害スル
ノ恐威ヲ示スノミニテハ猶ホ守ル可キノ約定

トス蓋シ法律ニ於テ此ノ如キ恐喝ハ智力兼備
ノ人ヲ壓スルニ足ラス假令ヒ此等ノ傷害ヲ受

ルモ其人ノ之ヲ報復スルノ術アルヲ以テナリ然
レモ現ニ危難ヲ受ケ後日償ヲ討ムルヲ能ハサ

ルヲニテ成人ト虽モ既ニ抗スルノ力ナク止ム
ヲ得ハ強迫ヲ約定ヲ取結フハ元ヨリ所為強

迫ニ出ルヲ以テ其約虚無トナルナリ

古書ニ云ク家屋ヲ焼ケスルノ虚喝ハ人之ヲ恐

レテ與ヘタル約定等シ虚無ト為スニ足ラサル

論アリ然レモ目今此ノ如キ所為ニ出ル約定ハ

全ク虚無ト為ス可キ強迫ト認ム可キヤ未タ疑

義ヲ免カレサルナリ

強迫ハ約定ヲ取結テ本人直チニ受ルニ非サレ

ハ虚無ト為スヲ能ハス而シテ若レ約定ニ于係ナ

キ人更ニ他人ノ受ク可キ強迫ヲ妨ケンカ為メ

結約スルハ此約定虚無トナルニ非ルナリ然

レモ代人已レノ主人ニ代テ主人ノ禁獄セラレ

可キ難ヲ均レク我ニ被ムルノ恐アリテ結約ス

ルハ元ヨリ強迫ノ故ヲ以テ約定虚無トナラ

ナルヲ得ス又強迫ヲ受ク可キ人ヲ救フ可キ
ノ理アリテ他人其人ニ代テ結約スルハ約定
虛無ニ歸セサルヲ得ス例ハ強迫ヲ以テ妻
又ハ小兒ニ取結ハレメタル約定ハ其夫或ハ兩
親ニ取リテ虛無ト為スヲ得ルナリ佛國ノ法
律ニ去ク強迫ノ約定ハ其本人ノミナラハ尚ホ
夫婦共ニ骨肉親戚ニ取リテモ約定ヲ虛無ト為
スノ原由トス爰ニ一士官アリ人不正ノ禁獄ヲ
受ケタルヲ以テ之ヲ救ハシカ為メ再ヒ獄ニ繫
カル可キ処其償金トレテ其者ノ為メ五十磅ヲ
拂フ可キ證書ヲ渡レタリ此ノ如キハ其証書虛
無トナラサルヲ得ス是レ元來不正ノ禁獄ニ
レテ且ツ士官タル者此ノ如キ人ノ身ヲ償ヒ或
ハ金子ヲ以テ救助スルノ謂レナキヲ以テナリ
強迫ノ約定ハ強迫ヲ受タル人ニ利アリテ之ヲ
被ラセタル人ニ利アラサルヲ判然タリ
佛國ノ法律ニ云ク實暴ヲ受テ取結ヒタル約定
ハ其所為了リテ後テ其人ノ意ニ隨テ明黙何レ
カ之ヲ確定スル時ハ強迫ヲ以テ論セサルナリ
又我カ法律ニ於テハ人強迫ヲ受テ取結ヒタル
約定ハ其所為了リテ後テ其人或ハ之ヲ確定レ
或ハ之ヲ虛無ト為スヲ得ルナリ
現今強迫ハ無印ノ約定ノ各訟ニ於テ必ス防言
スルヲ得ルナリ

同
法
省

智的氏約定法卷之七終

司
法
省

司
法
省

可
法
翻
印

智氏約定法卷之七

智氏約定法卷之七

智氏約定法卷之七

目次

第二篇

第二章

約定 = 相^{ラシ}當^シシタル 異^{ハルキニ}様^ニノ人トノ約定

一 商賈^{シヤウ}代人^{ダイ}ノ論

一代人ノ種類

二代人ヲ命^メシ及^シヒ免除^スルノ論

三代人權威^{カウイ}ノ度^ド程^{テイ}及^シヒ其^{ソノ}本^ホ主^{シュ}責任^{ジツ}ノ論

四 本主^{ホシュ}詞訟^{ジソウ}ノ論

五代人ノ約定^{イダク}其身^{ソノミ}ノ責任^{ジツ}ニ歸^カスルノ論

六 代人ノ約定^{イダク}詞訟^{ジソウ}ノ論

以上

第二篇

第二章

約定ニ相当シタル異様ノ人トノ約定

一商賈代人ノ論

一代人ノ種類

凡ソ商賈ノ代人ハ大別シテ二種トシ一ヲ代高ト云ヒ一ヲ仲高ト云フ而メ代高ハ後々小別シテ國內代高國外代高ト云セ即チ此國內ニ居住スル商人又ハ平民ノ為メニ傭使セラレ或ハ國外ニ居住スル人ノ為メニ任用セラルハニ從テ其別アリトス夫レ此代高ト稱クルモノハ傭使

代高及仲高ノ論

セラル、内外ニ拘ラス本主ノ賣買ナス可キ物
品ノ委託ヲ受ルモノニシテ例ハ先物品ノ假
主人ノ如キモノナリ是レ其職仲商ト異ナル所
ナリ蓋シ仲商ハ職掌本主ノ物品ヲ管護スルモ
ノニ非ス唯賣人ト買人トノ間ニ立テ双方ノ商
事ヲ周旋シ約定ヲ取結フノミノ權威ヲ委任セ
ラル、モノナリ
物品賣与ノ代人ハ時トシテ非常ノ報賞ヲ得テ
賣品ノ周旋ヲ為スナリ此時ハ代人其本主ニ
對シ自ラ買人ノ為メ責任ヲ受ルモノニシテ即
チ買人ノ買價ヲ請合ヒ萬一買人ヨリ代價ヲ滞
フルハ自ラ賣主ニ對シテ其責任ヲ免カル、
一能ハス

代人ヲ命スル論

二代人ヲ命シ及ヒ代人ヲ免除スルノ論
凡ソ代人ハ商賈ノ代人トシテ任スルモノモ亦
家僕トシテ用ユルモノモ一般言語ノミヲ以テ
命シ敢テ書記ヲ以テ命スルニ及ハザルナリ縱
令ヒ欺罔律ノ第四章ニ記載スル所ノ事ヲ行ハ
シムル為メニテ即チ死後扱人ヲ遣ハシテ自ラ
事ヲ計ラシメ或ハ他人ノ負債ヲ代辦セシメ又
ハ婚嫁ノ約定地所ノ賣約或ハ一年內ニ遂ケ難
キ約定ヲ取結ハシメシカ為メ等ニ命スル代人
トモ其權ヲ与フルニ付必スレモ書記ヲ要ス
ルナリ此等ノ約定ハ書記署名ス可キモノニ
之アルトモ代人其本主ヨリ書ヲ以テ權威ヲ
受ルナリ代人自ラ其約定ニ署名スルナリ得

ルナリ又右定律ノ第十七章ニ拠レハ本主ヨリ
 代人ヲシテ物品ノ賣約ニ署名セシムルモノト
 虽氏書ヲ以テ之ヲ命スルニ及ハサルナリ
 現今非常ノ報賞ヲ得ル代人ハ買人ノ責任ヲ引
 受ル₁ニ一定スルト虽氏如此キ代人ヲ命スル
 ニハ書記ヲ以テ約定スル₁ヲ要セサルナリ
 然レ氏代人其本主ヨリ兼テ証書ヲ以テ約定執
 行ノ權威ヲ與ヘラレタルニ非サレハ代人印約
 ヲ執行シテ其本主ニ責任ヲ受ケシムル₁能ハ
 ス故ニ地所約定等ノ取引ニ付テ代人ヲ命スル
 ニハ必ス書記ノ約定タラサル₁ヲ得ス又會社
 ニテ命スル代人ノ權威ハ社中一般通用ノ印ヲ
 捺シタル書約ヲ以テセサル可カラズ縦令ニ此

規則偶々某ノ社則ニ於テ稍々寛ナルモナリ
 ト虽氏亦必ス然ラサルヲ得サルナリ
 其他代人ノ權威ニ付テハ代人嘗テ其本主ヨリ
 明ニ權威ヲ與ヘラレタル₁ナレト虽氏暗ニ其
 権ヲ含蓄スルノ黙権ヲ以テ論スル₁アリ故ニ
 例ハハ爰ニ馬主アリ馬販ノ商店ニ所持ノ馬ヲ
 遣ハシ置キ或ハ貸主ヲリテ毎ニ貨物賣買ノ周
 旋ヲ為ス仲高カ又ハ競賣店ノ所持ノ貨物ヲ送
 リ置ク₁ハ縦令ニ貸主ハ素ト之ヲ賣却為ス可
 キ明許ナクシテ預托スルト虽氏代人₁之ヲ賣却
 シ更ニ其方法実正ナレハ則チ貸主買人ニ對シ
 テ賣約ノ責任ヲ免カレサルナリ蓋シ貸主右等
 ノ場所ノ謂レナク馬貨物等預托スルノ理アル

可カラス乃チ貸主ヨリ馬取仲商等ニ對シテ暗
ニ賣却ノ權ヲ与ヘタルトニ歸スルヲ以テナリ
又爰ニ車夫兼テ其主人得意ノ馬車屋ニ到リ已
レノ名ヲ以テ從前ヨリ主人ノ使用スル馬ヲ備
使スルキハ本主ヨリ馬料ヲ拂フ可キトニ決定
ス縱令ニ兼テ本主ヨリ車夫ニ馬用意ノ手當ト
シテ特ニ若干ノ給料ヲ与フル約定アリト虽氏
馬車屋ニ取テハ右馬ヲ備使セシトハ車夫自己
ノ為メニシテ其本主ノ為メニ非ル丁ラ知ルノ
理ナキヲ以テナリ又代人ニ与ヘタル黙權ハ元
來代人ノ權外ニ出ルトト虽氏兼テ以前ヨリ事
ヲ行ヒタル先例アリテ本主實ニ兼知ニテ事ヲ
ヲ行ヒタルト判然タルキハ則チ代人ニ与ヘタル

ル黙權アルヲ以テ論スルナリ
若シ人船舶ヲ質入シテ後チ自用ノ為メ再々之
ヲ他人ニ貸與スル約定ヲ取結フキハ當商其人
ヲ己レノ代人ト取ルト能ハス故ニ質入シタル
モノハ代人ノ名目ヲ以テ借主ニ對シ船賃ノ詞
訟ヲ起スト能ハサルナリ蓋シ船舶ヲ別人ニ貸
與スル約定ハ一旦之ヲ質入シタル後ノ事ニシ
テ當商ニ取テハ決シテ此約定ニ與カラサルヲ
以テナリ但シ貸主其船舶ヨリ生スル所ノ利徳
ヲ得ルニ至テハ亦敢テ妨クルトナシ
法律ニ於テ代人ノ取結ヒタル約定ハ則チ其本
主ノ取結フ可キ約定ヲ取次ク追テノモノニシ
テ代人ノ事ニ同意スルトハ則チ其本主ノ同意

代人ノ権威免除ノ論

ト為スナリ故ニ代人ハ敢テ相当ノ能力アル人ヲ要スルニ非ス童兒婦女并ニ犯罪人又ハ外國人ト虽氏代人ヲ務ムルノ能力アルモノト為スナリ

代人ノ権威ヲ免除スル條目左ノ如シ

第一本主ヨリ代人ニ與ハタル権威ヲ明ニ免除スルカ或ハ代人自ラ乞レノ権威ヲ廢棄スルカヲ以テス

第二本主或ハ代人ノ死去并ニ分散ヲ以テス

第三代人ノ執行スル事件ニ付明約或ハ商事ノ習慣ヲ以テ取極メタル期限ノ経過ヲ以テス

第四委任ノ職務ヲ遂ケテ其権威了リタルヲ以テス

然レ氏右四條ノ内何レノ事件ニ同テ代人職ヲ離ル、氏唯其廉ノミニテハ全ク代人ノ権威ヲ免除スルニ足ラサルナリ故ニ本主ヨリ代人ノ

権威ヲ除クハ之ヲ他人ニ通セサル内ハ其人ニ對シテ未タ代人免除ノ效ヲ顯ハスナラハ

又家僕其本主ノ名目ヲ以テ證書ヲ認メ而シテ後其職ヲ離レタル時ノ規則ニ於テハ家僕証書ヲ認メ後

世間ニテ其情ヲ知ラサルカ或ハ職ヲ離レテ後

チ既ニ久シキヲ歴ルト虽氏秘シテ世ニ其事ヲ漏サス世人其情ヲ知ラサル内認メタル證書ナ

ルカ何レカ此ノ如キ證書ニ至テハ本主ノ責任トナラサルナリ得ズ又若シ家僕兼テ其本主ノ

同
法
習

為ニ金子調達ノ用便ヲ為シ居テ金子ノ受附
集寡ヲ司リタリ然ルニ或ル時其職ヲ免セラレ
テ後主人ノ名前ヲ以テ某氏ヨリ金子二百ゴイ
子ヤ兩一三分三子イ我カ余カ三三ヲ借受タリ平時此詞訟
ニ於テハ債主元ヨリ家僕免職ノ事ヲ知ラサル
ニ出ルヲ以テ裁官キトリシク氏断シテ其金子
ハ本主ヨリ回復ス可キトニ決定セリ而メ尚ホ
此事件ニ付新裁ヲ受シカ為メ改メテ之ヲ諸廳
ニ出訴スルト虽氏皆同氏ノ決ヲ是トセサルモ
ノナレ又代人ノ賣買ハ縦令ニ其本主ノ死後ト
虽氏未タ此凶事ヲ世間ニテ知ラサル片ハ賣買
ノ事便チ推シテ本主ノ責任トナラサルト得
ス

代人ニ與ハタル權威ハ都テ之ヲ與ハタル人ノ
所存ヲ以テ恣ニ之ヲ除クト能ハス故ニ代人ヲ
使用シテ事ヲ執ラシムルニ本主ヨリ其事ニ付
代人ノ勞力ヲ賞シ失費ヲ償フニ非ハレハ代人
既ニ其事ノ端ヲ聞キタル後ハ妄リニ其權威ヲ
除クト能ハス又若シ事ノ利益代人ノ權威ト連
接シ即チ代人ノ權威ヲ與フルニ均シク利益ヲ
分與ス可キ約定ヲ以テスル片ハ本主ト虽氏此
ノ如キ權威ニ至テハ妄リニ免除スルト能ハサ
ルナリ
然レ氏物品賣却ノ委託ヲ受ケタル代商其委託
セラレタル物品ヲ抵当トシテ其本主ニ前金ヲ
拂ヒタルニ付代商ヨリ本主ニ對シテ其金子ヲ

本主同意ナク
シテ責任ヲ受サレ論

催促ニ及フト虽氏本主之ヲ返済セサルハ代
商賣却ノ權威ハ右本主ト利益ヲ共ニスル權威
ト異ニシテ金子未済ノ為メ本主ノ命ニ及キテ
物品ヲ賣却スル一能ハサルナリ

三代人權威ノ程度及ヒ本主責任ノ論

凡ソ本主タルモノハ代人或ハ家僕ニ權ヲ與
而メ代人家僕命ニ從テ執行セル權内ノ所為約
定ニ付テハ本主ノ責任トナラサル一ヲ得ス然
レ氏本主ヲシテ責任ヲ受ケシメントスルニハ
必ス本主同意ノ明證アルカ或ハ法律ニ於テ同
意ヲ決ス可キ証拠アルカニ非サル一ヲ得ス
又法律ニ於テ本主ノ責任ト為ス可キ代人權威
ノ程度ニ至テハ商業ノ為メ又ハ家事ノ為メニ

総代理人特理代
人ノ論

命スル代人ト虽氏別ニ異ナル一ナレ蓋シ此代
人ニ付二種ノ性質ヲ論スルハ自ラ亦區別ス
ル所アリト虽氏其大体ヲ論スルハ到底其理
一途ニ帰スルヲ以テナリ

凡ソ人民互ヒニ商業ヲ行ハシトスルニハ爰ニ
双方ノ間ニ別人ヲ立テ、以テ相往來スル一ヲ
要スルナリ此別人トハ則チ代人ノ一ニシテ人
若シ此代人ト商事ヲ取結フ前毎時必ス其本主
ニ協議セサレハ之ヲ取極ムル一能ハサル一ト
スルハ大ニ商路ヲ妨ケ廣ク交通スル一能ハ
ス是レ代人ヲ立テ、商事ヲ行フ所以ナリ夫レ
代人ヲ立テ、主人ノ責任トナル可キ一ハ獨リ
代人ニ命シタル教示ノ一ニ干係スルニ非ズ代

人ハ総理ノ権アルカ特理ノ権アルカノ事情ニ
モ亦大ニ干係スル所ナリ夫レ総理代人トハ其
本主ヨリ其ノ商事ヲ托セラルレ萬事本主ニ代テ
商事ヲ取計ラフノ総権ヲ共ニラレタルモノヲ
云フナリ故ニ本主ニ代テ執行シタル事件ニ付
代人権内ノ事ヲ行フハ縦令ト代人本主ノ命
ニ及ク如アルモ元ヨリ代人ト約ヲ立ツル人ニ
取テハ本主ヨリ代人ハノ教示所望等如何ヲ知
ル可キノ謂レナキヲ以テ代人ノ取結ニタル約
定ハ全ク本主ノ責任ニ歸セサル丁ラ得ス而シテ
本主兼テ代人ニ総理ノ権ヲ共ニ置カカリシニ
主人一時便宜ノ為メ世人ニ對シ総理有権ノモ
ト為スルハ其後代人此権威ヲ以テ執行シタ

ルハ総テ本主ノ責任トナラサルトテ得ス然
レハ特理代人ニ至テハ全ク之ト相反シ本主ヨ
リ其ノ一事ヲ執ラシムル為メニ命スルモノニ
シテ権威既ニ限リ有ルモノヲ云フ故ニ今此代
人ト商事ノ取引ヲ為スルハ能ク其権限ヲ亂サ
ル可カラス而シテ本主ヨリ明ニ其権ヲ共ニタ
ル歟亦暗ニ之ヲ共ニタル歟ニ非レハ其他権外
ノ事ニ至テハ本主責任ヲ受ルトナレ爰ニ特理
代人ノ特權ト其本主ヨリ代人ニ共ニタル内命
トノ區別アリ此内命トハ則チ本主ト代人トノ間丈ケノ
内話ニテ元ヨリ他人ノ得テ知ル所ニアラス而
シテ此内命ハ代人ノ権外トシテ論スルトナレ故
ニ縦令ト代人内命ニ及ク所アルモ権内ニ屬ス

レハ則テ本主ノ責任タルヲ免カレサルナリ
 爰ニ先例ヲ援テ前則ヲ解明スルナリ如シ曾
 テ馬販アリ兼テ家僕ニ所持ノ馬ヲ賣却スルニ
 付テハ馬ノ性質ヲ保證シテ賣拂フ間敷旨ヲ命
 シ置シ如家僕此内命ニ及キ其馬ヲ保証シテ賣
 拂フハ則テ本主ノ責任ニ歸セサルナリ得ス
 盖シ家僕ハ兼テ本主ヨリ共ニラレタル権内ノ
 事ヲ行ヒタルナリニテ他人ニ取テハ元ヨリ本主
 ト家僕トノ内話如何ヲ知ル可キノ謂レナキヲ
 イテナリ然レ氏馬主更ニ別人ヲ頼ミテ所持ノ
 馬ヲ馬市ニ遣ハシ賣却スルニ付テハ馬ノ性質
 ヲ保証シテ賣拂フ間敷旨ヲ明示シテ遣ハレタ
 ル時其人馬主ノ命ニ背キテ即チ其馬ヲ賣却ス

ルハ買人ハ唯現在馬ヲ賣却シタル人ヲ相手
 取ルノミニテ馬主更ニ責任ヲ受ルナリ是レ
 其事家僕ノ権外ニ属スルヲ以テナリ若シ家僕
 兼テ本主ヨリ懸金ニテ物品ヲ購テ可キナリ許
 サレバ本主ヨリ毎時特命ヲ受スレテ家僕
 物品ヲ購フト虽モ本主ノ責任タルヲ免カレサ
 ルナリ又若シ本主物品ヲ購求センカ为メ家僕
 ニ現金ヲ典ハテ遣ハシタル所家僕其命ニ及シ
 懸金ニテ物品ヲ買取ルハ本主ノ責任ニ歸ス
 ルナリ然レ氏家僕從來懸金ニテ本主ノ为メ
 ニ物品ヲ買來ル如本主ノ命ナクシテ矢張り懸
 金ニテ物品ヲ購フハ本主ノ責任トナラサル
 ナリ得ス是レ賣人ニ取テハ毎ニ其本主ヲ信シ

テ家僕ニ物品ヲ懸賣セシテナリ爰ニ被告
ハ鍊高ナル也原告ニ於テハ曾テ一度モ共ニ高
事ノ取引ヲ為シタルトナレト虽氏原告ノ鍊高
タルトテ兼知シ或ル時被告ヨリ水夫ヲ遣ハシ
懸金ニテ錢ヲ買ハシメ後々其代價ヲ拂ヒタリ
然ルニ其後後々被告以前ノ水夫ニ現金ヲ渡レ
テ再々錢ヲ買ハシメタルカ此度ハ水夫現金ニ
テ代價ヲ拂ハス矢張り以前ノ如ク懸金ニテ其
品ヲ買取リタリ然ルニ此詞訟ニ於テハ最初懸
金ニテ物品購求ノ權ヲ共ニタルトハ再度ニ於
テモ被告ヨリ原告ニ對シ懸金ニテ物品購求ノ
權ヲ共ニタルトニ歸スルヲ以テ被告代價ノ責
任ヲ免カレサルトニ決定セリ又若シ僻郷ノ商

賈倫敦ノ商人原告ヨリ懸金ニテ物品購求ノ為
メ屢々代人トシテ甲氏ヲ僱使セリ或ル時甲氏
被告ヨリ特ニ命ヲ兼ケサルニ陽ニ本主ノ為メ
トシ陰ニ其身自用ノ為メ原告ヨリ物品ヲ購求
セリ千時此詞訟ニ於テハ甲氏ハ僻高ノ総理代
人タルヲ以テ甲氏購求ノ物品ニ付テハ被告ノ
責任ニ歸ス可キトニ決定セリ
然レ氏本主ヨリ兼テ現金ニテ賣買ノ取引ヲ為
シ来リタル商人方ハ家僕ヲ遣ハシ矢張り現金
ニテ代料ヲ拂ヒ来ル可キ旨ヲ諭シテ金子ヲ附
与シ物品ヲ購ハシムル中ハ縱令ニ家僕主命ニ
及キ現金ニテ商人ニ代價ヲ拂ハサル氏本主商
人ニ對シテ責任ヲ受ルトナシ蓋シ家僕ハ兼テ

本主ノ名ヲ售テ物品ヲ懸借ス可キ權威ヲ共
ラレサルヲ以テナリ又若シ本主ヨリ家僕ニ命
シテ物品ヲ調フル時其ノ金高ニ積レハ毎時現
金ニテ拂ヒ来リシ如ク商人家僕ヲ信シテ過大ノ
金高ニ至ル迄テ代價ヲ懸貸スルハ商人必竟
家僕ヲ信シテ此ノ如ク至ラシメタルヲ以テ其
代價ニ付テハ何様ノ事生スルハ決シテ本主ノ
責任トナルニ非ルナリ又若シ兼テ商人ヨリ家
僕ニ其ノ分量大ケノ物品ヲ給備スルハ本主
毎ニ現金ヲ以テ其代價ヲ拂フノ家風タル如ク商
人實ニ其本主ノ用品ニ在ラサル丁ヲ知リナカ
ラ本主ニ告ケス從前ヨリ過量ノ物品ヲ賣買ス
ルハ之カ為メ本主責任ヲ受ルナリ

代高仲高ヲ総理
代人トスルノ論

然レ氏本主一度ニ家僕ニ己レノ名ヲ售テ懸借
ス可キ權ヲ典フルハ縱令ヒ其後家僕ニ現金
ヲ附シテ物價ヲ拂フ可キ旨ヲ示シ而シテ家僕主
命ノ如ク拂ハサルハ本主ノ責任タルヲ免カレ
サルナリ主僕ノ間總テ此規則ヲ以テス爰ニ鋸
車ノ持主甲氏ナリ代人乙氏ヲ鋸車器械場ノ局
長トシテ傭使セシ如ク乙氏別ニ明許ナキニ原告
ト書約ヲ立テ蕪格蘭産ノ木板若干量ヲ賣典ス
可キ丁ヲ決定セリ此詞訟ニ於テハ甲氏約定ノ
責任ヲ受可キ丁ニ決定ス蓋シ乙氏代人トシテ
此ノ如キ約定ヲ取結フ総理ノ權アルヲ以テナ
リ
凡ソ代高ト仲高トハ蓋シ兩ナカラ高賈一般ノ

代人タルヲ以テ尋常代人ノ職分ヲ踐テ取結ヒタル約定ハ其執行ニ欺罔不正ノ所為ナク亦本主ヨリ代人ノ内命ナクシテ取結ヒタルモノハ悉ク本主ノ責任ニ歸セサルヲ得ズ代人ト約定ヲ取結フ人其代人タルヲ知ルト知ラサルトニ拘ルナシ
特理代人ハ縱令ヒ權外ノ約ヲ立ツルト虽氏後チ本主其約ニ同意シ更ニ之ヲ確定スルハ則チ本主ノ責任トナルナリ人實ニ己レノ為メニ非ス全ク他人ノ為メニ事ヲ執行スルハ縱令ヒ預メ權威ヲ與ヘラレサルト虽氏本主後チニ其事ヲ確定スレハ則チ本主ノ責任ニ歸スルナリ之ヲ世間一定ノ規則トス故ニ仲商物品賣買

ノ為メ書約ヲ取結フニ其時本主ヨリ其權ヲ與ヘラレサルモ後チ本主更メテ其約ニ同意スルハ則チ仲商結約ノ時全ク權威ヲ與ヘラレタル代人ノ約定トシテ決定ス
其他代人ノ執行シタル丁ヲ本主後チニ確定スルハ聊ニテモ其証拠トスル所アレハ則チ本主ノ責任ヲ以テ論定ス
代人權外ノ事ヲ執行スルハ本主其事ヲ知ルヤ直チニ之ヲ廢棄セサル可カラズ然ラサレハ代人ノ所為ハ則チ本主ノ所為トシテ論セサル
一ヲ得ハ蓋シ本主黙シテ其事ヲ等閑ニ過ルハ之カ為メ先方ノ損失ヲ生シ或ハ本主ノ利益ニ干係スルヲ以テ代人ノ約定ヲ破毀シ或ハ確

詞
法
當

本主責任ヲ受カ
ル論

定スルカ如キハ何レカ本主速カニ取捨シテ相
当ノ時間ニ之ヲ決セシハアル可カラズ又本
主暗ニ代人ノ約定ヲ黙許シテ改定スルハ代
人約ヲ立ツル時本主現在其事実ヲ兼知スルノ
一事ヲ以テ足レリトス本主代人ノ所為ヲ全知
レテ其一部ヲ取ルハ即チ全事ヲ兼領スルハ
テ已レニ利アルモノヲ取リ害アルモノヲ去リ
得失擅ニ取捨シテ確定スルハ能ハサルナリ本
主代人ノ所為ヲ確定スルハ最初ヨリ権ヲ典
ハテ執行セシメタルト其理異ナルナリ
然レ氏代人本主ノ為メ元來結約ノ権ナキハ
結約ノ時先方ノ對シ本主ニ代テ約ヲ立ツル
ヲ告ケサレハ本主後チ之ヲ確定シ更メテ其

約ニ同意スルト虽氏毫モ其效ナシトス
總理及ヒ特理代人爰ニ權外ノ約定ヲ結ビ或ハ
其約定全ク本主委任ノ職掌ニ涉ラサルハ本
主決シテ責任ヲ受ルナリ凡ソ代人ニ与フル
權威ハ本主ヨリ命シタル事ヲ遂クルノ制限ニ
シテ例ハ家事使用ノ家僕ハ決シテ他用ニ供
セラル可キノ謂レナキヲ以テ家事ニ干係ナキ
物品ヲ購フ狀或ハ主名ヲ以テ為替證書ヲ兼諾
スルカ如キハ元ヨリ權外ノ事ニ屬スルヲ以テ
之ヲ本主ノ責任ニ讓ルハ能ハス代表證書ヲ兼
諾シ或ハ裏唇シテ本主ニ責任ヲ歸セシメント
スルニハ必ス特命ヲルニ非サレハ然ルヲ得サ
ルナリ又鑛山ノ主宰ハ縱令ヒ鑛山入用ノ為メ

ト虫氏會社ノ名ヲ以テ金子ヲ借用スルノ黙許
ヲ備フルトナシ又鐵道會社ハ乗車中ノ旅客ニ
災難アリテ醫官之ヲ治療スル氏會社醫官ニ對
シテ責任ヲ受ルトナシ蓋シ醫官ノ治療ヲ施シ
タルハ素ヨリ會社ノ知ル所ニ非ス全ク會社備
使ノ監督ヨリ依頼ヲ受ケ施シタルヲ以テナリ
縱令ヒ代人家僕ハ某ノ一事ニノミ備使セラレ
テ既ニ権限アルモノト虫氏時トシテ主命ヲ遂
ンカ為メ臨機止ムト得ス推外ノ事ヲ執行シ
テ均シク本主ノ責任ニ歸セシムルトアリ故ニ
若シ馬賣買ノ為メ使用スル所ノ家僕馬ヲ保証
シテ費与スルハ豫メ本主ヨリ馬ヲ保証ス可
カラサル特命アルニ非サレハ本主其責任ヲ免

カレサルナリ又若シ船主船長ヲ備使シテ船舶
ヲ某港迄テ無事ニ航海ス可キトシテ批シタルニ
途中船舶他港ニ懸リ其場ニテ止ムト得ス現
金ニテ拂フ可キ事件出体スル如其港ニハ船主
ノ代商アルニ非ス亦船主ノ所在ヨリ遠隔シテ
ルヲ以テ船長其港ニ於テ船主ノ名ヲ售リ金子
ヲ借用スルハ是レ船長ノ職分ニ就テ生スル
一時偶然ノ事件ニシテ即チ船主ノ責任タルヲ
免カレサルナリ
代人ヲ用ユル地方ニ於テ商事ノ習慣ハ本主ヨ
リ嚴命アルニ非サレハ代人ノ習慣ヲ守テ執行ス
ル所ノ事ニ付屢々本主ノ責任ニ歸スルトアリ
故ニ某地某商ノ習慣ニテ自然物品ヲ懸賣スル

明法

井ハ代人則テ習慣ニ從ク相当ノ懸賣ヲ以テ本
 主ノ責任ニ歸セシムルヲ得レナリ然レ氏代
 人ニ物品ヲ托シ買人ヨリ代價皆済ノ上ニテ即
 テ物品ヲ相渡ス可キ旨ヲ代人ニ命シ置クハ
 代人買人ヨリ代價ヲ受取ルニ非サレハ物品ヲ
 渡スノ權アラサルナリ又競賣ノ賣品ニテ之ヲ
 懸賣スルハ通例ノ商風ニ非ルナリ故ニ元金仲
 商又ハ競賣人ハ本主ノ特命ヲ受ケサレハ此商
 風ニ反シテ事ヲ執ルノ權威ナレトス
 本主ヨリ数人ノ代人ニ權威ヲ與フルハ必ス
 代人連合シテ事ヲ行ハサル可カラズ然ラサレ
 ハ本主責任ヲ受レナシ
 代人ハ其本主同意ノ上欲又ハ止ムヲ得サレ

事故ニ出ル欲或ハ商事ノ習慣ニ由ル欲ニ非
 レハ我カ權威ヲ他人ニ讓ルヲ能ハス故ニ本主
 ノ兼知ナクシテ此ノ如キ副代人ノ取結ニタル
 約定ニ付テハ本主責任ヲ受レナシ
 凡ソ習慣法ニ於テ物品賣買ノ委託ヲ受タル代
 人ハ既ニ本主ノ許可ヲ得テ物品ノ假主人タリ
 ト虽氏其物品或ハ物品ノ所有ニ干係シタル証
 昏ヲ当商ニ投シテ質物ト為スヲ能ハサルナリ
 然レ氏此ノ如キ法律ニテハ現今商業ニ艱難ヲ
 生シ頗ル商路ノ自由ヲ妨クルノ弊アルヲ免カ
 レサルナリ是レ各種ノ定律ヲ施行セシ所以ナ
 リ今之ヲ論スルヲ尤ノ如シ
 第一現今物品及ヒ物品所有ノ証書ヲ委託セラ

司
 法
 省

レタル代人ハ人ヨリ前金ヲ受領シタル抵当ト
シテ其物品等ヲ質入スルコトヲ得レナリ縦令ヒ
当商ニテ前金差入ノ時典主ハ代人タルコトヲ知
ルト虽氏敢テ妨クルコトナレ然レ氏金子差入ノ
仕方正実ナラズ或ハ旧債ノ為メニ質物ト為レ
或ハ当商ニテ代人質入ノ権ナキコトヲ知リ或ハ
代人質物ト為スモ其本主ニ対シテ有害ナルコト
ヲ知ルキハ当商此法律ノ守護ヲ受ルコト能ハス
第二当商前金ヲ渡スコト正実ニシテ典主直チニ
物品ヲ質入スルニ非ス後日物品ヲ渡ス可キ趣
意ヲ以テ書約ヲ取結ビ而メ当商未タ物品ヲ受
領セサル前代人質入ノ権ナキコトヲ知ルニ非サ
レハ既ニ受領シテ後チ其情ヲ知ルト虽氏其約

ヲ虚無ト為スコトナレ
第三代人本主ヨリ物品所有ノ証書ヲ受領スル
コトハ則チ証書ノ物品ヲ委托セラレタルコトス
縦令ヒ其證卷ハ本主ヨリ直チニ附共セラル
氏或ハ物品ヲ委托セラレタル廉ヲ以テ代人ヨ
リ之ヲ受取ル氏又ハ別ニ物品附属ノ証書ヲ
ニ因テ代人ヨリ之ヲ受領スル氏皆之ヲ質入ス
ルノ権利アリトス
第四代人ハ前金ヲ受取リタル為メ童子テ質物
交換ノ約ヲ立ツルコトヲ得ルナリ即チ代人既ニ
物品証書等ヲ抵当トシテ金子ヲ受取リタルニ
其後他ノ物品ト入替ニ前品ヲ出スコトヲ得ルナ
リ此時ハ当商二度目ノ物品前品ト同價ニ非サ

司
法
官

レハ此ノ如ク交換スルヲ許ルサ、ルノ権利アリ

第五代人旧債ノ為メ本主ノ物品ヲ自己ノ引受ニテ質入スルヲ得ルナリ但シ当商質入ノ時典主ハ代人タルヲ知ラサルニ非サレハ此ノ如ク執行スルヲ能ハサルナリ

又代人金子通用證券ヲ質入スルカ如キハ其本主ノ責任ニ帰スルヲ必ス疑フ所ナレ

然レ氏「ウエクトリヤ」ノ定律第五第六第三十九篇第一章ニ云ク凡ク代人ニ前金ヲ渡スハ唯正実ニ出ルモノ、ミテ法律ニ於テ守護スルノ決定アリ故ニ代人ト被告ト兩人責任ノ金子三百磅ノ證券ノ為メ被告一人ニテ其金額ヲ拂ヒ而

代人ヲ信スルニ拘ラス本主責任ノ論

メ證券ヲ代人ニ渡シ其抵当トシテ当時代人ノ所持スル原告本主ノ物品ヲ被告方ニ預リタリ因テ原告ヨリ詞訟ヲ起シタルニ右ノ金子ハ全ク代人ノ正債ト認ム可カラズ是ヲ以テ此法律ヲ以テ守護スル能ハサルヲ決定セリ凡ク法律ニ於テ代人ノ取結ヒタル賣買ノ約定ニ付代人ヲ以テ真ノ約定人ト認ルト虽レ後々本主ノ責任ニ帰スル事ハ「タムソ」氏ヨリ「ダウ」ンボルト氏ニ対シタル詞訟ニ於テ其事頗ル明ナリ此詞訟ハ最初代人買約ヲ立ツル時先方ハ対シ本主ハ当時蘇格蘭居住ノ人タルヲ語リ其姓名ヲ頭ハサズ其時賣人モ亦能ク本主ノ姓名ヲ尋子ス則チ賣人ハ代人ヲ以テ賣品代價ノ

司
法
官

負債主ト認メタリ干時此詞訟ニ於テハ賣人ヨ
リ本主ニ対シテ詞訟ヲ起スノ権利アルコトニ決
定セリ裁官「テニダデニ氏此事ヲ論レテ云ク余
今日ノ事情ヲ按スルニ凡ソ人物品ヲ賣与スル
ニ始メ賣約ヲ立ワル時買人ハ代人ニ非ス真ノ
本主ト認メテ賣与スルト虽氏後チニ代人タル
コトヲ知ルルハ「鬻キニ一旦代人ヲ物品代價ノ負
債主ト認ルト氏既ニ代人タルコトヲ知テ後チハ
則チ本主ヨリ代價ヲ回復スルノ権利アリ之ヲ
一般普通ノ規則トス代人ト本主トノ規則ヲ變
シテ本主ノ害ヲ招クコト能ハサルナリ又此ニ反
シテ賣約ヲ結フ時賣人ニテ買人ハ真ノ本主ニ
非ス全ク代人ニシテ本主ノ何人タルヲ知ルト

ト虽氏其本主ヲ措キ却テ代人ヲ撰シテ物價ノ
負債主ト定ムルハ「アツテイソシ「ガンダセキ
兩氏ノ詞訟花ニ「ペ「タルソシ氏ヨリ「ガンダセ
キ氏ニ対シタル詞訟ノ例ニ倣ヒ賣人猶ホ彼是
撰抜ノ権アル時既ニ撰シテ一旦代人ヲ負債主
ト定ムルハ「縦令ヒ代人債ヲ償ハサルノ變ア
ル氏再ヒ轉シテ本主ニ復シテ代價ノ責任ヲ受ケ
シムルコト能ハサルナリ然ルニ今日ノ事件ニ至
テハ抑々此兩則ノ間ニ立ツモノニシテ賣約ノ
時原告賣人ニ於テハ買人ノ代人タルコトヲ知ル
ト虽氏其本主ニ至テハ未タ誰タルヲ知リタル
ニ非ス是ヲ以テ原告ニ於テハ未タ誰レヲ撰シ
テ負債主ト定ム可キノ途ナシ其時本主ノ姓名

同法

ヲ知レハ則テ本代何レ欲フ撰ンテ亦果シテ為
ス所アル可キナリ既ニ事此ノ如クナレハ今日
ノ詞訟ハ余カ今説明スル兩則ノ内第一則ニ論
スル賣人始メ買人ノ代人タルヲ知ラサル條
ニ屬ス可ク第二則ニ論スル賣人最初ヨリ買人
ハ代人ニシテ且ツ其本主ノ姓名ヲ知リタル條
ニ屬ス可カラス此ヲ適決トシテ可ナル可キナ
リ
人若シ代人ニ命シテ物品ヲ購求スルニ代金ヲ
附与シタルノミニテハ代人命ニ從テ代價ヲ拂
フニ非サレハ本主賣人ニ對シテ未タ責任ヲ免
カレサルナリ然レ氏代人ト賣人トノ間ニ内約
アリテ賣人ノ言語所為ニ因テ本主ヨリ代人ニ

金子ヲ附与ス可キ様誘引スルハ後日賣人ヨ
リ本主ニ對シテ詞訟ヲ起スル能ハス
又若シ賣人本主アルヲ知リテ後チ直チニ本主
ニ對シテ代價ヲ討タルトナク延期ヲ許諾シ而
メ其内ニ本主ヨリ約定期ヲ通り代價ニ代人ニ
渡シ置ク時ハ後チ賣人ヨリ本主ニ對シテ代價
ノ詞訟ヲ起スル能ハス蓋シ本主ニ取テ賣人ノ
所為ヲ察スルニ全ク代人ヲ信スルノ謂レアル
ヲ以テナリ
賣人ヨリ本主ニ對シテ詞訟ヲ起スノ權利ハ本
主ト代人トノ事情ニ因テ本主ニ對スルヲ不正
ト為スナレハ則チ本主ニ對スルヲ能ハサルナリ
然レ氏約定ノ双方此國ニ居住シテ代人賣品ノ

民法
第...
第...

價ヲ拂ハサルハ、縱令本主ヨリ代人ニ其代價ヲ渡シ置クモ、其事実定期限ノ前ニシテ賣人此事ヲ知ラサレハ本主賣人ニ對シテ物價ノ討求ヲ免カル、ト能ハス

四本主詞訟ノ權利

凡ソ法律ニ於テ代人ノ約定ハ則チ本主ノ約定ト做スヲ以テ擬令、代人結約ノ時全ク本主ノ如ク事ヲ執行スル、ト虽、後チ本主代人ニ先立テ詞訟ヲ起ス、ト得レナリ、而メ代人約定ヲ執行スルノ權威ハ本主ノ權利ニ屬スルヲ以テ本主代人ノ約定ニ異カリ自ラ執行スル、ト欲スルハ、代人詞訟ノ權利乃チ絶ス、爰ニ銀行アリ、其社則ニ本主顯ハレ、スレテ社負ノ仲商同社ノ

仲商ト取結ヒタル約定ハ仲商ノミノ約定ト做ス、例トシ本主既ニ此事ヲ兼知ノ約定ト虽、此力為ノ本主詞訟ノ權利ヲ妨クル、トナレ、又石炭賣捌キノ為メニ傭使セラレタル代人己レノ姓名ヲ以テ一商人ニ石炭ヲ懸金ニテ賣渡シ、其商人ヨリモ均シク物品ヲ懸金ニテ買取ル可キ約定ヲ取結ヒ、双方逆ヒニ其物品ヲ交換セリ、然ルニ石炭ヲ渡シタル時ノ昏面ニ本主ノ姓名アルハ、本主出テ、商人ヨリ石炭ノ代價ヲ回復スル、ト得レナリ、蓋シ商人此ノ如キ昏アルハ、代人ノ權限性質ヲ尋問ス可キ、若シテ最初ヨリ本主トシテ待ツノ理アラサルヲ以テナリ、又本主ヨリ物品賣捌キノ事ヲ代人ニ托シ置

司
法
官

本主詞訟スル能
ハサルノ論

代人ニ対スルハ則チ
本主ニ対スルヲ以テ
詞訟ヲ拒防スルノ論

タルニ未タ賣却セサル前本主其物品ニ付キ遺
言ナクシテ死去シ而シテ其後代人其物品ヲ賣却
スルハ本主ノ死後扱人ヨリ買人ニ対シテ先
キニ代人ノ賣却セル物品ノ為メ詞訟ヲ起ス
ラ得ルナリ

本主己レノ姓名ヲ以テ詞訟ヲ起スノ權利ハ代
人ニ印證ヲ以テ己レニ代リ約定ヲ取結フ可キ
ナラ准ルスルハ則チ本主ノ權利既ニ脱シテ代
人自名ヲ以テ詞訟ヲ起スナラ得ルナリ
若シ本主代人ヲ假主トシテ物品ヲ賣却スル
ナラ許ルシ而シテ後チ本主其事ニ典カルハ買人
ハ代人ヲ約定ノ本主トシテ接待セシ時ト同様
其本主ニ対シテ待ソノ權アリ習慣法及ヒ定律

ニ於テモ別ニ異ナルナレバ此故ニ被告集ソ詞
訟ニ於テ本主未タ詞訟ニ典カラサル前其代人
ニ対シテ既ニ双方請求折半ノ裁許ヲ經ルハ
本主後チニ頭ハル、此裁許ヲ守ラサルナラ
得ス又代人自名ヲ以テ物品ノ賣却ヲ准ルサレ
買人約ヲ踐テ其代價ヲ代人ニ拂ヒ而シテ本主ヨ
リ償キニ代價ヲ欲シタルニ非サレハ則チ本主
此約ニ從ハサルナラ得ス
然レ氏代人ハ仲商ニシテ本主ヨリ物品ヲ委託
サレタルニ非サレハ此規則ヲ及ホス可カラサ
ルナリ若シ買人ハ賣人ヲ本主ト倣サス代商ト
シテ物品ヲ講求シ而シテ代價ノ為メ買人本主ヨ
リ詞訟ヲ起サル、此ハ兼テ代商ヨリ買人ニ償

詞訟
法
當

本主代人トシテ約
ヲ立テ詞訟ヲ為スノ
論

可キ負債アルヲ以テ計算ヲ平均スルヲ能ハ
サルナリ

凡ソ本主約定面ニ代人トシテ記載シ然レ其
實本主タルモノ、約定ハ本主ノ性格ヲ以テ詞
訟ヲ為スヲ能ハス然レ此ノ如キ約定ニテ既
ニ一部約義ヲ施行シ彼レニ於テ我カ代人タル
名義ヲ立ツルト虽氏実ハ本主タルヲ知テ之
ヲ聽ルスキハ本主後チ自名ヲ以テ詞訟ヲ為ス
丁ヲ得ルナリ縦令一人兩名ヲ兼ヌル能ハス
ト虽氏船舶雇用ノ約ノ如キハ実ニ一名兩格ヲ
備フルナリ即チ人船舶ノ雇主誰レニ歸スル
ヲ問ハス一旦ハ雇主ノ代人トシテ約定ヲ立テ
而メ後チ後チ雇主ノ性格ニ變レ約定ノ本主ト

成テ詞訟ヲ為ス丁ヲ得ルナリ

五代人ノ約定其身ノ責任トナルノ論

一般ノ規則

凡ソ代人ノ約定ハ即チ本主ノ約定ト做スヲ以
テ代人ノ性格ヲ以テ取結ビタル約定ニ付テハ
代人ノ責任ニ歸スルナリ然レ氏代人一己ニ
テ約定ヲ取結ビ或ハ本主ヲ隱レテ己レノ信ヲ
售リ独リ結約スルモノ、如キハ人代人ニ對シ
テ詞訟ヲ為スノ権利アリ而メ代人結約ノ時約
定中ニ自名ヲ書記スルキハ縦令一人結約ノ時
代人タルヲ知ルト虽氏代人責任ヲ免ル、丁能
ハサルナリ

代人責任ノ論

代人約定ヲ取結フニ約定中他人ノ為メニ結約
スルノ意ヲ載スルト虽氏尚ホ之カ為メ其身一

同
去
省

人ノ責任ニ歸スルヲアリ故ニ如此キ詞訟ニ於
テハ約定ノ全体ヲ洞觀シテ全ク代人一己ノ責
任ニ歸ス可キノ意アルヤ否ヤヲ熟察シテ以テ
其如何ヲ決定ス

故ニ代人其身英ニ相続人等ノ為メ他人ニ代リ
自筆自印ヲ以テ約定ヲ取結フハ縱令ニ約定
中他人ノ為メニ約ヲ立ツルノ意ヲ書記スルト
虫氏代人ノ責任ニ歸セサルヲ得ス又被告甲
ノ代人トナリテ原告乙ト書約ヲ取結ヒ自ラ任
シテ甲所有ノ地ヲ乙ニ貸典ス可キヲ決定シ
其後此事ノ詞訟ニ於テ裁官ベスト氏断シテ云
ク此事件ニ於テハ結約ノ時被告ノ書約口約共
毫モ異ナル所ナキヲ以テ被告ノ責任タルヲニ

決定セリ

又被告ハ新聞紙社ノ幹事ニシテ尤ノ如ク認メ
タル金子交換証書ヲ渡スルハ被告責任ヲ免カ
レサルヲ決定ス

一金貳百五十磅也右ハ我等ウエストレーン
新聞紙社中ノ代トシテエツナ氏ヨリ慥カニ
受領セリ就テハ談金子ノ義ハ我等連名ニテ
モ亦各名ニテモ同代入用ノ節ハ何時ナリ氏
同氏若クハ同氏ノ指図次第此證書ト引替ニ
相拂フ可キヲ約定ス

而メ此証書ニ右新聞社中ノ幹事ト其他数名連
署セリ干時此証書ノ文面ニテ各名ニテモ相拂
フ可キノ語アルハ即チ幹事銘々ノ約定タルヲ

右ノ約定ニ甘代
言人責任ヲ受
ルノ論

以テ被告各々責任ヲ受可キトニ決定セリ又道路
修繕怠慢ノ為メ人ヨリ告訴セラレタル事件
ニ付双方ノ代言人自ラ約定シテ土地ノ事ニ管
リタル代言人ヨリ失費ヲ償フ可キトヲ決スル
中ハ則チ代言人自己ノ約定トシテ決定ス
然レ氏亦尤ノ式様ヲ以テ認メタル金子交換証
書ニ付テハ代言人ノ責任ニ歸スルトナシ
爰ニ我等二人甲會社ノ幹事トシテ乃チ會社
ノ為メニ「丑」氏ヨリ金子六十七磅ヲ受領セ
リ就テハ此證書ノ日附ヨリ三ヶ月ノ後同氏
カ又ハ同氏ノ指回次第此証書持参ノ者ニ右
ノ金子ヲ相拂フ可キトヲ約定ス
此證書ハ幹事兩名連署ノ上社印ヲ捺シタリ此

ノ如キハ連署セル兩人ノ責任ト為ス可カラズ
全ク社ノ責任ニ歸ス可キトニ決定セリ
又約定ノ全意代人ノ責任トナラサルト判然タ
ル中ハ適ニ其用ユル所ノ言語ニ責任ヲ受ケシ
ムルノ意ヲ含ムモノアリト虽氏決シテ然ラサ
ルナリ此故ニ甲ハ競賣人ニテ乙所有ノ貨物販
賣ノ為メニ傭使セラレ即チ乙ノ代人トシテ自
名ヲ以テ丙氏ト約定ヲ取結ヒタリ然ルニ其後間モ十
ノ貨主乙氏其約定ニ署名シテ先キニ我カ为メ
ニ署名スル甲氏ノ約定承諾ノ趣ヲ書キ加ヘタ
リ此ノ如キハ代人甲氏ノ責任ニ歸セサルトニ
決定セリ是レ貨主乙氏甲ノ約定ヲ確定シタル
ハ到底一約定ニシテ甲氏署名シテ独リ責任ヲ

同
法
省

代人権限ヲ越
時責任ノ論

ラ受ルノ語味アリト虽氏一約定ニ帰スルハ
則チ甲氏独リ責任ヲ受サル丁判然タルヲ以テ
ナリ
代人他人トノ交際ニ於テ知リテ、権限ヲ破ル
時ハ毎ニ自己ノ責任タルヲ免カレサルナリ乃
チ代人他人ニ対シテ事ヲ執ルノ権ナキ丁ヲ知ラ
セサル時或ハ欺テ有権ヲ示ス時或ハ自ラ権内
ト察スルト虽氏其然ラサル丁ヲ行ハントス
ル時他人ニ対シテ権限ノ有無ヲ諮ラサル時ノ
如キハ盡ク代人自己ノ責任ニ帰セサル丁ヲ得
ス此等ノ約定ニ於テハ代人ニ対シ有権ノ黙約
ニ因テ詞訟ヲ起ス丁ヲ得ルナリ但シ前ノ二件
ニ於テハ代人欺罔ノ詞訟ヲ受ル丁ヲ免カレサ

國外代商ノ論

ルナリ
凡ソ此國ノ代商國外商人ノ為メニ物品ヲ購求
スル中ハ賣人英國ノ買人ヲ信シ國外ノ商人ヲ
信シテ物品ヲ賣典スルニ非ルナリ然レ氏此ノ
如キハ毎ニ代人ヲシテ必ス自己ノ責任ト為サ
シムル定律有テ然ルニ非ルナリ是ヲ以テ此ノ
如キ代人ノ責任ヲ決スルハ約定ノ文意ト商事
ノ習慣トニ因テ之ヲ定ムルナリ
六代人詞訟ヲ起スヲ得ルノ論
凡ソ家僕代人等ハ家僕代人ノ名ヲ以テ取結ビ
タル約定ニ付自ラ詞訟ヲ起ス丁能ハス然レ氏
代人約定ヲ遂クルニ於テ手数料等ヲ得ルカ如
キ已レニ利益アル欺或ハ運夫庫主競賣人等ノ

同
法
省

如ク已レニ貨物ヲ預リ報賞金ヲ得テ働キ更ニ
通常ノ家僕ト異ナル代人ノ取結ヒタル約定ハ
本主自名ヲ以テ詞訟ヲ起ス丁ヲ欲セサレハ代
人自ラ詞訟ヲ起ス丁ヲ得ルナリ又代人其本主
ノ姓名ヲ顯ハサス自名ヲ以テ約定ヲ取結フ片
ハ則チ自名ヲ以テ詞訟ヲ起ス丁ヲ得ルナリ蓋
レ法律ニ於テ如此キ代人ハ真ノ約定人トシテ
論定シ代人手数料ヲ得ルト否トヲ論ヒサルナ
リ
又代人本主ノ命ヲ以テ物品ヲ購求シ然レ代
人ノ姓名ヲ以テ其買約ヲ取結ヒ且ツ賣人ニ對
シテ別ニ本主アル丁ヲ通シ而メ後々本主ノ命
ニ同テ其物品ヲ他人ニ賣典スル丁ヲ約定スル
ニ賣人約ノ如ク其物品ヲ渡サレル片ハ縱令ヒ
後チ本主此約定ヲ投棄シ更ニ代人ト後約シテ
本主前約ニ共カラサル丁ヲ決スルト虽代
自名ヲ以テ賣人ニ對シ物品不共ノ為メ詞訟ヲ
起ス丁ヲ得ルナリ
代高其本主ノ為メニ物品ヲ賣典シ而メ物價定
價ニ等シク或ハ定價ニ過ル片本主ノ意ニ反ス
ルト虽代買人ニ對シ金額ヲ償フ逆テ物品ヲ拘
留シテ代價ヲ討索スルノ權利アルナリ
國外代高ニ至テハ總テ其取結ヒタル約定ニ付
代人毎ニ自名ヲ以テ詞訟ヲ起ス丁ヲ得ルナリ

民法
第...
第...
第...

司
法
譯
課
印

智氏約定法卷之八

草稿

司
法
省

司
法
省

目次

第二篇

第二章

- 二〇 高社ハイシャノ論
- 一〇 高社ノ編成
- 二〇 社負詞訟ノ權
- 三〇 社負ノ約定全社ノ責任トナルノ論
- 四〇 解社ケンシャ及ヒ解社後約定ノ論

司
法
省

司
法
省

第二篇

第二章

二〇商社ノ論

一〇商社ノ編成

一〇凡ソ商社ヲ設立スルハ印約或ハ無印ノ書約又ハ社期一年ヲ出テサレハ唯口約ノミヲ以テ相共ニ結社スルモノトス然レモ欺罔律ニ於テハ一年内ニ遂ケ難キ約定ハ必ス書記ヲ要ス可キ筈ニテ一年外ノ約定ニ口約ヲ以テスル片ハ其約果シテ無効ニ属スルト虽モ亦迭ヒニ利益ヲ分取スル約定ノ如キハ一年外ニ出ルモノ

同去省

モ口約ヲ以テスルヲ得ルナリ
高社ニ加入ス可キ破約ノ詞訟ハ陪審ニ於テ能ク其事情ヲ斟酌シ利益ヲ判シ更ニ原告ヲ助ク可キ證據アラサレハ其詞訟ヲ言通スル能ハス然レハ公義ニ於テハ高社約定ノ一事ヲ遂ルヲ以テ其人ノ退社ヲ決ス可ク而メ一旦社負トナル者ハ高社立テ後ヲ直チニ退社スル時ノ外法律ニ於テ其人ノ退社ヲ助ケサルナリ
高社ノ設立ハ通例高買相共ニ連合シテ一事ヲ企テ而メ其事高事ニ管スルハ亦唯高事ニ非スレテ一ノ事業ニ係ルハ相共ニ利益損失ヲ平分スルノ約定ヲ以テス故ニ人利益ヲ得ルノ権利アルト損失ヲ受ルノ責任アルトハ則チ高社ト謂フ可キモノニシテ從令ヒ一人得ル所ノ利益ニ不同アリテ會社ノ允金ニ管係ナサレハ或ハ定額ノ利益ヲ得ルノ權アラサレハ此等ノ事ハ敢テ論セサルナリ
然レハ人高社ニ加入スル時其組合トノ談合ニテ商業ノ損失ニ付テハ責任ヲ受ク可カラス唯其利益ノミチ分取ス可キ約定ニテ入社スルハ之ヲ他ノ社負同様ニ視ル可カラス蓋シ此ノ如キ者アルハ從令ヒ法律ニ於テハ一旦入社スル者ハ凡テ他ノ社負同様ノ權利義務アルモノト為スト虽ハ亦勢ヒ此規則ヲ以テ推ス可カラサル所アリ故ニ此ノ如キ社人アルハ眞ノ高社ト謂フ可カラサルナリ故ニ甲氏ヨリ乙氏

民法
第百一十條

五分ノ利息ヲ以テ返金ス可キ證書ニテ若干
ノ金子ヲ貸與シ而メ貸主ハ借主ノ他人ト商事
ヲ謀リテ其得ル所ノ利益ヲ分取ス可ク然レハ
其損失ニ至テハ之ヲ知ラサルノ約定ヲ以テセ
リ此ノ如キハ則チ真ノ商社ト為ス可カラズ甲
氏ハ唯高利ノ約定ヲ以テ金子ヲ貸附セルノ
ニテ實ハ社負トナルノ真意アルニ非ルナリ
又高買兩人約定ヲ結ビテ其一人へ與フル報金
ハ企テタル商業利益ノ多寡ニ從テ之ヲ與フ可
キ事ヲ決スルハ只此約定ノミニテハ商社ト
謂フ可キモノニ非ルナリ例へハ爰ニ高買甲氏
アリ仲高乙氏ト約定ヲ結ビテ物品ヲ回漕シ而
メ仲高乙氏ハ元ヨリ有金モナク亦信用モナキ
ヲ以テ其金子ハ甲氏一人ニテ拂ヒ若シ事成テ
若干ノ利益アルハ乙氏其周旋料トシテ利益
ノ半高ヲ得可キ事ヲ決スル歟或ハ乙氏甲氏ニ
代テ物品ヲ買取リ而メ乙氏ハ別ニ周旋料ヲ取
ラシテ何程カ物品利益ノ割合ヲ取り損耗モ
亦怖シク管係ス可キ事ヲ決スル歟如此キ約定
ニテ會社ヲ結フハ縱令ヒ他人ニ對シテハ乙
氏社負トシテ責任ヲ受ク可シト虽モ兩氏ノ約
定ヲ以テ論スルハ真ノ商社ト謂フ可キモノ
ニ非ルナリ
爰ニ「レ」ド氏ヨリ「ホ」レンス「ロ」ド氏ニ對シタ
ル詞訟アリ此事件ニ於テ甲氏ハ倫敦住居ノ商
人ニシテ立布^リ布^ル立住居ノ仲高乙氏ニ書面ヲ以

司
法
官

テ同所ニ於テ物品ヲ買取リ度趣ヲ申送り枕テ
ハ乙氏ニハ別段周旋料逆ニ與ヘサルニ付物品
ノ利益三分一ヲ分ツ可キ事ヲ約定セリ故ニ乙
氏ハ約ノ如ク物品購求ノ了ヲ兼知シ前書ノ如
ク執行シテ後屢ニ甲氏へ文通シテ兩人合併ノ
高事ニテ買取リタル趣ヲ言送り且又乙氏ヨリ
甲氏ニ右ノ物品ハ兩人ノ名前ニテ倉庫ニ托シ
置キテ猶ホ火災請合證書ヲモ差送りタリ干時
此詞訟ニ於テハ右兩人ハ則チ高社タル了ニ決
定セリ然レモ爰ニ甲氏アリ乙氏ニ兼テ甲氏居
住ノ市中ニテ施行セシ醫業并ニ藥品賣買ノ株
ヲ證書ニテ賣渡シ而メ賣人甲氏ハ向後一ケ年
間右ノ市中内ニテ從前ノ如ク醫業ヲ施ス事ナ
ク同所ニ在テ全ク買人乙氏ノ為メニ從來ノ諸
事ヲ傳習シ得意ノ病家ヲモ案内シテ業道ノ行
立ツ可キ様萬事注意セントノ約定ナリ又乙氏
ニ於テハ之ニ報ユルニ甲氏ニ右一ケ年間ノ醫
業ヲ以テ取上ケタル利益ノ半高ヲ與ヘ歳末ニ
之ヲ計算ス可キトノ約定ナリ此詞訟ニ於テ唯
此ノ如キ約定ノミニテハ右一ケ年ノ処雙方ノ
間高社ヲ以テ論ス可カラサル了ニ決定セリ
又若シ数人集會シテ高法守護ノ一社ヲ設ケ而
メ其社ノ目的トスル所ハ議院ニテ高事ニ付係
スル事業ノ進步ヲ保護シ欺罔不正ノ高業ヲ拒
防スルノ趣意ニシテ社負ハ年々會社ノ資本ト
シテ若干ノ金子ヲ積ミ其金子ヲ働カシテ何程

司
去
省

合本會社ニ署名
スルノ論

カ利益ヲ取ルノ規則トス然レハ此規則ノミニ
テハ真ノ高社ト為ス可カラサルヲ決定セリ
又爰ニ鯨獵ノ為メニ傭使セル船舶ノ甲比丹ト
水夫トノ約定ニテ海旅中ノ利益ハ船主ト甲比
丹ト水夫ト之ヲ三分ニ分テ相當ニ分配ス可キ
事ヲ決スルハ高社ト為ス可カラサルヲ決
定ス

然レハ數名ノ社員連署集金シ議院ノ決ヲ經テ
鐵道ヲ築造セントスルハ即テ會社ヲ設立ス
ルモノトス又會社ハ二人ニテモ設立スルヲ
得即チ二人ニテ馬車ヲ馳走セシムルノ約ヲ立
テ各々所持ノ馬ヲ走ラセ而シテ其馳走經過スル
里數ニ從テ利益ヲ配笑ス可キ約定ニ於ル如キ

ハ他人ニ對スレハ則チ高社ヲ以テ論定ス
人某高社ノ連署人トナリテ其人社中ニ對シテノ
交際ト世人ニ對シテノ管係トノ如何ハ「ホックス」
氏ヨリクリフトン氏ニ對シタル詞訟ニ於テ明
カナリ即チ爰ニ製藥社ヲ設立セントスルノ企
テアルニ其資本金六十萬磅ニテ十萬二千磅ヲ
以テ一株トナシ證書ヲ以テ入社スルノ法ニシ
テ三十日內ニ證書ノ如ク遂ケサルモノハ過料
トシテ利分ヲ得ルヲ能ハス然ルニ之ヲ七千五
百ニ分配シテ初度ニ出金シタル者二千三百人
二度目ニ千百六十人證書ニ署名シタル者六十
五人トス于時此詞訟ニ於テハ縱令ヒ被告利益
ノ配當ヲ得ルノ權アリト虽モ何時モ其利益ヲ

同去省

討索スルヲ能ハサル由ニ決定セリ蓋シ被告連署スルト虽氏約定ヲ遂ケタルニ非ス唯社貞ト成ラントナリタルノミニテ且ツ関社前此事業既ニ破レタルヲ以テナリ人高社ニ加ハリテ其商業ノ利益ヲ取ルトニ同意シ既ニ資本出金ノ署名ヲ為スト虽氏未定ノ約定ニシテ未タ約ノ如ク遂ケタルニ非サレハ全ク其商業ノ利益ヲ取ル株主ト謂フ可カラサルナリ

鑛業會社ノ株金ヲ拂ヒ而メ此金子ヲ拂ヒタル人此株金ノ持主タルヲ證スル受取書ヲ所持スルノミニテハ未タ全ク其人ヲ社貞ト為スト能ハス是レ鑛業ノ利益ヲ其人ニ與ヘタル正證アラサルヲ以テナリ

又甲氏ハ製錢場ノ社貞タル處其株ト職業ノ利益トナ乙氏ニ譲リ乙氏暫時社貞トナリテ營業ノ後復タ其株ヲ他人ニ譲リテ同社中へ退社ノ事ヲ報知セリ然レニ乙氏先キニ甲氏ヨリ買取ノ約義ヲ遂ク可キ事ニ至リタル也乙氏株所有ノ正證ヲ所持為サ、ルヲ以テ約義執行ノ事ヲ抗論セシヨリ終ニ詞訟ヲ起シタリ干時此事件ニ於テハ乙氏退社ノ報告ヲ出シ他人へ株ヲ讓ニ於テハ猶ホ會社損失ノ責任ヲ受ク可ク此報ヲ出シタル時ヨリ始メテ其責任ヲ免カル、モノト謂フ可ク縱令ニ覆高へ其株ヲ讓リタル乙氏之カ為メ責任ナシト謂フ可カラス且

之ヲ讓受タル人ハ同社ニ取テ未タ社員ト認メ
タルニ非ス是ヲ以テ讓與ヲ兼知シタルモ其人
未タ社ノ責任ヲ受ク可カラサルヲ決定セリ
二〇凡ソ商賈迭ヒニ損益ヲ平分スルノ約定ヲ
以テスルハ即チ之ヲ高社ト謂フ然レ其社
員社外ノ別人ニ對スルハ損失ニ拘ラス商業
ノ利益ヲ得レハ則チ既ニ社員トシテ論セラル
、ナリ蓋シ人商業ノ利益ヲ得ルハ到底商業
資本ノ一部ヲ受取ルヲ以テ縱令ヒ明ニ損失ヲ
受カルヲ定ムルト虽モ亦債主ニ對シテ自カ
ラ損失ノ責任ヲ受サルヲ得ス故ニ死後管理
人遺言人ノ株ヲ其童児ノ為メトシテ其終保持
シ童児ノ計策ニ依テ商業ノ受取書ヲ出シ更ニ

已レニ利益ヲ取ラス亦社員トシテ已レノ姓名
ヲ顯ハサスト虽モ既ニ遺言人ノ死後高社ノ債
主ト成ル人ニ對スレハ則チ社員トシテ責任ヲ
免カル、了能ハス
凡ソ他人ニ對シテ社員責任ヲ免カレサル事ハ
必ス其人同社ト損失ノ一致ヲ要スル了ナシ既
ニ利益ヲ得ルノ権利アル所ハ縱令ヒ損失ハ各
人自ラ負擔ス可キ約定アリト虽モ其人他人ニ
對シテ責任ヲ免カル、了能ハス故ニ船舶二艘
ノ代人互ヒニ接近シテ寓居シ而メ商業ノ利益
ヲ分チ船舶修理ノ費用ヲ共ニスルノ約ヲ結ビ
然レ其損失ニ至テハ各自ニ負擔ス可キ事ヲ
決スルト虽モ社外ノ他人ニ對スルハ兩人一

同法省

社トシテ責任ヲ受可キトモ決定ス
又高家ニ軒合併シテ共ニ高事ヲ営ミ利益ヲ分
ツ可キ事ヲ約スルハ縦令ニ高社ニ非ルモ之
ト取引ヲ為ス他高ニ對スレハ則チ會社タルト
ニ決定ス
凡ソ社人高業ノ利益ヲ得ルニ定額ナシト虽モ
他人ニ對スレハ則チ社負トシテ責任ヲ免カル
、丁能ハス故ニ甲氏ヨリ乙丙兩氏ノ高社ニ資
本トシテ金子二万四千磅ヲ出シ三名證書ヲ以
テ合本會社ヲ設立セリ然ルニ甲氏ハ利益ヲ得
ルモ敢テ定額ヲ以テスルニ非ス純益ノ内年々
或ハ二千磅或ハ二千四百磅ヲ得タリ此詞訟ニ
於テハ縦令ニ甲氏ハ社人トシテス然世ニ名ヲ

顯ハサ、ルモ拘シク他人ニ對シテ會社ノ責任
ヲ免カレサルトモ決定セリ
物品賣興ノ約定或ハ勞力工作ノ約定其他黙約
通例ノ詞訟ニ於テ兼テ匿名ノ社員アル処後チ
其姓名露ハル、ハ則チ他負ト拘シク全社ノ
責任ヲ免カル、丁能ハス此規則ハ無印ノ明約
ニ於テモ亦適當ス爰ニ甲乙丙三名ニテ活字鑄
造ノ一社ヲ設テ而シテ其内丙ハ姓名ヲ出サス則
チ匿名ノ社員タリ于時甲乙ノ兩氏原告ト書約
ヲ結ヒ某ノ期限某ノ給料ヲ以テ原告ヲ職長ト
シテ傭使スルトチ約シタリ然ルニ此約定ニ付
キ原告不正ノ退職ヲ受タルヲ以テ原告ヨリ詞
訟ヲ起ス片ハ甲乙丙ノ三名ニ惹ル丁チ得ルナ

同法

リ 縦令ニ 結約ノ時原告ニ於テ丙氏ノ社負タル
 丁ヲ知ラス且ツ丙氏ハ約定ニ署名為サ、ルト
 虽此之ヲ為メ丙氏独リ責任ヲ免カル、丁能ハ
 ス
 社負若シ退社シ或ハ社中ヨリ已レノ姓名ヲ除
 カシテ丁ヲ顯スルハ爰ニ亦區別スル所アリ即
 チ人退社スルト虽此猶ホ無完ニ利益ヲ受領ス
 ルノ約定ヲ以テスルハ其人未タ社中ノ責任
 ナ免カル、丁能ハス然レモ若シ商利ニ拘ラス
 定額ノ金子ヲ得ルノ權アルハ全ク之ト異ニ
 シテ此定額ヲ得ル人毫モ社ノ責任ヲ受ル丁ナ
 シ
 虚名ノ社負トハ商業ノ実利ヲ得ルニ非ス或ハ

其 実社負タラサルモ社負トシテ姓名ヲ用ユル
 丁ヲ許ルシ或ハ唯社負タル丁ニ同意スル者ヲ
 謂フ此ノ如キ社負ハ他人ト取引ヲ為ス各事又
 ハ他人ヨリ其人ヲ社負ト信用シテ取結ヒタル
 各約ニ就テ断然他ノ社負ト拘シク責任ヲ受サ
 ル丁ヲ得ス之ヲ此ノ如キ社負ノ規則トス而メ
 此規則ハ社中ノ約定ニ因テ然ルニ非ス全ク一
 般ノ公理ニ基ク所ニシテ人若シ社中ノ信ヲ售
 リ人ヲ欺カントスルニ措テ其罪ヲ問ハサルハ
 ハ債主屢々欺罔ヲ受ケ害ヲ被ルノ患アリ故
 ニ此弊ヲ拒カシカ為メニ設クル所ノ規則トス
 故ニ人アリ他人ト會社タル事ヲ示スハ乃チ
 其會社タル丁ヲ信シテ物品ヲ賣典シタル債主

同
 法
 省

ハ其兩人ニ對シ會社トシテ責任ヲ受シムルヲ
得又虚名ノ社負ハ原告ニ於テ商事取引ノ時
其社負タルヲ知ラサルト虽氏原告ヨリハ之
ヲ社負トシテ責任ヲ受シム可キトニ決定ス然
レ氏此議疑フ可キ所アリ蓋シ虚名ノ社負ニ對
シ真ノ社負同様ノ責任ヲ受シムル規則ハ會社
ト取引ヲ為ス人其人ノ社負タル事ヲ知ラサル
時ニ及ホス可カラサルノ理アルヲ以テナリ
爰ニ二人結社シタルニ其一人ハ更ニ會社ノ損
益ニ與カルニ非ス毫モ社負トシテ責任ヲ受サ
ルノ約定アリ然ルニ人此約定アルヲ知テ其一
人ト約ヲ立ルハ此約定アルヲ知タル人ニ對
シテ損益ニ與カラサル一人ハ會社ノ責任ヲ受

ルトナシ

若シ童児入社シ而メ後成齡ニ至リテ猶ホ其社
ヲ離レサルハ其後高社ノ約定ニ付キ責任ヲ
免カル、ト能ハス

不全會社ノ社負其會社ノ債主ニ對シテ責任ヲ
受ル事ノ規則ハ爰ニ會社全ク成頓シ社負實ニ
利益ヲ得ルノ権利アルニ至テ始メテ社人他人
ニ對シテ會社ノ責任ヲ受ル事トス然レ氏人未
タ正然高社ヲ結ビタルニ非ス亦社負ト成リタ
ルニ非ルハハ縱令ヒ署名スルト虽氏實地社負
トシテ事ニ與カリタルニ非サレハ其人他人ニ
對シテ未タ責任ヲ受可キモノト謂フ可カラス
故ニ署名人社中ノ主宰ト成テ事ヲ處置スル歟

同法省

或ハ社負ト成テ為材等ヲ注文スルニ其時原被
共自ラ責任ヲ受ルノ意ニ出テス全ク會社ノ資
本ヲ信シテ其約ヲ立ツルノ意判然タル歟ノ時
ハ縱令ニ其事欺罔ニ出テ或ハ實ノ社負ト成リ
タルニ非ス或ハ會社ヲ結ビタルニ非ス或ハ企
業ヲ廢却シ又ハ會社分散ニ及ヒタリト虽レ被
告ノ責任ニ歸セサルヲ得ス又人一旦株主タ
ルノ性格ヲ以テ合本社ノ集會ニ出席スルハ
縱令ニ後會ニ欠席スルト虽レ其多數ニ因テ決
スル所ノ事ハ他負ト拘レク責任ヲ受ルノ確證
トス凡ソ裁廳ニ於テハ被告結約ノ時社負トシ
テ事ニ與カリシ歟或ハ實ニ入社為サ、ルモ曾
テ社負トシテ事ニ與カリシ先例アリシ歟何レ

歟陪之ヲ決スルノ證據アルハ則チ被告責任
ヲ免カル、丁能ハサルヲ以テ決例トス
然レ氏被告ニ對スル詞訟ニ於テ鑛山會社ト取
結ビタル約定ニ付社負トシテ其人ニ責任ヲ負
ハシメントスルニ元來利益讓與ノ證書アリト
虽レ其約定ヲ書記シテ簿冊ニ登記スル迄ハ其
人未タ高利ヲ得ル丁能ハサルノ社則タルハ
則チ登記スル迄ハ被告利益ヲ得ルニ非ス亦社
負トシテ責任ヲ受ケサル丁能ハ決定ス
人已レノ姓名ヲ企業中ニ總代人トシテ記載ス
ル事ニ同意シタルノミニテハ爰ニ其人總代ノ
格ヲ以テ取結ビタル約定ニ付キ自ラ失費ヲ拂
フ歟或ハ之ニ拘レキ事ヲ為ス歟ニ非サレハ他

同
法
省

人ノ為メ約定ノ責任ヲ受ル丁ナシ又此ノ如キ
社貞最初社事ニ與カリ某ノ期日ノミ自ラ責任
ヲ受ルノ約ヲ立ル片ハ其期日前ノ注文ニテ期
日後會社ノ執行シタル社事ノ為メ其人責任ヲ
受ル丁ナシ
會社ノ書記社貞ノ名簿ニ署名人ノ姓名ヲ記入
スルニ其權ヲクシテ記名スル片ハ他人ニ對シ
其人ヲ社貞トシテ責任ヲ受シムル丁能ハス又
人鐵道會社總代ノ名簿中ニ我カ姓名ヲ公記ス
ル事ニ同意シタルノミニテハ會社ニ賣與シタ
ル貨物或ハ會社ノ為メ營シタル工事ニ付キ會
社ノ書記或ハ其他ノ者暗ニ其人ノ姓名ヲ用ユ
ルノ權有ラサルナリ

然レ氏人會社ノ企業ニ與テ事ヲ執行シタル證
拠ヲル片ハ其人ヨリ書記ニ聽ルシテ已レノ姓
名ヲ用ヒシタル狀若シ果シテ聽ルシタル片ハ
責任ヲ受ル事ヲ兼知ニテ事ヲ執行シタル狀陪
審此情ヲ推究シテ以テ其人責任ノ有無ヲ決定
ス
被告同意シテ鐵道會社假總代人ノ社貞ニ任シ
然ルニ其後會社ノ事務ハ會社主宰ノ管轄タル
可キ丁ニ決シ即チ改メテ會社ノ主宰ヲ置タル
ナ以テ假總代人ハ社務ニ與カラサル丁ニ定マ
リタリ其後兼テ假總代人ノ命シタル會社ノ書
記ヨリ新聞公布ノ事ヲ注文シ又被告兩度假總
代ノ集會ニ臨ミタル事アリト雖モ總代ノ主宰

同
法
第
百
一
十
七
條

タル事モナク亦株主タルニ因テ出席シタル事
モナシ故ニ此等ノ事情アルニ於テハ陪審ニ於
テ被告ヨリ新聞公布ノ命ヲ與ヘタル證據ヲ決
シ難ク亦被告責任ノ證ヲ認ムルヲ能ハサル趣
ニ決定セリ又會社設立ノ公布アリト虽未タ
全ク會社ヲ設立シタルニ非ス追テ結社ス可キ
趣ヲ以テスル片ハ被告此企業ニ署名シ且ツ會
社營業ノ家宅ヲ定ムルノ集議ニ臨ミ既ニ株主
タラシト望ミタリト虽未タ其株金ヲ拂ヒ
タルニ非ス亦其他ノ社務ニ與カリタルニアラ
サル片ハ會社ニ賣與シタル物品ニ付其人社員
トシ責任ヲ受ルヲナシ
然レ凡人合本會社ノ主宰ト同意一致シテ既ニ

真ノ社員ト定マル片ハ會社設立ノ為メ必用ノ
約定或ハ會社商業ノ為メ執行スル所ノ約定ニ
就テ悉ク責任ヲ受カルヲ得ス而メ社中ノ約
定ニ因テ社人他員ノ代理權ヲ有スルノ制限ニ
至テハ唯社中ニノミ效驗アリテ之ヲ社外ノ人
ニ及ホス可カラズ他人ニ至テハ其制限ヲ知ル
ニ非サレハ必ス效力ナシトス
凡ソ人會社ノ利益ヲ分配シテ得タルニ非ス又
曾テ信用ヲ得ル為メ其人ノ姓名ヲ用ヒタル事
アラサル片ハ縱令何程カ利益ヲ取ルノ約定
アリト虽凡其人社員トシテ責任ヲ受ルヲナシ
故ニ數人ニテ茶ヲ購求スル為メ一仲高ヲ僱使
シ而メ其茶ハ僱主ト共ニ各自ニ分配ス可キ約

社員トシテ責任ヲ
受カルノ論

司
法
省

高社約定後入社
人責任論

定タリ然ルニ仲高其茶ヲ抵當トシテ某氏ヨリ
金子ヲ借用スルト虽氏傭主之ヲ知ラサル。其ハ
貸主ニ對シテ責任ヲ受サル。一ニ決定ス。又教人
ニテ物品ヲ購求スルニ各自ニ之ヲ分配ス可キ
約定ニテ其内一人之ヲ購求シ然レ其利益ニ
至テハ更ニ約定ナキ其ハ賣主ニ對シテ一同責
任ヲ受可キ高社ト為ス可カラス

高社迭ヒニ約定ヲ結ビ而メ後チ他人入社シテ
唯其約定ニ管係シタルノミニテハ之カ為メ其
人ヲ真ノ社員ト為ス可カラス亦社員トシテ責
任ヲ受シムル。一又若シ銀行ニテ得意人ノ
為メニ金子ヲ拂ヒ其金子ヲ社ノ簿冊中負債ノ
部ニ登記シ其後新々ニ別人ノ入社ヲ許ルシタ

リ此詞訟ニ於テ新入ノモノハ得意人ニ對シテ
金子ノ為メ責任ヲ受サル。一ニ決定セリ蓋シ舊
社人ト新社人ト得意人トノ間ニ新社人舊社人
ニ代テ負債主トナルノ約定アラサルヲ以テナ
リ
数人同意シテ一高業ヲ企テ而メ之カ為メ各々
物品ヲ給備ス可キ約定ヲ結フ。其ハ同意ノ者一
同拘シク責任ヲ受ルニ非ス其給備シタル物品
ニ就テハ之ヲ賣與シタル人ニ對シテ各人銘々
ノ責任トナルナリ蓋シ其給備シタル物品ヲ合
シテ一資本ト為シ合併スルニ非サレハ決シテ
高社ト謂フ可カラサルナリ然レ其企テタル高
業ノ為メ一同連名シテ物品ヲ購求スルノ社則

社負ニ非スレテ利
益ヲ得ルノ論

アル片ハ則チ一同干係ノ高社ニシテ物品ヲ購
ヒハ連合ノ責任トナラサルヲ得ス
故ニ旅車ノ持主教人アリテ道路ヲ各部ニ分チ
而メ之ヲ牽ク所ノ馬及ヒ馬具ノ持主モ亦教人
ニテ此道路ニ厩ヲ置キ食ヲ給シ馬夫ヲ備フル
等ニ至ル迄テ一切各自ニ用意シ而メ得ル所ノ
利益ハ各々里数ニ從テ之ヲ分ツ可ク都テ此ノ
如キ約定ヲ以テ結社スル片ハ爰ニ各持主ニテ
物品ヲ購求スルニ之ヲ全社ノ雜費ト為スノ證
據アラサレハ賣人ヨリ全社ニ懸ルヲ能ハス乃
チ物品ヲ賣與シタル持主ノ一人ニ懸テ代價ヲ
回復スルノ權アルヲ決定ス蓋シ高社約定ノ
趣意ハ各々用ユル所ノ器械等購求ノ約定ニ至

テハ自費ヲ以テ辨ス可キ約定タルヲ以テナリ
爰ニ人企業ノ利益ヲ得ルト雖モ其実真ノ社負
ニ非ル片ハ尤ヨリ社務ニ與カラサルヲ以テ社
負ノ責任ヲ受サル事アリ故ニ人得意先キテ周
旋シテ人ニ物品ヲ賣與セシメ其賣利ノ内何程
欲利益ヲ得ルノ約定ヲ以テスル片ハ其人他人
ニ對シ社負トシテ責任ヲ受ルヲナシ又若シ最
初ヨリ定額ノ給料ヲ以テセズ職務勉勵ノ報賞
トシテ與フル報金或ハ賣與スル物品ノ分量ニ
從テ幾分攷周旋料トシテ代高ニ與フルノ類ハ
皆社負ヲ以テ論スルヲナシ
又端船ノ持主ト之ヲ運用スル人トノ約定ニテ
運用ノ旁トシテ運手儲高ノ半高ヲ受領スル事

ヲ決スルルハ兩氏連合ノ責任ニ歸スルヲナシ
又家畜ノ持主ト地主トノ約定ニテ家畜ヲ地主
ノ地ニ飼一家畜某ノ價ニ至テ後地主ト持主ト
利益ヲ折半スル事ヲ決スルルハ唯牧料ヲ償フ
ノ理ニ歸スルヲ會社ト謂フ可キモノニ非ルナ
リ
然レニ高賣ト仲商トノ約定ニテ仲商物品ヲ購
求シ而メ仲高別ニ周旋料ヲ取ラヌ唯其物品ヲ
賣却シテ生スル所ノ利益ヲ勿取シ而メ損失モ
亦從テ擔負ス可キ事ヲ決スルルハ仲商他人ニ
對シテ會社タルノ責任ヲ免カレ、了能ハス蓋
シ此ノ如キ約定ニテハ仲商賣典ニ因テ生スル
利益ヲ共ニ受領スルノ權アルヲ以テナリ

ウエクトリヤノ定律第十九二十第四十七篇第
三章ニ因テ現今人七名以上合併シテ高業ヲ企
テ各々姓名ヲ登記シテ簿記ノ社則テ遂ルルハ
則チ之ヲ會社トス而メ社負有限ノ責任ヲ以テ
スルモノアリ或ハ亦然ラサルモノアリ蓋シ有
限ノ責任トハ各負已レノ拂フ可キ株金ニ就テ
ノミ責任ヲ受ルモノヲ云フ
其第二章ニ云ク此議定ハ銀行或ハ請合會社ニ
適當ス可カラサルナリ
其第四章ニ云ク一千八百五十六年十一月後社
負二十名以下ニテ會社ヲ結ヒ高業ヲ行フ事ヲ
得ルナリ但シ此議定ニ從テ會社トシ官許ヲ得
テ高事ヲ行ヒ或ハ錫鑛管轄ノ鑛業ヲ行フニ非

サレハ則チ二名以下ニテ會社ヲ結ビ商業ヲ
行フ事ヲ得ルナリ而シテ若シ此定例ニ及シテ社
ヲ結ビ商業ヲ行フハ會社ヲ立テ商業ヲ行フ
ト虽氏社ノ全債ニ就テハ各人各名ノ責任ニシ
テ他負ト連合スル事ナク之カ為メ各自ニ詞訟
ヲ受ルルアリ

二〇社員詞訟ノ權

凡ソ法律ニ於テハ會社ノ一人人社事ニ管係シタ
ル事ニテ同社ヲ詞訟スルル能ハス之ヲ會社一
般ノ規則トス此ノ如キ社員ノ請求ハ反對ノ請
求ヲ起スル能ハス故ニ法律裁廳ニ於テハ雙方
ノ公理ヲ判決スルルナシ是ヲ以テ此ノ如キ詞
訟ヲ決スルハ全ク公平裁廳ノ管轄ニ歸スル所

トス

故ニ一社人ヨリ同社ノ者ニ對シテ其取受タル
金子或ハ會社シ賣典シタル物品又ハ全社ノ取
引ヲ以テ定メタル工事金子等ノ為メ其者ニ對
シテ詞訟ヲ起スル能ハス而シテ會社ノ一人同社
中ヨリ請求ス可キ金子ヲ其身ヨリ拂ヒタル事
ハ更ニ之ヲ論スルルナシ

又會社ノ一人為替證書ヲ認ムルニ社員各個ノ
姓名ヲ以テセス會社一般ノ名宛ヲ以テスルル
ハ會社ニ懸テ其金子ヲ請求スルル能ハス
然レ氏會社ノ一人同社ニ對シテ特ニ明約アル
片ハ詞訟ヲ起スルル能ハス即チ會社ノ一人同社ノ
一人ト明約シテ船貨積込ノ為メ各々擔當シテ

殘金ノ為ニ社人會社
ヲ詞訟スルノ論

金子或ハ貨物ヲ分配スルヲ決シ或ハ各自ニ
船貨運送ノ雜費ヲ拂フ可キヲ定ムルハ乃
チ破約ノ為メ迭ヒニ詞訟ヲ起スヲ得ルナリ
又會社ノ一人自用ノ為メ金子ヲ受取り偽テ之
ヲ全社ノ計算ト為スハ同社ヨリ其一人ニ對
シテ詞訟ヲ起スヲ得ルナリ又若シ一社人會
社ノ名ヲ售リ其實自用ノ為メ金子交換證書ヲ
認メ而メ同社ノ者之カ為メ他人ヨリ金子ノ還
附ヲ乞ハルハ乃チ同社ノ者ヨリ其一社人
ニ對シテ回復ノ詞訟ヲ起スヲ得ルナリ
凡ソ全社一統ノ計算ヲ立テ一社人ヨリ一社人
一拂フ可キ殘金アルハ縱令ヒ明約ナシトモ
法律ニ於テ其人殘金回復ノ詞訟ヲ起スヲ得

一人兩社ニ係ル
ノ論

得ルナリ

若シ教人ノ原告一會社ヲ成シ然ルニ其内ノ一人
今詞訟ヲ起サントスル他ノ會社ノ組合ニ加ハ
リ乃チ一人兩社ニ跨ルハ其人詞訟ヲ言通ス
能ハス是レ一人兩質ヲ具フルモノニシテ一人原
告トナリ被告トナルヲ能ハサルヲ以テナリ
人會社ニ加入スルトモ此詞訟ノ原因未タ社員
ト成ラサル前ノ事ニ管係スルハ其人同社ニ
對シテ詞訟ヲ起スノ權利アリ

三〇商社ノ一人約定ヲ取結ヒテ全社ノ責
任ト為スノ論

凡ソ社中ノ一人社事ニ于係シテ取結ヒタル約
定ハ縱令ヒ其事社則ニ遠ク所アリトモ此法律

詞訟ノ原因社員ト
ナラサル前ノ論

一般ノ規則

ニ於テハ則チ之ヲ全社ノ約定ト為スナリ故ニ
「フチツクス」氏ヨリ「クリストン」氏ニ對シタル詞
訟ニ於テ裁官「テインダ」氏之ヲ論シテ云ク余
今日ノ詞訟ヲ紫スルニ抑々被告約定ヲ取結ヒ
タル時ハ猶ホ他負ト物シク製藥會社ノ社員タ
リシヤ余ハ此一事ヲ以テ決セントス蓋シ高社
ノ法律ニ於テ一社一統ノ高事ニ管係セル負債
ハ社中一同ノ責任ニ歸スルヲ以テナリ是ハ唯
英國ノミニ限ルニ非ス歐羅巴全湯ノ法律ニシ
テ畢竟高社ノ廣ク天下ニ信用ヲ得テ以テ高道
ノ便宜ヲ謀リ殊トニ全社ノ高事ニ管係セル諸
約定ハ社員何レモ相互ヒニ取行フ可キ全社ノ代人ト
為スヲ以テ其代人ノ取結ヒタル約定ハ則チ全社ノ

責任ト為ス可キ道理アルヲ以テナリ
故ニ社中ノ一人全社ニ管係ナキ事件ニ就テ取
結ヒタル約定ニ至テハ之ヲ同社ノ責任ト為ス
可キハス然レモ全社職業中ノ事務ニ管係シテ
一社人ノ執行シタル事ハ元ヨリ全社ノ責任ト
為サルヲ得ス故ニ兩人馬販ノ會社ヲ結ヒ
兩人約定シテ某ノ馬ヲ保證シテ賣與ス可カラ
サルヲ決スルト雖モ馬ヲ賣ルニ臨シテ若シ
其一人買人ニ對シ請合テ其馬ヲ賣却スルハ
他ノ一人モ亦等シク之ヲ為メ請合責任ヲ免カ
ル、丁能ハス
又高社ノ人負トナル者ハ誰ニテモ一人ニテ為
替證書ヲ兼諾シ或ハ之ヲ認メ又ハ之ニ裏書シ

或ハ社名ニテ金子交換證書ヲ認メ、或ハ之ニ裏
書ヲ為シ又ハ高社ノ貨物ヲ賣リ或ハ其物ヲ請
合ヒ或ハ社中ノ為メニ金子ヲ請取り又ハ社中
へ拂フ可キ負債ヲ許ルシ又ハ社事ノ為メ出張
シテ旅費ヲ借り其他社事入用ノ為メ負債ヲ結
ヒ此外社中ノ事務ニ付キ不時必用ノ時社名ヲ
以テ取結ヒタル諸約定ニ於テハ凡テ全社ノ責
任ト為サシムルヲ得ルナリ此等ノ條件ニ於
テハ縱令ヒ一社人結約ノ時同社ノ人負中ニ内
分ノ社負アリテ未タ其一社人ノ名ヲ知ラサル
者アリト虽氏之ヲ論スルヲシ乃チ右一人ノ
所為ニ付キ均シク責任ヲ免カレ、丁能ハサル
ナリ

然レ凡全社ニ管係シタル事ニテ一人ノ所為ヲ
以テ全社ノ責任ニ及ホス事ヲ得ルノ權利ハ同
一ノ高道ニテ每ニ社中ニテ執行スル所ノ權利
ノミナ謂フナリ其他ノ事ニ至テハ均シク之ヲ
論スルヲ能ハス故ニ二人組合ノ代言人アリテ
内一人社名ヲ以テ認メタル金券ハ縱令ヒ兩人
連名ノ負債ノ為メニ興フルト虽氏之カ為ノ其
一人同社ニ責任ヲ及ホスノ黙権ヲ有スルヲナ
シ又二人組合ノ代言人アリテ其内ノ一人他人
ノ為メニ證書ヲ認メタル事件ニ付テハ他ノ一
人ニ其責任ヲ及ホス丁能ハス
又合本會社ハ一人ニテ全社ニ責任ヲ受シム可
キヤウ金券ヲ認ムルノ黙権ヲ有スルヲナシ

同法

社負典權ノ論

合本會社ノ支配人為替證書ヲ出シ又ハ金子交
換證書ヲ與フルノ權利ニ付テハ之ニ嚴密ニ論
スルヲ能ハス故ニ某ノ合本會社ノ議定ニ於テ
其支配人ハ會社ノ為メニ金高千磅ヨリ多カル
サル金子交換證書又ハ為替證書ヲ出スノ權ヲ
リトス然ルニ其支配人千磅ノ負債ヲ結ヒ之カ
為メ一紙ニテ千磅ノ證書ヲ出シタルニ非ス漸
次ニ追加シテ數葉ノ證書ヲ認メ全數ニテ都合
千磅ノ高ニ及ヒタル事ハ之ヲ論セサルヲ決
定セリ

凡リ高社ノ内一人社中ノ物品ヲ典物ト為シ而
メ當高ニ於テ之ヲ受取ルニ毫モ社人ト欺罔駟
合等ノ所為ナキハ則チ當高ハ全社ニ對シ貸
附セル金子ノ抵當トシテ其物品ヲ質物トシテ
保有スルノ權利アリ

一社人社名ヲ以テ取結
ヒタル約定ニ付全社
責任ノ論

凡ソ社中ノ内一人其同社ニ告スレテ他人ノ負
債ヲ請合ハンカ為メ社名ヲ以テ其請合書ニ署
名シタル事ハ全社一統ノ責任ニ歸ス可キ歟已
前ハ此事一ノ疑問トス「裁官」マンヒールド氏云
ク若シ社中ノ一人社名ヲ以テ請合書ヲ出ス片
ハ則チ全社ノ責任トス而メ「ガルドム」氏ノ詞訟
ニ於テ裁官「エルドム」氏此說ニ因テ決シタリ又
之ニ及シテ裁官「エレンボロ」氏陪審立會ノ詞
訟ヲ断シタル時凡ソ會社兩人ノ内一人社名ヲ
以テ請合書ニ署名シタル約定書ヲ出ス事ハ商
業ノ常事ニ非レハ則チ原告ヨリ社名ヲ以テ署

同
法
省

名スル有権ノ證ヲ出ス可キ事ニ決シタリ是レ
今日行ハル、所ノ規則トス故ニ近來ノ詞訟ニ
於テ代言人ニテ一社ヲ結ビ而メ其内ノ一人被
告ノ依頼ヲ受テ出獄ニナリタル詞訟金ヲ拂フ
可キ事ヲ相約シ乃チ社名ニテ其約定書ヲ認テ
被告ニ渡シタリ于時此詞訟ニ於テハ代言人官
業ノ常事ニ非ス且又社中從來ノ通習ニ依テ之
ヲ謀リタルノ證據ナキヲ以テ其約定ハ全社ノ
責任タラサル趣ニ決シタリ尔來此ノ如キ詞訟
ニ於テハ皆此例ニ由テ裁決セリ
然レモ亦社中ノ一人他人ニ對シテ事物ノ請合
ヲ為シ而メ其後同社ノ者口上ヲ以テ其事ヲ兼
諾スル欲或ハ請合ヲ為シタルニ兼テ同社ノ者

一社人仲濟ニ委託シテ
同社ノ責任ト為ス能
ハナル論

兼知ニテ既ニ社名ヲ用ヒタル先例アル欲又ハ
社中商業ノ常事ニ屬セル事務ニテ自然己ム
ヲ得ス社名ヲ以テ請合タル由ヲ證明スル欲又
ハ請合ヲ為サン事ヲ社中ニ通シタルニ社中ニ
テ不同意ナキ旨ヲ證スル欲ノ時ハ則チ全社一
統ノ責任トナラサルヲ得ス
現今ノ決定ニテ縱令ヒ社中ノ事務ヨリ起リタ
ル事件ト雖モ一社人獨斷ヲ以テ事ヲ仲濟ニ委
托スル所ハ之ヲ同社ト為スル能ハサルヲ例ト
ス蓋シ事ヲ仲濟ニ委託スル事ハ會社ノ常事ニ
非ルヲ以テナリ
一般ノ規則ニ於テハ縱令ヒ印約ヲ以テ取結ビ
タル會社ト雖モ他人ニ對シタル事件ニ付テハ

同法省

同社ノ者ヨリ印證ヲ以テ代理ノ權ヲ與ヘラレ
タルニ非サレハ他人ニ對シ印約ヲ執行シテ之
ヲ同社ノ責任ト為ス丁能ハサルナリ又社中ノ
一人其身ニ代テ印約ヲ執行ス可キ權ヲ同社ノ
者ニ與フルハ則チ印證ヲ以テ其權ヲ與ヘタ
ル事ニテ其人此ノ如キ有權ノ證ヲ出サ、ル可
カラス唯同社與權ノ承諾アルノミニテハ以テ
十分ト為ス可カラスナリ然レハ會社兩人管
係ノ事ニテ其一人同社ト列席ノ上即チ同社ノ
承諾ヲ以テ印約ヲ執行スルハ兩人ニテ認メ
タル正約ト為スナリ縱令ニ兩名一印タリ此之
ヲ論ルナシ

一人無權ノ約ヲ結
テ全社之ヲ承諾ス
ルノ論

任トナルニ似タリ然レハ事情ニ由テハ允未全
社ノ責任ト為ス可キ主意ニテ之ヲ取結ヒタル
歟爰ニ必ス終議ヲ生ス可キナリ故ニ其數名ニ
テ取結ヒタル約定ニテ自餘ノ社員モ共ニ責任
ヲ受可キ事ト為スハ允未約定雙方ノ主意ナリ
シ歟陪審宜シク此ニ注意セサル可カラス若シ
約事ノ主意全ク然ラサルハ數名ノ約定ヲ以
テ全社ノ責任ト為ス丁能ハサルナリ
社中ノ内一人ニテ約定ヲ取結ヒ而シテ其後同社
ニテ其約定ヲ承諾シ或ハ其事ヲ知リナカラス
シテ不同意ヲ演ヘサルハ乃チ其約定ヲ取結
ヒタル者全社ノ名ヲ以テ結約ス可キ權ヲ同社
ヨリ附與セラレタル確證ト為スナリ又一社人

同法省

社員欺罔論

ノ買物ハ縱令ニ最初結約ノ時ニハ其約定全社ノ責任トナル可キ歟將タ其人一己ノ約定タル可キ歟爰ニ疑フ可キ所アリト虽氏賣人ヨリ其物品ヲ引渡セル後高社ニテ之ヲ受取りタル如キ所為アル氏ハ其物品ハ則チ全社ニ對シテ賣與セル事トナルナリ然レ氏賣買結約ノ時其人未タ組合タラサル丁判然タル片ハ後日組合トナルト虽氏高社ニ對シテ賣與セル物品等ノ為メ其人ニ責任ヲ受シムル丁ナシ

一人ノ報告ヲ以テ全社ノ報告ト為ス能ハサル論

スル歟或ハ又理ニ於テ一社人ト取組タル高事ハ唯其人一己ノ為メニシテ全社ノ為メニ非サル片ハ其高事ニ付キ全社ニ對シテ必ス請求ヲ為ス丁能ハス

凡ソ事正実ニ出テサレハ一社人ハノ報告ヲ以テ暗ニ全社ヘノ報告ト為ス丁能ハサルナリ然レ氏高社組合兩人ノ内一人今一人ノ社負ヲ欺カントノ主意ニテ某ノ商店ニ行キ社用ノ為トシテ物品ヲ買取り直チニ之ヲ典物ト為シテ其金子ヲ自用ニ供シ而メ賣人ト其人トノ間ニ毫モ同腹馳合等ノ所為非サル片ハ即チ物品ハ高社ニ對シテ賣與セル事トナリ此事ヲ知ラサル他ノ社員モ均シク代價ノ責任ヲ免カル、丁

同法

能ハス又某ノ詞訟ニ於テ雇主元金ヲ出シ置テ
其割合金ヲ収取セシカ為ニ兩替人ヲ雇使シ然
ルニ其兩替社ノ内一人欺罔ヲ以テ右雇主ノ為
ニ其實受取ラサル割合金ヲ受取りタル分トシ
テ簿冊ニ登記シ雇主ノ沙汰次第之ヲ渡ス可キ
事ヲ約シタリ于時此詞訟ニ於テ裁官「ベ」氏
断シテ云ク右ノ金子ハ實ニ兩替社ニテ受取り
タル金子ニ之ナク全ク一社人ノ欺罔ニ因テ此
ノ如ク簿記スルモノト虽モ簿記ノ金子ニ就テ
ハ全社ノ責任タル可キ「丁」ニ決定セリ
凡ソ社中ノ一人欺罔ノ罪ヲ犯ス「ア」リト虽モ
毎時其確證ヲ出ス「丁」能ハス且ツ必スシモ毎ニ
其證拠ヲ要スルニ非サルナリ故ニ詞訟ニ於テ

ハ縱令ニ現證ナシト虽モ事情ヲ觀事理ヲ察シ
テ以テ欺罔ノ有無ヲ決定ス
「シ」ツ「フ」氏ヨリ「ウ」イルクス氏ニ對シタル詞訟ニ
於テ最初「ビ」シ「ヨ」ツ「プ」ラ「イ」ルクス兩人組合トナ
リテ高社ヲ結居タル時原告「シ」ツ「フ」氏ヨリ右兩
人ニ賣典セル麦酒ノ惣金アルヲ以テ此殘金ノ
為メ同氏ニ宛テ、為替ヲ取組ミタリ然ルニ其
後「ロ」ブ「ス」ンナル者モ右高社ニ加入タルヲ以テ
右ノ為替證書ニ「ハ」ビ「シ」ヨ「ツ」プ「ラ」イ「ル」クスノ兩
氏ト同様「ロ」ビ「ン」ス氏モ負債ノ責任ヲ受可キ事
ヲ討メタリ于時裁廳此事ヲ断シテ云ク抑々今
日ノ事件ヲ推定スルキハ理ニ於テ原告「シ」レ「ッ」
「フ」氏ハ「ビ」シ「ヨ」ツ「プ」ラ「イ」ルクス兩氏ノ別債ヲ以

同法省

一社人私借論

テ「ロビンス」氏ノ加ハリタル三名合従ノ元金ヲ
勤カス可キ權ヲキ事ヲ兼知アル可キ筈ニテ且
ツ「ロビンス」氏ハ共ニ兩氏ノ別債ヲ兼諾セシ證
拠アルニ非ス亦能ク事ノ次第ヲ知り居タルト
ノ廉モ之ヲキヲ以テ「ロビンス」氏ハ為替ノ債任
ヲ受可カラサル丁ニ決定セリ

一社人私名ヲ以テ其身一己ノ為メ金子ヲ借用
スルハハ縱令ヒ其金子ヲ社用ノ為メニ使用ス
ルト虽モ唯此廉ノミニテハ全社ノ負債ト為ス
可カラサルナリ故ニ甲乙丙ノ三名ハ元来一會
社ニ非サレモ其ノ一高事ニ付三人連名ノ約定
ヲ取結ヒテ相共ニ其事ニ着手シ而メ失費ハ之
ヲ三分シテ各々其一部ヲ負擔ス可キ事ニ定メ

タリ然ルニ乙氏一己ニテ銀行ヨリ借受タル金
子ニ付詞訟趣リタルニ甲氏ハ素ヨリ右負債ノ
事ヲ兼知致居リ且又乙氏ハ其金子ヲ三名組合
ノ高事ニ使用セリト虽モ甲氏ニ於テハ既ニ前
約通り自分責任タケノ金子ヲ拂ヒタルヲ以テ
其他乙氏ノ負債ニ付テハ更ニ責任ヲキ丁ニ決
定セリ

然レモ高社ノ内一人同社中ノ兼知許諾ヲ經テ
金主ヨリ金子ヲ借受テ之ヲ社用ニ供シ而メ之
カ為メ一社人自名ヲ以テ為替證書ヲ認メテ之
ヲ債主ニ渡シタリ然ルニ其後此證書ニ付債主
ヨリ高社ニ對シテ詞訟ヲ起シタル時「エ」レン
ボロ」氏之ヲ断シテ云ク縱令ヒ證書面ニテハ

同法省

社員報告論

右商社一同ノ責任ニ非スト虽凡債主ヨリハ高
社へ對シテノ貸金トシテ詞訟ヲ起スルヲ得ル
ナリ蓋シ全ク社用ノ為ニ貸與シタル金子ニ屬
スルヲ以テナリ又両商ニテ一社ヲ結ビ其内一
人社用ニ付金子才角ノ為メ為替證書ヲ取組ミ
又ハ之ニ裏書シテ同社ニ其責任ヲ受シムルノ
權利アルヲ以テ乃チ其人為替證書ニテ金子ヲ
才覺シ且ツ社名ヲ以テ之ニ裏書シ而テ後日其
金子ヲ社用ニ供スルハ同社モ均シク其金子
ノ責任ヲ免カレサルヲ決定ス
然レ凡繼令ヒ一社人ニ金子ヲ貸與スル者其一
社人社用ニ付金子入用ノ事ト思量シテ金子ヲ
貸與スルハ充ヨリ全社ノ責任ニ歸ス可キモ

ノトス然レ凡若シ其金子社事ニ管係セス更ニ
他用ニ供スルハ貸主ヨリ全社ニ懇テ之ヲ回
復スルヲ能ハス
繼令ヒ一社人社事ニ相違ナキ事件ニテ更ニ欺
罔ノ所為ナク他人ト約定ヲ取結フト虽凡若シ
結約ノ前兼テ債主ニテ其同社中ヨリ右一社人
ノ約定ハ決シテ社中ノ責任ヲササル明告ヲ受
ルハ其約定全社ノ責任トナラサルナリ蓋シ
一社人ノ所為ヲ以テ全社ノ責任ト為スノ權利
ハ唯情ヲ推測スルノ暗権ニシテ推測ノ情ハ明
白ノ實ニ如カス是ヲ以テ何人モ明告ヲ破リ其
社中ニ對シテ債主トナルヲ能ハサルナリ
又若シ社中ノ一社人ト約定ヲ取結フ者結約ノ

同法

時ニ右一社人ノ所為欺罔ニ出ラ縦令ヒ社名ヲ以テ其事ヲ約スルト虽凡実ハ一己ノ私利ニ涉リテ結約スル情ヲ知ル欲又ハ明ニ其情ヲ知ラサルモ推シテ其情ヲ察ス可キ理アル欲ノ所ハ其約定全社ノ責任トナラサルナリ縦令ヒ其人此情ヲ知ラサル所ハ全社ノ責任ニ歸ス可キ事ト虽凡既ニ情ヲ知ルニ於テハ他事ヲ論スル所ナシ

四〇高社ノ解散并ニ解散後取結ヒタル約定ノ論

凡ソ高社解散ノ方法五アリ第一社中ノ所為ニ依テ解散ス則チ社中互ヒノ同意談合ニ依テ解散シ而メ高社永続ノ定期ナキ所ハ各社人何時

ニテモ解散スル事ヲ得ルナリ第二天道ニ依テ解散ス則チ社人ノ死去スルヲ以テス第三法律ニ依テ解散ス則チ社人ノ分散ヲ以テス第四某ノ目的ヲ以テ某事ヲ取行ハシカ為ニ取結ヒタル會社竟ニ其事ヲ果ス丁能ハサルニ至テ解散ス第五社中ノ一人欺罔ノ所為ヲ行フ欲或ハ不品行ノ所為アルニ因リ公裁ヲ受ケ解散ス凡ソ社人退社スルニ世人ヲシテ此事ヲ確知セシメントスルニハ必ス其由ヲ新聞紙ニテ布告セサル可カラス而メ若シ一社人退社シテ其布告ヲ出サス依然トシテ猶ホ其姓名ヲ會社ニ存シ置ク所ハ右退社ノ報告ヲ受取ラズ亦其事ヲ知ラズシテ後日高社ト賣買ヲ取組タル者ハ猶

同法

ホ退社人ニ對シテ社人同様ノ遇待ヲ為スルヲ
得ルナリ爰ニ童児アリテエ」氏ト高社ヲ結ビ
社務ヲ扱来リ而メ成齡ニ滿タントスル少シク
前ニ其社ヲ退散セリ然ルニ其後一高買其商社
へ惣金ニテ某ノ物品ヲ賣興シタル事ニ付キテ
エ」氏ト同様童児ニ對シテ詞訟ヲ起シタリ此
高事ハ童児既ニ退社後ノ事ニシテ成齡後更ニ
テエ」氏ノ社中タル證據ナシト虽元来同人
二十一歳ニ及ヒタル時退社ノ事ヲ布告ス可キ
ノ處其義ナクシテ等閑ニ打過キタルハ畢竟同
氏ノ越度タルヲ以テ猶ホテエ」氏ト同様賣主
ニ對シテ責任ヲ受可キ」ニ決定セリ
然レハ退社人退社後同社ニテ退社前ニ同社ノ得

意ニ非サリシ人ト取結ヒタル約定ノ責任ヲ免
カレントスルニハ其身退社ノ事ニ付唯一般ノ
公告ヲ出スヲ以テ足レリトシ必スレモ各人一
ノ報告ヲ要セサルナリ縱令ヒ高社ニテ同人退
社前ノ社名ヲ以テ高事ヲ行フト虽元来同人ノ兼
知アルニ非サレハ毫モ其人ノ責任ニ及フ」
レ又内分ノ社人如何ノ次第アリテ退社スルハ
退社後其高社ト兼テ同人ノ社人タリシ事ヲ知
ラサリシ人ト取結ヒタル約定ニ付其責任ヲ免
カレントスルニハ退社ノ事ヲ報告スルニ及ハ
サルナリ
然レハ一社人退社後兼テ其高社ヲ信シテ屢々
高事ヲ取組タル人ト取結ヒタル約定ノ責任ヲ

免カレントスルニハ退社ノ事ニ付同人ヨリ明
告ヲ出シタル歟或ハ約定人同人退社ノ事ヲ兼
知シタル證據アル歟ニ非サレハ其人責任ヲ免
カル、了能ハサルナリ又内分ノ社人世ニ對
シテ其身組合タル事ヲ知ラハ、片ハ則チ此事
ヲ知リタル人ニ對シテハ其位置猶ホ真ノ社人
ト異ナル了ナシ

又若シ一社人退社セントスルノ報告ヲ出シテ後
其會社ニ金子ヲ貸與シタル債主ヨリ其人ヲ社
中同様ニ相手取ラントスルニハ當人退社ノ意
思ヲ投却シタルノ證據ヲ示スニ非サレハ其人
ナシテ社中同様ノ責任ヲ受シムル了能ハス
銀行會社ノ改革アル片ハ廻文ニテ一般ニ其由

ヲ同社ノ得意ニ報告セサル可カラズ但シ銀行
發行ノ證書ニ社人姓名ノ變化ヲ出ス事ハ乃チ
舊社人解散ノ報告ト為スニ足レリトス
又爰ニ一商社ノ船主ニ賣與セル物品ニ付同社
ノ舊社人ニ對シテ起シタル詞訟アリ然ルニ此
舊社人ハ其以前既ニ配當金ヲ得テ會社ヲ退キ
其物品賣買ノ時ニハ實ニ同社中ノ人ニ非ス且
ツ既ニ同社ノ帳簿ヨリ同人ノ姓名ヲ省キ亦兼
テ得意ノ商家ヘモ廻文ヲ以テ退社ノ趣ヲ報告
セリ故ニ同社人其後分散ノ時ニ當リ分散管理
人前書ノ船舶賣却ノ事ニ付テ同人ノ姓名ヲ用
ヒタル事アリト虽此廉ノミニテハ前書賣品
ノ代料ニ付キ同人社中ノ責任ヲ受可カラサル

了ニ決定セリ

會社解散シテ相當ノ布告ヲ出シタル後ハ其一
社人爲替ヲ取組ミ又ハ之ヲ兼諾シ或ハ金子ノ
證書ヲ認メタル事ニ付最早舊社人ナシテ責任
ヲ受シムル了能ハス縱令ヒ其證書ハ解社前ノ
日附タル所又ハ當人社事處置ノ推アル時ニ認
メタル所之ヲ論スル了シ然レモ若シ未タ解
社セサル内ニ取組タル金子ノ證書ニハ解社後
モ猶ホ其一社人社名ニテ之ニ裏書スル了ヲ得
而メ其裏書ヲ受テ之ヲ受取タル人ト裏書セル
人トノ間ニ欺罔駢合等ノ事ナキ片ハ即チ裏書
ヲ受タル者ヨリ書面ノ金子ヲ回復スル了ヲ得
ル了又解社後其残りタル社人ハ人眞ノ多ク

ニ拘ラズ舊社中ヨリ他人ニ貸附セル金子ニ付
縱令ヒ解社ノ箇條ニ其金子ハ他ノ社人欲別人
ヘ拂フ可キ取極アリト虽モ舊社名ヲ以テ之ヲ
受取り或ハ之カ爲メ詞訟ヲ起シ或ハ之ヲ免ス
了ヲ得ル了又兩人ニテ一社ヲ結ヒ其結社中
同社ニテ他人ト取結ヒタル約定ニ付解社ノ後
兩人ノ内一人ニテ兼引セル事ハ即チ兩人兼知
ノ證據ト爲スナリ
又一高社ヨリ某ノ事件ニ付テ詞訟ヲ起シ居ル
ニ同社中ノ一人退社ノ事ニ付證書ヲ認メテ右
ノ詞訟ニ於テハ同人退社後モ猶ホ以前ノ如ク
其殘社人同様同人ノ名目ヲ使用スル推アル可
キ事ヲ書記シ而メ同人未タ退社セサル前ニ全

同法

社名ニテ一旦其詞訟ヲ裁許ヲ受タリ然ルニ此
時残社中ヨリ被告ニ某ノ金高ヲ拂フ事ニナリ
タルヲ以テ残社人並ニ退社人ノ名ニテ認メタ
ル金子交換證書ヲ被告ニ渡セル事ハ前書退社
證書ノ約定ニ據テ之ヲ論スレハ右残社人斯ノ
如キ金子ノ證書ヲ出ス可キ権アル事ニ決定セ
リ

司
法
課
印

曾氏約定法卷之九

司
法
課
印

司
法
課
印

目次

第三篇

約定ノ主件ヲ論

第一章

真有物ノ約定

真有物購求ノ論

賣約誤記ノ論

數號ノ土地購求ノ論

一地面ニテ土地賣與ノ論

一土地賣買ノ破約ニ付賣主ヨリ買主ニ對シ

テ詞訟ヲ起スノ論

右一般ノ規則

買主ヨリ賣主ニ對シテ詞訟ヲ起スノ論
右一般ノ規則

二戸主ト寄住人トノ約定

家宅ヲ領シ或ハ之ヲ引渡ス等ノ論

證書直チノ引渡ヲ為スノ論

言語ノ式様ヲ要セサルノ論

家宅引渡ノ論

寄住人永久ノ修繕ニ付責任ヲ受サルノ論

修繕ノ約定ニテ家宅ヲ保チ寄住人ノ責任

トナルノ論

修繕ノ約定ニ付損害償却ノ論

家宅ノ修理ヲ為サ、ル為メ借主ヨリ又借

主ニ對シテ損害ヲ討ムルノ論

戸主修繕責任ノ論

土地ノ習慣ニ從テ耕耘スル黙約ノ論

三戸主ト寄住人トノ間ニ付租税ノ論

右約定ナキ時ノ論

約定アル時ノ論

四退去ノ報告ノ論

退去ノ報告ヲ要スルノ論

退去ノ報告ヲ要セサルノ論

報告ハ誰ヨリ發ス可キカノ論

報告ハ誰ニ宛テ、發ス可キカノ論

報告満期ノ論

報告ノ式様

退去時日ノ論

報告効驗ノ論

報告無効ニ屬スルノ論

五家宅附着品ノ論

右一般ノ規則

辭義ノ論

附着品トハ何ヲ名指ス可キカノ論

運遷權利ノ論

附着品運遷ノ論

戸主ト寄住人トノ管係ニ付附着品ノ論

借期ノ性質ニ拘ラサルノ論

附着品ハ期限内ニ運遷ス可キノ論

右約定ナキ時ノ論

約定アル時ノ論

退去スル寄住人ト入来ル寄住人トノ間ニ

管係スル附着品ノ論

入来ノ寄住人評價ノ物件如何ノ論

六前播ノ收穫耕作等ノ論

耕耘報償權利ノ論

稻藁枯草運搬ノ論

習慣明約ニ如カサルノ論

目次畢

第三篇

約定ノ主件ヲ論ス

凡ソ約ヲ立ル人其之ヲ取結ノ主件ニ付テハ頗
 ル廣シ實ニ法律ニ於テハ元未結約ノ自由ニ制
 限ナキ事ニ屬スレハ萬約毫モ不正ヲ以テ論ス
 ルヲナシ而ノ約定ハ過去現在未來ノ三種ニ區
 別シ亦貨物ノ登記權利義務ニ干係ス縱令ヒ約
 スル所ノ主件ニ至テハ何程微事輕件或ハ戲誕
 ニ涉ルト雖氏必ス之ヲ以テ約定定ヲ害スルノ
 原由ト為ス可カテサルナリ

第一章

法律ニ於テ購求
不能カノ論

真有物ノ約定

一真有物購求ノ約定

エトワード、シツテン¹氏云ク凡ソ真有物ヲ購求
スル¹能ハサルノ不能カハ法律公理ニ於テ之
ヲ三種ニ區別ス第一完全第二保持スル¹能ハ
サルモノ第三事情ニ從テ購求スル¹得ルモノ
右第一種ニ屬スルモノハ僧領ノ住民僧領監督
トス而¹此監督タルモノハ倫敦ノ外習慣法ニ
於テ此名義ヲ以テ土地ヲ購求スル¹能ハス蓋
シ倫敦ニテハ僧領監督及¹究民監督ハ即チ究
民住居ノ為¹或ハ工場建築ノ為ニ家屋土地
ヲ購求スル¹ノ權利アリ現今究民ノ監護人ハ乃
チ其監護スル¹寺領ニ於テ土地ヲ得ル¹ノ權利アリ

第二種ニ屬スルモノハ習慣法ニ於テ外國人及
キ重罪ヲ犯シタル者或ハ國王ノ免許若クハ議
院ノ決議ニ依ラサレハ土地ヲ保持スル¹能ハ
サル者トス然レ¹現今ノ定律ニ於テ外友ハ二
十一年以内ノ期限ヲ以テ寄寓營業ノ為¹土地
ヲ得ル¹ノ權利アリ而¹其權利國民ト異ナル¹ト
ナシ
第三種ニ屬スルモノハ時ノ事情ニ從テノ¹土
地ヲ購求スル¹得ルモノニシテ即チ童兒嫁
婦ノ類ヲ謂フ而¹童兒ハ成齡ニ至テ土地ノ購
求ノ童約ヲ改定シ或ハ投棄スル¹得¹又嫁婦
ハ婚嫁中其夫土地ノ購求ヲ投棄シ或ハ自ラ投

棄スルヲ得ルナリ然レ氏嫁婦其夫ノ命ニ因
テ土地ヲ購求スルハ夫其後此約ヲ変シテ其
購求ヲ虚無ト為スヲ能ハサルナリ
又此第三種中ニハ狂人白痴ヲ算入ス此狂人白
痴ハ縱令ニ當人本性ニ回復スルト虽レ土地ノ
購求ヲ投棄スルヲ能ハス然レ氏若シ狂人白痴
其狂乱無智中死去シ而ノ賣主ニ於テ土地購求
ノ時買主既ニ狂乱無智タルヲ承知シ賣主即
チ其機ニ乘シテ事ヲ逞フシ利ヲ謀リタル如キ
ハ狂人白痴ノ相續人ニテ此購求ヲ虚無ト為ス
ヲ得ルナリ又狂人本心回復ノ後ニ死スルト
虽レ本人預メ購求ノ約ヲ改定シタルニ非レ
ハ相續人ニ於テ其約ヲ虚無ト為スヲ得ル

ナリ
以上掲示スル不能カノ規則ノ外又爰ニ公理ニ
於テ定ムル規則アリ即チ此規則ハ人異様ノ性
格ヲ備ルニ因リ土地購求ノ正約ヲ立ツルヲ
制限スルモノニシテ此種類ニ属スル者ハ代人
代言人賣主ニ代テ事ヲ理ムル時及ヒ分散受托
人競賣人分散委負債主等分散人ノ家資賣却ノ
議ニ與カリタル時其他分散人ノ處置ニ與カリ
タル者受托人及ヒ賣却ノ委託ヲ受タル典舖此
等ハ皆土地購求ノ正約ヲ立ルヲ能ハサルナリ
然レ氏公理裁廳ニ於テハ約原ノ不公平アルモ
猶ホ土地賣却ノ約定ヲ遂ケレムルヲアリ
凡ソ土地賣却ノ約定ニ於テ其約定中誤記アル

ト虽氏以テ其約定ヲ害セサルナリ然レ氏誤記
アレハ必ス賣主若シクハ買主ニ於テ賠償ヲ為
サ、ル可カラズ之ヲ一般ノ規則ト人但シ其誤
記元未本人ノ故意欺罔ニ出レハ此規則ヲ以
テ論スルヲ能ハス
又約定ノ章句ニ拘ラス買人ニ對シテ拂フ可キ
賠償ノ高ヲ算定スルヲ能ハサルハ縱令ニ誤
記偶然ニ出ルト虽氏其約定ヲ破毀ス可キトニ
決定ス

約定ノ誤記ハ縱令ニ欺罔ニ出テサルト虽氏誤
記ノ事約定ノ要目主件ニ關係シ實ニ此ノ如キ
誤記アラサレハ買主ニ於テ最初ヨリ約定ヲ取
結フ可カラザレト推測スルノ理アルハ其
約定全ク虚無ニ属シ買主之カ為ノ賠償ヲ討ム
ルニ及ハサルナリ

然レ氏競賣ノ約定ニ於テ土地ノ賣與ニ付其約
定中ニ若干坪ノ土地ヲ記載シ而シテ其土地ハ縱
令ニ坪数ニ多少ノ差違アル氏雙方共賠償平均
計算ヲ立テス乃チ約定中ニ記載スル坪数ヲ以
テ賣買ヲ為ス可キトテ定ムルハ地券面ノ坪
数約定ノ高ヨリ少シク不足スルト虽氏之カ為
メ買人ヨリ地坪相違ノ廉ヲ以テ約定ニ違フト
能ハサルナリ

爰ニ滿八年間土地賣與ノ約定アリ然レニ約定
ノ日附ニ由ルハ七年七月ノ期限ニ當リ裁
官、エ、ル、レ、ン、ホ、ロ、ノ、氏、此、詞、訟、ヲ、断、レ、テ、云、ク、抑、々

此約定ニ因レハ元来双方共一日モ違ハス満八
年ノ期限ヲ以テ定メタルニ非ス然レハ此約定
ハ有理當然ノ解釋ヲ以テシ乃チ約定ノ期限ハ
地價ヲ拂ヒタル日ヨリ起算シテ此上半ケ年ヲ
算入スルヲ以テ當理トス繼令ニ偶然ニ出ルモ
元来約定主件ノ誤記ハ之ヲ虚無ト為スト虽レ
今日ノ事件ニ於テ被告ハ實ニ土地購求ノ事ヲ
許諾シタルニアリ故ニ即チ此ノ如ク決定セリ
凡ソ競賣ニ於テ数字ノ土地ヲ賣却スルニ一人
ニテ其土地ヲ購求スルハ一ニ其約定ヲ異ニ
スル歟或ハ数字一約定ヲ以テスル歟未タ決定
セサル所トス然レハ法律ニ於テハ各地各約ヲ
以テスルヲ當理トス

競賣或ハ私約ニ於テ一地面ノ土地ヲ賣却スル
ハ賣主ニ於テ全地一通ノ地卷ヲ所持スルニ
非サレハ法律ニ於テ約定ヲ遂ルヲ能ハス而ノ
公理裁廳ニ於テハ約定ノ全情ヲ斟酌シ賣約中
主眼ノ一部ヲ取テ他部ノ賠償ヲ決スルト虽レ
法律ニ於テハ賣主全約ヲ以テスルニ若シ全地
一通ノ地券ヲ造ルヲ能ハサルハ即チ其内一
部ノ地ヲ渡シテ買主ヨリ買價ノ一部ヲ回復ス
ルヲ能ハス買主モ亦一部ノ買價ヲ拂テ一部ノ
地ヲ所有スルヲ能ハス蓋シ其一部ノ為ノニ他
部ノ約定ヲ害フヲ以テナリ
然レハ土地ヲ一地面或ハ數部ニ分チテ賣却セ
ントスルニ賣主其内ノ一部他部ト連続混淆シ

法
省

賣主ヨリ買主ニ
對シテ詞訟ヲ起ス
ノ論

一般ノ規則

テ一地面ノ地券ヲ作レテ能ハサルハ買主ニ
於テ隨意ニ賣約ヲ破毀スルヲ得ルナリ

二土地賣買ノ破約ニ付賣主ヨリ買主ニ對
シテ詞訟ヲ起スノ論

凡ソ土地ノ賣主タル者約定ノ如ク土地ヲ賣却
セントスルハ先ツ買主ニ對シテ所持ノ地券
ヲ見示スルノミナラス既ニ約定ノ如ク土地引
渡ノ用意アルニ非サレハ買主ニ對シテ破約ノ
為メ詞訟ヲ起スヲ能ハス蓋シ賣主ニ於テ所持
ノ土地ヲ賣却セント欲セハ必ス先ツ約定ノ如
ク賣意アル明證ヲ示サ、ルヲ得サレハナリ
若シ土地ノ買約未決ニシテ例ハ別人ノ承諾
ヲ得テ後テ決定スルカ如キハ賣主約定ノ如ク

手ヲ尽シタル證據ヲ示スニ非サレハ買主ニ對
シテ其買約ヲ遂ケシムルヲ能ハス

然レハ若シ買主ヨリ買價ヲ拂フノ約定アリト
雖ハ更ニ土地引渡ノ事ニ管係セサルハ賣主

ヨリ買價ノ事ヲ説述スルニ土地引渡ノ用意ア
ル證據ヲ演ルニ及ハサルナリ

此ノ如キ約定ニ於テハ賣人ヨリ實ニ土地ノ引
渡ヲ欲シタル趣ヲ證明スルニ及ハサルナリ然

レハ約定中明語アリテ賣人土地引渡ノ用意ア
ル可キ意義判然タルハ又此規則ヲ以テ論ス

ルヲ能ハサルナリ蓋シ引渡レ用意ノ意義判然
タル時ハ必ス賣人ヨリ土地ノ引渡ヲ欲シタル

欲又ハ引渡ヲ欲スルト雖ハ買人ヨリ之ヲ許ル

去
者

買人ヨリ賣人ニ
對シテ詞訟ヲ
起スノ論
一般ノ規則

レタル趣ヲ證明セサル可カラス
凡ソ賣人約定後相當ノ時間ニ土地所有ノ正證
ヲ示サス或ハ引渡ヲ為スヲ欲セサルハ則
チ買人ヨリ競賣人或ハ賣人ニ對シテ約定金ヲ
回復スルノ詞訟ヲ起スヲ得但シ競賣人ニ對
スルハ其失費ト利息トヲ回復スルヲ能ハス
然レ其本主ニ對スルハ失費ト利息ト合セ
テ之ヲ回復スルヲ得時トシテハ破約ノ為メ
損失ノ償モ亦回復スルノ詞訟ヲ起スヲ得ル
ナリ然レ其買人ヨリ此ノ如キ失費ヲ回復セン
トスルニハ必スス被告ニ於テ賣典ノ正約ヲ為
シタル確證ヲ示サ、ル可カラス且ツ賣約ハ必
ス欺罔律ニ從テ署名シタルモノニ非サレハ買

人ヨリ此ノ如キ失費ヲ回復スルヲ能ハサルナ
リ
又若シ買人ノ存命中賣約破断トナリ而メ之カ
為メ買人ノ私産ニ損失ヲ生シタルハ即チ買
人ノ代人ニテ其詞訟ヲ言通スヲ得ルナリ

二 戸主ト寄住人トノ約定

一家宅讓與ノ論

一 凡ソ土地引渡ノ證書ハ即時ノ引渡ニ属スル
典或ハ宅地未未ノ貸渡ニ歸スル歟夫レ之ヲ決
セントスルニハ則チ證書中ニ用ニル雙方ノ言
語ニ因テ以テ決定ス若シ證書中ノ言語疑義ア
ルハ兼テ證書ニ從テ雙方執行シタル所為ヲ
以テ其意ヲ判決スルノ一助トス然レ其此說猶

證書直チ引渡
ヲ為スノ論

ホ未タ疑議ヲ免カレサルナリ
即時ノ引渡ヲ為サントスルニハ證書中ニ用エ
ル言語ニ拘ラサルナリ即時ノ引渡ヲ為スニ一
人土地ヲ手離シ一人之ヲ定期間ニ受領スルノ
意義判然タレハ則チ用エル所ノ言語何タルモ
之ヲ問ハサルナリ既ニ此意義ノ語ヲ用エルキ
ハ約定ノ式様何タルモ亦更ニ論スルナク法
律ニ於テ断然即時ノ引渡ヲ示スニ足レリトス
故ニ約定中甲氏ニ家宅ヲ有スルヲ許ルシ或ハ
甲氏其家屋ニ住ス可キカ又ハ約定中之ニ等シ
キ意義ノ言語アルキハ則チ書中特ニ反對ノ意
義ヲ證スル言語アルニアラサレハ家宅即時ノ引
渡ヲ以テ決定ス

甲氏ニテ家屋ニ修理ヲ加ヘ或ハ修飾ヲ為ス可
キ等ノ約定ヲ以テ次ノ「ミカエ」ノ祭日ヨ
リ即チ同氏ニ家宅ヲ貸附ス可キ有印ノ約定ハ
實際ノ引渡ト為スナリ又甲ト乙ト約ヲ立テ甲
ハ七年十四年若クハ廿一年間其身ノ望ニ隨テ
毎年或ハ四期ニ某ノ期日ヨリ始メトシテ家賃
ヲ拂フ可キヲ決スルキハ則チ通例ノ引渡ト
為スナリ而ノ甲氏ハ貸附スルヲ諾シ乙氏ハ
之ヲ受領スルヲ了スルカ如キハ則チ自ラ即
時引渡ノ言語ト為スナリ
又甲氏貸家證書ヲ以テ某ノ期限間若干ノ借料
ヲ以テ乙氏ニ家宅ヲ貸附スルヲ約シ而ノ甲
氏ヨリ其證書ヲ渡ス迄テハ百事證書通り相守

司
法
省

ル可キトテ決ムルカ如キハ貸家證書ニシテ約
定書トハ為サ、ルナリ
若シ約定中即時引渡ノ意義アルキハ未未ノ貸
家證書ノ取極ヲ以テスルト雖モ是ハ唯正格ノ
保證ヲ示スノミニテ敢テ此證書ニ拘ラサルナ
リ
然レモ此ノ如キモハ其約定即時引渡ノ効驗ア
ルニ拘ラス公理裁廳ニ於テハ必ス正格ノ貸家
證書ヲ與ヘシムルトニ決定ス
然レモ縱令ニ約定中即今引渡ノ貸家證書タル
正理適當ノ言語ヲ用エルト雖モ約定ノ全文ニ
因ルモハ雙方ノ意全ク然ラス更ニ未未ノ貸家
證書タルト判然タルモハ法律ニ於テ其言語ヲ

破テ雙方ノ意思ヲ害セサルナリ
三第八世顯理ノ代ニ至ル迄テ土地一般ノ貸附
ニテ借主之ヲ受領スル時更ニ其期限ヲ定ムサ
レモハ雙方隨意ノ貸借ニテ何時モ意ニ隨テ其
期ヲ了ルトニ決定ス近世ニ至テ此規則漸ク變化
シ縱令ニ土地一般ノ貸附ハ隨意ニ土地ヲ貸借
スルトニ決スルト雖モ若シ貸主ニテ年々借料
ヲ收メ或ハ一年ニ平分シタル借料ヲ受取ルモ
ハ則チ裁廳ニ於テハ年々借受ノトニ決定ス
然レモ爰ニ隨意借受ノ明約アルモハ縱令ニ借
料ハ年々四期ニ拂フ可キ取極ニテ借主一年以
上ノ借料ヲ拂テ領取スルモ既ニ其明約アルモ
ハ年々ノ借受ヲ以テ論セサルナリ

實地一般ノ貸附ト借料一般ノ償却トハ特ニ朋
約アラサレハ年々借料ヲ受領スルノ證據トス
ルノ規則アリト雖氏此規則ハ一時寓居ノ場合
ニ適セサルナリ

爰ニ甲氏家屋ノ一室ヲ乙氏ニ貸附スルヲ約
シ借料ハ半年毎ニ拂フ可キ約定ニテ即チ乙氏
ハ一千八百二十二年ノ「ミカエレマス」ノ祭日ニ
其室ヲ領シ翌一千八百二十三年ノ「レ」
ノ祭日ニ至テ即チ半年分ノ借料ヲ拂ヒタリ然
ルニ此年ノ五月ニ至テ乙氏ハ甲氏ニ沙汰ナク
シテ其室ヲ去リタリ然レ氏一千八百二十三年
ノ「ミカエレマス」ニ至テ猶又半年分ヲ拂ヒ一千
八百二十四年ノ「レ」
「レ」ニハ乙氏最早拂フ

「レ」ヲ欲セス干時裁聽此詞訟ヲ断シテ云ク此詞
訟ノ全情ヲ察スルニ年々借料ヲ受領スルノ意
義ヲ含蓄セサル「レ」ニ決定セリ
又一年家屋若干ノ割合ヲ以テ室房ヲ借領ス可
キ約定ハ年々ノ借領ト為サ、ルナリ
若シ約定ノ主意表テニ年々借受ノ「レ」ヲ示スト
雖氏其突然ヲサルハ借主其借受タル土地ノ
土ヲ工用ニ供スル「レ」ヲ得ス例ハ地ヲ掘テ煉
瓦製造ニ用ユルカ如シ
然レ氏土地ノ借受ケ元耒耕耘收穫ノ為ニテ
例ハ二年ニシテ始メテ成熟ス可キモノヲ培
養センカ為メニ借領スル約定ノ如キハ必ス言
ハスレテ二年ノ貸借タル約定ヲ以テ解釋ス

一年ニ限ラス猶ホ続テ年々借受ケ或ハ一年借
受テ後テ年々借受ク可キ約定ハ必ス二年間ハ
相違ナク借受ク可キ約定ヲ以テ決定ス然レ氏
此ノ如キ約定ハ近世ノ例ニ從ヘハ雙方共違存
ナキ間ハ年々貸借ノ取極ヲ以テ論ムルト虽氏
約定中二年間借受ノ明語アルニ非サレハ初年
未款或ハ翌年ノ末ニ至テ約定全ク了リタルト
ト決定ス

又若シ三年六年九年ノ如キ順次定数ノ貸借ヲ
以テスルハ此定期外ニ非サレハ何レニ決ス
ル氏借主相当ノ報告ヲ以テ其期ヲ撰定スル
ヲ得ルナリ
又年々ノ借受トナルトハ時ノ模様ニ從テ其意

ヲ決スルトアリ故ニ借主死シテ或人其貸地證
書ヲ讓受ケ而シ地主其讓受タル人ヨリ二年間
前借主ヨリ受取タルト同様證書ノ如ク借料ノ
拂ヲ受取ルハ地主ト其讓受タル人ト暗ニ年
々借受ノ借主タル約定アルトニ決定ス
凡ソ三年以上土地貸借ノ約定ハ印約ニ非サレ
ハ虚無ニ帰ス可キ筈ト虽氏借主既ニ借料ヲ拂
テ土地ヲ領スルハ敢テ印約ニ非レモ亦全ク
虚シキニ帰セサルナリ
爰ニ借主アリ甲乙ノ兩氏ト約定シテ家屋ヲ領
シ而シ兩氏ニ借料ヲ拂未リシ處其後甲ハ全ク
家屋ヲ乙氏ニ讓リタルヲ以テ其後借主ハ乙一
人ニ借料ヲ拂ヒ續テ其家屋ヲ領シ居タリ于時

此詞訟ニ於テハ別ニ反對ノ證據アラサレハ則チ借主ハ最初兩氏ノ家屋ヲ借受タル約定ヲ以テ後チ乙一人ノ家屋トナリタル時ニ暗ニ前約ヲ以テ兼知シタルニ決定ス
借受ノ期限満チテ後チ借主猶ホ依然トシテ家屋ヲ領シ而シテ貸主借料ヲ受取ル歟或ハ其借主タルトノ所為ヲ承認シタル舉動アルハ則チ続テ年々借受ノ黙約アルニ決定ス此ノ如キハ爰ニ反對ノ證據アルニ非サレハ借期ハ舊約ニ從テ決定シ一年ノ借受ヲ以テ論セサルナリ故ニ家屋修理ノ事ヲ登記シタル借家證書ノ期限満チタル時借主口上ヲ以テ一層高價ノ借料ヲ拂テ其家ニ寓居スルヲ約定シ而シテ雙方此

新借ノ期限ニ就テ特ニ新約ヲ立テサルハ則チ新約ノ位置曰約ニ異ナルトナシ故ニ借主火災ニ罹リテ家屋ヲ亡フハ必ス再築ノ責任ヲ免カレサルニ決定ス又若シ被告口約ヲ以テ三年三季ノ期限ニテ家屋借受ノ約定ヲ結ビ而シテ三年一期寓居シテ後チ其家ヲ退クハ則チ残季借領ノ約ヲ続キタルノ證據トス蓋シ借主三年ヲ過キテ後猶ホ其家ニ止リタルヲ以テナシ貸主ヨリ借主ニ對シテ満期後退去ス可ク若シ退去セサレハ定額ノ借料ヲ拂フ可キ趣ヲ報シタルニ借主猶ホ続テ其家ニ在ルハ借料ヲ拂フ可キ約定アルヲ以テ決定ス而シテ借主其報告ヲ受テ後異存ヲ述ヘス猶ホ続テ其家ヲ領ス

ルハ以後統テ借主タルノ黙約アルトニ決定
シ即チ借主前金ニテ借料ヲ拂ハサルトテ得ス
然レ氏借領中借主ヨリ借料ヲ増スノ約定ヲ為
スノミテハ新借ノ約定アリト為ササルナリ
又組合ノ借主ハ満期後統テ借領スルニ兼テ組
合ノ同意アルニ非サレハ縱令ニ統テ領スル氏
其組合ニ責任ヲ受レハルト能ハス
又年々ノ借受タルトテ推定スル雙方ノ趣意ヲ
答辨スルニハ借主満期後猶ホ統領シテ乃チ借
料ヲ拂居タルトテ證明セサル可カラス
人未未ノ貸家證書ニテ家宅ヲ領シ而メ後チ借
主一年ノ借料ヲ拂フ欲或ハ一年分ノ内幾部ヲ
拂フ欲又ハ之ヲ拂フ可キトテ承諾スル欲ハ

ハ則チ約定全期ノ借主トナルナリ又若シ人未
未ノ約定ヲ執行シテ後チ家宅ヲ領シ或ハ貸主
其借主ヨリ借料ヲ受取ルハ縱令ニ其人未未
明ニ借主ト認メタルニ非ス又ハ其人自ラ借料
ヲ拂ハスト虽氏土地ノ使用借領ニ付キ通算ニ
至テ借料ノ詞訟ヲ受サレトテ得ス又被告若干
ノ借料ヲ以テ原告ヨリ家宅ヲ九月間借受ケ而
メ此期限ノ末ニ至リタテハ被告ノ都合次第猶
ホ数年ノ貸家證書ヲ取極ハ可キ約定ヲ結ビシ
リ然レニ未未九月ニ満タサル前被告六月間ノ
期限ヲ以テ其家ヲ他ノ借主ニ貸附セリ此又借
主ハ實ニ六月間其家ニ居住シタルモノナリ干
時此詞訟ニ於テハ九月満期ヨリ一年ノ末ニ至

テ家宅借領使用ノ為ノ一年分借料ノ詞訟ニ付
テ被告其責任ヲ免カレサルコトニ決定セリ
年々借受ノ事ハ約定満期ニ至レハ特ニ退去ノ
報告ヲ為サ、レ氏既ニ借期了リタルコトニ決定
ス
借主現在借受ノ書約ヲ結フト虽氏之ニ署名セ
ムレテ家宅ヲ領スルキハ則テ約定ノ期限内借
受レトヲ得ルナリ然レ氏地主若シ約定ノ要件
中ニ遂ケサル所アルキハ陪審ニ於テ約定中登
記ノ金額ニ拘ラス家宅ノ真價ニ因テ借用ノ詞
訟ヲ決定ス
若シ人家宅買取ノ約定ヲ以テ其宅ヲ領シ然ル
ニ所有ノ權利不全ノ譯ヨリ遂ニ約定通り遂ル

コト能ハサルキハ賣人ヨリ其人ニ對シ家宅使用
ノ詞訟ヲ起シテ之ヲ言通スト能ハス然レ氏人
若シ如此キ事情ニテ家宅ヲ領取シ約定満期後
続テ猶ホ其家ヲ領用スルキハ賣人ヨリ領用ノ
詞訟ヲ受テ其責任ヲ免カレ、コト能ハス
若シ又一時賣渡ノ約定中買人ヨリ賣人ニ對シ
テ家宅領用ノ時ヨリ買取成就ノ時迄テ年々若
干ノ割合ヲ以テ買價ヲ拂フ可キコトヲ載スルキ
ハ雙方ノ間戸主ト寄住人トノ干係ヲ以テ論定
ス
若シ典主質入證書ヲ記シテ其内ニ自テ質入シ
タル家宅ノ寄住人トナリ本金皆済ニ至レ迄テ
年々半年毎ニ借料ヲ拂フ可キ事トシ而シ典主

同
法
第
百
一
十
七
條

寄住人永久修繕
ニ付責任ヲ受ケル論

其儘続テ家宅ヲ領用スルハ即チ典主ト當商
トノ間ハ戸主ト寄住人トノ干係ヲ以テ論定ス
ニ寄住人家宅修繕ニ付責任ヲ受ケルノ論
凡ソ年々ノ寄住人ハ特ニ戸主ト明約アルニ非
サレハ廢頽ノ家宅ニ新屋ヲ葺クカ如キ永久堅
牢ノ修理ヲ加フルニ及ハス唯一通り寄住人相
當ノ修理ヲ為スノ責任アルノミ例ハ家宅ノ
荒蕪衰頽ヲ露ハサレ様其身ノ自ラ毀損スル
戸扉窓牖等ヲ修ムルニ過キス而シテ此ノ如キ寄
住人ハ素ヨリ其身ノ怠慢ニ因テ生スル家宅ノ
損害ニノミ責任ヲ受ケルニテ火災或ハ年数等
ヨリ生スル損害ニ至テハ責任ヲ受ケルナリ故
ニ年々ノ寄住人ハ屋内ニ風濕ヲ密塞スルカ如

キ寄住人相當ノ修理ヲ加ヘサルニテ得ス若シ
寄住人相當ノ注意ヲ怠リ之カ為ノ後日果シテ
家宅ノ大破ヲ招クカ如キハ必ス其身ノ責任ヲ
ラサルニテ得ス故ニ縱令ニ天災ニモセヨ瓦屋
損シタルニ寄住人之ヲ等閑ニ差措キ其損場ヨ
リ濕氣ヲ導キテ遂ニ家宅大破ニ及ヒタルニ判
然タルハ蓋シ其人ノ責任ニ歸セサルニテ得
ス然レモ約定中被告ヨリ原告ニ對シ家宅ノ寄
住人ト成リタルヲ以テ退去スル時ハ原告ノ最
初家宅ヲ建築セシ時ノ如ク保存シテ修理ヲ加
フ可キ事ヲ約スルハ元ヨリ其趣意立タサル
ヲ以テ全ク戸主ト寄住人トノ干係ヲ以テ論ス
可カラサルナリ

同
法
去
省

修繕ノ約定ニテ家
宅ヲ保テ寄住人
責任トナルノ論

若シ又寄住人明ニ修繕スルヲ約スルハ必
ス爰ニ家宅ヲ使用スルニ寄住人ニ均シキ方法
ヲ以テスルノ黙約アリト為サ、ルナリ
借主借家證書ヲ執行シ然レハ貸主之ヲ執行セ
ス而シテ借主満期間其家宅ヲ借用シタル時ハ借
主修繕ノ約定ヲ以テ責任ヲ受可キ歟此論未
決セサル所トス

人家宅ヲ借用シ借期満テ後テ良善ノ修理ヲ加
ヘテ還附ス可キ約定ヲ結フハ寄住人必ス整
善ノ修理ヲ為サ、ルヲ得ス縱令ニ家宅修理
ノ程度ハ自然家宅ノ年數種類ニ管係スルモノ
ト雖氏既ニ此ノ如キ約定アルハ、ハ、
テ加フルレトテ准ルサ、ルナリ元ヨリ寄住人家

宅ヲ修理スルノ約定アルハ其家宅ハ縱令ニ
火災或ハ他難ニ因テ破壊スルト雖氏其人必ス
修理ノ責任ヲ免カル、ト能ハス

然レハ最初戸主ヨリ家宅ヲ修理ス可キ約定ヲ
立ルハ元ヨリ戸主ニテ修理ヲ加フルヲ以テ
當理トス是ヲ以テ縱令ニ約定中家宅ヲ約定執
行ノ前日ヨリ保持ス可キ條件アリト雖氏執行
前ノ事ニ就テハ寄住人ノ責任ニ歸スルナリ
人家宅ヲ借用シ期限内ハ自ラ家宅ヲ修理シテ
居住スル約定ヲ結ビ而シテ借期中其約ヲ破リタ
レテ以テ原主ヨリ詞訟ヲ起シ之カ為メ生スル
損害ノ賠償ヲ討メントスルハ家宅修理ノ價
額外ニ之カ為メ原主ノ手ニ復歸スルヲ損害

修理ノ約定破約
ニ付損害償却ノ
論

家宅ノ修理ヲ為
サレタメ借主ヨリ又
借主ニ對シテ損償
ヲ討ムルノ論

スル高モ併セテ討求スルヲ得ルナリ
若シ借主家宅ヲ借受ケ而シテ其身ノ受ル損害ニ
付キ全ク借家證書受托人ノ怠慢ヨリ生シタル
廉ヲ以テ則チ其受托人ニ對シテ詞訟ヲ起スル
ハ縱令ニ受托人満期前既ニ已レノ利益ヲ他人
ニ讓リタル後ト虽モ原告ヨリ受托人ニ對シテ
其損害ヲ回復スルヲ得ルナリ
若シ家宅ノ又借主約定通り修理スルヲ辞ミ
而シテ借主(戸主)ハ元ト借主ニテ家宅修理ノ責任
アル者被告ノ同意ナリ家宅ヲ修理シタルヲ以
テ先キニ又借主ノ修理ニサレタル賠償ヲ討メント
スルハ全ク修理ニ費ヤス價額ヲ討ムルヲ
以テ適度トス而シテ若シ其戸主家宅ヲ修理セサ

論 戸主修理責任ノ

ル為メ本主ヨリ詞訟ヲ起サレ損害ノ回復ヲ討
ムルハ借主ハ即チ此損償ノ高ヲ以テ戸主ヨリ
又借主ニ對シテ討求スル損償ノ定額トス然レ
凡シ此説既ニ法律ト定ムルヲ能ハス蓋シ現今ノ
規則ニ於テハ又借主ヨリ戸主ニ對シテ特ニ損
害無ラシムルノ約定アルニ非サレハ又借主ハ
唯己レノ修理ス可キ約定破約ノ為メ生スル損
害ノミノ責任ヲ受ルナリ
凡ソ戸主ハ借主ニ對シテ修理スルノ明約ヲ立
ツルニ非サレハ既ニ引渡シタル家宅ヲ修繕ス
ルノ義務ナシ然レモ亦家宅破壊レテ住人可カ
ラサルニ及ブ歟或ハ戸主怠慢シテ修理ヲ加ハ
サル歟ニ因テ借主更ニ有益ノ職業ヲ営ムヲ能

同法

ハサルハ戸主ニ沙汰ナク借主其家ヲ退去シ
退去後ノ家租ヲ免カレト決定セリ
然レモ此決定ハ現今既ニ法律ト為サス故ニ現
今寄住人約ヲ立テ始メ寄住セシ時ノ如ク自ラ
整修シテ保存スルヲ決スレモ借期中自然
ノ衰頽ノ外全ク其人ノ修理ヲ加ヘサルニ因テ
居住ス可カラサルニ至リテ退去スルヲ聽ル
サス既ニ現今ノ詞訟ニ於テ約定中戸主修理ヲ
為スル明條アル時トモ此ノ如キ修理ヲ為サ
レハ寄住人即チ退去スルヲ得ルノ黙約アリ
ト為サレトニ決定セリ
家宅管轄ヲ為サレモ居住ス可カラサルニ
及ビ或ハ最初土地ヲ借受タル目的ニ適ササル

土地ノ習慣ニ從テ
耕耘スル黙約ノ論

廉ノミニテハ寄住人家租ノ詞訟ヲ拒防スレニ
足テサルナリ
法律ニ於テ田園年々ノ借地人ハ其土地隣郷ノ
習俗ニ從テ土地ヲ耕耘使用ス可キ黙約ヲ含蓄
ス而シテ此ノ如キ土地ノ借地人其土地ノ習慣ニ
從テ耕耘ス可キ約定ニ付キ借地人ニ對シテ詞
訟ヲ起スルハ即チ其人其土地近隣專行ノ習慣
ニ反シテ耕耘シタル趣ヲ證明セシムルハアル可
カラス例ハ其土地ノ習慣ニテ多クハ土地ノ
四分一ヲ耕耘スル時節ニ當リ偶々三分一ヲ耕
耘スル者アリトモ借地人獨リ其習慣ニ反シ
テ既ニ半ハヲ耕耘シタル時ノ詞訟ニ於レカ如
シ此ノ如キ詞訟ニ於テハ特別ノ習慣アルニ非

同法

約定ノ時ノ論

サレハ精細耕耘ノ習慣ヲ證スルニ及ハス特別ノ習慣アルキハ其習慣ヲ破ルモ被告又答辯シテ防クトヲ得ルナリ
耕耘ノ方法ニ付テ明約アルキハ土地ノ習慣ヲ以テ論スルトナシト虽氏然レ氏約定中特ニ其事ノ明條アラサレハ又習慣ニ依ラサルトヲ得ス

三戸主ト寄住人トノ間ニ付租税ノ論

凡ソ地租下水税等ノ如キモノハ元来寄住人ノ負擔ス可キ筈ト虽氏土地引渡ノ時寄住人ニテ負擔スルノ明條ヲ立ツルニ非サレハ遂ニ戸主ノ擔当トナラサルトヲ得ス然レ氏又寄住人ニテ暗ニ負擔セサルヲ得サルトアリ即チ家税及

約定アル時ノ論

ヒ寺領税ノ如キモノハ必ス寄住人ノ責任ニ歸セサルトヲ得ス

然レ氏寄住人兼テ戸主ト約定ヲ立ツルキハ元来戸主ノ拂フ可キ税額ニテ家租ヨリ引去ル可

キ諸税モ亦寄住人ニテ負擔セサルヲ得サルトアリ此約定ハ精細明條ヲ掲クルニ及ハス蓋シ

約定中戸主ニテ悉皆各税ヲ負擔スルノ明語アルキハ寄住人ハ諸税ヲ除キテ唯真ノ家租ノミ

ヲ拂フ可キ者トス又寄住人ニテ悉皆各税ヲ拂フ可キトヲ承諾スルキハ既ニ地方権ニ因テ賦

課セラル、道路修繕ノ税額ニ至ル迄テ自ラ拂フ可キ義務アラサルトヲ得ス

四退去報告ノ論

司
去
省

一 家宅或ハ土地年々ノ借受ニ付テハ法律ニ
於テ爰ニ明約ヲ取締フ欺或ハ反對ノ習俗アル
ニ非サレハ退去ノ半年前ニ一方ヨリ一方ニ對
シテ必ス退去ス可キ報告ヲ為サ、ル可カラス
而シテ貸借雙方ノ内何レカ死スル氏約定借受ノ
期ヲ了ルニ非ス其代人ニテ退去ス可キ報告ヲ
發シ或ハ之ヲ受ルノ権アリ童兒若シ相続スル
キハ退去ス可キ報告ヲ為スニ非サレハ強テ寄
住人ヲ退去セシムルヲ能ハス又當商ハ質入前
ニ寄住人トナリタル者ニ對シテ必ス退去ス可
キ報告ヲ出サ、ル可カラス而シテ若シ相続人貸
典ヲ確定スルキハ退去ス可キ報告ヲ出サ、レ
ハ借受ノ期ヲ了ルヲ能ハス然レ氏相続人ヨリ

寄住人ニ對シテ家稅ヲ已レニ拂フ可ク或ハ寄
住人トナル可キヲ申入タルノミニテハ此ノ
如キ貸典確定ノ事ト為ス可カラサルナリ
凡ソ退去ス可キ報告ハ年々借受ノ事ヲ暗ニ含
蓄スル時例ヘハ戸主家稅ヲ收受スル欺或ハ別
ニ戸主ト寄住人トノ管係ヲ認定スル所為アル
欺何レカノ時ニ非サレハ必ス其報告ヲ為サ、
ルヲ得ス
退去ス可キ報告ハ戸主ト寄住人トノ關係判然
トラサレハ之ヲ出スニ及ハス縱令ヒ戸主ニテ
家宅使用ノ報償ヲ受領スルト雖モ戸主ト寄住
人トノ分格明瞭トラサル欺或ハ戸主ノ承認ナ
クシテ家宅ヲ領シ後ニ貸借ノ和談ニ及フト雖

報告ハ誰ヨリ出
ス可キカノ論

モ双方ノ趣意異ナル歟ノ事ハ敢テ退去ス可キ
報告ヲ要セサルナリ又會社ノ一人結社中同社
中ノ家屋ヲ領シ而シテ會社解散スル事ハ退去ス
可キ報告ナクシテ其一人ニ對シテ退家セシム
ル事ヲ得ルナリ人若シ賣買ノ約定ヲ以テ家宅
ヲ借領シ三箇月ノ約定ヲ以テ全ク買取成就ス
ル迄テ沽價ニ利息ヲ拂フ可キ約定ニテ遂ニ約
ノ如ク遂クル事ヲ能ハス其儘其家ニ在ル事ハ即
チ隨意ノ寄住人ニテ退去ス可キ報告ヲ受ルノ
權ナシ

任シタルモノト先キニ在任ノ監督トニテ出ス
可キ苦ナレ氏獨リ貸與ノ時在任ノ監督ノ事ニ
テ出スモノモ亦良善ノ報告ト為スナリ又若シ
寄住人最初甲氏ヨリ家宅ヲ借受ル事ハ後チ甲
氏乙氏ト結社シ既ニ家税ノ受取モ兩名ヲ以テ
出スト虽氏最初甲ヨリ引渡シタル時乙氏別段
干係アラサル事ハ則チ甲氏一人ヨリ出ス報告
ヲ以テ足レリトス

會社ノ支配人ハ縱令ニ社印ヲ以テ報告ヲ出ス
ノ威權ホシト虽氏會社所有ノ土地退去ノ報告
ヲ出ス十分ノ代人ト為スナリ凡ソ良善正確ノ
報告ハ之ヲ免スル時實地干係ノ各人ニ依テサ
ル事ヲ得ス後チニ承認シタルモノハ正確ト為

同
去
省

報告ハ誰レニ宛テ
送ス可キカノ論

サ、ルナリ蓋シ寄住人ハ其報告ニ從テ進退ス
ルモノナレハ必ス其人安シテ進退スルヲ得
可キ正報ヲサレサルヲ得ス故ニ若シ戸主ノ代
人ヨリ退居ス可キ報告ヲ出スハ代人ハ必ス
之ヲ發ス可キ權威アレサル可カラス代人ノ權
威ヲ後チニ承認シタルモノハ得テ正報ト為サ
ルナリ

戸主尚社タルハ一名ノ署名ヲ以テ社中ノ連
名ニテ出ス所ノ報告ハ十分ノモノト為スナリ
此時ハ則チ其一人ハ他ノ社員ヨリ報告ヲ發ス
可キ權威ヲ與ヘラレタルモノト考定ス故ニ寄
住人此ノ如キ報告ヲ得ルハ安シテ進退ス
ルヲ得可シ又爰ニ貸主数名アリ寄住人合供

レアルハ則チ其貸主ノ一人ヨリ權威ヲ受タ
ル人ノ出シタル報告ハ悉ク他ノ寄住人ニ及ホ
シテ借期ヲ了ルト為スナリ
三 凡ソ退居ノ報告ハ戸主ヨリ家宅ノ寄住人
タ本人歟或ハ其本人ノ妻又ハ本人ノ住所ニ在
ル家僕歟ニ宛テ、送達スルヲ例トス而シテ其妻
或ハ從僕ニ宛テ、之ヲ送達スルハ退報正ニ
寄住人ニ達セサルノ證據アリト雖モ之ヲ論ス
ルヲナク得テ十分ノ報告ト為スナリ故ニ寄住
人ノ寡婦ニ送達スル報告ハ寡婦尚ホ先夫ノ家
宅ニ居住シ別ニ他人其夫ノ代人ニ立タル明證
アレサレハ又得テ十分ノ報告ト為スナリ又家
税ヲ拂ヒタル人ノ寡婦ノ代人ニ送達シタル報

同
法
第
百
一
十
一
條

告ハ良善ノ報告タルトニ決定ス爰ニ甲氏最初
家宅ノ寄住人タル処轉居シテ後チ乙氏代テ之
ヲ之ヲ領取スルキハ爰ニ反對ノ證據アテサレ
ハ乙氏ハ縱令ヒ家稅ヲ拂ハサルモ則チ甲氏ノ
委託人トシテ其家ニ轉住シタルトト推定ス故
ニ報告ハ乙氏ニ送達スルモノヲ以テ十分タル
トニ決定セリ

爰ニ數様ノ寄住人アルキハ報告ハ各名ニ宛テ
送達セサルトヲ得ス然レモ亦其一人ニ送達
スルヲ以テ足レリトスルトアリ則チ爰ニ寄住
人二人合併シテ家宅ニ寄住スルキハ其内一人
ニ宛テ送達スルモノヲ以テ借期ヲ了ル十分
ノ報告ト為スナリ然レモ戸主ハ家宅ヲ貸付ス
ル寄住人ノ又借主ニ宛テ報告ヲ送スルトヲ
得ス

四 一般ノ規則ニ於テ退居ノ報告ハ必ス借家
満期ノ半年前ニ發ビサル可カラス而シテ滿期ノ
年限ハ實地住入ノ時ニ關係スルヲ以テ雙方特
ニ約定ヲ立ツルニ非サレハ必ス借用ノ年數ニ
合シテ計算シ而シテ其期ヲ了ラサル可カラス
法律ノ推定ニ於テハ寄住人ニ季日季日ハ三月
廿四日九月廿九日
十二月廿五日トスノ間ニ家宅ヲ借領スルト虽
モ本人實地住入ノ時ヲ以テ始期ト定ムルナリ
然レモ寄住人一季ノ半ハ住入り而シテ後チ次
ノ季日ニ至ル迄ノ端數ハ割合ヲ以テ家稅ヲ
拂ヒ夫ヨリ後ハ半年毎ニ拂フ可キトヲ決スル

法
第
百
一
十
一
條

キハ借期ハ則チ次ノ季日ヨリ始メタルト推
定ス然レ氏寄住人一季ノ半ハ住入リ而ノ四
季及ヒ半季ニ家税ヲ拂フ可キトテ約定スルキ
ハ住入前ノ季日ヨリ寄住人ト認ム可キ歟或ハ
次ノ季日ヨリ寄住人ト定ム可キ歟嘗テ陪審ノ
判決ニ委シタル処裁官「エ」ルンボロ「氏」ノ決
ニ因テ借期ハ前ノ期日ヲ以テ始期ト為ス可キ
トニ決定セリ

證書満期ノ後借主尚ホ依然トシテ家宅ニ居住
シ家税ヲ拂フキハ満期ノ時ヨリ期日ヲ計算シ
借期ノ始マリタル日ヨリ計算スルニ非サルナ
リ然レ氏借主満期前ヨリ約定アルヲ以テ続テ
以前ノ家宅ニ居住スルキハ又此例外タルトニ

決定ス

若シ借主三箇月前ノ退居報ヲ以テ退去ス可キ
約定ヲ以テ家宅ヲ借領スルキハ則チ四季ノ借
期ニシテ住入ノ時ヨリ某季ノ月末ヲ以テ満期
トス故ニ三ヶ月ノ退居報ヲ以テ借期ヲ了ラサ
ルトテ得ス又若シ月借ノ約定ヲ以テ家宅ヲ借
領スルキハ一月ノ退居報ヲ以テ足レリトス
又最初一年間ノ貸渡ニテ後チ続テ寄住人トナ
リ而ノ一季ノ退去報ヲ以テ退去ス可キ約定ナ
ルキハ最初一年ヲ過テ後ハ某ノ季日ヲ以テ了
ル可キ退去報ヲ以テ足レリトス可シ又爰ニ一
年四十二磅ノ家賃ヲ以テ四季拂トシテ一家ノ
一部ヲ貸典シ而ノ一方ヨリ一方ニ對シテ書面

司
法
官

ヲ以テ六ヶ月ノ退去報ヲ出ス迄テ寄住人其家
ヲ領用ス可キ約定ナルモハ一年毎ノ寄住人ト
認ムルニ非ス故ニ必スレモ此報告ニテハ最初
借受タル年月ト同日ヲ以テ満期ト為ス可カラ
サルトニ決定ス然レモ一季ノ退去報ヲ以テ満
期トス可キ年々貸典ノ約定ニテハ必ス初メ借
受タル年月ト同時ニ了ラサルヲ得ス
凡ソ満期ノ時限ニ付キ報告ノ正證ト認ムルモ
ノハ必ス判然ト寄住人実地住入ノ正日ヲ定メ
サル可カラス寄住人火曜日カ水曜日カノ内ニ
住入タルト察スルカ如キ證人曖昧ノ口供ハ得
テ十分ト為サルナリ
五 凡ソ退去ノ報告ハ豫ノ書記ノ報告ヲ為ス

可キ約定アルニ非サレハ口上ノ報告或ハ書記
ノ報告ヲ以テスル何レモ可ナラサルトナシ
報告中家宅ノ記載ニ就テハ必ス其正実ナル事
ニ於テ相當ノ度程アラサル可カラス然レモ若
シ田畠ヲ退去ス可キ報告中ニ某ノ一寺領地内
ニ在ル田畠トシテ之ヲ記載シ然ルニ其実ハ隣
地ノ寺領地内ニ在ルカ如キハ此相違ヲ問ハサ
ルナリ蓋シ被告ハ原告ニ對シテ有スル所ノ田
畠一ニ過キス又原告ヨリ報告ヲ受テ惑導セラ
レタル明證アラサルヲ以テナリ
報告ハ寄住人ノ退去ス可キ日ヲ名記スルニ及
ハス然レモ若シ日ヲ記スルモハ満期ノ日ニ非
スレテ元ト寄住シタル日ヲ明記ス可シ

去
省

然レ氏報告ハ退去ノ時日ニ就テ必ス相当ノ正
實ヲ以テ作ラサル可カラス故ニ十月二十一日
ノ日附ヲ以テ出シタル報告ニ「マルチンマス」一
ノ祭日ヨリ次ノ「マルチンマス」迄テ借受タル
寄住人ニ對シ未五月十三日迄若シクハ汝ノ当
時借受タル年ノ了ル時退去ス可キ趣ヲ記スルカ
如キハ良善ノ報告ト為サ、ルナリ然レ氏亦報
告ハ其内ニ發記シタル退去ノ時期前ノ定時ニ
出シタル「其書上」ニ顯ハレサルト虽氏得テ良
善ト為ス可キモノアリ
報告ハ寄住人ヲシテ退去スル氏永住スル氏何
レ氏隨意タルヲ得セシハルカ如キモノハ十分
ノ報告ト為サ、ルナリ但シ報告ハ後テ誰レニ

報告効驗ノ論

轉典ス可キ欵此事ヲ記スルニ及ハサルナリ一
般ノ規則ニ於テ纏メテ貸典シタル家宅ノ内一
部分ヲ退去ス可キ報告ハ善報ト為サ、ルナリ
六 凡ソ報告ノ効驗ハ正実ナレハ則チ寄住人
所有ノ權ヲ破リテ家宅ヲ戸主ノ手ニ再歸セシ
ムル「ヲ」得而メ借期満ツル中ハ戸主暴ニ取戻
ス「ア」リト虽氏寄住人ニ對シテ詞訟ニ服ス「
ナシ」然レ氏寄住人未メ家宅ヲ去ラサルニ戸主
再有ノ權ヲ得ンカ為メ既ニ其家ニ入りテ寄住人ヲ
改撃シ暴ニ其人ヲ追逐スルカ如キハ戸主ヲ容
ルンテ問ハサルヤ尚ホ未メ疑議ヲ免カレザル
ナリ裁廳過半之ヲ免ルサ、ルニ決スルト虽氏
上裁廳ノ説又大ニ此ト相反對ス即チ戸主我カ

報告無効ニ屬スルノ論

物ヲ再有センカ為ノ我カ意存ニ反スル者ヲ改
摯シ平安ヲ破ルルハ之カ為ノ衆人ニ對シテ妨
安ノ責ヲ免カレスト虽氏寄住人ニ對シテ責任
ヲ受ク可カラサルナリ

七 凡ソ報告ハ戸主ト寄住人トノ關係ヲ断絶
スルニアリ苟モ此趣意ニ適ハサル戸主ノ所為
アルハ報告ノ效驗アラサルモノトス乃チ戸
主若シ借期満チテ後ニ起ル所ノ家賃ヲ受取り
而シテ其受取書ヲ出スハ爰ニ報告ヲ廢紙ニ帰
セサル事情アルニ非サレハ其受取書ハ則チ借
期永続ヲ聽ルシタルモノト為スナリ又若シ戸
主寄住人ヨリ家賃トシテ受領セラル可キ趣キ
ヲ以テ金子ヲ收受シ而シテ其時家賃トシテ受取

ル金子ニ非サル趣ヲ演ルト虽氏満期後ノ金子
ナレハ亦報告ヲ無効ニ帰セシムルナリ
然レ氏亦報告満期後ニ生スル家賃ヲ戸主ヨリ
請求シタルノミニテハ其報告ヲ無効ト為スニ
非サルナリ而シテ第二ノ報告ハ全ク戸主再有ヲ
促カスノ意ヲ以テ解釋シ前報ヲ無効ト為スニ
非サルナリ

若シ鑛山ノ寄住人報告後其地ノ習俗ニ從テ二
月間続テ鑛業ヲ営ムハ其人報告ヲ無効ニ帰
シテ永続スルノ趣意ニテ然リレヤ此ノ如キハ
陪審ニ附シテ決定スル所トス

五家宅附屬品ノ論

一總論

同法

凡ソ附属品ト云ヘル語ハ一度ニ土地ニ属スル
キハ法律ニ因テ分ツ可カラサルト定メタル物
件ト并ニ土地ヨリ分ツテ得可キ物件トノ兩
物ニ關係シテ屢々用エル所ノ語トス然レ正
義ヲ論スルキハ縱令ニ其物件一旦土地ニ属ス
ルト虽レ抑々之ヲ附属セシメタル人ノ意ニ隨
テ尚ホ運移ス可キ所ノ貨物ニノ限テ用エル
所ノ語トス盖レ一旦土地ニ附属セシメタル物
ヲ遷移スルテ得サル所以ハ畢竟法律ニ於テ
土地ノ一部分ト看做シ悉ク不動産ノ規則ニ從
ハシムルヲ以テナリ

古書ニ論スル一般ノ規則ニ於テハ現主或ハ寄
住人或ハ地主一旦土地ニ物件ヲ附属セシムル

ハ後テ之ヲ取除クテ能ハス然レ其時勢變
遷レテ漸ク此規則ヲ寬ニシ現今ニ至リテハ
一度ニ物件ヲ附属セシムルト虽レ其物既ニ
土地ノ一部分トナリタルヤ否ヤ此事情ニ從
テ以テ其如何ヲ決定ス即チ之ヲ決スルニハ
次ノ二條ヲ斟酌セサル可カラス第一宅地或
ハ家宅ニ添加附属ノ方法トシテ附属セシメ
タル程度程トヲ以テス是ハ容易ニ運遷スル
ヲ得可キ款又ハ其物件家宅ニ損害ナクシテ
運遷スルテ得可カラサルヤノ模様ニ從ヒ
第二附属セシメタル目的ト趣意トヲ以テス
是ハ土地永久不易改正ノ見込ヲ以テセシ款
或ハ唯一時ノ目的ヲ以テセシ款又ハ更ニ

同法省

何ヲ以テ附屬品
為ス可キヤノ論

一層ノ使用ヲ欲スルニ出レ坎此二條ノ模様ヲ
斟量レテ以テ決定ス

故ニ附屬品ト云ヘル語ハ第一附屬品ノ性質ハ
何等ノ種類ヲ以テスル坎第二人物件ヲ附屬セ
レメテ各種ノ位置ニアル時何等ノ規則ヲ以テ
其人ノ運遷ノ權ヲ制ス可キ坎自然亦此二條ヲ
審査レテ以テ決定セサル可カラス

右第一ノ疑件即チ附屬ノ方法ニ付テ土地ニ附
屬スルト云ヘル語ハ全ク其地ニ固着レタルモ
リノミノ義ナリ故ニ地中ニ埋メス更ニ地上ニ
設ケタルモノハ重大ノ建物ト虽モ附屬品ノ法
律ヲ以テ論ス可キモノニアラス附屬品ハ必ス
地中或ハ預ノ宅地ノ一部分ト為レタルモノハ

上ニ固着レタルモノヲ云フ故ニ若シ物件ヲ煉
瓦又ハ他ノ基材ニ入ル、トナク唯其上ニ置ク
ノミニテ之ヲ移スモ更ニ基材ニ損害ナキ片ハ
縱令ニ基材ハ土地ノ一部分ニテ地ヨリ分ツ
ヲ得ス全ク上ヨリ壓スル巨大ノ重量ヲ支ユル
為ノノモノト虽モ唯其基林ノ上ニ置クノミノ
モノハ之ヲ運移スルトヲ得ルナリ右第一ノ疑
件ニ付テハ宜レク此ニ注意セシムハアル可カ
ラス

運遷ノ權利ノ論

右第二ノ疑件即チ附屬品ヲ運遷スル權利ニ就
テハ其人ヲ三種ニ區別ス第一家宅ニ物件ヲ附
備シタル人ノ相続人ト死後管理人トノ間ニ干
係シ第二寄住人ノ死後管理人ト後統ノ所有人

司
法

トノ間ニ干係シ第三戸主ト寄住人トノ間ニ管
係レテ以テ其如何ヲ決定ス然レ氏今爰ニ此各
人權利ノ區別ヲ詳論スルヲ要セス故ニ唯其
戸主ト寄住人トノ干係ノミヲ論述シ以テ宜シ
ク他種ノ有スル附屬品運遷ノ權利ヲ知ラシメ
其規則ヲ適用セシメント欲ス

附屬品遷移ノ規則ニ於テハ一般ノ言語ヲ以テ
買受タル土地家宅ノ讓渡ニ於テハ暗ニ其宅地
ニ附屬ノ動産ヲ含蓄ス縱令ニ其物件附屬品ノ
法律ニ因テ運遷スルヲ得キモト虽氏之
ヲ論スルヲナレ而メ此ノ如キ讓渡ノ後ハ買受
タル人附屬品ノ價ヲ強ユルヲ能ハサルナリ又
若シ證書中家宅ノ登記ニ地面家屋建物等ノ言

語ヲ以テ認ムルハ之ヲ認メサル前寄住人ノ
權利何タルヲ論スルヲナリ既ニ附屬品ヲ含有
スルヲ以テ其後寄住人トシテ運遷スルヲ能ハサ
ルナリ然レ氏若シ讓リ渡シニ一切ノ附屬品樹
木塙類等ノ言語アルハ此等ハ附屬品トシテ
運遷ス可キ動産ニ歸ス可キ歟未メ決セサルナ
リ

若シ一般ノ讓渡ヲ以テセス附屬品ハ價値ヲ以
テ取ル可キヲ取極ムルハ爰ニ價ヲ以テ取
ル可キ附屬品ハ何ヲ以テ定ム可キヤノ疑件ア
リ此時ハ別ニ其目錄ノ如キモノ非サレハ讓渡
ヲ為ス雙方ノ位置ニ從テ以テ之ヲ決定ス蓋シ
若シ家宅ヲ全ク賣典スルハ世々讓渡ヲ為ス

借期ノ性質ニ拘
ラサルノ論

物件ノ外ハ悉ク價ヲ以テ定ムルナリ相統人ト
死後管理人トノ干係ニ於ルカ如シ然レモ唯證
書ヲ以テ貸典スルノミニテハ借期中寄住人ノ
自ラ附備シタル物件ハ其人悉ク運移スルヲ
得且ツ寄住人ノ物件ト考フルモノハ悉ク價ヲ
定ムルヲ得ルナリ戸主ト寄住人トノ管係ニ
於ルカ如シ

論

二戸主ト寄住人トノ關係ニ付キ附屬品ノ
戸主ト寄住人トノ關係ニ付キ附屬品ノ事ニ就
テハ第一ニ寄住人附屬品ヲ運遷スルヲ得ル
ノ權利ハ其人其品ヲ終身保持スルカ或ハ唯年
ヲ限テ所有スルモノ歟ヲ問ハサルヲト證各ヲ

附屬品期限內
ニ運遷ス可キ論

以テスル借期ト口約ヲ以テスル借期トニ區別
ナキトト第二ニ運遷ス可キ附屬品ハ必ス借期
満年前ニ移サ、ルヲ得サルト此ニ條ニ注
意ヒスンハアル可カラス蓋シ先例ヲ誓フルニ
寄住人物件ヲ運遷スルノ權利ハ唯元来ノ借期
中ト其人未タ借期中ト思量シテ領スル借期外
ノ時間中ノミニアルナリ附屬品運遷ノ為メ滿
期後寄住人家宅ニ入ラントスル時戸主ヨリ寄
住人ニ典フル免狀ハ必ス捺印アルニ非サレハ
正確ト為サ、ルナリ
然レモ附屬品ノ權利ハ自然約定ニ因テ変セサ
ルヲ得ス故ニ今又第一約定ニ拘ラサレモノ
ト第二其約定ニ拘ル可キモノト双方ノ權利如

民法
第...
第...

何ヲ詳明スルヲ左ノ如シ

第一古ヘノ規則ニ於テハ寄住人一旦借期中物件ヲ附属セシムルハ何物タリト後チ之ヲ運遷スルヲ能ハサルヲトス而メ戸主ト寄住人トノ間ニ取テハ此規則ヲ他ノ場合ヨリモ一層寛ニ解釋スル所以ノモノハ專ラ其人物件ヲ増加シタルニ出ル所トス

古ヘノ規則ヲ廢シ新法ヲ設ケタル所以ハ必竟商業或ハ製造ノ為メ寄住人ノ自ラ建設シタル物件ヲ恊量シタルニ起ル所トス然ルニ後世此法奈レテ遂ニ家屋ノ装具又ハ家用ノ為メニ設備シタル数種ノ附属品ヲ運遷スルニ及ビタルナリ既ニ半ハ商業ニ干係シ半ハ商業ニ管係セ

サル物件ト雖モ運遷スルヲ得可キトニ決シタル先例尠ナカラス然レモ耕業ノ附属品ニ付キ寄住人ノ権利ニ至テハ其規則此ノ如ク寛ナルニ及ハサルナリ

然レモ此事ニ付キ種々裁決ノ先例ヲ詳論スルハ敢テ此書ノ趣意ニ非ス然レモ讀者ラレテ古未運遷ス可キモノト運遷ス可カラサルモノトニ決シタル物件ヲ知ラシムルヲ亦益ナキニ非ス而メ其第一ノ物件ハ寄住人ニ因テ運遷ス可カラサルモノヲ掲ケ第二ノ物件ハ高具ニアラズレテ運遷ス可キモノヲ掲ケ又第三ノ物件ハ運遷ス可キ高具ヲ掲示セリ
然レモ爰ニ掲示スル物件ハ有司ノ権ニ因テ必

司法官

スレモ亦此例外ニ出テサルヲ得ス者者宜シ
ク茲ニ注意セサル可カラス蓋シ裁廳物件ノ位
置ヲ変レ同名ノ附屬品ニ干係シタルモノモ二
三ノ決例ヲ以テ正確ト認メ專断シテ事ヲ決シ
タルヲ勘ナカラス

第一運遷ス可カラサル物品

農業ノ建物

麥酒店

地中ニ建築セル穀舎

家畜舎

腰拭

オキスホルテ

大工ノ仕事場

荷車舎

谷般ノ煙筒

戸障子類

料理盤

花類

牧畜場ノ墻類

菓樹

燃料舎

硝子窓

爐

籬藩

永久ノ修理

荷揚器械ノ幹

司
法
省

鍵

錠

磨石

隔子

鳩舎

松樹園

水筒舎

厩中ノ格子

草莓壇

樹木

車屋

窓牖

第二商具ニアラスレテ運遷ス可キ物品

帳帷

滑車付ノ小舎

天井ニ固着シタル寢床

鐘

食糧ヲ貯藏スル箱

暖簾ノ類

書籍箱

滑車轉盤等ノ上ニ設置シタル建物

簞子ノ類

煙筒ノ後部

煙筒ノ硝子

煙筒ノ飾具

林檎酒ヲ製造スル臼

司
法
省

水酒類ノ器具

時計箱

珈琲ヲ搗ク臼

放冷罐

銅罐

運遷盤ノ上ニ設ケタル穀物ノ貯藏箱

戸障子類ノ端末ニアル飾具

樓上ニテ用ユル荷物ヲ揚ル器械

戸棚

タツチバルン

竈

家財

柱ノ上ニ設ケタル穀類ノ貯藏器

格子

掛帳

煙筒ニアル鉄ノ後部

鐵箱

鐵制ノ麥芽臼

鐵竈

萬力

燈器

鏡

麥芽ヲ搗ク臼

大理石ノ平板

酒造ニ用ユル筒管

臺上ニ設ケタル臼

司
法
省

司
法
省

煉瓦ノ基材上ニ設ケタル白

竈

穀舎ノ海老錠

模本

大鏡

ホスト

壓搾器械

水筒

欄干

煮焼キ釜械

一時建設ノ小舎

汚水ヲ流ス箱

大理石ノ片板

轉盤ノ上ニ設ケタル厩

暖爐

壁ニ懸テアル毛氈

筒管類

臺時計

桶類

螺旋ヲ以テ固定セル壁板

水管

臺上ニ設ケタル風車

第三運遷ス可キ高具

運遷ス可キ釜械ニ附属レタル建物

製皮場ニテ用ユル白石

司
法
省

酒造ノ桶類及ヒ管類

林檎酒ヲ製造スル白

水酒類ヲ入レル桶類

クロセツツ

石炭ヲ掘出ス器械

鐘

算盤

重荷ヲ揚ル器械

文臺

抽斗

ダツチ、バルニ

諸器械

消防器械

培養師ノ植付タル菓樹

竈

瓦斯管

鐵ノ「フロン」ト

鐵製ノ金箱

製皮場ニテ用ユル鐘類

木材ノ階子ニ嵌メ込メ或ハ基板ニ螺定シ

又ハ建家ノ石材ニ螺定シタル器械

隔子

醸造器械等ノ管類

壓搾器

水筒

水桶

司
法
省

塩皿

戸棚

賣買ノ為ノニ植付タル灌木

石礮製造場

蒸氣苦楸

蒸溜苦楸

賣買ノ為ノニ植付タル樹木

洋漆製造舎

桶類

右ニ名記スル物件ヲ決定スルニハ頗ル議論アリ
リント虫匹猶ホ運遷ノ権利ニ付テ不定ノ物件
アリ之ヲ附記スルノ左ノ如シ
煉瓦ヲ焼ク竈

培樹園ノ木匠

硝子製造舎ノ竈

培樹園ノ草類

菓物ヲ貯藏スル処

植物培養ノ暖室

石灰ヲ焼ク室

麥芽ヲ乾カス基床等

敷石

小舎

藏庫

固定セル食盤

庇廡

水車風車

司
法
官

細工場

第二家宅ヲ借領スルニ付テ爰ニ附属品ノ約定ヲ立ツルハ石ニ論スル所ノ事ハ元ヨリ其約定ニ從テ変セサルヲ得ス蓋シ雙方約ヲ立ツルハ既ニ附属品ノ位置ヲ変セサルヲ得サレハナリ

故ニ寄住人ニテ從前ノ建物及ニ後未建築ス可キ建物ハ悉ク修繕シテ保持シ而シテ借期ノ末ニ至テ繕整ノ儘引渡ス可キ趣ヲ約定スルハ縱令ニ其約定アラサレハ高具トシテ運遷スルヲ得可キ物ト虽モ退去ノ時之ヲ運遷スルヲ能ハス

又若シ借主ヨリ借期ノ末ニ至テ悉ク建家並ニ

増作ヲ修繕シテ引渡ス可キヲ約定スルハハ
 増作ニ固定シタル菓物貯藏場ノ木匠ヲ運遷スルハ既ニ違約ニ属ス可キ趣ニ決定セリ又借家
 證書中借主ヨリ借期ノ末ニ至リテ期限内建築シタル窓牖増作等ハ悉ク修整シテ引渡ス可キ
 一ヲ約シ而シテ借主ノ委託人期限内ニ從前ノ店窓ヲ遷シテ硝子板ヲ置クハ約定中既ニ窓牖
 増作ノ事判然タルヲ以テ満期ノ後之ヲ運遷スルヲ得サル趣ニ決定セリ又若シ満期ノ末ニ至リテ水車自然使用シテ減耗シタルモノハ外
 期限内附備シタル物品ト共ニ修整シテ其儘差置ク可キ事ヲ約定スルハ土地ノ習慣ニ因テ
 遷ス可キヲ聽ルスト虽モ新規ニ設ケタル磨

司
 法
 官

石モ并セテ其内ニ含蓄ス可キ趣ニ決定ス
然レモ若シ約定中満期後各般ノ錠鍵釘或ハ大
理石等ノ煙筒類其他期限中家宅ニ附備シタル
物件ハ悉ク家宅ト共ニ引渡ス可キ趣ヲ約定シ
而ルニ期限内中寄住人此等ノ物品ヲ以テ高業ヲ
営ミアルハ右ノ約定アリト虽モ借主此等ノ
物件ヲ賣却スルヲ制限セサルトニ決定セリ
寄住人ハ約定ニ因テ附属品運遷ノ時間ヲ延ハ
スヲ得ルナリ然ラサレハ其人運遷ノ權利ヲ
失スルニ至ルナリ
爰ニ附属品ヲ運遷スル權利ニ付テ恰モ明約ア
ル如ク其使用者及ヒ其他ノ事情ヨリシテ一旦
物件ヲ附着セシムルハ本主借期ノ末ニ至リ

テ再ヒ之ヲ取除ク自由アルトヲ推測スルトア
リ
然レモ附属品ノ疑件ハ一般約定ニ因テ決定ス
ルトヲ緊要トス蓋シ約定アレハ則チ後テ事ヲ
確實ニス若シ夫レ家借ノ約定中更ニ附属品ノ
事ヲ載セサルハ其物件ハ賣買ノ約定トナリ
之ヲ使用セル償ハ家租中ニ含有セシ趣ヲ以テ
論スルトアリ又若シ寄住人末期ニ至リテ證書
ヲ改メ新タニ家宅ヲ領スルハ前期ノ約定ニ
テ運遷ノ權利アルトニ注意セサル可カラズ蓋
シ舊約ヲ改メテ新約ヲ結フ時特ニ附属品ヲ運
遷スル權利ヲ保存セサルハ其人全ク物件所
有ノ權利ヲ失フヲ以テナリ

若シ又土地ノ一部分トシテ附属品ヲ引渡シ或
ハ暗ニ附属品ヲ土地ト共ニ貸附スルハ寄住
人ハ唯附属品トシテ之ヲ使用スルノ権利アル
ノミニテ寄住人ハ家宅ヨリ之ヲ取除クヲ能ハ
ス取除クハ則チ使用ノ権利ヲ失フニ至ル可
シ

三 退出スル寄住人ト入来ル寄住人トノ間
ニ干係ヒル附属品ノ論

凡ソ退去スル寄住人ト入来ル寄住人トノ間ニ
就テ附属品ヲ運遷スル権利ハ户主ト寄住人ト
ノ管係ト其理ヲ均フス故ニ前ニ論シタル事ハ
多分退去ノ寄住人ト入来ル寄住人トノ疑件ニ
適用セラレ、ナリ

然レ凡爰ニ退去スル寄住人ト入来ル寄住人ト
ノ間ニ價ヲ定メテ引取ル可キ約定ヲ立ルア
リ若シ約ヲ立テ某ノ物件ヲ引取ルハ附属品
一般ノ法律ニテ户主ト寄住人トノ間ニテ運遷
スルヲ得可キ物件ノミ寄住人價ヲ定メテ引取
ルヲ得而メ退去スル寄住人ノ元来户主ヨリ
買取リタル物件モ亦評價シテ引取ルヲ得ル
ナリ然レ凡退去スル寄住人ヨリ户主ニ對シテ
正然取リ除クヲ能ハサル所ノ物件ハ評價スル
ヲ能ハス且ツ其身ノ自費ヲ以テ設置シタルノ
ミニテハ其償ヲ討求スルノ権利ナシ而シテ一般
寄住人ノ運遷スルヲ得可キ物件ト虽凡其物件
曾テ退去スル寄住人ニ家宅貸附ノ前ニ附設シ

司
法
官

タルモノニテ兼テ其人戸主ヨリ之ヲ買取ラサ
ル片欵或ハ又其物件ノ運遷貸附ノ約定ニ違反
スル欵ノ片ハ入来ル寄住人ニ對シテ評價セシ
ムルコトヲ許ルサス

退去ノ寄住人ト入来ノ寄住人ト附屬品ニ付テ
約定ヲ立ル片ハ戸主其一方ニ加ハルコトヲ要ス
可キナリ戸主加ハラサレハ後日某ノ物件ハ前
住退去ノ寄住人ノ借期中運遷セサル物ニ付新
来ノ寄住人ニ於テモ家宅ノ一部トシテ之ヲ運
遷スルノ權利ナキ趣ヲ戸主ヨリ主張スルコトヲ
得可シ又若シ借期ノ末ニ至リテ未タ新来ノ寄
住人定マラス然ルニ退去ノ寄住人ニ於テ後来
ノ寄住人ニ物件ヲ評價セシメンコトヲ欲シテ其

儘残レ置カントコトヲ望ム片ハ戸主ヨリ其内意ヲ
得ルコト緊要ナリ其故ハ満期後家宅ニ物件ヲ残
レ置カントスルニ戸主ノ同意アテサレハ其人
所有ノ權ヲ失フヲ以テナリ
物件ノ評價ハ押印アルニ非サレハ證據トシテ
受理セラルコト能ハス

六前播ノ收納耕作等ノ論

習慣法一般ノ規則ニ於テハ若シ年々ノ寄住人
現在年々ノ利益ヲ生スル植物ヲ播殖シテ後チ
未タ成熟セサル前事故アリテ借期ヲ了ル片ハ
寄住人其産利ヲ收ムルノ權利アリトス現今ニ
於テハ若シ寄住人高租ヲ以テ田畠ヲ借領シ然
ルニ其人ノ死去或ハ其人ノ怠慢ヨリ借期ヲ了

ル中ハ寄住人其收穫ノ請求ヲ為サスレテ其年
ノ末期迄テ土地ヲ領スルノ権利アリトス
然レ氏借期中前年播殖シ満期ニ至リテ未タ成
熟ニ至ラサル植物收穫ノ権利ハ全ク
ノ法律ヲ以テ制定スル規則ト異ナルナリ蓋シ
エムブルメントノ権利ハ土地不定ノ所有ニテ利益ヲ
保チ其人播殖ト收穫トノ間ニ死去シ或ハ法律
ニ因テ不時ニ借期ヲ了リタル時ニノ其權ヲ
有シ又前播ノ收穫ヲ得ルノ権利ハ土地ニ定マ
リタル利益ト定マラサル利益トヲ持ツ雙方ニ
適用セラレ、ナリ而シテ數年ノ借期ト一年ノ借
期トヲ地主或ハ寄住人ヨリ了ル氏之ヲ論スル
トナレ

然レ氏此ノ如キ権利ハ必ス其土地ノ習俗カ若
クハ双方ノ約定ニ因テ決定セサル可カラス而
シテ若シ其土地專行ノ習俗ナリ又満期ニ於テ未
タ刈獲ス可カラサル植物ノ権利ニ就テ約定ア
ラサル中ハ法律ニ於テ之ヲ土地ノ部分トシテ
地主ノ有ニ歸セシムルナリ然レ氏寄住人ハ習
俗又ハ明約ニ因テ助ケテ受サルト甚タ少ナリ
トス
ウ井ツクルスウラルス氏ヨリダリソソニ氏ニ對シ
タル詞訟ハ即チ習俗ニ從テ決定セル著明ノ事
件トス此事件ハ穀物刈獲ノ為メ前住ノ寄住人
ニ對シタル詞訟ナリ干時被告ヨリ習慣ヲ以テ
辨明セルハ五月一日ニ借期満チテ同地ニ居住

司
法
官

スル寄住人ハ何人モ満期前播殖セル穀類ヲ成
熟ノ後刈獲スルヲ得ルノ習慣タル趣ヲ以テセ
リ干時裁官「マンズビールド」氏論シテ云ク元未
播殖シタル本人ニ因テ刈獲スルヲ得ルト正理
ニ帰シ且ツ勸農ノ一端タル趣ヲ以テセリ是レ
実ニ一般ノ法律ニ及スルト虽氏習慣ヲ以テ辨
明ノ趣意ヲ是トシ当理ニ帰ス可キトニ決定セ
リ夫レ一般ノ法律ヲ以テ論スルキハ借期了ル
ヲ知テ播殖シタル寄住人ニハ元ヨリ許ルス可
カラサルトニテ借期了ルヲ知テ播殖シタル者
ハ必竟其身ノ愚ニ帰スルヲ以テ論スルト虽氏
土地ノ習俗ハ其愚ニ帰ス可キ者モ亦得テ是ニ
帰セシムルトアリ但シ印約アルキハ習慣ヲ変

スルト能ハサルナリ
退去ノ寄住人土地ヲ耕耘シタルニ其身ノ利益
ヲ收ムルト能ハスレテ却テ後ノ寄住人ノ利益
トナルキハ其耕作ノ報償ハ亦習俗ト約定トニ
因テ決定ス故ニ「ダールバイン」氏ヨリ「ヒルス」氏ニ
對シタル詞訟ニ於テ退去ノ寄住人ニテ土地ヲ
耕耘シ穀類ヲ播殖スルノ勞ヲ盡シタル為メ戸
主ヨリ其者ニ相当ノ報償ヲ與フ可キ習慣ハ正
確當然ノ習俗タルトニ決定セリ而シテ寄住人書
約ヲ以テ其土地ヲ保持スルニ更ニ此習慣ニ適
ハサル條件アラサレハ即チ習慣ヲ以テ決定セ
サルトヲ得ス
又農業ノ規則ニ從テ土地ヲ耕耘スル寄住人其

枯藁運搬権利
ノ論

地ヲ去ル時曾テ下水ヲ設ケ堤防ヲ築キタル冗
費ヲ習俗ニ因テ其戸主ニ賦スルヲ得ルナリ
縱令ク戸主ノ同意ナクシテ設置シタルモノト
虽氏之ヲ論セサルナリ
借期満チテ土地ニ在ル稻藁枯ヲ運搬スルノ權
利ハ多分其土地ノ習俗ニ從テ決定ス然レ氏爰
ニ習俗ナク亦約定アラサルハ農業ノ規則ニ
於テ寄住人其藁草ヲ運搬スルヲ妨ケサルナ
リ
然レ氏寄住人田畠ニ成長スル藁草ヲ戸主ノ許
可ヲ經サレハ賣却ス可カラズ賣却スレハ定罰
ヲ受ク可キ約定アル中ハ即チ寄住人借期満チ
テ後許可ナク之ヲ賣拂スル中其定罰ヲ免カレ

サルナリ

然レ氏土地ノ肥糞ヲ運搬スルハ蓋シ農業ノ規
則ヲ破ルニ決定スル明約アルノ外寄住人ハ
決シテ借期ノ末ニ至リテ之ヲ運搬スルノ權利
ナク將タ習慣アルモ之カ為メ賠償ヲ討ムルノ
權利ナレ然レ氏約ヲ立テ肥糞等ハ評價レテ寄
住人ノ有ト為ス可キカ如キハ評價スル迄テハ
尚ホ其人ノ所有ニ止ルナリ
凡ソ借期ハ口約ヲ以テスルモ亦印約ヲ以テス
ルモ總テ習俗ヲ以テ決定スルヲ得ルナリ然
レ氏前ニ論スル如ク習俗ハ反對ノ明約アル時
欺或ハ土地ノ習俗ヲ以テ借期ノ末ニ双方ノ權
利ヲ制ス可カラサル事情アル時欺ニ及ホス

習俗明約ニ如
ナルノ論

能ハス

然レモ約定中更ニ退去スル時ノ取極メテラサ
ルモハ退去ノ寄住人土地ノ習俗ヲ以テ決定セ
ラル、ナリ故ニ寄住人夏季麥畑ヲ耕耘レテ能
ク其地ヲ肥沃ナラシムル約定ヲ以テ其地ヲ領
シ然ルニ其土地ノ習俗ニ因レハ借期ノ了ラサ
ル前其地ニ麥ヲ播殖スル寄住人ハ退去ノ後其
半ハヲ收ムルノ権利アリトスルモハ則チ其習
俗ニ從テ麥納ノ半ハヲ得ルノ権利アルトニ決
定セリ

又若シ寄住人退去シテ後直チニ入未ノ寄住人
アラサルモハ土地ノ習俗ニ因テ入未ノ寄住人
ヨリ退去ノ寄住人ニ對シテ通例拂フ可キ諸費

ハ之ヲ戸主ヨリ償ハサルトヲ得ス

司
法
省

約定法卷之十畢

約定法卷之十

約定法卷之十

司
法
課
印

增氏約定法卷之拾

司
法
課
印

司
法
課
印

增氏約定法卷之拾

目次

第三篇

第二章

自己ノ所有品ニ付テノ約定ノ論

物品賣却并ニ貨物交易ノ約定ノ論

一般ノ規則

辭義ノ論

賣却ニ因テ所有爰遷ノ論

貨物賣人ノ手ニ有リテ所有權買人ノ手ニ

遷ルノ論

賣却ニ因テ所有權爰セサルノ論

全量ノ内一部分ヲ賣却スル時ノ規則

現存セサル物品賣約ノ論
競賣ノ論
欺賣ノ論
不正ノ所持品賣買ノ論
預托物賣買ノ論
公布ニ於テ賣却ノ論
數名ノ買人アル時引渡必要ノ論
價值ノ皆濟込テ所有權賣人ノ手ニ存スル
ノ論

啗氏約定法卷之拾目錄終

啗氏約定法卷之拾

第三編

第二章

自己ノ所有物ニ付テノ約定ノ論

貨物賣却并ニ貨物交易ノ約定ノ論

右一般ノ規則

凡ソ賣却交易トハ價值ノ代料又ハ賠償ノ故ヲ以テ一人ノ所有物ヲ變シテ他人ノ所有物トナスヲ謂フ但シ賣却ハ其代料ヲ正金ニテ拂ヒ交易ハ其賠償ヲ物品ニテ拂フ是レ其兩條ノ區別ナリ然レ氏此兩條ニ法律ノ同規則ヲ適用スルトヲ得ルナリ
此ノ如キ約定ヲ以テ貨物ヲ賣買スル事ニ付キ

貨物ニ付テ所有
變ルノ論

英國ノ法律ニ於テハ賣人ヨリ未タ賣買ノ物品
ヲ買人ニ引渡サ、ルト虫氏其約定ニ因テ物品
ノ所有權ハ既ニ買人ノ手ニ遷ルルアリ又貨物
ノ懸賣ハ縱令ヒ其懸貸ノ期日ニ定限アルト虫
氏亦若シ其物品今ニ賣人ノ手中ニ之アルト虫
氏此賣買ニテ其品ノ代料ノ為メニ詞訟ヲ起シ
且ツ代料ト引替ニ非サレハ之ヲ渡サ、ル々權
ヲ買人ヨリ賣人ニ與フルヲ以テ買人未タ其品
ヲ落手セサルト虫氏既ニ其品ノ持主トナルナ
リ又貨物ヲ賣ル事ニ付キ縱令ヒ未タ其價ヲ定
メス跡ニテ之ヲ取極ムルト虫氏其品ノ持主ハ
既ニ買人ニ歸スルルアリ
今賣買ノ事件ニ付キ著明ノ規則ヲ示スルカ
如シ

今若シ人アリテ馬或ハ他ノ物品ヲ金子又ハ
他ノ代物ヲ以テ我レニ賣ランニ其模様種々ア
リ第一ニ右ノ馬ハ某ノ日ニ我カ方ニ渡サル可
ク又雙方ノ對談結約ニテ代料ヲ拂フノ日限ヲ
定ム可シ第二ニハ其代料ノ全高ヲ拂ヒ第三ニ
ハ其代料ノ内一部分ノ金子ヲ拂ヒ第四ニハ縱
令ヒ一銀錢ナリ氏其手金ヲ賣人ニ渡シ第五ニ
ハ雙方ノ約諾ニテ未タ一錢モ代料ヲ拂ハス或
ハ唯其手金ヲ差入レ又ハ代料ヲ拂フノ日限ヲ
定メテ其買ヒタル物品ヲ既ニ我カ方ニ引取ル
等ナリ此條々ニ於テハ何レモ其所有ヲ變ス可
キ賣買十分ノ取極メト為スナリ右第一條ニ於

テハ我レハ其物ノ為メニ詞訟ヲ起ス一ヲ得賣
人ハ其代料ノ為メニ詞訟ヲ起ス一ヲ得ルナリ
第二條ニ於テハ我レ其買ヒタル物品ノ為メニ
詞訟ヲ起シテ之ヲ回復スル一ヲ得ルナリ第三
條ニ於テハ我レハ買ヒタル物品ノ為メニ詞訟
ヲ起シ賣人ハ代料ノ殘金ノ為メニ詞訟ヲ起ス
一ヲ得ルナリ第四條ニ於テハ既ニ物品ヲ差入
金ニアルヲ以テ違約ノ節ハ我等互ヒニ其賠償
ヲ討ムル一ヲ得ルナリ又第五條ニ於テハ賣人
其代料ノ為メニ詞訟ヲ起ス一ヲ得ルナリ
又ハ一氏ノ規則ニ云ク若シ我レ金子ヲ以テ
我カ馬ヲ賣ルルハ我レ其代料ヲ受取ル迄テハ
其馬ヲ留メ置ク一ヲ得而メ其馬ヲ買人ニ引渡
サハル内ハ代料ノ為メニ詞訟ヲ起ス一ヲ得ス
然レ氏此賣買ノ取極ニテ其買人ハ則チ馬ノ持
主トナルナリ而メ若シ買人即金ニテ代料ヲ拂
ハント言フ時我レヨリ賣ル一ヲ欲セスシテ之
ヲ拒ムルハ買人其馬ヲ取去ル一ヲ得而メ若シ
我レ其馬ヲ差留ムルハ買人我カ強留ノ廉ヲ
以テ詞訟ヲ起ス一ヲ得ルナリ又若シ我カ馬ノ
賣買取極リテ引渡シ未タ濟ケル内ニ我カ厩ニ
於テ其馬斃ルルハ我レ其代料ノ為メニ詞訟
ヲ起ス一ヲ得ルナリ蓋シ此賣買ノ取極ニテ其
馬ハ既ニ買人ノ有ニ歸シタルヲ以テナリ
然レ氏持主變遷ノ事ハ代料ヲ拂フ可キ時日定
限ノ有無ニ依リテ同シカラズ其定限ニアルハ

法律

ハ其賣買ノ取極メ直チニ正約トナリ買人未タ
代料ヲ拂ハサル氏既ニ其品ノ持主トナルヲ以
テ其約定ニテ賣人ニ對シテ詞訟ヲ起スルヲ得
ルナリ又其定限ナキハ然ルヲ得ス故ニ今爰
ニ人アリ羅紗五十ヤルトヲ買ヒテ對談ノ代金
ヲ即坐ニ拂ハサルハ其賣買ノ約定虛無トナ
ルナリ然レ氏其時若シ雙方ノ談合ニテ其代金
ヲ拂フ可キ時日ヲ定ムルハ賣人ハ其代金ノ
為メニ詞訟ヲ起スルヲ得買人ハ其羅紗引取ノ
為メニ詞訟ヲ起スルヲ得ルナリ
爰ニ車工アリ元來某ニ負債アリケルニ一日債
主ヨリ車ノ修理ヲ請合ヒ其仕料ハ現金ニテ相
拂ハル可キ趣ヲ以テ約定セリ然ルニ債主ヨリ

約定ノ仕料ヲ拂ハスシテ兼テノ貸金ヲ以テ差
引キ右車ヲ受取ラントスルト虫氏負債主車工
ニ於テハ約定ノ修履料ヲ領取セサル内ハ矢張
リ其車ノ持主タルヲ以テ債主ヨリ之ヲ受取ル
ト能ハサルナリ

貨物賣入ノ手ニ
有ル氏所有ノ權
買人ニ爰遷スルノ
論

又物品賣買取極ノ後縱令ヒ貨物持領ノ權ハ賣
人ノ手ニ之アル時ト虫氏其所有ノ權及ヒ其物
ニ付テノ災難ニ至テハ買人ノ手ニ歸スルトア
リ故ニ甲氏ヨリ乙氏ニ乾草一推ヲ價四十五磅
ニテ正月四日ニ賣渡ス可キ旨ヲ約定シ但シ其
代料ハ二月四日ニ拂フ可キノ約定ナリ而メ其
乾草ハ五月一日迄テ甲氏ノ地面中ニ其儘差置
キ而メ乙氏ハ約定ノ代料皆濟ニ至ル迄テ之ヲ

切斷致サ、ル旨ヲ取極メタリ然ルニ此賣買ノ
約定ハ後日賣渡ノ約定ニアラスシテ其乾草ノ
所有權其時直チニ買人乙氏ノ手ニ遷移セリ故
ニ其後古乾草焼失ニ及ヒシカ其損失ニ至テハ
則チ乙氏ノ損耗タルニ決定セリ
又爰ニ兩人相對ニテ直設ヲ取極メ而シテ買人其
代料ヲ拂ハスシテ其場ヲ立去リ翌日彼ト來テ
之ヲ拂フト虫氏賣人代料ヲ受取ル事ヲ辞シテ
約定ヲ破談ニスルトテ得ルナリ是レ賣人ニテ
ハ兼テ其拂ヒ日限ヲ定メ置カサレハ買人ヲ相
待ツ可キ謂レナキヲ以テナリ然レ氏約定ヲ取
結フ時雙方拂ヒ日限ヲ定ムルハ此規則ヲ以
テ決ス可カラス故ニ賣人被告ヨリ買人原告ニ

燕麦一堆ヲ賣拂フ可キ約定ヲ取結ヒ而シテ其約
定ニハ原告四ヶ月ノ間被告ノ地面中ニシテ差
置キ約定ノ時日ヨリ十二週ノ未ニ其代料ヲ払
フ可キ旨ヲ取極メタリ然ルニ被告ヨリ則チ約
定通り十二週ノ未ニ至リ原告ニ對シテ右代料
ヲ催促ニ及ヒタリ此時原告之ヲ拂ハス後日ニ
至リテ之ヲ拂ヒタリ然ル處被告ヨリ其違約ノ
廉ヲ以テ之ヲ他人ニ賣拂ヒタリ故ニ原告其物
ヲ持領致サ、ル廉ヲ以テ詞訟ヲ起シタルニ則
チ回復スルヲ得可キ趣ニ決定セリ
然レ氏貨物賣拂ヒノ詞訟ニ於テ若シ約定面ニ
其賣渡ニ付キ價ヲ定メシカ為メ或ハ引渡ノ為
メ其物ヲ用意ス可キ旨賣人ニテ取極メ而シテ賣

賣與ニ因テ所有
權變ヒサルノ論

渡シ未タ十分ナラサルハ其事ヲ了ル迄テ所
有ノ權爰遷スルナシ
故ニ材木賣拂ヒノ約定アリ則チ買人ニテ其買
取ル可キ樹木ヲ撰ヒテ之ニ印ヲ附ケ而シテ賣人
ハ其樹木ノ頂端并ニ枝葉ヲ切拂シテ其幹木ヲ
買人ニ相渡ス可キ旨ヲ取極メ其後右材木ノ内
一部ヲ相渡シテ買人ハ其代料ノ全高ヲ拂ヒタ
リ然ルニ其残木ノ頂端及ヒ枝葉ヲ悉ク切拂ハ
サル前ニ賣人ハ分散ニ及ヒタリ此時其残木ノ
持主ハ右ノ約定面ニテ未タ買人ノ手ニ遷ラサ
ルヲ以テ右分散ニ付キ残木ハ悉ク分散受托人
ノ手ニ落可キトニ決定セリ
又獸皮數箇ヲ賣與スルニ付キ其約定ニ壹箇ハ

皮六拾枚入ニテ十二枚ニ付キ其ノ價ヲ以テ賣
渡ス可キ旨ヲ取極メタリ而シテ其皮數ヲ改メ賣
箇毎ニ何レモ約定通りノ皮數ニアル可キヤ否
ヤヲ検査シテ渡ストハ元來賣人ノ職務タル處
未タ此負數ヲ改メサル前ニ獸皮悉ク焼失ニ及
ヒタリ此時「エルレンボロ」氏并ニ「ゼームス」マ
ンヒールド氏此詞訟ヲ断シテ云ク右獸皮ノ代
料ノ為メニ賣人ヨリ買人ニ對シテ詞訟ヲ言通
スル能ハス右損耗ハ全ク賣人ニ歸ス可キトニ
決定セリ

又油ノ賣渡ニ付テハ油ヲ賣渡ス前賣人ヨリ桶
匠ヲ出シテ其油桶ヲ改メ且ツ仲高其間ニ入り
テ雙方ニ為メニ沈底ノ汚物并ニ水ノ有無ヲ檢

査シ而ノ後ト賣人ノ費用ニテ其桶ニ油ヲ充滿
セシムルヲ以テ通例ノ商風ト為ス其ハ則チ其
検査等相濟マスシテ未タ引渡ラサル内ハ其
約定ヲ以テ所有ヲ變ス可キ十分ノ約定ト謂フ
可カラス故ニ此時間ニ買人分散スル其ハ賣人
猶ホ賣約ヲ拒ムルヲ得ルナリ又麻二十噸ニ付
キ其志願毎ニ某ノ價ヲ以テ之ヲ賣渡サントス
ルニ其品大小分量同シカラサルヲ以テ内十噸
ヲ賣渡セル詞訟又ハ數噸ノ木皮ヲ賣渡セル詞
訟ニ於テモ右同一ノ規則ヲ以テ之ヲ決定ス
然レ氏樹木ノ賣渡ニ付キ志尺立方毎ニ若干ノ
價ヲ定メテ其代料ヲ相拂ノ可キ旨ヲ取組ミ而
メ賣人買人共雙方ノ家僕ヲシテ其積數ヲ量ラ

シノ賣人ノ家僕紙上ニ圖面ヲ認メ全積ノ勘定
ヲ來算セサル其ハ裁廳ニ於テ約定未全ノモノ
ト取リ難キ趣ニ決定セリ

全量ノ内一部分
ヲ賣子スルノ論

又若シ一嵩ノ物品全量ノ内一部分ヲ賣渡ス約
定ヲ取締ル其ハ其一部分ヲ全量ノ内ヨリ區別
セサル内ハ約定未タ完カラスシテ所有ノ變遷
ニアルトナシ故ニ某ノ同種ノ品ヲ賣渡ス約定
ニ付キ雙方其物品ノ部類ヲ取極メサル内ハ其
約定唯某ノ注文ノ各付ニ隨ヒ一遍ノ物品ヲ給
スル迄テノ約定ニ過キス故ニ其賣渡ス可キ品
物ハ何レノ部ニテ渡ス可キ歟未タ定マラサル
内ハ一定セル品類ノ所有ヲ變遷スルトナシ然
レ氏若シ兼テ賣人ニテ買人ノ為メニ其賣子ス

可キ分量ヲ取計ラフノ權ヲ子ヘラレ而シテ買人
其意ニ任カス中ハ縱令ニ賣人其代料ヲ受取ル
迄テ之ヲ所持シ居ル氏其所有断然買人ノ手ニ
遷ルナリ故ニ若シ甲氏己レノ倉中ニ二十桶以
上ノ砂糖ヲ所持シタルカ之ヲ乙氏ニ二十桶賣
渡ス可キ約定ヲ取結ヒ而シテ先ツ最初四桶ヲ
渡シ乙氏之ヲ受取リ其後甲氏ヨリ其残桶十六
ト悉ク全備シタルヲ以テ約定通り早速之ヲ
取ル可キ旨ヲ乙氏ニ申送り乙氏ヨリ都合次第
之ヲ取取ル可キ旨返答ニ及ヒタリ干時此賣渡
ノ儀ニ付テハ元ヨリ乙氏承知ノ上取極メタル
ヲ以テ右十六桶ノ所有ハ則チ乙氏ノ手ニ遷リ
甲氏ヨリ賣子シタル物品ノ代料ヲ回復スル
ヲ得ルナリ又若シ物品波戸携管理人ノ手ニ
アリ而シテ賣人其品ヲ賣渡ス可キ旨付テ買人ニ
渡シ買人ハ之ヲ右管理人方ニ持參致シ管理
人ハ其品ヲ買人ノ為ニ預リ置キ旨ヲ承知致
シ又ハ賣人右旨付テ管理人ニ相渡シ而シテ
買人ニ通達致シ買人ニ之ヲ承諾スル中ハ則チ
其物品所有ノ權十分買人ノ手ニ遷ルナリ
然レ氏荷主ヨリ預リ主ノ買取リタル物品ヲ預
リ主附屬ノ船中ニテ賣渡ス事ハ若シ爰ニ荷主
右積込ノ證昏中ニ其物品ヲ己レノ代人ニ渡ス
可キ旨ヲ認メ而シテ之ヲ船長ニ托シ船長承知ノ
上之ニ署名スル中ハ縱令ニ船長ノ此ノ如ク
ルハ權限ヲ超ルト申氏所有ノ權ニ至テハ未

現ニ有テサル物品
賣約ノ論

預リ主ノ手ニ遷ラサルナリ

又爰ニ物品ヲ引渡ス事ニ付キ其證書ヲ認ムル
時其品未タ我カ手ニ属セサル歟又ハ現在無キ
物品ノ引渡ハ之ヲ引渡ス人其品ヲ全ク我カ所
有ト爲シタル後ニ再ヒ引渡ヲ確定スルニ非サ
レハ其約虚無トナルナリ是レ約定取極メノ時
現在所有セサル品物ヲ賣子スル約定一般ノ規
則トス

故ニロビンソン氏ヨリマク子ル氏ニ對シタル
詞訟ニ於テロビンソン氏證書ヲ以テマク子ル
氏ニ一船舶ノ船賃儲金利潤ヲ讓與セリ然ルニ
其船舶ノ海旅中海上ニ於テ取得タル鯨油ヲマ
ク子ル氏己レカ所有トシテロビンソン氏ニ渡

サハルヲ以テロビンソン氏則チ詞訟ヲ起シタ
リ干時「エルレンボロー」氏此詞訟ヲ断シテ云ク
此証各ニテ爰ニ鯨油ヲ請求スルニ付テハ一ノ
故障アリ則チ其証各ヲ認メタルハ鯨油未タ
成実シタルニ非ス又必定成実ス可キ見詰モナ
カリシヲ以テナリ凡ソ物品附子ノ証各ヲ正実
ニセントスルニハ必ス物品現在其場ニ存在ス
ル上ノ証各ニ非サレハ真ノ正約ト云フ可カラ
ス即チ地主ヨリ地借人ニ地面ヲ貸付シ而シテ其
約定ヲ取結フ時其地面ニ生育スル羊羔ニ羊毛
共追々地主ニ渡ス可キ旨ニテ約定致シ地借人
ハ右借地期限後ニ至リテ右羊等ヲ返濟ニ及フ
可キ旨ヲ約諾スルカ如キハ其約定無効ニ属セ

サル一ヲ得ス其故ハ約定ヲ取結フ時ハ地主実ニ其物ヲ所持シタルニ非ス唯若シ之ヲ得ル片ハ借渡ス可キトノ見込ナリシヲ以テナリ然レ氏若シ爰ニ借主ヨリ地主ニ對シテ借地ノ全権并ニ田畠中ニテ後來收穫ニナル利益ヲ悉ク地主ニ相讓ル片ハ則チ此讓渡シノ約定ニテ後來其地ヨリ生スル所ノ收穫ノ利分ハ悉ク地主ノ手ニ歸スルナリ

又若シ器物製造ノ約定一遍ヲ以テスル片ハ其物成就スルト虫氏引渡未タ濟サル内ハ其所有權注文人ノ手ニ遷ル一ナシ

故ニ「マツクロ」氏ヨリ「マシグル」氏ニ對シタル詞訟ハ船工「マシクル」氏「マツクロ」氏ヨ

リ遊舟ノ注文ヲ受ケテ之ヲ造リ其注文人「マシクル」氏ニ之ヲ渡サ、ルヲ以テ起リタル事件トス借テ注文人「マシクル」氏古舟ノ注文ヲ致シ而シテ之ニ代料ヲ拂ヒ切り己ルノ姓名ヲ其舟ニ記サシメテ之ヲ裝飾セシメタリ然レ氏其舟ノ引渡未タ濟サルヲ以テ所有權未タ船工ノ手ヲ離レス故ニ「マシクル」氏之ヲ得ル一能ハサル趣ニ決定セリ

又「アトキンソン」氏ヨリ「ベール」氏ニ對シタル詞訟ニ於テ「アトキンソン」氏紡績器械製造ノ官許ヲ受タルヲ以テ「ベール」氏ヨリ紡器ノ注文ヲ受取タリ然ルニ「アトキンソン」氏右器械製造ニ付職工兩氏ヲシテ之ヲ造ラシメ其趣ヲ「ベール」氏

ニ通シ置タリ備テ其器械成就致シタル後「アト
キンソン」氏ヨリ重子テ猶ホ器械ヲ造リ直ス可
キ旨ヲ相命シタリ依テ職工兩氏其新命ニ從ヒ
又器械ヲ改造シテ箱入ニ致シ而メ後兩氏ヨリ
「バール」氏ノ方ニ器械仕上リノ趣ヲ相通シタリ
然ル處「バール」氏之ヲ受取ル「アト」欲セサルヨリ
此事遂ニ詞訟トナリタリ此時兩氏其取組ミタ
ル器械ノ詞訟ニ於テ「バール」氏ヨリ其代料ヲ回
復シ能ハサル趣ニ決定セリ其故ハ右器械ニ付
新規作り直シ等ノ事ニ至リテハ注文人「バール」
氏ヨリ同意シタルニ非ス故ニ所有權猶ホ職工
ノ手ニ存スルヲ以テナリ
又若シ物具製造ノ約定ヲ取結ヒ譬へハ窓骨ヲ

造ラシメ之ヲ窓ニ嵌メ合ハス可キノ約定ヲ取
結フハ其約定通り之ヲ窓内ニ嵌メ合セタル
後ニ非サレハ其所有權移ルトナシ
然レ氏爰ニ船舶ノ製造ニ付注文ノ本人ヨリ人
ヲ差遣ハシ其仕事ノ携取り次第追々代料ヲ拂
フ可キ旨約定ヲ取結ヒタル詞訟ニ於テハ其追
々ノ拂ヒニ由テ船舶ノ所有權ハ漸々之ヲ拂フ
人ノ手ニ爰遷ス可キ事ニ決定セリ又其後右同
様ノ詞訟ニ於テ漸々ノ拂金ニテ其最初之ヲ拂
ヒタル部ニ付キ船体ノ既ニ成就セル部分ノ所
有權ハ猶ホ船工ノ手ニ存シ而シ漸次器材ヲ追
加スルニ從テ其益シ加ヘタル部分ノ所有權ハ
注文人ノ所有トナル事ニ決定セリ

又右同一ノ詞訟ニ於テ造船ノ義ニ付キ縱令ニ
其時未タ船体ニ取付サル物ト虫氏元來其船ニ
取付ヘキ部分ノ物ハ其所有權相移ルナリ縱令
ニ造船ノ爲メニ購ヒタルモノト虫氏其時未タ
全ク其部分ト定マラサル物ハ所有權遷ル可カ
ラサルトニ決定ス

又爰ニ甲氏値五十磅ニテシ氏ニ植木室ヲ作ル
可キ旨注文ニ及ヒタリ依テシ氏ニ於テハ注文
通りニテ造リテ則チ落成ノ趣ヲ甲氏ニ通達シ
且ツ其代料ヲ受取度旨ヲ申入レタリ此時甲氏
其代料ヲ相渡シ而シテ甲氏方ヨリ人ヲ差遣ハス
迄テ之ヲ預リ吳レ度旨ヲシ氏ニ依頼セリ然ル
ニ此詞訟ニ於テハ乙氏ヨリ植木室ヲ既ニ甲氏

ニ相渡シ甲氏此趣ヲ承知ノ上タルヲ以テ其所
有權ハ断然甲氏タルトニ決定セリ又他ノ詞訟
ニ於テ原告ノ注文ニテ車工馬車ヲ造リ原告其
代料ヲ拂ヒタリ然ルニ其馬車最初ノ注文ト相
違ノ處ニアルヲ以テ原告猶又其車前ニ坐所ヲ
付備セラレ度趣ヲ別段注文ニ及ヒタリ然ル處
車工其補造ヲ延引シタルヲ以テ原告數々人ヲ
遣ハシテ之ヲ促シタリ依テ被告ニ於テハ補造
セズ其終馬車ヲ引渡ス可キ旨ヲ約セリ然ルニ
原告間モナク其車ヲ不快ニ思ヒ之ヲ賣拂フ可
キ事ニ決着シ而シテ高賣柄ニモ之アル廉ヲ以テ
夫張り被告ノ店ニ差置キテ賣拂ヒ吳レ度旨ヲ
依頼セリ然ル處被告間モナク分散シタルニ分

散ノ時迄テ其車尚ホ依然トシテ其係被告ノ店
 ニ之アリタリ干時此詞訟ニ於テ原告ハ古車ノ
 持主ニシテ被告ノ方散受托人ニ對シ之ヲ裁カ
 方ニ引取ルノ謂レアル趣ニ決定セリ
 又貨物ノ競賣ニ於テ別々ニ置キタル物品ノ賣
 口一人ニ落チ而メ其度毎ニ競賣人其買人ノ名
 ヲ一々其品ニ記ス片ハ法律ニ於テ各箇別々ノ
 約定トナシ其品ノ所有權各箇別々ニ買人ノ手
 ニ遷ルナリ故ニ競賣ノ買人ハ其買得タル物品
 ノ代料ヲ未タ拂ハサル前ニ其物品ヲ再ヒ他人
 ニ賣與スル約定ヲ取結ブトテ得ルナリ
 然レ氏若シ買人口上ヲ以テ同時同所ニ於テ商
 人ヨリ各種ノ物品ヲ買取ル可キ約定ヲ取結ブ

片ハ縱令ヒ代料ハ一々異ナルトモ其物品ノ
 所有權ヲ遷サントスルニ敢テ別々ノ約定ヲ要
 スルナシ而メ此ノ如キ時ノ疑件ハ凡テ全約
 定ニテ取結ヒタル歟否ヤヲ以テ決定ス故ニ「バ
 ルテ」氏ヨリ「バル」氏ニ對シタル詞訟ニ於
 テ「バル」氏ノ店ニ至リ種々ノ代
 料ヲ以テ各般ノ物品ヲ買取ル可キ約定ヲ取結
 ヒ其代料ハ一品ニ付キ殆ント十磅足ラヌニ相
 成リタリ然ルニ「バル」氏之ヲ買取ル可キ時
 同人ノ店ニ於テ其荷物ヲ切り繕キ又ハ之ニ印
 ヲ付ル等種々其手傳ヲナシ而メ其勘定ハ悉ク
 跡ヨリ差送ル可キ趣ニ相約シタリ故ニ其後「バ
 ル」氏方ヨリ代價ノ全高七十磅ノ勘定各付ヲ

添へテ約定ノ荷物ヲ送リタリ然ル處其荷物
一カレ方ニ持運レテ渡サントセシニ「バ」カ
ル氏ハ現金ニテ代價ヲ相拂フ可キニ付キ猶ホ
價ヲ減シ吳レ度旨ヲ望ミタリ然レ氏「バ」ル
氏此趣ヲ承知致サ、ルヲ以テ「バ」ル氏其物
品ヲ破潰ニナサントシテ品物ヲ受領スル
ヲ欲セス爰ニ於テ此事詞訟トナリタルニ欺罔
律ニ適フ可キ物品賣渡ニ付テノ書記セル約定
アラサルヲ以テ「バ」ル氏其代料ニ付キ「バ」
ル氏ニ對シテ詞訟ヲ言通ス事ヲ得可キ歟ノ
疑議ニ於テ此事件ハ此法律ニ從テ失張リ全約
定トナルニ決定セリ然レ氏若シ爰ニ一品ニ
就テハ之ヲ買取ル可キ十分ノ約定ヲ取結レ而

欺賣論

ノ同時ニ又他品ニ付テハ其取舍ヲ要ス可キ不
十分ノ約定ヲ立ルハ此兩注文ノ如キハ各々
別々ノ約定タルニ決定ス
又若シ正商ニシテ我カ不正ヲ掩ハンカ
為ニ修飾ヲ加ヘタル賣買ヲナスハ其物ノ所
有權變遷スルニナシ
然レ氏欺商ハ唯其賣買ヲ虛無トナスノ權ヲ買
人ニ与ルルノミニテ其買取リタル物品ノ所有
權ハ之ヲ虛無トナス迄ハ失張リ買人ノ手ニ
存スルナリ故ニ元來欺罔ヲ知ラスシテ買取リ
タル物品ニ付キ其約ヲ虛無ト為サ、ル間ハ其
物品買人ノ手ニ有リテ尚ホ正約トナスナリ故
ニ欺罔ヲ以テ物品ヲ渡サル、ハ其渡シ者ノ

分散ヲ以テ其物品所有ノ権利一時ニ分散受托
人ノ手ニ歸スル事ナク猶ホ渡サレタル者ノ手
ニ之アリ且ツ受托人ノ撰拔ニ由リテ其物品ヲ
奪却セラルハナリ而シテ其品ヲ古受托人ヨリ欺
罔ノ廉ニ落シテ約定ヲ虚無ト為スニ非サレハ
渡サレタル人ノ所有權尚ホ全キヲ以テ決定ス
英律一般ノ規則ニ於テハ元來物品ノ持主ニ非
サル者其品ヲ賣却スルハ其所有權ヲ他人ニ
移スル能ハス故ニ今若シ原告物品ヲ盜ミ取ラ
ルハニ被告其贓物タルヲ知ラスシテ一商賈ヨ
リ之ヲ購フハ縱令ヒ未タ其盜賊捕縛糾問ノ
事ニ至ラサルモ原告詞訟ヲ起シテ商賈ヨリ其
品ノ代料ヲ回復スルヲ得ルナリ

又若シ物品ノ受托人其預托セラレタル物品ヲ
賣却スルハ縱令ヒ買方ニ不明ノ事ナシトモ
氏其品ノ持主ヨリ買人ニ對シテ其物品取戻シ
ノ詞訟ヲ起スルヲ得ルナリ
然レ氏若シ貨物ノ真主己レノ物品ヲ他人ニ委
托シテ之ヲ所持セシメ或ハ物品所持ノ證卷ヲ
預テ置キテ公然ト其物品ヲ所持セシムルノミ
ナラス猶ホ世人ニ對シテ實ニ其持主タルノ所
行ヲ為サシメ而シテ其之ヲ預リタル者ヨリ此原
因ヲ知ラサル人ニ之ヲ賣与スルハ真ノ持主
ヨリ其貨物ヲ取戻スル能ハカルト云フ蓋シ是
レ其品ヲ賣与シタル人ノ職業柄ヨリ實ニ之ヲ
賣買スルノ權利アリト思量スル時ノ外此決ニ

及ハサルナリ

凡ソ真ノ持主ニテアラスシテ他ノ者ニ因テ物品ヲ賣却スル時則チ公市ニ於テ賣買ノ時ノ如キハ元來所有權ヲ遷サハルノ規則トスルト虫氏亦此規則外ニ出ル事アリ則チ規則外トハ公市ニ於テモ其時賣却リテ可キ真ノ正商ニ於テハ其所有權ヲ侵遷ス但シ貨物或ハ贈物等ノ取引ニ於テハ縱令ヒ公市ニ於テ取引ヲ為ス氏此規則外ヲ以テ論スルナシ

元來米國ニ於テ公市トハ官許ヲ受テ或ハ自然仕来リノ風習ヨリ適度ノ間隔ヲ以テ各場ニ設クル市場ヲ云フナリ然レ氏英都倫敦ニ於テハ日曜日ノ外各店毎日公市ノ場トナリ其店ニ於

テ各商賣買ヲ為スヲ以テ別ニ公市場ヲ設クルナシ然レ氏倫敦ニ於テ各商店ヲ開キテ賣買スルハ縱令ヒ其店市場ニアラスシテ外望ヨリ内間ノ景況ヲ窺フ一能ハスト虫氏夫張リ其店中ニテ賣リタル物ハ公市ノ賣買ヲ以テ論定ス又公市ニテ人若シ通常ノ人民ヨリ盗ミタル物品ヲ賣買スルハ第四世「デ」ヨ「ジ」ノ定律ニ從ヒ其盗マレタル人ヨリ賣人ヲ罪シ其品ノ所有ヲ回復シ且ツ縱令ヒ此定律中ニ其品ヲ回復ス可キノ明條ニナシト虫氏賣人ニ對シテ物品回復ノ詞訟ヲ起スナラ得ルナリ賣人買人ノ間ニテ賣買ノ約定ヲ為スハ其品物ノ請取引渡シ未タ済サルト虫氏所有權既ニ

受遷スルヲ以テ餘人ニ對シテ故障ヲ防ク
得ルナリ然レ氏債主等トナル後チノ買人ニ對
シテハ真ノ引渡シアルニ非サレハ其人ニ對シ
テ故ヲ言防ク一能ハス則チ所有ノ權受遷之
ル一ナシ而シテ此等ノ如キ後チノ買人ニ對シテ
賣約ヲ正確ニスルニハ必ス既ニ実物ノ引渡シ
アラサル一ヲ得ス故ニ賣人一ノ物品ヲ二人ノ
買人ニ賣渡ス可キ約定ヲ取結フハ先キニ実
物ヲ領シタル者ヲ以テ真ノ買人ト爲シ後チノ
一人ニ對シテ所有ノ受遷之アル一ナシ
此ノ如キ時買人ノ守護ヲ爲ス可キ物品引渡シ
ノ例格ハ目ラ真賣買スル物品ノ性質及ヒ約定ノ
取極ニ從ハサル一ヲ得ス故ニ重大ノ物品ノ引

渡シハ縱令ヒ真物ノ引渡シナシト雖モ其雜形
圖面等ヲ以テ引渡スヲ十分トスルナリ又若シ
各種ノ物品賣買ノ結定ヲ取結フハ其惣品ノ
内一部分ヲ引渡スヲ以テ足レリトセリ又一商
店或ハ商庫中ノ物品引渡シノ爲ニ土地懸テ離
レアル中ハ唯其錠鍵ヲ受取リ置クヲ以テ餘ノ
買人ニ對シテ故障ヲ言防クノ能ハサル引渡ト
爲スナリ又爰ニ羊ノ賣買ニ付キ其買ヒ取ル可
キ羊ヲ撰ヒテ之ニ印ヲ附テ而シテ他人ニ托
シ置キ他人之ヲ買人ノ爲メニ預リ置ク一ヲ承諾スル中ハ賣
人ノ債主等ヲ言防ク可キ十分ノ引渡シト爲スナリ
凡ソ價值ヲ定メ拂ヒ期限ヲ取極メ直段皆濟ノ
上ニテ其所有權ヲ受遷ス可キ趣ノ約定ヲ取結

價值皆濟
所有權賣人
存スル論

ト片ハ縱令ヒ買人ニ物品ヲ渡シ置ト虫氏買人
未タ約定ノ代料ヲ拂ハサル間ハ其所有權買人
ノ手ニ遷ル^レトナシ^レ而メ此ノ如キ時賣人若シ其
身ニ越度ナケレハ其拂ヒ未タ相濟サル間ハ縱
令ヒ又買人アリテ不明ノ事ナク事情ヲ知ラス
シテ買人ヨリ其品ヲ又買セル者ニ對スルト虫
氏之ヲ取戻ス^レヲ得ルナリ

代價ト引替ニテ同時ニ賣品ヲ相渡ス可キ約定
ヲ取結ヒ而メ買人其品ヲ受取タル上ニテ其拂
ヲ怠リ或ハ拂ハサル等ノ所為アル片ハ賣人速
カニ其物品ヲ取戻ス^レヲ得ルナリ又若シ數多
ノ品ヲ賣リ後日其品ノ殘分引渡シノ節相違ナ
ク代價ノ全高ヲ拂^レ可キ旨相約シテ先ツ其一

部分ヲ渡シ置ク時ハ此最初ニ相渡セル分ハ猶
ホ未タ不定ノモノニシテ其賣買ノ確定ハ後日
ノ拂ヒ方ニ從ハサル^レヲ得ス而メ殘分ノ物品
引渡シノ時若シ最初請合ヒタル代價ヲ拂^レ事
ヲ辞シ或ハ最初ニ渡シ置ケル物品取戻ノ旨ヲ
申入ル^レト虫氏之ヲ返サ^レル時ハ賣人ヨリ詞
訟ヲ起シテ其物品ヲ取戻ス^レヲ得ルナリ
然レ氏物品引渡シノ時其代價ヲ拂^レノ約定ハ
雙方明カニ之ヲ了解スルカ或ハ雙方ノ所行ヲ
リシテ其事明瞭ナル片ハ必スシモ嚴密ニ取結
ノ事ヲ要セス若シ賣人ノ方ニテ物品ノ代價ヲ
受取ラサレハ商事相整サルノ故障等ヲ述ヘス
賣品ヲ相渡ス片ハ其品ハ則チ買人ノ所有トシ

テ取扱ハル可ク断然買人ノ所有タル一ニ決定
ス
爰ニ別種ノ詞訟アリ則チ若シ賣人賣買セル物
品ヲ買人ノ手ニ渡シ而メ買人ヨリ某ノ期日ニ
其物品ヲ返ス可ク然ラサレハ其代價ヲ拂フ可
キ約旨ヲ受取ルルハ此ノ如キ品ノ利渡シヲ以
テ其所有權買人ノ手ニ遷ルナリ又若シ爰ニ兩
人アリテ互ヒニ馬ヲ交換ス可キ約定ヲ取結ヒ
而ノ其内一人某ノ時間ニ右取扱ヘタル馬ヲ返
ス可キ旨ヲ取扱メ而メ其取扱ノタル時間ニ之
ヲ返サハルルハ則チ其取扱ヘノ約定十分ノ約
定トナルナリ但シ送ヒニ賣品ヲ返ス可キ時間
ヲ取扱ムル一ナクシテ其賣買ニ付キ詞訟起ル

中ハ之ヲ相当ノ時間ニ返サレハ其賣買ノ約
定十分ノ約定ト成ルナリ

啗氏約定法卷之拾終

啗氏約定法

智氏約定法卷之拾壹

增氏約定法卷之拾壹

目次

二 貨物賣買ノ約定ニ付キ欺罔律ノ論

一 欺罔律ノ約定ノ論

未未ノ約定ノ論

工業ノ約定ノ論

賣買取極ノ證書ノ論

姓名ノ登記片諾ノ論

各書ヲ纏メテ一約定ト成スノ論

約定ハ責任ヲ受可キ本人必ス署名ス可キ

ノ論

十分ノ署名ノ論

仲商署名ノ論

同法省

賣證ト買證ト符合セサル時ノ論

仲高ノ簿冊中ニ署名ノ論

競賣人署名ノ論

此定律中代人ノ論

代人ノ權ハ書記ニ及ハサルノ論

三 引渡ト受取アル時證書ヲ要セサルノ

論

賣人貨物ヲ引渡サ、ル權利ノ論

運夫ニ引渡ノ論

買人ノ名指セサル船中ニテ引渡ノ論

買人品物ヲ投棄スルノ權利ヲ有スルト虽

元既ニ十分ノ引渡ト為スノ論

品物ノ見本引渡ノ論

製造品約定ノ論

四 買人手金ヲ典フルノ論

為替證書ヲ以テ拂ヲ為スノ論

證物ヲ典フル片ハ所有ヲ変セサルノ論

目次終

曾氏約定法卷之拾壹

二貨物賣買ノ約定ニ付キ欺罔律ノ論

凡ソ習慣法ニ由レハ貨物ノ賣買ニ就キ口約ヲ以テスルヲ正約ト為スト。虽氏第二世「チャーレス」ノ欺罔律第二十九卷第三篇十七章ニ由レハ貨物賣買ノ約定ニ付キ價值十磅以上ニ至ルハ買人先ツ第一ニ其賣ラレタル貨物ノ一部分ヲ承諾シテ實ニ之ヲ受取ル欺第二ニハ其商約ヲ遂レカ為メ其證據トナル可キ物ヲ典フル欺又ハ其代料ノ一部ヲ渡ス欺第三ニハ双方ニテ其商約ニ付キ責任ヲ受可キ本人又ハ其代人トナル可キ者ヨリ證書ヲ認メテ之ニ署名ナス可キ欺右三條ノ内何レカヲ以テスルニ非サレハ其

欺罔律ノ約
定如何ノ論

約定正約トナシ難キトニ決定セリ

一 欺罔律ノ約定ヲ論スルト左ノ如シ

前條ノ法則ハ品物賣買ノ約定ニノミ限ルナリ
故ニ合本為替會社或ハ鑛山會社或ハ鐵道會社
ノ株金賣買ノ約定或ハ外國元金會社ノ株金賣
買ノ約定ハ其事物悉ク欺罔律ヲ以テ論スル貨
物ノ賣買ト為サレテ以テ其約定ヲ書記スル
ニ及ハサルトニ決定セリ

故ニ「コツボルト」氏ヨリ「カストン」氏ハ對シタル
詞訟ニ於テ船長「カストン」氏ナル者甲地ニ於テ
穀物ヲ積込ミ某ノ期日ヲ以テ乙地迄テ回漕シ
同所ニ於テ之ヲ引渡シ而メ丙地ニ於テ石炭ヲ
積込ミ再ヒ甲地ニ積歸リテ引渡ノ上「チャルト

未未ノ約定ノ
論

ロシ「ナ」量目ニ付キ廿九「シ」ルリシクノ價ヲ以テ「コ
ツボルト」氏ハ相渡ス可キ約定ハ欺罔律中ノ約
定ニ之ヲナキヲ以テ書記スルヲ要ヒサルトニ決
定セリ蓋シ此約定ハ船長「カストン」氏素ヨリ石
炭ヲ賣ル可キトノ約定ニ之ヲク唯丙地ニ於テ
原告ノ為メ之ヲ積込ミ甲地ニ持歸ル可キト迄
テノ約定ニテ若シ「カストン」氏同所ニ於テ之ヲ
得ルヲ能ハサルハ右引渡シ相違ノ廉ヲ以テ
被告ニ對シテ詞訟ヲ起スノ理由アル可カラサ
ルヲ以テナリ

貨物ノ賣買ニ付キ其事務ノ後來ニ殘ル可キ約
定ト又其場ニ於テ直チニ相濟ム可キ約定トノ
間ニ一時其區別ヲ為シタリ蓋シ欺罔律中ニハ

唯其場ニテ濟ム可キ約定ノ書記ニ及ハサル
トトセシヲ以テナリ然レハ此區別既ニ久シク
廢止ニ屬シタリ
又十磅以上ノ貨物賣買ノ全約定及ヒ其他ノ事
実ヲ遂ルニ就テノ全約定ハ此定律中ニ之アル
ナリ
又現今競賣ニテ貨物ノ賣買ハ此定律中ニ之ア
ルトニ定マリ而シテ此定律ハ公市ニテ貨物賣買
ノ約定ニ適用セラル、ナリ
又若シ賣却セル物品ニ付キ之ヲ賣却スル時其
物未タ全ク整頓セスト雖ハ雙方相對承知ノ上
ニテ其賣買ヲ取極ムルハ此定律ニ適當セル
約定ト為スナリ例ハ麥粉賣買ノ約定ニ於テ

賣買約定ノ時未タ之ヲ磨碎シテ粉末ト成サ、
ル約定ニ於ルカ如シ然レハ此定律ハ賣買取極
メノ時未タ相調ハサル物ニテ現在其場ニ之ナ
ク既ニ一部分ヲモ相渡スト能ハサル物ヲ後日
出体ノ上ニテ相渡ス可キトノ約定ニ於テハ適
當スルトナシ譬ハ船車等ヲ造ラントノ約定
ニ於ルカ如シ
然レハ第四章「ヂョー」ノ定律第九卷第十四篇
第七章ニ依レハ貨物ノ賣買ニ付キ英國及ヒ阿
爾蘭ノ欺罔律ハ約定後若シ其物ニ損害アルハ
ハ之ヲ償フ可キトノ未未ノ約定ニ及フ可カラ
サルトニ決定セリ而シテ欺罔律ノ法例ヲ此ノ如
キ未未ノ約定ニ及ハシムルトノ必要ナル事ニ

至リテ後々遂ニ此法例ハ縱令ニ其約定ノ時物
品ヲ後日ニ相渡ス可キ用意等ノ有無ニ拘ラズ
ト虽代料十磅以上ノ貨物賣買ノ約定ニ總テ
及フ可キ丁ニ決定セリ
然レ凡器械及ヒ工作ニ就テノ約定則チ其ノ價
ヲ以テ紙共ニ書籍若干卷ヲ請合テ刊行ナス可
キトノ約定ハ古法例ノ内ニ在ラサルナリ
又代料十磅以上ノ物ニテ其賣買取極メノ時其
代料必ス此高ニ至ル可キ款未タ定マラスト虽
凡此ノ如キ約定此定律中ニアル可シ而メ賣人
其品物ヲ買人ニ引渡スニ付キ其雜費ヲ拂フヨ
リレテ其品兼テ取極メタル定價ヨリ高價ニ騰
ルト虽凡之ヲ問ハサルナリ

二 次ニ此定律中ノ箇條ニ付キ貨物賣買ノ正
約ハ何ヲ以テ正約ト為ス可キ款之ヲ論スル
左ノ如シ
凡ソ正約ヲ取結フニハ賣買ノ取極ヲ為ス雙方
ノ本人カ又ハ全權ヲ附與セラレタル代人ニ於
テ必ス賣買取組ミノ証書ニ署名為サ、ルヲ
得ス

此定律ニ適スル賣買取極メノ證書ハ必ス詞訟
ヲ起ス前ニ為サ、ルヲ得ス

此證書中ニ記載スル事ニ付キテハ約定ヲ取結
フ双方ノ本人又ハ代人ノ姓名之ナク或ハ約定
ノ旨趣片諾ニテ雙方同意一致ノ上ニテ認メタ
ル者ニ非サレハ十分ノ正約ヲサ、ルヲ決定

民法
第...
第...

各書ヲ纏ミテ一
約定ト成テ論

セリ但シ其書中ニ代料ヲ拂フ可キ方法時期之
ナク又ハ定價ノ記載之ナキカ如キハ縱令ニ双
方ニテ約定取極ノ定價之アルキハ必ス之ヲ
其書中ニ登記ス可キ若ト虽氏失張リ其約定有
効ノモノト為スナリ
凡ソ約定ハ必スレモ其全意ヲ悉ク一書中ニ認
ムルヲ緊要トスルヲナシ蓋シ同一ノ約定ニ
干係セル數多ノ書類ヨリ其全意ヲ集ムルヲ以
テ十分トレ或ハ約定ヲ取極メテ後テ只其主件
ノミニ限ラス約定ニ關係レテ責任ヲ受可キ本
人ノ認メタル書面ニ由テ其全意ヲ承認スルヲ
以テ十分ト為スナリ
故ニ「サウシダ」ルズ「シ」氏ヨリ「テ」ツキ「シ」氏

ニ對シタル詞訟ニ於テ賣人注文ヲ受タル時其
貨物ヲ後日買人ニ相渡ス可キ旨已レノ姓名ヲ
摺リ記シタル勘定紙ニ相認メタル證書ハ縱令
ニ此定律ニ於テ十分ノ證書ト認ル氏認メザル
氏此定律ニ從テ詞訟ノ処置ヲ受ントスルニハ
賣人其注文ノ事ニ付キ別ニ自筆署名シテ其後
差出セル書類ニ干係ス可キ事ニ決定セリ
又「アル」シ「氏」ヨリ「ベ」子「ツ」ト「氏」ニ對シタル詞訟
ニ於テ賣人ヨリ買人ノ通帳ニ自筆ヲ以テ書記
署名セル物品ノ注文ニ付キ之ヲ十分ノ約定ト
成スニハ賣人ヨリ買人ノ名當ニテ其代人ニ渡
セル書面ト買人ヨリ賣人ニ注文通り致サレ度
趣ヲ望ミタル書付トテ取揃ヘテ全約ト成ス可

キ事ニ決定セリ
又麥粉ノ買人ニ於テ賣人ヨリ既ニ相渡サレタ
ル物品ノ品位ニ付其約定ノ趣ヲ巨細書記シテ
其物ニ付キ不滿ノ廉ヲ賣人方へ申送リタリ此
時賣人ノ返書ニ當方ニ於テハ約定通りノ品ヲ
既ニ相渡レ猶ホ其残分ヲ相渡ス可キ用意中ニ
之アリ若シ一月ノ末ニ至リテ既ニ渡シタル麥
粉ノ代料ヲ拂ハサルニ於テハ詞訟ヲ起ス可キ
趣ヲ認メテ返書ニ及ヒタリ然ルニ此事詞訟ト
ナリタルニ此事ハ陪審ニ於テ賣人ノ書中ニ認
メタル約定ノ趣ハ則チ買人ノ書中ニ認メタル
旨趣ト同様タルヲ以テ此兩通ハ則チ此定律ニ
於テ十分ノ約定ト為ス可キトニ決定セリ

又被告買人公市ノ競賣ニ於テ一家屋ノ貸家證
書ヲ買取り而メ後チ原告賣人ノ仲商ニ家屋ノ
鍵ヲ渡シ吳度且ツ買人ノ仲商ニ於テハ其家ニ
附属品ノ直段書付ヲ所望致シ度旨ヲ書面ニテ
申送リタリ故ニ雙方ノ仲商迭ヒニ相會レ其直
段ヲ定メントセシニ直段一定セサルヲ以テ之
ヲ鑑定家ニ相托シ則チ直段書ヲ封入シテ附属
品ハ原告ノ物ニシテ被告ノ為メニ直段ヲ定メ
吳度旨ヲ申送リタリ依テ右鑑定家ハ其直段ヲ
定メ鑑定印シテ直段書ヲ相返シタリ其後被告買
人ヨリ書面ヲ以テ賣人方ニ鑑定ノ濟タル附属
品ヲ持運ハシテ相望ミ且ツ書面ヲ以テ賣人
方へ翌日買人在宿ニテ鑑定家ノ定メタル通り

其附屬品ノ勘定ヲ相拂フ可キ旨ヲ申送リタリ
干時買人方ヨリ送リタル前後ノ両通ハ買人自
ラ署名レ其調印セルモノハ唯前書一通ノミナ
リ此ニ於テ附屬品ノ書付直段書及ヒ双方往復
ノ書類ヲ取合セテ即チ此定律ニ適フ可キ約定
十分ノ證書タルコトニ決定セリ
然レハ若レ最初ノ約定不十分ナル所アリテ即
チ署名ナキ約定ノ如キハ被告ヨリ其後ノ書面
中ニ一旦賣買注文ノ承諾ヲ為スト虽レ其約定
ヲ遂ケ難キ趣ヲ申送ル所ハ原告ニ於テ之カ為
メ已レラ利スルコト能ハサルナリ
故ニ「コーペル」氏ヨリ「スミス」氏ニ對シタル詞
訟ニ於テ爰ニ貨物賣買ノ取極ニ付キ十分ノ證

書ト取り難キモノアリ則チ「スミス」氏書面ヲ
以テ貨物ノ注文ヲ為スト虽レ其貨物約定ノ時
相渡サレサル故ニ其品ヲ受取り難キ趣ヲ申送
リタリ然レニ此詞訟ニ於テ其書面ハ證書ノ不
足ヲ補フニ足レ可カラズ且ツ原告ニ於テ口證
ヲ以テ品物ヲ渡ス可キ時期ヲ取極メサル事ヲ證
明スル能ハサルコトニ決定セリ而シテ此詞訟ハ「リ
チャード」氏ヨリ「ポーター」氏ニ對シタル詞訟
ニ於テ被告品物賣買ノ約定ニ付キ其品物勘定
書ノ受取ヲ相渡シタルハ其時品物相渡サレサ
リシ時ニモ同様ノ決定ヲ以テシ又「スミス」氏
ヨリ「サルマン」氏ニ對シタル詞訟ニ於テ賣人ノ
書中ニ認メタル箇條ノ通り買人ノ書中ニ其模

約定ハ責任ヲ受
可キ本人必ス署
名ス可キ論

様之ナク事實曖昧タルヲ以テ十分ノ約定ト認
ノ難キハ此定律ニ於テハ十分ノ證書ト取り
難キ趣ニ決定セリ

然レハ書記ノ約定ニ於テ某ノ價ヲ以テ某ノ品
物ヲ買取ル可キヲ取極ムルハ縱令ヒ其約
定面ニ約原ヲ書記セサルハ當人自己ノ模様ヨ
リ其約定ヲ正善ト為スヲアリ

凡ソ約定ハ欺罔律ノ第十七章ニ從ヘハ必ス其
約定ニ就テ責任ヲ受可キ本人ニ因テ署名セサ
ル可カラス然レハ被告ニ於テハ賣人ニモセヨ
又買人ニモセヨ何レニテモ其約定ニ署名スル
ヲ以テ十分トシ原告之ニ署名ナサル故ニ被
告ヨリ原告ニ對シテ贖償ヲ出サレムルヲ能ハ

十分ノ署名ノ
論

サルハ元ヨリ當然ノトセリ故ニ此定律ニ由
レハ約定ハ其一方ニテ言通スヲ能ハスト雖
又他ノ一方ニ於テ言通スヲ得ルモノアリ則
チ此定律ニ於テ此ノ如キ約定ハ其証拠ノ方法
及ヒ其約定ノ模様ヲ論スルヲナク全ク其約定
ヲ言通スヲ能ハサル方ニテ之ヲ言張ル可キ確
證ヲ取ルニ注意セサルハ即チ其人ノ怠慢ト為
スヲ以テナリ

販ニテ賣人ノ名ヲ記シタル勘定紙ハ賣人ニテ
買人ノ姓名ヲ登記スルハ此定律ニ於テ賣人
ヲシテ其約定ノ責任ヲ受レム可キ十分ノ證書
ト為スナリ而シテ人若シ其書ノ始メニ自筆ヲ以
テ余何某又ハ唯何某彼ノ誰何某ト約定ヲ取結

フ趣ヲ認ムルハ縦令ヒ其人姓名ヲ毎ニ記ス
可キ場所へ署名ナサハルト虽氏之ヲ書記ニ於
ル十分ノ正證ト為スナリ蓋シ其記ス可キ場所
ハ正レク姓名ヲ認メ置カサルハ本人其約定ヲ
遂ルテ欲セサルノ故意ニ出ル歟或ハ約定ヲ
遂ク可キノ意ニ出ル歟此疑件ハ毎ニ屢々陪審
ニ附レテ決スルテアルヲ以テ必竟此ノ如ク一
定セルナリ

又證書中ニ其約定ヲ取結フ可キ本人ノ由ヲ以
テ署名シタルハ本人縦令ヒ証人トシテ署名シ
タル趣ヲ辨解スルト虽氏一時十分ノ正證タル
トニ決定セリ然レ氏此說遂ニ行ハレサルナリ
又一丁字ナクシテ書記スル能ハサル者符徴ヲ

以テ已レノ姓名ヲ登記スルハ則チ符徴紛ハ
レキ者ニ非サレハ十分ノ正證ト為スナリ
然レ氏署名セサル約定ハ縦令ヒ其之ヲ認ムル
時先方ノ所望ニ由リ本人之ヲ讀聞セ先方ニテ
其趣ヲ承知シタル者ニ之アルト虽氏無効ノ約
定ト為スナリ而シテ署名ナキ書面ハ此定律ニ於
テ正證ト認ムルナレ故ニ或ル母ヨリ其子ニ
送リタル書中ノ文言ニ我カ愛兒^リロベルト氏ト
云フ言語ヲ以テ書始メ而シテ汝ノ慈母ヨリトノ
ミ認メテ其文ヲ終リ更ニ其母ノ姓名ヲ記サレ
ルハ縦令ヒ其兒ノ住所姓名之ナク氏十分ノ
證書ト成サハルナリ
米國ニ於テ商業ハ多分手數料ヲ取テ人ノ為メ

仲商署名論

ニ貨物ヲ賣買スル事ヲ業ト為人者ノ手ヲ經テ
商業ヲ執行クナリ是レ即チ仲商ト稱タル者ニ
シテ例ヘハ之ヲ雇用スル者ノ代人ノ如キモノ
ナリ但シ此者他人ノ為メニ品物ヲ買ヒ或ハ之
ヲ賣リ而シテ他人ト之ヲ賣買スルノ約定ヲ取結
ブハ此定律ニ於テ則チ雙方ノ代人ト考定ス
故ニ仲商ハ雙方ノ證書ニ署名シテ双方ヲシテ
其約定ヲ守ラシムルノ權利ヲ有スルモノトス
又若シ仲商ノ簿冊中ニ自カラ署名セル賣買ノ
書留メ之アルハ縱令ヒ別ニ其賣買ノ證書之
ナレトモ此定律ニ適フ可キ約定ノ正證ト為
スナリ而シテ仲商ノ簿冊中ニ書留メ之ナク或ハ署
名セサル書留メ之ナレトモ仲商別ニ署名セル

書面ヲ認メテ之ヲ双方ニ渡スハ則チ得テ正
證ト為スナリ然レハ仲商ノ簿冊中ニ約定ノ趣
ヲ器械ニテ摸写セルモノハ此定律ニ適フ可キ
十分ノ正證ト為ス可キヤ否ヤ未タ決定セサル
所トス

一人ノ仲商双方ノ間ニ入りテ商事ヲ周旋シ而
シ其賣買ノ證書ヲ雙方ヘ渡スハ必ス兩道互
ニ符合セサル可カラズ若シ其證書相違スルハ
ハ爰ニ約定アリト為サハルナリ故ニ比多堡產
ノ晒麻ヲ賣ランカ為メ原告ニテ一仲商ヲ雇ヒ
而シテ被告ニ於テ之ヲ買取ラントノ約定ニテ之
カ為メ被告モ亦其仲商ヲ用ヒタル處仲商誤テ
被告ニ「リカ、レ」^レ產ノ麻ヲ賣渡ス可キ賣証ヲ

賣證ト買證ト
符合スル時ノ論

相渡シタリ然ルニ其書付ニテハ元ヨリ賣人原告ノ思フ品ト相違シケルニ矢張り賣人ハ比多堡産ノ晒麻賣拂ノ書付ヲ相渡シタリ故ニ裁廳ニ於テハ此詞訟ニ於テ元ヨリ双方ノ間ニ晒麻賣買ノ約定アラサルニ決定セリ然レ氏若シ一人ノ仲高双方ノ間ニ入ラスレテ賣買ノ両通互ニ符合ナサレハ雙方何レノ證書ヲ以テ約定ヲ守ラントセシカ此ノ如キ疑件ニ至テハ陪審ニ附シテ決定セサルヲ得ス又若シ仲高ヨリ原告ニ渡セル買取證書ト賣拂證書トハ被告ニ渡シタル賣買ノ書付ト相違ノ所ニアリ則チ被告ノ證書中ニハ賣買共其證書ノ終ニ七月一日ニ利息ト共ニ金子ヲ相拂フ可

仲高ノ簿冊中ニ署名ノ論

キ事ニ認メアリケルニ原告ノ方ノ書付ニハ唯其買取證書ノ終ニ其時日ヲ記シアリレカ元未賣渡證書ト同紙ニ認メタルヲ以テ矢張り賣渡證書ノ終ニモ同様其時日之アル可キ事ニ決定セリ故ニ此ノ如キ双方ノ書付ハ迭ニ相符合セル證書タルニ決定セリ若シ買取證書ト賣拂證書ト相符合セス然ルニ仲高双方ノ存意ニ從テ之ヲ己レノ簿冊中ニ書留メ而シテ仲高之ニ署名スルハ其書此定律ニ適フ可キ正証ト為ス可キ歟未タ決セサル所ト至近來ニ於テハ英國上等裁廳ノ裁官多分ハ矢張り正証ト取ル可キニ決定セリ競賣人ハ賣人并ニ高買スル買人双方ノ代人ニ

競賣人署名ノ論

此定律中代人論

レテ縦令ヒ買人自ラ其本人ノ代人タルト虽モ
之ヲ論スルトナシ故ニ買人又ハ買人ノ代人ノ
名ヲ競賣人ニテ自ラ登記スル事ハ則チ此定律
ニ適フノ約定ト為スナリ但シ競賣人其買人ヲ
レテ約定ノ責任ヲ受シムルニハ其買人ニ落チ
タル品物ハ勿論尚ホ其買人トナリタル者ノ姓
名ヲ品物ノ下ニ記シ置クヲ以テ更ニ緊要トナ
スナリ
又競賣人已レノ簿冊中ニ買人ノ名ヲ登記スル
事ハ其賣買取引ノ次第ヲ書キ加ヘ置カサレハ
十分ノモノト為サレナリ
此定律ニ適フ可キ代人ニテ已レノ署名ヲ以テ
被告ニ約定ヲ守ラシメントスルニハ其賣買何

代人ノ權ハ書記ニ及ハサルノ論

レカ一方ノ本人ニ之ナリ全ク雙方ニ關係ナキ
別人ヲラサルヲ得ス故ニ競賣人自カラ被告
本人ノ權ヲ以テ其買取ル可キ品物ノ下ニ買人
ノ名ヲ記シ而シテ競賣人ノ名ヲ以テ詞訟ヲ起ス
ルハ此ノ如キ書中ノ留置キヲ以テ此定律ニ適
フ可キ代人十分ノ約定ト為ス可カラサルトニ
決定ス然レ氏競賣人ノ番頭ハ十分買人ノ為メ
ニ署名ス可キ權ヲ受ケ則チ買人ノ目前ニ於テ
買人ノ姓名ヲ記スルハ則チ双方ノ間ニ入り
タル別人トナルナリ
凡ソ競賣人又ハ本人ノ為メニ品物ヲ賣買スル
代人ノ類ハ必スレモ書記ノ證書ヲ以テ代人ノ
權威ヲ與フルニ及ハサルナリ

又約定ニ署名スル代人ハ署名ノ時必スレモ兼
テ其推テ附典セラレタルヲ要セサルナリ但
其約定ノ本人ニテ代人ノ取結ヒタル趣ヲ後チ
ニ確定スルヲ以テ十分ト為スナリ
然レモ仲商ハ明許ニモセヨ又黙許ニモセヨ何
レニモ其本人ノ同意之アルニ非サレハ其權ヲ
專行スルヲ能ハサルナリ故ニ甲氏ハ一仲商ヲ
雇ヒテ品物ヲ賣ラントレ乙氏ハ右仲商ノ手代
ニ其價ヲ取極ム可キ旨ヲ委托レテ之ヲ買取ラ
ンヲ欲シタリ故ニ右手代ハ則チ双方賣買ノ
者ヲ一處ニ連来リタリ然ルニ雙方ニテ右手代
ノ居ラサル内ニ其約定ヲ取極ノ而ノ委細其約
定ノ模様ヲ石ノ手代ニ相話レテ約定書ヲ認メ

サセタリ因テ手代ハ則チ之ヲ己レノ主人仲商
ノ書中ニ書留ノタレ氏之ニ署名セシテ其後
約定ノ模様ヲ主人仲商ニ通シタリ是ニ於テ仲
商ハ己レノ番頭ニ命シテ其約定ヲ認メサセテ
自ラ之ニ署名シ而ノ此賣渡書付ヲ甲氏ニ相渡レ
タリ然ルニ乙氏ノ方ハ其買取書付ヲ送付セ
ス干時此詞訟ニ於テハ此定律ニ適フ可キ双方
ヨリ十分ニ委任サレタル代人ノ署名セル證書
更ニ之ヲキテ決定セリ

三 欺罔律ノ通則ニ於テハ賣買ノ取極ノヲ為
ス可キ双方ノ約定ハ必ス書記ス可キ筈ニ之ア
ルト虽モ亦此定律ノ第十七章ニ由レハ約定一
部分ノ執行則チ品物一部分ノ請取り渡シヲ以

引渡ト受取
レ時証書ヲ要
セサルノ論

此定律中十分ノ引渡ノ論

テ敢テ書記ノ約定ヲ要セサルノ證據ト為ス
アリ

先ツ第一ニハ若シ買人其賣渡サレタル品物ノ
内一部分ヲ受取り例ハ賣人ヨリ其賣渡ス可
キ品物ノ所有權ヲ移サシカ為メ則チ證據トシ
テ其一部分ヲ相渡レ買人直チニ所有者トナリ
テ之ヲ正領スレハ則チ右ノ賣買取極ニ付キ
別ニ書記ノ証書ナレトモ此請取り渡レテ以
テ十分ノ証拠ト為スナリ

此定律ニ適フ可キ十分ノ引渡ニ付キ賣人ヨリ
買人ニ與ハタル書中ニ積問屋會社或ハ貨物ヲ
托レ置ル者ニ宛テ、買人ニ品物ヲ相渡ス可キ
趣ヲ登記スレハ則チ此定律ニ適フ可キ十分

ノ引渡ト決定ス然レハ此ノ如キ時ニ於テハ其
買人其引渡シ書付ヲ取ル事ハ勿論且ツ其品物
ヲ預リ居タル者ニテ其書付ヲ承認シ而シテ其品
物ヲ買人ノ為メニ預リ置可キ旨ヲ賣人ト約定
スレテ以テ緊要トナスナリ是レ此ノ如キ約定
ナキ内ハ預リ人ハ尚ホ賣人ノ代人ニシテ其品
物未タ買人ノ手ニ移ラサルヲ以テナリ

然レハ倫敦積問屋ノ書中ニ由レハ口約ヲ以テ
賣渡セル葡萄酒ノ引渡シハ買人ノ承諾ノ上ナ
レハ則チ其品物引渡シ済トナルヲアリ又爰ニ
一ヶ處ニ在ル枯草ヲ賣買ス可キ約定ヲ取結ヒ
而シテ後チ買人再ヒ其一部ヲ他人ニ轉賣ス可キ
取極ヲ為シ他人即チ其一部ヲ運遷スレハ縱

令レ賣人ノ真意ニ逆フト虽既ニ其一部ヲ運
移スル中ハ全量賣渡シノトニ歸シテ即チ陪審
ニ於テ又買人ノ其全量ヲ賣人ヨリ受取リタル
證據ト成ル可キトニ決定ス

又若シ爰ニ賣買ノ約定ニ付キ品物既ニ買人ノ
手ニ之アリ而シテ買人ノ所行ニ至テハ以前ノ所
有未タ變遷セサル様ノ事情之ナク其物品ヲ全
ク賣拂フ既ニ買人ノ隨
意タル模様アル中ハ其品物實ニ買人ノ手ニ移
リテ此定律ノ裁許ヲ受可キ賣買ノ取引ト為ス
ナリ

「ニコル」氏ヨリ「プリウム」氏ニ對シタル詞訟ニ於
テ「プリウム」氏口約ヲ以テ貨物ヲ注文セシニ由

リ車ヲ以テ其品ヲ「プリウム」氏ニ相送りタルニ
同氏之ヲ受取ル「プリウム」氏ニ辭シテ其住居セル家宅ノ
近所ニ在ル他人ノ藏ニ入置キタリ而シテ「プリウ
ム」方ヨリ其後別ニ此品ヲ送り返シモ致サス亦
之ヲ受取ラサル趣モ挨拶ニ及ハサリケリ然ル
ニ此事詞訟トナリタルニ時ノ裁官「ベスト」氏此
事件ニ於テハ此定律ニ適フ可キ賣買ノ受取リ
渡シ之ナキ趣ヲ以テ決定セリ
又某氏ノ賣買ニ於テ貨物ヲ外國ニ於テ買取ル
可キ約定ヲ為シ而シテ買人ノ雇ヒタル船舶ニテ
其品ノ引渡ヲ為シタルノミニテハ此定律ニ適
フ可キ十分ノ引渡ト為ス可カラサルトニ決定
セリ

備テ此定律ニ於テハ品物ヲ正領スルト云ヘル
言葉ヲ以テ正文ト為スト虽氏屢々陪審ニ於テ
疑議ヲ生スルヲアリ是ヲ以テ其後受取ノ文言
アル片ハ則テ此定律ニ適フ可キ慥ナル受取ノ
意ヲ含ミタルヲニ決定セリ

然レ氏事件ノ模様ニ確然明白ナル廉之ナキ片
ハ陪審ニ於テ此定律ニ適フ可キ受取リ渡シノ
意之アル趣ニ決定スルヲ能ハサルナリ

故ニ若シ被告ノ命ニ由テ蒸氣車ヲ以テ材木ヲ
原告ヨリ被告ニ差送リ其後兩三日ヲ歷テ又其直
段書ヲ送リタリ然ルニ被告ニ於テハ林木到着

ノ時唯蒸氣車ノ番頭ニ其材木ヲ受取ル間數趣
ヲ申タレ氏後チ數週間其勘定書ヲ返サ、リケ

リ干時此詞訟ニ於テハ陪審ニ於テ此材木ハ此
定律ニ適フ可キ受取ノ確證之ナキ事ニ決定セ

然レ氏某氏ノ詞訟ニ於テ買人ノ注文ニ由テ賣
人ヨリ品物ヲ送リタルニ買人方ニテハ右品運
送方ノ藏ニ到着セル旨通達ヲ受テヨリ五六ケ
月ヲ歷サル内ハ其品ヲ受取ルマシトノ心得ナ
リシカ其趣ヲ賣人ニ報知セシテ其儘ニ差置
キタル時陪審ニ於テ右ノ品物ハ既ニ此定律ニ
適フ可キ受取リ渡シ十分タル趣ニ決定セリ
然レトモ亦某氏ノ詞訟ニ於テ買人既ニ物品ヲ
受取リテ自分ノ藏内ニ入置キ而メ其品ノ善惡
ヲ改メンカ為メニ荷物ノ中ヲ検査シテ樽入ノ

物^ラ依詰ニ直スカ如キ実ニ品柄ヲ変スル所為アル
ル^ト但^ハ唯此廉ノミニテハ買人遂ニ其品物
ヲ受取リタル^ト定ノ難キ趣ニ決定セシ^テア
リ
又買人例ハハ吳服類ノ如キ物ヲ大口ヨリ小分
レテ之ヲ撰ミ取り其束縛ヲ解キ其寸尺ヲ量リ
テ之ニ符号ヲ付ケ勘定書ヲ添テ之ヲ我方ニ送
ラル可シト命スルノミニテハ未タ此定律ニ適
フ可キ十分ノ受取ト云フ可カラズ
然レ^ハ被告ハ原告ノ牧場ヨリ羊ヲ撰ミ取り口
上ニテ之ヲ買取ル可キ趣ヲ相約レ其後原告ハ
被告ノ沙汰ニ由テ其羊ヲ被告ノ地所ニ相送り
夫ヨリ被告之ヲ己レノ牧場ニ引入レ其員ヲ数

ヘテ満足ノ旨ヲ申送ル^ルハ則チ此定律ニ適フ
可キ受取ノ證據トス然ルニ其翌日被告羊ヲ見
テ買整ヘタル羊トハ相違之アル趣ヲ以テ代料
ヲ減省致サレ度旨書面ヲ以テ原告方ヘ懸合シ
ニ原告之ヲ承引ビスレテ此事遂ニ詞訟トナリ
タレ^ハ其羊既ニ慥ナル受取リ渡し相濟ミタル
ヲ以テ之ヲ覆ヘス^ト能ハサル趣ニ決定セリ
又某氏ノ詞訟ニ於テ賣人葡萄酒ヲ賣ル^トラ口
上ニテ相約レ其酒樽ヲ倫敦府ノ陸揚場ニ差置
キ買人ノ望ミニ由リ且ツ買人ノ目前ニテ其樽
ニ買人名頭ノ文字ヲ記セリ然レ^ハ此樽ニ右ノ
符号ヲ付タル^ルハ其代料ヲ拂フ可キ時期モ定
メスレテ約定未タ十分ナラス依テ此符号ヲ付

タルハ此定律ニ取リテ十分ノ受取ト勘フル
ヲ得サル可シ而メ諸般ノ詞訟ニ於テ品物ニ
買人ノ名号ヲ附クルハ右ノ品物買人ハ引渡
サレタル確證之アル時ノ外此定律ニ於テ買人
ノ受取ト為スヲ得サルナリ
爰ニ買人代價百四十磅ノ品物ヲ注文致シ而メ
買人唯其内ノ一部分ヲ取り去リ餘分ハ買人ノ
望ニ由テ賣人方ハ差置キタル詞訟ニ於テハ
右餘分ノ品ニ付キ未タ買人ノ受取之ヲキ趣ニ
決定セリ

又原告ハ被告ノ注文ニ由リテ其注文品ヲ原告
所持ノ舟ニ積入レテ被告屋敷ノ近所ニ住居セ
ル原告ノ番頭ノ藏ニ運漕シタル事ハ此定律ニ
取リテ未タ買人ノ受取ト相成ラサル趣ニ決定
セリ

又競賣ニテ某ノ品物買人ノ手ニ落チ而メ其品
物買人ノ手ニ渡サレタルニ數分時間ヲ過キテ
買人其品ヲ取ルヲ辞スルハ賣人ト買人トノ
間ニ十分ノ受取ト引渡ト相濟ミタル欺未タ相
濟マサル欺此ノ如キハ陪審ノ決議ニ附セサル
ヲ得ス蓋シ元未高道ニ於テ買人物ヲ購フニ
ハ之ニ手金ヲ差入ル可キ欺或ハ其品ヲ運移ス
ル前ニ其代料ノ殘金ヲ拂フ可キ欺何レカノ所
為アラサルヲ得サレハナリ
我等既ニ説明セシ如ク一大箇ノ賣品ノ内一部
分ヲ引渡シテ全分ノ所有ヲ變移スルヲ屢々之

アルト雖此然レモ概シテ之ヲ論ス可カラス
令レ此ノ如キ時ト雖モ猶ホ此定律ノ箇條ニ照
ラレテ適セサルモ其品物ノ所有ヲ變セサル
トアリ有司宜シク茲ニ注意セサル可カラス
爰ニ此定律ニ適フ可キ受取り渡シアル歟ナキ
歟ヲ検査スルニハ賣人品物ヲ引留メテ代價ヲ
討求スルノ權利アル歟ナキ歟ニ因テ之ヲ決ス
ルヲ得ルナリ而シテ此權利賣人ノ方ニ存在ス
ル内ハ買人未タ其品物ヲ受領シタルニ非サル
明瞭タリ

故ニ「エ」モ「ル」氏ヨリ「ス」ト「ン」氏ニ對シタル
詞訟ニ於テ原告ハ借馬屋ニテ馬商ナリシニ被
告ハ其ノ價ヲ以テ馬ヲ賣リ其代價ヲ催促セリ
夫ヨリ被告ハ右ノ直段ヲ減省致サレ度旨ヲ申
入タレモ「エ」モ「ル」氏ニ於テ之ヲ承知セサリ
レカハ遂ニ被告ヨリ申送リタルニハ然ラハ其
馬ハ我カ物ナリ候シ今我カ方ニ別當モ厩モ之
ナキ故何トソ我カ為ニ其馬ヲ汝ノ厩ニ預リ
置ル可レト云ヒケルニ依テ原告即チ其馬ヲ別
ノ厩ニ移レテ之ヲ預リ置タリ然ルニ其後此事
詞訟トナリタルニ此馬ノ賣買ニ於テハ此定律
ニ適フ可キ十分ノ引渡し相濟ミ品物ノ所有既
ニ變遷シ且ツ原告方ニテ其馬ヲ預ル時ニ代價
ノ談判之ナクシテ既ニ馬ヲ預リタルハ則チ之
ヲ引留メテ代價ヲ催促スルノ權ヲ捨テタルナ
リ猶又其後原告右ノ馬ヲ持居タルモ原告ハ其

馬ノ持主ニ非ス他ノ借馬屋ニテ人ノ馬ヲ預リ
置タルモ同様ノ事タル趣ニ決定セリ又「カ」
氏ヨリ「トウ」イッサン「ト」氏ニ對シタル詞訟ノ事
實ハ最初馬ヲ賣リタルニ口上ニテ相約シタル
代價ノ拂方ハ其期限ヲ定メス而シテ二十日ノ
間「トウ」イッサン「ト」氏ノ簡係ナク「カ」タル「氏」方
ニ其馬ヲ預リ置可キ事ヲ約シタリ然レニ被告
ノ承知ニテ其馬ノ毛焼ヲ致シ右二十日ノ期限
ヲ過キタル處ニテ右ノ馬ヲ賣人所持ノ分トレ
テ牧場ニ送り置タリ其後此馬ニ付キ詞訟トナ
リタルニ是ハ前段「エ」ルモ「ル」スト「ン」兩氏ノ
詞訟ト違ヒテ未タ其馬ノ受取り渡し之ナキ趣
ニ決定セリ如何トナレハ其馬ノ持主ノ名目ハ

始ヨリ終ニ至ル迄「カ」タル「氏」ニテ未タ曾テ
変化シタルニ非ス故ニ「エ」ルモ「ル」氏ノ賣馬ト
違ヒテ「ト」イッサン「ト」氏其代金ヲ持參ノ上ニ非
サレハ「カ」タル「氏」ニ對シテ其馬ノ引渡ヲ求ム
ル「ト」ラ得サルヲ以テナリ然レモ若シ其馬「ト」
サン「ト」氏ノ差図ニ由テ同氏所持ノ名目ニテ牧
場ニ遣ハス片ハ更ニ亦異ナル所アル可キナリ
又「テ」ムペスト「ト」氏ヨリ「ヒ」ツゼラル「ド」氏ニ對シタ
ル詞訟ニ於テ甲氏ハ乙氏ヨリ現金ニテ馬ヲ買
フ「ト」ラ相約シ且又約定ノ日限中ニ其馬ヲ引取
ル「ト」ラ相約シタリ然レニ右日限ノ終リニ甲氏
其馬ニ乘リ且ツ右ノ馬取扱等ノ指図ヲ致シ而
シテ甲氏ヨリ乙氏ニ向ヒ其内ニ代金ヲ相拂ヒ此

馬ヲ引取ル可キノ間何卒今暫ラク汝方ハ差置
カレタレト相頼ミケルヲ以テ乙氏之ヲ承知セ
リ然レニ甲氏未タ馬價ヲ拂ヒテ之ヲ引取ラサ
ル内ニ其馬死シタリ是ニ於テ此事詞訟トナリ
タルニ此馬ニ於テハ未タ十分ノ受取之ナキヲ
以テ甲氏ニ於テ其代價ヲ拂フニ及ハサル趣ニ
決定セリ蓋シ現今ノ賣買ハ代價ノ拂ト馬ノ引
渡ト同時ニ取行ハレテ始メテ所有ノ權變遷ス
ルヲ以テ甲氏ニ於テ其代價ヲ拂ハサル内ハ未
タ甲氏ハ其馬ノ持主ト云フ可カラズ故ニ其物
ヲ引受ケテ其持主タルノ所為ヲ為スヲ能ハサ
ルナリ
又被告某ノ直段ニテ原告ヨリ羊毛ヲ買ヒテ其

毛ヲ原告所持ノ一倉内ニ移セリ然レニ其代料
ヲ拂ハス内ハ其倉内ヨリ他所へ遷スヲ能ハサ
ルトニ取極メタリ夫ヨリ被告方ノ手ヲ以テ其
毛ヲ荷造リシタレニ被告未タ之ヲ動カサス亦
其代料ヲモ拂ハス其後此事詞訟トナリタルニ
右ノ羊毛ハ代料拂濟迄テ之ヲ動カスヲ相成ラ
サルトノ約定アルヲ以テ原告其品ヲ引留ムル
ヲ得ルト雖モ此定律ニ適フ可キ十分ノ受取り
渡レハ既ニ相濟ミタル趣ニ決定セリ
一説ニ賣人品物ヲ途中ニテ差止ムルヲ得ル
ノ權利之アル内ハ決シテ賣買ノ受取り渡レア
ル可キノ理ナレト云ヘリ然レニ此説ハ此定律
ノ箇條ノ義ヲ未タ十分解セサルニ出ル所トス

買人ノ名指セザル
船中ニテ引渡
ノ論

我等既ニ説明セシ如ク此定律ニ於テハ買人品
物ヲ慥カニ受取ル可キヲ要セリ故ニ縱令ヒ
其品物買人ノ指図ニ由リ某ノ運送人ヲ以テ買
人方ハ差送ルルハ買人ハ引渡シニ歸スルト
虽凡運送人ノ之ヲ受取リタルハ此定律ニ適
フ可キ買人ノ受取トナラサルナリ
又買人ヨリ海路ニテ品物ヲ差送ル可キ注文ア
リテ更ニ積送ル可キ船舶ノ名指之ナキハ賣
人ヨリ唯其品物ヲ一船舶ニ積入レ船長ヨリ右
品ヲ買人ハ相届ク可キ旨積送證書ニ記シテ船
長之ニ姓名ヲ署スルト虽凡是ニテハ未タ其品
ノ受取り渡シトナラサルナリ
又倫敦府ノ商人甲氏ノ得意ニ同府近郷ノ乙氏

方ハ兼テ賣品ヲ送ルニハ之ヲ倫敦ノ積問屋ニ
托シ右積問屋ヨリ初船ニテ之ヲ乙氏方ハ送り
届クルヲ以テ常例トセリ然ルニ或ル時甲氏ハ
乙氏ヨリ口上ニテ品物ノ注文ヲ受タルニ由テ
例ノ如ク其品物ヲ右ノ積問屋ニ托シ積問屋ハ
舊例ノ如ク其品物ヲ乙氏ニ回漕ス可キヲ承
知シテ之ヲ受取リタル然ルニ其後此品ニ付キ
詞訟トナリタルニ其品右ノ仕方ニテハ決レテ
未タ乙氏ノ受取ニ相成ラサル趣ニ決定セリ又
若シ被告ニテ原告ヨリ某ノ品物ヲ買フテ相
約シ大口ノ内ヨリ某品ヲ取分ケ且ツ被告ヨリ
積問屋某ノ名宛ニテ書面ヲ認ノ原告ヨリ右ノ
品物ヲ受取リテ船積致ス可キ旨ヲ書記レテ之

買人品物ヲ投
棄スルノ權利ヲ
有スルト雖已ニ
十分ノ受取トナス
ノ論

原告ニ與ヘタリ故ニ原告則チ其品ヲ右ノ積
問屋ニ相送りタリ斯テ此品被告方ヘ到着ノ處
ニテ被告之ヲ改メ最初對談ノ品ト相違之アル
趣ニテ其品ヲ受取ルコトヲ拒ミタリ是ニ由テ原
告ヨリ此事ヲ詞訟ニ及ヒケルニ此始末ニ於テ
ハ此定律ニ適フ可キ買人ノ受取リ未タ之ナキ
事ニ決定セリ

凡ソ買人ニテ品物ノ分量又ハ其種類ニ付キ之
ヲ投棄スルノ權利ヲ有スル間ハ此定律ニ適フ
可キ買人ノ受取リ未タ濟サルコトニ決定ス
故ニケント氏ヨリハスキント氏ニ對シタル
詞訟ニ於テ甲氏口上ニテ乙氏ヨリ海綿ヲ買フ
コトヲ相約セルニ由テ乙氏之ヲ甲氏ヘ差送りタ

ルニ甲氏其海綿ヲ返却シ且ツ書面ヲ以テ其品
不承知ノ趣ヲ申通シタリ依テ乙氏此事ヲ詞訟
ニ及ヒケルニ其品ハ未タ甲氏ノ受取リタル物
ニ之ナキ趣ニ決定セリ
又甲氏口上ニテ賣人ノ代人ト稗十二依ヲ買フ
コトヲ取極メ當時其品物ハ賣人ノ手ニアリテ
乙氏ヨリ其引取人ヲ遣ハス迄テ賣人ノ手元ニ
差置カル可シトノ約定ナリ依テ右代人拾貳依
ヲ取分ケ依ノ寸尺ヲ改メテ之ヲ預リ置タリ然
ルニ其後此事詞訟トナリシニ賣人ノ代人ニテ
右依數ノ寸尺ヲ改メタルコトニ未タ其品ノ
分量ト種類トニ就テ之ヲ投棄スル買人ノ權利
ヲ奪フコト能ハス故ニ此顛末ニテハ未タ此定律

ニ適フ可キ受取之ナキヲニ決定セリ
又「スミス」氏ヨリ「サルマン」氏ニ對シタル詞訟ニ
於テ前段同様ノ規則ヲ以テ決定セリ此詞訟ハ
材木屋甲氏ナル者己レカ所育地ニ培養セル樹
木ヲ長ケ壹尺ニ付キ某ノ値ヲ以テ乙氏ニ賣典
スルヲ口上ニテ相約セリ而シテ又乙氏右樹木
ノ根株ヲ他人ニ賣ルヲ談判シ且ツ其指標ハ
家作ノ入用ニ致ス可シト云ヘリ其後甲氏ヨリ
乙氏方ハ書面ヲ以テ其材木ノ代價ヲ催促シケ
レハ此時乙氏ノ返書ニ材木買入ノ事ヲ約シタ
レ氏拙者ニ於テハ無瑕ノ良材ヲ買フ事ヲ約シ
タリ然レニ今其材木ハ約定ノ如キ木材ニシテ
キ趣ヲ申送リタリ是ニ依テ此事詞訟トナリタ

ルニ此事情ニ於テハ買人其品物ノ善惡ニ付キ
取捨スルヲ能ハサルノ理更ニ之ナキヲ以テ此
定律ニ適フ可キ物品正實ノ受取未タ相濟サル
趣ニ決定セリ

然レ氏近來ノ詞訟ニ於テ英國上等裁廳ニ於テ
裁判シタル詞訟ノ各例ヲ考案シ縱令買人未タ
其品物約定通り相違之ナキヤ否ヤヲ改メス凡
此定律ニ適フ可キ受取之アルヲニ決定セリ但
シ此受取トハ口上ノ受取ニテ元來是書面ニ記
ス可キ筈ニテ然ラサレハ其約定ヲ全ク執行シ
タル正證ト為サハレモハナリ
此說ハ「トムキンソン」氏ヨリ「ステート」氏ニ對シ
タル詞訟ヲ裁断セル說ニ由テ確定セリ此詞訟

ハ其品賣人ノ取極メタル約定通り相違之ナキ
ヤ否ヤヲ決定セサル前ト雖此定律ニ適ヒテ
買人其品ノ持主トナル可キ受取之アルトニ決
定セシモノナリ
凡ソ品物ノ見本ヲ渡スニ二様アリ爰ニ賣買ノ
約定アリテ其見本ヲ一通リ商品ノ見本トシテ
買人ニ渡レタルトハ此定律ニ於テ之ヲ右約定
品引渡ノ証拠ト取ルニアラス然レモ若シ其見
本ヲ買品ノ内ノ一部分トシテ相渡スハ其品
全部ノ引渡レト同様ニシテ其約定ヲ守ラレハ
ルナリ

又若シ爰ニ品物賣買ノ約定ヲ取結ヒテ縱令ヒ
其品物半ハ直チニ賣渡ス可キ様ニ出体シ半ハ
未タ出体セズシテ其注文後ニ之ヲ取造ルト雖
元未全一ノ約定ヲ以テスルハ其一部ヲ相
渡ストハ此定律ニ於テ全ク約定ノ品物引渡ノ
トト為スナリ

又爰ニ賣人ハ其品ヲ賣ル可ク買人ハ之ヲ買フ
可ク但シ買人方ニテ某ノ事変出体スルハ其
買品ヲ返却致ス可シトノ旨全一ノ約定ヲ以テ
スルハ前段同様ノ規則ヲ以テ之ヲ決定ス然
レモ競賣ニ於テ種々ノ品物別々ニ一人ノ手ニ
落ルルハ其一品ノ受取ヲ以テ他ノ数品ヲ受取
リタルトト為サレナリ蓋シ法律ニ於テ競賣
品ハ一物毎ニ一約定ヲ要スレハナリ
又各種ノ價ヲ以テ品物ヲ数度ニ相渡ス可キ約

製造品約定論

定ニ付キ未未ノ約定ニテ書面ノ証拠之ナキハ
ハ其約定無効ニ属スルト虽既ニ相違ナク受
取り渡しニナリタル分ハ正商ノ賣物トシテ其
代料ヲ回復スルヲ得ルナリ
車類ノ如キ物ヲ製造スル約定ニ於テ被告之ヲ
車工原告ニ注文シ而シテ被告ヨリ其車ノ製造ニ
付キ原告ノ手傳トシテ別ニ職人ヲ雇ヒテ之ニ
雇料ヲ拂フハ被告ニ於テ其注文品ヲ受取タ
ルトトナラサルナリ蓋シ其車ハ未タ出体ニ及
ハサル故ニ被告未タ之ヲ受取ル可キノ理之ナ
キヲ以テナリ
四 若シ賣買ノ約定ニ付キ爰ニ此定律ニ適フ
可キ書記ノ証書モナク亦更ニ其品物ノ受取モ

買人手金ヲ典
フル論

之ナキハ買人ヲシテ其約定ヲ守ラシメント
スルニ必ス其品物ニ付キ証物ヲ差入ル、款或
ハ代價ノ一部ヲ拂フ欺何レ欺ノ所為アラサル
トヲ得ス
右ニ付キ証物ヲ入レテ手金ト為シ或ハ其代料
ノ一部ヲ拂フテ手附ト為スハ此定律ニ於テ
ハ實ニ其物ヲ何レニモ渡し置カサレハ十分ト
為サ、ルナリ故ニ若シ買人賣買ノ約定ヲ結ハ
シカ為メ所謂英國ノ北方ニテ行ハル、刑り渡
シト称スル習俗ノ如ク買入ヨリ手金ヲ拂ヒタ
ル証拠トシテ一銀錢ノ角ヲ以テ賣人ノ掌ヲ摺
リテ再ヒ其金ヲ已レノ囊中へ納ムルカ如キハ
此定律ニ適フ可キ賣買約定ノ正証ト為サ、ル

ナリ
又若シ爰ニ原告兼テ被告ヨリ若干ノ負債アル
処其金未タ全ク返濟成ラサル内ニ被告ヘ十磅
以上ノ品物ヲ賣リタルハ通例其品物ノ手金
ヲ被告ヨリ原告ニ差入ル可キ筈ノ處曾テ原告
ヨリ返濟ス可キ借金之アルヲ以テ則チ之ヲ被
告ヨリノ手金ト為ス可キ相方ノ見込ナリシカ
元ヨリ正金ヲ以テ其手金ヲ相渡シタル事ニモ
之ナク亦互ヒニ右ノ受取書ヲ取替ハシタル譯
ニモ之ナキヲ以テ此詞訟ニ於テハ此定律ニ適
フ可キ約定ヲ守ラレムル證物ヲ差入レタルト
ト成ラサル趣ニ決定セリ然レモ差シ爰ニ賣買
取極メノ約定ヲ為シ而後チ互ヒニ負債ヲ以テ

為替證書ヲ以テ
拂ヲ為スノ論

品物代價ノ内ヨリ差引キ之ヲ手金ト為ス可キ
旨双方納得ノ上ニテ其受取書ヲ取替ハシ而シ
明白ニ其取引ヲ定ムルハ縦令ニ實ニ正金ノ
引渡シ之ナシト雖モ則チ此定律ニ適フ可キ手
金ノ拂ト同一タルトニ決定ス
凡ソ口約ヲ以テ賣渡サレタル品物代價ノ拂ト
シテ為替証書或ハ金子預リ証書ヲ渡スハ其
證書ノ價格ヲ失フ迄ハ則チ其代料ノ拂トナ
ル可キヲ以テ此定律ヲ以テ受理ス可キ詞訟ト
為スナリ
凡ソ品物賣買ニ就テ其證物ヲ渡シタル後ハ買
人ノ過失アルニ非サレハ賣人再ヒ之ヲ他人ニ
轉賣スルヲ能ハス故ニ買人ヨリ手金ヲ渡スハ

證物ヲ與フルハ所
有ヲ變ヒサルノ論

ハ則チ其品物ノ持主変スルヲナク約定確實タ
レヲ以テ買人ヨリ代價ノ全高ヲ拂フキハ即チ
其品物ヲ請求スルノ権利ヲ有スルナリ

啻氏約定法卷之拾壹畢

增我約定法卷之拾貳

增我約定法卷之拾貳

增氏約定法卷之拾貳

目次

三欺罔ノ賣買ノ論

欺罔ノ賣買ニ由テ所有遷ラサルノ論

欺罔ノ約定全ク無効ニ屬セサルノ論

賣約ヲ無効ト為ス欺罔ノ度程如何ノ論

欺罔ノ約定ニ付キ賣人へ賠償ノ論

事情ヲ考察シテ欺罔ヲ推定スルノ論

所有ノ永續ハ欺罔ノ明證ト為サレシノ論

双方ノ間ニ引渡ヲ良善ト為スノ論

債主ノ為メ受託人ニ家賃委託ノ論

詐偽ニ因テ得タル物品賣買ノ論

欺罔ノ訴訟ノ論

詞訟ノ論

四不正ノ賣買ノ論

一般ノ規則

第一習慣法ニ取リテ不正ト為ス可キ約

定ノ論

敵人トノ約定ノ論

賣人ノ手中ニ有ラサル物品賣買ノ約定

ハ不正ト為サレルノ論

第二明ニ定律ノ箇條ニ背キ或ハ暗ニ其

法意ニ及レテ取結ヒタル物品賣買ノ約

定ハ詞訟ヲ起シテ言通ス可キハサルノ

論

定律ニ於テ不正ト安レタル賣買約定ノ

論

論

健康保護ノ定律ニ及レタル約定無効ニ

屬スルノ論

日曜日ノ賣買約定ノ論

常業外ノ約定無効ニ屬セサルノ論

約定ハ日曜日中ニ必ス遂クハキノ論

目次終

增氏約定法卷之拾貳

三欺罔ノ賣買ノ論

凡ソ品物賣買ノ約定ニ付キ約定ノ双方ヨリ
別人ニ對シ或ハ約定双方ノ一方ヨリ他ノ一
方ニ對シ欺罔虚言ヲ以テ事ヲ取繕ヒ謀テ其
者ヲ勸メ以テ約定ヲ取結ハシタル成ハ其約
定欺罔ノ成果如何ニ歸スヘキ歟今之ヲ論ス
ルト左ノ如シ

夫レ欺罔ノ約定ヲ以テ買人ヨリ賣人ニ對シ
テ巧言虚飾ヲ逞フシ全ク欺罔ヲ以テ賣人ヲ
誑惑シ而メ其物品ヲ買取ル成ハ賣人ニ對シ
テ買人更ニ所有ノ權ヲ得ルハ能ハサルハ毫

欺罔ノ賣買ニ由テ
所著遷ラサレ論

同法省

モ疑フ所アル可ラス故ニ若シ買人競賣ニ於
テ既ニ買取リノ約定取極リタル人ニ對シテ
其品物ヲ我カ方ニ落サシカ為メ欺罔ヲ以テ
他人ヲ誑惑シ之ヲ我カ手ニ買取ルルハ買人
正然タル所有權ヲ得ルテ餘ハサシナリ
故ニ若シ買人最初ヨリ代價ヲ拂ハサル見込
ニテ品物ヲ買取ルルハ此ノ如キ賣買ヲ以テ
所有權買人ニ移ルテナシ而メ買人賣品ヲ落
掌シテ後子直子ニ其買得タル定價ヨリ減價
ヲ以テ之ヲ他人ニ轉賣スルカ如キハ則チ兼
テ賣人ヲ欺カントノ証拠ト為スヘキナリ又
若シ買人品物ノ代價ヲ拂フヘキ欺力マアル
趣ヲ以テ虛言ヲ論シ或ハ別ニ欺産之アル旨

ヨ示シテ賣人ヲ誑リ更ニ其人ノ損害ヲ導クハ
ハ其約定元ヨリ無効ニシテ双方ノ間ニ所有權
ノ變遷之アルヲナシ然レ氏買人最初ヨリ事ヲ
知テ約定ヲ取結フト余氏毫モ虛言欺罔ヲ用ユ
ルヲナク賣品ヲ買取リ遂ニ分散シテ其代價ヲ
拂フテ餘ハサルニ至ルノミニテハ其賣約ヲ無
効ト為ス可カテサレナリ
又約定ニハ買人ヨリ現金ニテ代價ヲ拂フヘキ
筈ノ処其拂期限ニ臨ニテ買人ヨリ賣人ニ對シ
テ約定ニ替キ通用ノ証拠之ナキ不通ノ手形ヲ
渡スルハ賣人其賣約ヲ虛無ト為スヘキナリ決
定セリ
然レ氏買人ヨリ欺罔ヲ以テ取極メタル賣買ハ

欺罔ノ約定全ク

同法省

無効ニ屬セシ論

全ク無効ニ屬スルニ非サルナリ則チ買人欺テ
品物ヲ買取り再ニ之ヲ他人ニ賣渡シ此他人ハ
全ク右最初ノ賣買欺罔ヲ以テ取結ヒタルナラ
知ラスレテ買取り而メ右最初ノ買人ヨリ其品
物ヲ他人へ轉賣為サレバ前賣人ニテ之ヲ無効
ト為スニ非サレハ即チ所有權最初ノ買人ニ移
ルナリ
又賣人ノ異論之ナキ前ニ買人其品物ヲ不明ノ
事ナク貨物トナス片ハ則チ右同一ノ成果ニ般
ス可キナリ
爰ニ欺罔ノ模様約定ノ性質何程ノ度程ニ至レ
ハ賣人其賣買ノ約定ヲ無効ト為シ得ルヤ則
チ「一」フシ式ヨリ「一」ダム以式ニ對シタル詞

賣約ヲ無効トナス
欺罔ノ度程如何論

証ヲ以テ今之ヲ觀ルノ良例ト為スナリ儲テ倫
敦ノ商人甲氏ナル者殆ニト分散ノ危殆ニ迫リ
テ自ラ「一」ラスゴ山ニ到リ乙氏ヨリ品物ヲ買取
リ而メ其代料トシテ倫敦某ノ商社中某ノ家ノ
名宛ヲ以テ右賣人ニ手形ヲ渡シテ其代料ヲ払
ヒタリ然ルニ此時甲氏ハ其名宛セル者モ右手
形通ノ金子ヲ払フ能ハサル事ヲ兼知ノ上ニテ
取計ラヒタルナリ扱テ甲氏ハ其品物ヲ買取
リテ之ヲ「一」スニテ船ニ積込ミ船主ヨリ甲氏
方ニ回漕ス可キ荷物ノ勘定昏受取ヲ受領シテ
約定ノ通り之ヲ倫敦ニ積回シ而メ之ヲ同所ノ
波戸場支配人丙氏ノ方ニ托シ置タリ然ル處丙
氏其後右ノ荷物ハ乙氏ノ為メニ預ルモノニシ

同書

テ決シテ他人ニ相渡スコ之アルコトモレキ昔ノ文
通ヲ受タルヲ以テ乃チ之ヲ乙式ノ為ニ預リ居
テ敢テ甲式ノ方ニ渡サハリケリ而メ其後甲式
ハ間モナク分散シタルヲ以テ丙式ヨリ分散受
托人ノ為ニ其物ヲ相渡サ、ルニ付キ即チ相渡
サ、ル廉ヲ以テ甲式ヨリ丙式ニ對シテ相渡
起シタリ然ルニ此相渡ニ於テハ甲式方ニ其賣
買ノ約定ヲ無効ニ附スヘキ程ノ欺罔ノ確証更
ニ之ナキトシテ決定セリ于時此詞訟ノ裁決ハ裁
官ギツグ込式ノ意存ニシテ同式則チ左ノ通り
其意見ヲ申渡シタリ夫レ此度ノ相渡ニ於テハ
一種特別ノ吟味マラサルトテ得ヌ其故、凡ソ
欺罔ノ廉ニ就テハ何等ノ欺罔虚言等之アルヲ

以テ其約定ヲ無効ト為スニ至ルヘキ故巨細其
模様ヲ究鑿シ其欺証ヲ明白ニシ而メ後々社ノ
テ其約定ヲ無効ニ附スヘキニ非ヌヤ然ルニ此
度ノ相渡ニ於テハ原告人ノ方ニ約定ヲ無効ニ
附スヘキ確証アルニ非ヌ尤甲式最初ヨリ倫敦
某ノ方ヘ名宛セル手形ハ既ニ代料ノ用ヲ為サ
、ル事ヲ兼知ノ上ニテグラスゴトニ行テ甲式
ノ負債並ニ其手形ノ善悪ヲ知ラサル者ヨリ物
ヲ買取ラントセシ事等此等ハ全ク不正ノ所為
ニ相違之ナシトモ金モグラスゴトニ到リテ如何
ノ方便手術ヲ施シテ賣人ヲシテ物品ヲ賣ラシ
メタル歟是抑モ其証拠之アルニ非ヌ又虚言欺
罔ヲ以テ其物ヲ買得タルノ過失判然タルニモ

アラス因テハ我等今全ク其約定ヲ無効ト為ス
丁能ハサルナリ是ヲ以テ今右欺罔ノ確証何等
ニ之アルヘキ歟其廉一ニ判然タル迄ハ甲氏ヲ
欺罔ノ過失ニ陷レ其約定ヲ無効ト為ス丁能ハ
サルナリ是レ今日特別ノ吟味ヲ以テ決定スル
所以ナリ

又「イル」ハ「エ」ニ對シタル詞
「弘」則チ「モ」トシ「氏」羊毛ヲ買得テ賣人「イル」
「エ」ニ對シテ其買方欺罔ノ証ヲ以テ之ヲ取戻サ
ントセシニ買人「モ」トシ「氏」之ヲ渡サ、ルヲ以
テ「イル」ハ「エ」ニ對シテ許訟ニ及ヒタル事件ナリ
備テ此詞「弘」ニ於テ原告「イル」ハ「エ」ニ對シテハ
元來被告「モ」トシ「氏」ハ全ク欺罔ヲ以テ羊毛ヲ

買得タルニ相違之ナキ趣ヲ言張り而メ其賣買
ノ様子ハ最初丁氏ナル者買人「モ」トシ「氏」ノ商
社ノ代人トナリテ高事ヲ周旋シ「モ」トシ「氏」其
周旋ヲ受テ即チ羊毛ヲ買取り而メ後チ二日程
過キテ右「モ」トシ「氏」ノ商社ハ尚ホ矢張り右同
様ノ手續ニテ丁氏ノ媒酌ヲ徑テ之ヲ又他人ニ
賣入セリ因テ丁氏ハ右「モ」トシ「氏」ノ商社ト其
質屋ト双方ノ代人ヲ兼テ周旋セ「ル」モ、ナリテ
時此詞「弘」ニ於テ「イル」ハ「エ」ニ對シテ右「モ」トシ「氏」
ノ商社ハ最初ヨリ代料ヲ拂ハサル覺悟ニテ
羊毛ヲ買得タルニ相違之ナキ「エ」ヲ証センカ為
メ其賣買ヲ取極メタル時「モ」トシ「氏」ハ既ニ分
最ニ及ヒ居リ而メ代人丁氏委細之ヲ兼知ノ上

ニテ丁氏自筆ヲ以テ姓名ヲ記シタル其時ノ約定
 看テ欺高ノ証拠トシテ裁廳ニ出シタリ因テ
 此約定看ヲ以テ別シテ丁氏ヲ証人トシテ呼出
 スニ及ハス即チ右ノ約定看ヲ以テ欺罔ノ証拠
 ト為スヘキ丁ニ決定セリ且ツ此時陪審論ニテ
 云ク右ノ高社ト丁氏トノ間ノ事ハ全ク其処置
 欺罔ニ出テ而メ被告之ヲ知ラサルモ必竟丁氏
 ハ被告ト高社トノ代人タレハ被告其代人ノ不
 正欺罔ノ所為ニ就テハ到底其責任ヲ受サル
 ヲ得又因テ裁廳ニ於テ再審ヲ許ルサヌ即チ原
 告正理タル丁ニ決定セリ
 又若シ買人欺罔ノ買方ヲ以テ品物ヲ買取ル
 ハ賣人ハ其約定ヲ破談ト為シテ品物ヲ已レニ

此如時賣人ハ
 賠償論

取戻スノ權利ヲ有シ而メ其買人ニ對シテ
 何起シ以テ其品物ノ代料ヲ回復スルノ權利ヲ
 モ亦有スルナリ然レハ賣人ニ於テハ敢テ其賠
 償ヲ取ルニ限ラス已レノ意ニ隨テ其約定ヲ助
 ケテ詞訟ヲ起シ代價ヲ回復スル丁モ亦自由々
 ルヘシ故ニ今人品物ヲ紛失シ而メ之ヲ拾ヒタ
 ル者アル所ハ則チ其持主ヨリ其者ニ對シテ之
 ヲ取戻ス丁ヲ得此時捨主之ヲ返サ、ルニ於テ
 ハ何起シテ其價ヲ回復シ又ハ其物ヲ賣渡
 シタル約定トシテ其代價ヲ贖ハシムル丁ヲ得
 ルナリ又買人ヨリ賣人ヲ誑惑シテ品物ヲ或ル
 介散人ニ賣与スヘキ様取計ラヒ而メ自身ニ其
 賣買ヲ執行スル所ハ其代料ヲ拂ハサル丁ヲ得

ナルヲ以テ贖ニ人ヲ售リ以テ其品物ヲ遂ニ已
レカ有ト為スカ如キハ元ヨリ欺罔ノ廉現然夕
ルヲ以テ賣人ヨリ詞訟ヲ起シテ其代料ヲ回復
スル丁ヲ得ルナリ又若シ某ノ父欺罔虚言ヲ以
テ已レノ商業ヲ悉ク裁カ子ニ委子タル積ニテ
賣人ヨリ其子ニ品物ヲ賣与セシメ而メ其実矢
張り自身ニ賣買ノ取引ヲ為ス其ハ縱令ヒ賣人
ニ於テハ全ク其子ヲ信用シテ如此ク賣与スル
ト金モ其賣渡シタル品物ノ詞訟ニ就テハ元ヨ
リ其父ノ責任ヲサレ丁ヲ得ス
然レ氏此ノ如キ場合ニ於テハ賣人ヨリ其約定
ヲ全ク兼諾シタル欺兼諾セサル欺何レカ兩條
ニ及セサル丁ヲ得ス若シ買人欺テ懸賞ヲ以テ

品物ヲ賣ラレ可キヤ取計ラヒ而メ後子其物
ヲ買得ル氏ハ賣人ヨリ其約定セル懸賞ノ時限
立サル内ハ即チ代料ニ付キ詞訟ヲ起ス丁能ハ
ス因テ此ノ如キ氏ハ賣人ヨリ買人ニ對シテ其
物ヲ不正ニ買取りタル廉ヲ以テ詞訟ヲ起スヲ
例トス是レ必竟欺罔ヲ以テ取計ラヒタル丁ト
金氏双方納得ノ上ニテ既ニ明白ノ約定ヲ以テ
スル氏ハ即チ約定通りノ趣ヲ以テ代料ヲ回復
スルノ外他ノ方法ヲ以テ之ヲ助クルノ道之十
ニ以テナリ
正リサベツ止ノ定律ヲ十三卷第五篇則チ習慣
法ヲ論シタル條ニ云ク凡ソ詞訟負債損償等ニ
付キ負債主屢々催促ヲ受テ止ム丁ヲ得ス其督

責ヲ延滞ナサレメ或ハ之ヲ差止メニカ爲メ
記ヲ以テ家資品物等ヲ引渡サントノ約定ハ元
ヨリ此ノ如キ詞訟ヲ起スノ權利アル債主ニ對
シテ其約定完ク無効ニ屬スルナリ然レ此議
定ハ若シ其約定ヲ取捨フ時欺罔ノ事ヲ知ラサ
ル者ニ對シテ誠實ニ其家資等ヲ相渡スヘキト
ノ約定ニ及ホス可カラサルナリ

此定律ヲ了解セシトスルニハトクイニ此ヨリ
起シタル詞訟ヲ以テ就中良例ト爲スナリ則チ
此詞訟ハトクイニ此ナル者兼テトクイニ此ニ
四百磅ト丙氏ニ二百磅ノ負債アリテ既ニ丙氏
ヨリ右貸金催促ノ詞訟ヲ起サレ居リ而メトク
ル此氏元來三百磅ノ資産アリケレハ密カニ其

家産ヲ負債ノ抵当トシテ悉クトクイニ此方ニ
相渡スヘキ旨唯唇付ヲ以テ之ヲ約シタリ然レ
共トクイニ此氏ハ唯唇付ニテ相渡シタルノミニ
テ未タ全ク其品物ヲトクイニ此方ニ引渡シタ
ルニ非ス因テトクイニ此氏其後其唇付ニ拘ハラ
ズ其品物ノ内一部分ヲ賣拂ヒタリ且ツ同氏所
持ノ或ル羊ノ毛ヲ剪リ而メ之ニ自分ノ符徴ヲ
記シ置キタリ然レニ丙氏ハ兼テノ詞訟ニ付其
裁許ヲ受テトクイニ此氏所有ノ品物ヲ引取ルヘ
キトニ決シタリ是レ丙氏ノ右品物ヲ引取ル可
キトニ決シタルハ總令ニ其品物最初唇付ヲ以
テ既ニトクイニ此方ニ相渡シタル物ニテ且又其
ニ付キ如何様ノ主意之アルト云氏元來負債ノ

催促ヲ遅延ナシシモノトノ心底ニテ其欺罔
ニ相違之ナキト疑フ処無之ニ付キ其約定
断然無効ニ屬シ丙式ノ其物ヲ徴収スルヲ以テ
至当ノ処置タルヘキトニ決定セリ夫レ之ヲ是
ニ裁決セシ理如何其因テ起ル所六ヶ條アリ先
ツ第一ニハ「四」ル以テ己レノ衣食必用品ヲ除
カスレテ己レノ所有品ヲ悉ク引渡スヘキ約定
ヲ取結ヒタル事第二ニハ「四」ル以テ己レニ家産
ヲ負債ノ抵当トシテ相渡スヘキ約定ヲ為シタ
ルニ尚ホ其物ヲ己レノ所有トシテ他人ヲ欺キ
賣買ノ取計ヲヒヨ為シタル事第三ニハ「秘」カニ
賣買ノ取計ヲヒヨ為シタル事第四ニハ「一」方ノ
詞訟未タ落着ニ至ラサル前之ヲ捨テ、其事ヲ

事情ヲ考察シテ
欺罔ヲ推定スル
論

取計ヲヒタル事第五ニハ「四」ル以テ己レニ家産
ヲ悉ク引渡スヘキ約定ヲ為シタルニ更ニ其様
子ヲ見ハサヌ真ニ己レノ所有品ニ相違之ナキ
ヤハ自ラ其物ヲ使用シ所謂虚ヲ張テ実ヲ隠シ
シ美ヲ以テ虚ヲ防クノ類ニテ虚ヲ售テ実ヲ示
シタル事第六ニハ相渡シタル各件ハ真ニ誠実
ヲ信スヘキ様認メタル事右六ヶ條ノ件ニ何レ
モ欺罔ノ所為ニ相違之ナキヲ以テナリ
右ノ詞訟ハ其事情一々欺罔ノ約定タルトテ推
定スルニ足ルト金比爰ニ右各例ノ内一例右ノ
如キ事情アルト金比唯欺罔ノ証拠ト為スニ足
ルノミニシテ敢テ其虚ヲ以テ法律ニ於テ之ヲ
無効ニ屬セシムルニ至ラサルトアリ裁官恒シ

ク是ニ注意セザル可カラス

曰ト口一止氏ヨリハルベシ氏ニ對シタル詞訟
ハ實ニ賣人ヨリ品物ヲ賣渡スヘキ約定ヲ取結
ビテ後ニ賣人矢張り其品物ヲ所有致シ居リ而
メ只此一ヶ條ノミヲ取テ賣人ヲ欺罔ノ虞ニ落
シ約定ヲ無効ト為シタル一例ナリ然レ氏以後
近來ノ相訟ニ於テ決定セル規則ニ於テハ縱令
ヒ其取計ヲヒ方理不尽ト金氏買人納得ノ上ニ
テ元未直チニ其物ヲ引渡スヘキトノ約定ナク
レテ矢張り賣人ノ手ニ之ヲ所有シアルハ必ス
シモ欺罔ノ確証ニ之ナキトニ決定セリ是レ其
引渡スヘキ物ヲ渡サスレテ賣人ノ手ニ所有シ
アル氏全ク欺罔ニ之アルヘキ欺否其事ノ全情

ヲ照ラシテ後ニアラサレハ陪審ニ於テ其是非
ヲ決スルト能ハサルヲ以テナリ故ニ方今ニ至
リテハ賣人ノ約定ニ聊カ欺罔ノ意之ナキニ於
テハ敢テ賣品ヲ直チニ引取ルニ及フ間敷ト
ノ賣渡手形ニテ賣人ヨリ買人ニ即時其品物ヲ
相渡サ、ルカ如キハ必ス欺罔ノ所為トナサ、
ルナリ且又双方談合ノ上ニテ其引渡シ手形ヲ
取極メ買人ニ所有ノ權利ヲ与ヘ置ク成ハ縱令
ヒ買人ニテ其時直チニ物品ヲ引取ラサル氏蓋
シ良善ノ手形ト為サ、ルトテ得サル可シ
若シ物品ノ渡方良善ノ約原ニ基キ實ニ買人ヲ
欺カントノ心底ニ之ナクシテ約定ノ事情如何
ニモ公然明白ナル成ハ何ヲ以テ其正不正ヲ定

ハ可キ 欲買人其品物ヲ所有トシテ引取ラサル
庸ノミニテハ欺罔ノ所為ト取ル丁能ハサルナ
又若シ人其品物ノ真ノ持主ニアラスレテ唯本
主ヨリ兼知ノ上ニテ其物ヲ所有シアル成ハ必
スシモ欺罔ノ所為トナスニ非ス是レ分散條例
ニ真ノ持主己レノ物品ヲ他人ニ預置キテ恰モ
其人真ノ持主タルヘキ様之ヲ托シ置キ而メ其
本人分散シタルニ付キ其預リタル者則チ其本
人ノ債主トナル成ハ直様本人ヨリ其所有權ヲ
其人ニ引渡ス丁アルヲ以テナリ故ニ若シ甲氏
品物ヲ買取り而メ之ヲ乙氏ニ貸シ置ク成ハ總
令ニ甲氏其品物ノ所持之ナレトモ乙氏敢テ欺罔

双方ノ間ニ引渡ラ
良善ト為スノ論

ト為スニ非ス是レ世人物ヲ他人ニ預ケ置ク丁
能ハサルノ理ナキヲ以テナリ
凡ソ定律ノ明語ニ於テ物品欺罔ノ引渡レハ之
ヲ引渡ス者ヨリ負債ノ催促等ヲ延滞為サレメ
或ハ之ヲ差止メニカ為メノ心慮ニテ之ヲ引渡
ス約定ヲ為ス成ハ其約定其者ニ對シテ全ク無
效ニ屬スル丁ヲ論シタリ然レ成ハ如キ引渡
シハ爰ニ一モ約原ナレトモ既ニ証卷ヲ以テ
スル成ハ總令ニ即時ニ物品ヲ引渡サハル成ハ双
方ヲシテ其約定ヲ守ラレメ又其証卷之ナレト
モ其物ヲ引渡ス成ハ其約定無効ニ屬セサル
ナリ
其他又此ノ如キ引渡ハ唯約定双方ノミニ限ラ

司法省

ハ其餘人ニ對シテモ無効ト為サ、ルナリ
故ニ今爰ニ良善ノ約原アリテ所有物ヲ賣与ス
ル事ハ縱令ニ其事既ニ吟味済ノ債主ニ其物ヲ
引取ラルヘキ事ヲ破ラシメ為メノ、注意ニ之アル
トモ唯此一事ノミニテハ習慣法ニ於テモ亦
正リサベツトノ定律ニ於テモ其約款固ニ之ナ
クシテ無効ト為サ、ルナリ例ハ爰ニ甲氏アリ
兼テ乙丙ノ兩氏ニ負債アルヲ以テ乙氏ヨリ
其所有物ヲ擔當トシテ引取ルヘキ詞訟ヲ起シ
アリケルニ又甲氏其後丙氏ノ方ニ至リテ自ラ
同人ニ代言ノ証唇ヲ与ヘテ既ニ乙氏ニ引取ラ
ルヘキ物品ヲ同人ノ方ニ引取ルヘキ詞訟ヲ起
スヘキ様取計ヲヒタリ故ニ官裁判ヲ開キテ遂

ニ其物ハ丙氏ノ方ニ落ツヘキ丁ニ定シタリ此
日ハ恰モ乙氏其引取ヲ為スヘキ日ト同日ノ丁
ニシテ若シ丙氏ノ異論アラサレハ元ヨリ乙氏
其物ヲ引取ルヘキ筈ノ処タリ扱テ此詞訟ニ於
テ甲氏ヨリ丙氏ニ与ヘタル証唇ニ付テハ正リ
サベツトノ定律ヲ以テ論スル氏ハ不正欺罔ニ
之ナキ丁ニ安定セリ

債主為ノ受託人ニ
家資委託論

若シ負債主既ニ分散ノ姿ニ立至リ而メ一人ノ
債主ノ為メニ詞訟ヲ起サレ居ラ未タ事落着ト
ナラサル前ニ悉ク其身ノ家資ヲ債主殘ラスノ
為ニ受託人ニ相托シタルニ付キ即チ受託人ハ
其物ヲ殘ラズ引取りタリ但シ此詞訟ニ於テハ
右引渡ノ取計ヲヒニ付キ縱令ニ最初ヨリ詞訟

ヲ起シタル一人ノ債主ヲ延滞ナサシメシ心意
ニテ行ヒタルトシテ金氏欺罔ノ所為ニ之キ
ニ決定セリ又若シ人数ノ債主之アル処ニテ
其身ノ家資ノ内一部分ヲ証厝ニテ相渡シ而シ
其渡シ方ハ如何ニモ誠實ニシテ元ヨリ家資厝
上中ニ之キ債主ヲ欺クノ所存之ナク且ツ家
資厝上中ニ署名セル債主ノ分ト已レノ所用ト
為スヘキ分ト及ヒ右渡シ方ニ付テノ諸費等ト
ヲ引テ後キ右一部分ヲ相渡スヘキトノ証厝ニ
於テハ無効ニ屬スルトナシ
然レ氏負債主ヨリ受托人ニ物品ヲ引渡ストニ
付キ其品物ヲ以テ金ニ引替ヘ負債主ヨリ債主
ニ對シテ檢当ト為スヘキ所存ニ之ナクシテ唯

其受托人ヲシテ其身ノ商業ヲ営ミシメ而シ其
商業ヲ以テ儲得タル金子ヲ其受托人ト他ノ債
主ト均シク負債ノ多寡ニ應ジテ其金子ヲ分配
ナスヘキトノ約定ニ於テハ五リサベツ止ノ定
律ニ於テ全ク無効ニ屬スルナリ是レ此ノ如キ
約定ニ於テハ恰モ債主ト共ニ一商社ヲ造ル如
キ者ニシテ負債主ノ利益ト等シク債主ニ取リ
テ其利益ヲ得ルトシテハサルヲ以テナリ
然レ氏負債主ヨリ債主ノ為メニ受托人へ物ヲ
引渡ストニ付キ其受托人ヲシテ品物ヲ賣買セ
シメ而シ債主ヨリ負債主及ヒ他ノ人ヲ之カ為
メ使役致スヘキ様其權ヲ与ヘテ物品ヲ賣買ス
ル成ハ其約定無効トナラサルナリ但シ此ノ如

又ハ其後ノ債主ニ對シテモ亦其理同一ニ之アルナリ

又右ノ如キ物品ノ引渡シハ負債主ト受託人トノ間ニテ其談判能ク整ヘタル上ニ非サレハ無効ニ屬スルナリ蓋シ對談取極ラサル内ハ其引渡スヘキ証啓ヲ取戻スル亦如何様共負債主ノ随意タルヘキヲ以テナリ然レモ右兩人ノ關係談合能ク整ヘタル上ハ最早負債主自ラ其証啓ヲ自由ニスル丁能ハサルナリ

ハルヲ止式ヨリトニキ止式ニ對シタル詞訟ハ則チ右論スル所ノ一例ニシテ負債主ヨリ証啓ヲ以テ其物品ヲ受託人ニ引渡シテ後チ債主口約ヲ以テ其証啓ニ同意スルモハ最早負債主ヨリ既ニ受託人ヘ相渡シタル証啓ヲ取戻ス丁能ハサルナリ

然レモ負債主ヨリ数名ノ債主ノ為メニ一人ノ債主ニ其物品ヲ相渡シ而シテ其取極ハ其一人ノ債主獨リ其物品ヲ引上ケ之ヲ擅ニスルノ意ニ非サルトノ趣ヲ以テスルモハ其物品ヲ取戻ス丁能ハサルナリ

又五リサベツトノ定律ニ於テハ物品ノ引渡方ニ有キ其時債主ニ對シテ欺罔虚言ヲ以テスルモハ其後ノ債主ニ對シテモ亦其理同一ニ之アルナリ

ヲ知ラサル人ニ良善ノ約原アリテ明白ニ与ヘ
タル物品ニ及ホス可カラス而シテ其引渡シノ誠
実ナルトナラサルトハ自ラ其証昏ノ模様ニ由
テ見ハル、ナリ故ニ或ル父其息子某ニ自然慈
愛ノ心意ヨリ其身ノ居宅并ニ所持ノ資産ヲ悉
ク相譲ルヘキ旨証昏ヲ以テ之ヲ相渡シ而シテ其
後官ヨリ其父ニ對シテ物品ヲ徴収スヘキ事ニ
相成リタルヲ以テ右息子ヨリ其刑吏ニ對シテ
其物品ヲ相渡カ、ルノ詞訟ヲ起シ且ツ息子ヨ
リ右引渡シノ証昏ニ通ヲ出シタリ然ルニ其昏
何レモ同時日ヲ以テ認メタル者ニテ事實少シ
モ相違之ナキニ付キ則チ息子其父ノ妻及ヒ其
小兒輩ノ為メニ詞訟ヲ言通ス丁ヲ得タリ且ツ

詐偽ニ因テ得タル
物品賣買ノ論

其引渡シニ就テハ誠實分明タルヲ以テ債主ニ
對シテ云リサヘツトシテ定律第十三卷第五篇ニ
由テ即チ証昏無効ニ屬ス可カラサル丁ニ決シ
タリ
第四世ノイヨリ正ノ定律第七卷及ヒ八卷第二十
九篇第五十七章ニ由レハ物品ノ持主詐偽欺罔
ヲ以テ我カ物品ヲ買取ラル、或ハ即チ買取リ
タル者ヲ罪シテ其物品ヲ取戻ス丁ヲ得ルノ權
アリ若シ又物品既ニ他人ヘ轉賣シタル或ハ賣
買ノ誠實ニ拘ラヌ猶ホ其先方ヘ行キテ之ヲ取
返スノ權利アルナリ但シ賣人此權利ヲ有スル
丁ハ既ニ前キニ論スル処トス
以前ハ負債主若シ物品徴収ノ昏付刑吏ニ下リ

欺罔ノ詞訟論

テ後子負債主已レノ物品ヲ賣与スル氏ハ其賣
買公市ニ於テ執行スルヲ得ルモノ、外即子債
主ヨリ之ヲ徵收スルヲ得ルナリ
然レ氏引エクトリヤノ定律第九十七篇第一章
ニ由レハ負債主ノ物品徵收ノ存付ハ既ニ官ヨ
リ下ルト金氏刑吏未タ其存付通り執行セズニ
テ其存付尚ホ刑吏ノ手ニ存在シ更ニ買人此事
案ヲ知ラスレテ不明ノ事ナク其物品ヲ買取ル
氏ハ其存付ヲ以テ毫モ欺ノ如キ買人ノ權利ヲ
害スルコトナシ
凡ソ欺罔ノ詞訟ニ付キ人最初ヨリ欺罔虚言ヲ
用ヒサレハ事ノ成ラサルヲ知テ即子其術ヲ施
レ以テ遂ク可カラサルコトヲ遂クルカ如キハ欺

罔ノ為メ詞訟ヲ起スコトヲ得ルナリ之ヲ一般ノ
通理トス故ニ人若シ欺ノ如ク欺罔ヲ以テ物品
ヲ買取ル氏ハ賣人ヨリ詞訟ヲ起スニ其物品ノ
代料回復ノ為ヲ以テセズ欺罔ノ廉ヲ以テ詞訟
ヲ起シ以テ其損害ヲ償ハシムルコトヲ得ルナリ
然レ氏諸存ヲ看ルニ欺ノ如キ場合ニ於テ其損
償ヲ出サシメタル例甚々稀ナリトス
爰ニ「一」エルノ正氏ヨリ「一」区氏ニ對シタル詞
訟ハ則チ欺罔ノ事件ニシテ原告其身ノ建家ヲ
賣買シ及ヒ株金等ノ利分ヲ賣ルニ付キ他人ニ
賣レハ相当ノ價額ニ成ルヘキ処買人被告ノ為
メニ欺カレテ之ヲ廉價ニテ賣渡シタル詞訟ナ
リ皆テ此詞訟ニ於テ裁官五ルレニホ口「一」或所

シテ裁判ノ趣ヲ言渡シケルヤ凡ソ今般ノ詞
訟ヲ助ケントスルニハ被告ノ欺罔ト并ニ之カ
為メ被告ヨリ賣人原告へ拂フニキ損償ト一々
其筋明瞭タラサレハ公裁ヲ以テ買人ヲ欺罔ト
シ以テ賣人ヲ助クルノ道ナシト夫レ欺罔ノ賣買
ニ賣人ヲ欺クト買人ヲ欺クトノ二様アリ即チ
賣人ヨリ買人ヲ欺クトハ例へハ賣人一商品ヲ
賣渡シテ買人其品物ヲ改メ其模様ヲ見テ能ク
之ヲ吟味スヘキ処賣人點ニシテ買人ニ其機會
ヲ得セシメサル様取計ヲセ或ハ買人ノ不明ニ
乘シテ既ニ賣渡セル物ヲ他ノ惡品ト摺リ替へ
テ相渡スカ如キハ欺罔ノ廉現然ニシテ賣人ノ
責任タルト元ヨリ論ヲ後タサルナリ然レ氏此

度ノ初訟ノ如ク他ニ極ホ高價ニテ賣与スヘキ
口モアルハ其処買人其機會ヲ妨ケタルニ付則
チ之ヲ買人ノ欺罔トシテ賣人ニ對シテ其責任
ヲ受シトルトヨリ得ヘキ款余此ノ如キ賣買ノ初
訟ニ於テ買人ニ欺罔ノ責任ヲ負ハシメタルト
ハ未タ曾テ聞カサル所ナリ且又法律ニ照シテ
其処置如何ニ歸スヘキ款猶ホ其理ヲ知ラサル
ナリ但シ今般ノ初訟ニ於テ其欺罔ト取ルヘキ
処ハ唯買人其約定ヲ慥カニ極ムルトナクシテ
恣ニ之ヲ取繕ヒ賣人ニ對シテ公然正明ノ約定
ヲ以テ為サレ所ノミニ之ヲモヘシ然レ氏是
レ此トニ就テハ必竟賣人ノ落度タルヲ以テ唯
此一條ノミニテハ賣人初訟ヲ言通スル能ハカ

ルナリ

又買人ヨリ賣人ニ對シテ別人ノ名ヲ銜リ或ハ
其人ノ進退富実ヲ論シテ懸貸ヲ以テ品物ヲ其
人ニ賣与スヘキ獲取計ラヒ以テ賣人ヲ欺ムキ
品物ヲ賣ラシムル片ハ縱令ヒ其所為欺罔ナリ
ト垂氏買人ヨリ唇記署名ノ約定ヲ以テ其賣買
ヲ取極メタルニ非カレハ欺罔ノ廢ヲ以テ詞訟
ノ原由ト為ス可ラサルナリ

四不正ノ賣買ノ論

凡ソ習慣法或ハ定律ニ照ラレテ明ニ其ヶ條ニ
及シ又ハ暗ニ其法意ニ背キタル約定ハ其約定
人之ヲ許テ以テ屈ヲ伸ントスル比何レノ裁廳
ニ於テモ之ヲ受理スルコトナク且ツ其約定ヲ助

一般ノ規則

ケテ以テ效驗ヲ与フルコトナシ即チ是ヨリ右一
般ノ約定ニ付之ヲ次ニ詳論ス但シ今爰ニ論ス
ル所ハ第一ニハ習慣法ニ及シ第二ニハ定律ニ
背キタル廢ニテ其約定ヲ無効ニ附シ以テ受理
セサル所以ノ訟例ヲ舉クルコト左ノ如シ

第一習慣法ニ取リテ不正ト為スヘキ約定

ノ論

妄行ノ主意ニ関シタル賣買ノ約定ハ習慣法ニ
於テ之ヲ無効ト為スナリ故ニ商商其得意ノ注
文ニ由テ公然ノ賣買ニ成ラサル濫洩妄行ノ威
商ヲ賣リタル祠祀ニ於テハ商商祠祀ヲ起シテ
其代價ヲ回復スルコト能ハサルナリ又若シ商人
娼妓ニ衣類ヲ賣渡シテ營業ヲ為サシメ而シテ其

敵人ノ約定論

代價ハ全ク賣渡ノ利潤ヨリ拂ハルヘシトノ約
定ヲ以テスルハ是レ不正ノ約定タルヲ以テ
スルハ是レ不正ノ約定タルヲ以テ從令ヒ娼
妓タルヲ知ルノミニテハ商人ヲ以テ敢テ代料
ノ回復ヲ妨ケサルト雖モ唯賣渡ノ利潤ニ由テ
ノ三代價ヲ拂ハルヘシトノ約定ニ於テハ商人
裁廳ニ出テ、初訟ヲ言通ス丁能ハサルナリ
又此國ニ未テ密賣セントスル物品賣買ノ約定
ハ不正トス故ニ此約定破約ノ初訟ハ被告ヨリ
原告ニ對シテ其不正ノ約定ニ加ハリタル歟又
ハ其密賣ヲ周旋セシ者ナル歟ヲ証明スルハ
直チニ其初訟ヲ論破スル丁能得ルナリ曾テ被
告ハ英國住居ノ英商ニシテリス此國ニ住居セ

ル原告外國人ヨリ筈縁ヲ買取ニ丁能約定セリ
此品ニ就テハ「リス」人右英商英國ニ於テ密賣
ヲ為スヘキ為メニ之ヲ買タル丁能兼知セルノ
ミナラス其上被告ノ依頼ニ由テ物品ノ露顯セ
サル様荷作り等ノ周旋シタルヲ以テ其後此事
詞訟ニ及ビタルモ裁廳斷シテ此ノ如キ代料ハ
回復スル丁能ハサル趣ニ決定セリ
然レモ亦原告ハ「リス」國住居ノ商人ニシ
テ其土地ニ於テ英商某ニ茶ヲ賣渡シタリ是ハ
右列ニキルク人其賣買ノ時ニ買人其茶ヲ英國
ニ於テ密賣セントノ企アル丁能知リタルノミ
ニテ其不正ノ企ヲ周旋シタルニ非ス且又其企
ノ成否ニ拘ラス右ノ代價ヲ受取ルヘキ約定ナ

ク因テ裁廳ニ於テ此約定ハ既ニ十分全備ニ而
メ英國外ニ於テ已ニ其約事ヲ執行ヒ且ツ賣人
ニ於テ買人ノ密商ニ於テハ賣人ニ關係ナキヲ以
テ其品ノ代價ヲ回復スルヲ得ハキトニ決定セ
リテ時裁官トシテヒール止式斷シテ云ク今般
ノ初訟ニ於テ若シ買人トシテキル也ニ於テ其茶
ヲ若テノ直毀ニテ英國ニ差送ルヘキ旨ヲ約定
シ而メ賣人之ヲ兼知シテ其品ヲ英國へ回漕ス
ヘキ事ヲ約シタル歟或ハ其品ヲ英国内ニ運送
スルトニ就テ何歟此事ニ關係セシ事アルハ
賣人ハ斷然英國ノ法律ヲ犯シタル者ナレ氏今
日ノ事件ニ於テハ賣人始ヨリ終リ迄少シモ英
國ノ法ヲ犯シタル廉吏ニ之ナキヲ以テ此ノ如

ク決定セリ

又引ニタテニ式左ノ如ク裁許シタルノ説アリ
則チ其事ハ若シ爰ニ人アリテ目今其品手中ニ
之ナク又其品ヲ買得レカ為メ他人ト西結ヒタ
ル約定モ之ナク又誰ヨリ其物品ノ来リテ何時
之ヲ入手セントスル儘カナル目的モ之ナク唯
公市ニ往キテ既ニ賣渡サント約シタル物品ヲ
買調ヒテ他日引渡サントスル約定ヲ以テスル
氏ハ賣人其約定ヲ遂ケサルト雖モ買人ヨリ賣
人ニ對シテ初訟ヲ言通スト能ハス如何トナレ
ハ賣人ノ方ニテハ素ヨリ其品ヲ儘カニ賣渡ス
目的モ之ナク唯其品ノ無有相場ニ隨ヒ之ヲ買
整ヘテ賣渡サント約定タルヲ以テナリ

賣人ノ手中ニ之ナキ
物品賣買ノ約定ハ
不正ト為サレ論

定律ニ於テ不正トモ
シ名賣買約定ノ論

第二明ニ定律ノケ條ニ背キ或ハ暗ニ其法
意ニ及レテ取捨ヒタル物品賣買ノ約定ハ
詞訟ヲ起シテ言通ス丁然ナルノ論

爰ニ一ノ請求アリ今詞訟ヲ起シテ此請求ノ理
ヲ立ントスルニ元來此約定ニ就テハ定律ニ及
レタル廢アリテ公然法律ノ守護ヲ受ル丁能ハ
ス唯税則ニ照ラシテ權利ヲ伸フル丁ヲ得ルノ
ニ是レ一時行ハレタル説ナリ故ニ原告産業稅
局ヨリ煙草渡世ノ官許ヲ請スレテ煙草ヲ賣リ
而シ其代料ニ就テ起シタル祠訟ニ於テ猶ホ原
告代料ヲ回復スルノ權アルヘキ丁ニ決定セリ
是レ其營業ノ官許ヲ受サルハ唯税則ヲ破リタ
ル一事ノミノ丁タルニ由リ過料ニテ其罪ヲ贖

ヒ以テ詞訟ノ理ヲ立ツル丁ヲ得タルナリ又
ローレ我ヨリ列シカレ我ニ對シタル祠訟ニ於
テハ爰ニ五人ニテ一社ヲ結ビ燒酎店ヲ開キタ
リ然ルニ其内ノ一人乙式ナル者刊ヨリ世
ノ定律第四卷第九十四回第百三十二章及ヒ百
三十三章ノ法ニ背キテ燒酎製造場ヨリ二里内
ニテ閑店シ且又同層第六卷第八十一回第七章
ノ法ニ及レテ其姓名ヲ稅局ノ簿記ニモ登ヤス
亦右營業ノ官許ヲ受サリケリ其後此社中ニ
テ賣リタル燒酎ノ代料ニ付キ祠訟ヲ起シタル
ニ被告ニテハ前段乙式及法ノ廢ヲ以テ其訴訟
ヲ駁セントセシカ元來右ノ廢ハ唯稅法ヲ犯シ
タルノミノ一事ニシテ且乙式一人ノ事ナリ此

司
法
省

一人ニ因テ其全社中ノ商業ヲ不正ト為ス可カ
ラス故ニ過料ニテ乙氏稅法ノ廢ヲ贖ヒ其賣渡
セル燒酒ノ代料ハ之ヲ回復スルヲ得ヘキコトニ
決定セリ

前段ノコトヲ熟考スレバ其說理ナキニ非ス然レ
氏現今ノ法律ニ於テハ若シ其約定法律ニ取テ
不正ト認ルハ經令ニ稅則又ハ他事ニ因テ不
正ノ廢ヲ保護スヘキ道アルトモ氏猶ホ其約定
ハ不正ヲ免カレサルコトニ決定セリ

然レ氏爰ニ一約定アリ而メ之ヲ定律ニ考フル
ニ其法意唯又法ノ者ニ過料ヲ出サシムルノミ
ニシテ全ク其約定ヲ廢棄スルコトニ及ハサル氏
賣人其物品ノ代料ヲ回復スルコトヲ得ルナリ

健康保護之定
律ニ及シタル約定
無効ニ屬スル論

但シ賣人貨物沒收ノ難ヲ免カレシカ為メ買人
ニ其物品ヲ賣与シテ之ヲ失ハントセシニ非サ
レハ此ノ如ク其代料ヲ回復スルコトヲ得ス

定律ニ於テ世人ノ健康ヲ保護セシカ為メ酒造
家ニテ麥酒ヲ造ルニ麥芽及ヒ「ホツ」草ノ外ニ
他物ヲ混合スルコトヲ禁シ且ツ自分ニテ他物ヲ
混和スルハ勿論他人ヲシテ此ノ如ク為サシム

ルヲモ禁シタル時藥商此事ヲ養知ニテ麥酒ニ
混入スヘキ藥材ヲ賣リタル祠私人ニ於テハ其
代料ヲ回復スルコトヲ得ザルナリ亦他人ヲシテ
官許ナシニ麥酒及ヒ燒酒ヲ賣ラシムル為メニ
取締ヒタル約定モ之ヲ言通スル能ハス蓋シ此
ノ如キ官許ハ一般ノ風儀品行ニ拘ハルコト以テ

ナリ然レ此麦酒店ヨリ官許ヲ受ナル公舎ニ麦
酒ヲ懸賣シタル詞訟ニ於テハ其代料ヲ回復ス
ルコトヲ得ルナリ
又定律ニ於テ買人ノ欺罔ヲ受ルヲ防カニ為ニ
煉尾ノ寸尺ヲ定メ若シ尾高此條例ニ背クハ
過料ヲ出スヘキトセリ故ニ尾高法則通りノ
寸尺ヨリ小キ尾ヲ買人ニ知レサル様賣渡シタ
ル詞訟ニ於テハ其代料ヲ回復スルコト能ハサル
趣ニ決定セリ又石炭條例ニ炭高買人ニ石炭ヲ
賣ルニハ必ス某ノ唇式ニ認メタル切手ヲ渡ス
ヲ以テ定例トス故ニ炭高石炭ヲ賣ルニ前唇ノ
如キ切手ヲ渡サ、ルハ其代料ヲ回復スルコ
ト能ハサルナリ

日曜日賣買約
定ノ論

又列イソに氏ヨリ「タ」に氏ニ對シタル詞訟ニ
於テ穀物ヲ馬一駄ニテ何程ト價ヲ取極メテ賣
リタル「ト」ハ「チ」マールに世ノ定律第二十二卷
ノ第九回第二章ニ於テ此ノ如キ賣方ハ分量ノ
實高ヲ妨クルヲ以テ禁セラレタリ故ニ列イソ
に氏其穀物ノ代料ヲ回復スルコト能ハサル趣ニ
決セリ又此定律ノ式格ニ從テ印符ヲ附ケサル
入物ニ入レ荷造リシタル牛酪ヲ賣渡シタル代
料ハ回復スルコト能ハサルナリ
「チ」ヤールに世第二十九卷第七回第一章ニ云
ク高買職人其他力役ヲ業トスル者ニ至ル迄テ
日曜日ハ各々其常業ヲ営ムコト能ハサル趣ニ決
定セリ但シ必用事又ハ公慈ニ係リタル事件ハ

此例外トシ而メ年齢十四歳以上ノ者此法ヲ犯
スルハ定罰トシテ五リニシテ徴収スルハ
トトス又此定律ニ遵テ馬商日曜日ニ買取リ夕
ル馬ノ請合ニ破約ノ事アルハ此處ヲ以テ祠私
ヲ起ヌト能ハサル類ニ決定セリ又日曜日ニ仲
高ノ周旋ニテ原告賣人ノ品ヲ被告買人ニ賣リ
且ツ買人ノ依頼ニ由テ仲高ヨリ其日ニ買取証
文ヲ買人方ニ相渡シ賣渡証文ハ数日ヲ経テ賣
人方ニ相送りタリ然ルニ其後賣人方ヨリ其賣
リタル物品ヲ送りタルニ買人方ヨリ受取ルト
欲セス故ニ賣人ヨリ之ヲ訴訟ニ及ヒケルニ元
未是ハ代人仲高ノ取結ヒタル約定ニシテ且又
最初日曜日ニ此約定ヲ取極メント好ミタル被

告買人ヨリ之ヲ破ルト雖モ必竟日曜日ニ十分
取極リタル約定タルヲ以テ無効ニ屬スヘキト
ニ決定セリ

常業外ノ約定無
效ニ屬スルヲ論

然レモ日曜日ニ賣人又ハ其代人ノ取結ヒタル
賣買ノ約定ハ其商事全ク其人ノ常業外ニ出
ルハ習慣法及ヒ前層ノ定律ニ於テ其約定無効
ニ屬セザルナリ故ニ買人日曜日ニ賣人馬商ヨ
リ馬ヲ買タルニ其馬賣人ノ請合ニ相違ニテ惡
馬ナリ然レモ元來買人ハ賣人ノ營業ノ馬商夕
ル事ヲ知ラス且ツ其人ノ常業ヲ以テ此馬ヲ賣
リタル由ヲ知ラサリニ故ニ日曜日ニ取結ヒタ
ル約定ノ如何ニ拘ハラヌ其請合相違ノ處ヲ以
テ賣人ヲ訴フルノ權アルハ之トニ決定セリ又

約定日曜日中ニ
必ス違フヘキノ論

或ル人代理人トナリ雇主ニ代テ伺私ヲ代理ス
ヘキトテ堅ク其身ニ擔任シタルニ雇主之ヲ破
約シタル時代理人ニ對シテ其約定日曜日ニ取
捨ニタル廉ヲ以テ決シテ言防リテ能ハス蓋シ
代理人ノ其代理ヲ約シタルトハ元來其人ノ常
業内ニ派サレテ以テナリ
品物賣買ノ約定ハ縱令ヒ賣人ノ常業ニテ日曜
日ニ取捨ニタルモノト雖モ日曜日中ニ全ク整
ヘタル約定ニ派サレハ此定律ニ從テ其約定ヲ
無効ニ附スルトナレ故ニ日曜日ニ馬ヲ買フノ
口約ヲ為スト雖モ聖日迄テ其馬ヲモ渡サス亦
代料ノ内金ヲモ相拂ハサルハ其約定無効ト
ナラサルナリ如何トナレハ欺罔律ニ日曜日ノ

商約ハ無効ニ属スルトアリ然ルニ今此約定ニ
至リテハ日曜日ノ約定ト認ムヘカラサルヲ以
テナリ又日曜日ニ始テ其賣品ヲ賣人ノ地所ヨ
リ買人方ニ輸送スルト雖モ其已前ニ賣買受取
渡ノ約定相濟ム成ハ是亦正約定ニシテ無効ニ
属セサルナリ
又被告日曜日ニ屠者原告ヨリ家畜ヲ買ヒテ之
ヲ所持致シ居リ而シテ其後其代料ヲ拂フヘキト
テ約定セシ時此代價ノ詞訟ニ於テハ被告ヨリ
之ヲ拂フヘキトニ決定セリ
然レモ買人唯日曜日ニ買取りタル物品ヲ所持
セルトノミニテハ此ノ如ク買人ニ責任ヲ負ハ
シムルトナレ

啗氏約定法卷之拾三

啗氏約定法

啗氏約定法

啗氏約定法卷之十三

目次

五賣人ノ權

右一般ノ規則

買人代價ヲ拂ハサル時約定ヲ廢棄スルノ論

懸賣賣品ノ決例

賣人代價ノ為メ詞訟ヲ起スノ論

賣人轉賣ノ論

途中差押ヘノ權利ヲ行フノ論

物品途中ニ在ルヲ以テ論スルノ論

右ノ權利ヲ行フ如何ノ論

物品到着ノ場ニ達セサル前右ノ權利ヲ失

ノ論

物品ニ符號ヲ記スルノ論

積送證書ニ裏書ノ論

賣人ヨリ誰ヲ買人ト認ム可キヤノ論

右一般ノ規則

運夫ニ引渡ヲ以テ買人ノ責任ト為スノ論

本主ト代人ト賣約ノ論

詞訟手順ノ論

六買人ノ權

買人所持ノ權ヲ得ルノ論

物品ヲ渡サ、ルニ因テ買人詞訟ヲ起スノ

論

物品到着ノ上賣與ノ論

損害償却ノ論

目次終

啗氏約定法卷之拾三

五賣人ノ權

一凡ソ物品賣買ノ約定ヲ為スト啗氏爰ニ其物品ノ引渡シ或ハ代價ノ拂方ニ就テ特ニ取極メタル事アラサル件ハ縱令ヒ賣人ノ所有權ヲ奪テ物品ノ災害ヲ買人ニ委ス可キノ諸事既ニ整フト啗氏元來ノ約定ニ拘ラス買人代價ヲ拂フ迄テハ猶ホ物品所有ノ權利賣人ノ手ニ存スルナリ是レ法律一般ノ規則トス

時トシテ買人代價ヲ拂ハサル件ハ賣人ヲシテ其約定ヲ廢棄スルノ權利ヲ得セシムルコトアリ故ニ云ク買人ヨリ既ニ手金ノ差入アリテ後ハ

一般ノ規則

買人代價ヲ拂ハサル時賣人約定ヲ廢棄スルノ論

買入方ニ欺罔ノ所為アラサレハ賣人其約定ノ
物品ヲ他人ニ轉賣スルノ能ハス而シテ買人
其約定ノ期日ニ至テ代價ヲ拂ハス亦品物ヲモ
取行カサルハ必ス賣人行テ一應其改テ買人
方ニ討索セサル可カラス而後チ買人猶ホ代價
ヲ拂ハス且ツ相当ノ時間内ニ物品ヲ取行カサ
ルハ此時始メテ約定ヲ解キ賣人ニテ先約ノ
物品ヲ他人ニ轉賣スルノ自由ヲ有スルナリ
然レ氏約定中明ニ拂期日ヲ確定スルニ非サレ
ハ賣人ハ其物品ヲ所有シテ代價ヲ討索スルノ
權ヲ有スルノミニテ買人必スシモ其期日ニ代
價ヲ拂ハサルハ敢テ約定ヲ投棄スルノ權ヲ有
ス可カラサルナリ

然レ氏物品引渡ノ上代價ヲ拂フ可キトノ約定
ニ於テ賣人ヨリ買人ヲシテ代價ヲ拂フナク
其物品ノ一部分ヲ運搬セシムルヲ許ルスト
賣人敢テ其約定ノ廢棄ト為ス可カラス賣人代
價ノ為メ其殘分ヲ差止ムルヲ得ルナリ但シ
物品一部分ノ引渡ヲ以テ既ニ全分ノ引渡シト
為スル如キハ又此例ヲ以テ論ス可カラサルナ
リ例ハ爰ニ「アール氏ナル者アリ曾テ「ダブリ
エ氏ナル者ト約定シテ「アール氏ヨリ一年定時
間ノ内ニ二週ニ三積ノ割合ヲ以テ稿ヲ積送リ之
ヲ「ダブリエ氏ノ家宅ニ於テ相渡ス可キ事ニ取
極メ而シテ「ダブリエ氏ハ右定時間ノ内積送ル所
ノ稿一積毎ニ三十三「シルリンクノ割合ヲ以テ

懸賣ノ決例

代價ヲ拂フ可キ事ヲ承知セリ然ルニ「アール氏」
右約定通り稿ヲ積送リテ後チ「ダブリエ氏」先
分渡サレタル代價ヲ拂フ「アール氏」一拂ヒ分ツ
、常ニ拂ハスシテ跡へ残置カシ「アール氏」主張セリ
是ニ於テ此事詞訟トナリシニ元來約定ノ真意
ニ從ヒハ其積送ル毎ニ代價ヲ拂フ可キ約定ニ
之「アール氏」以テ「ダブリエ氏」其代價ヲ拂ハサルニ
於テハ「アール氏」ヨリ残分ヲ積送ルニ及ハサル
趣ニ決定セリ

賣人懸貸ヲ以テ物品ヲ賣子シ而シ其時物品引
渡ノ期日ニ付キ雙方何ノ約定モ為ササルハ
買人直チニ其物品ヲ所有スルノ權アリ而シテ所
持所有ノ權共一時ニ買人ノ手ニ遷ルナリ故ニ

如此キ場合ニ於テハ賣人ハ物品ヲ引留メテ代
價ヲ討索スルノ權ヲ失ヒ又買人ハ代價ヲ拂ハ
スシテ直チニ其物品ヲ取得ルノ權ヲ有スルナ
リ然レ氏此ノ如キ約定ニ於テハ買人物品所持
ノ權未タ十分ト云フ可カラズ故ニ買人其品ヲ
所持セサル前分渡ニ及フハ代價ノ為メ其權
利賣人ニ由テ破毀セラレハナリ
又賣人物品代價ノ抵當トシテ為替手形又ハ金
子預證書ヲ受取ルハ物品ヲ押メテ代價ヲ討
索スルノ權ヲ失ヒ而シテ其證書既ニ他人ノ手
ニ渡ルハ縱令ヒ賣人ノ手ニ存スル間ハ討索
ノ權利之アリシト雖モ此ノ如ク既ニ他人ノ手
ニ渡ルハ其證書不通ノ為メ其權利ヲ再ヒ得

可カラサルニ決定ス
又賣人自ラ蔵守ト成リテ或ル人ニ物品ヲ賣渡
シタルニ其人右賣人ノ庫中ヨリ来タ其物品ヲ
運搬セサル前既ニ分散ニ及ヒタリ然ルニ賣人
ハ右買人分散前ニ物品引渡ノ證書ヲ渡置タレ
氏唯此廉ノミニテハ賣人其物品ヲ引止メテ代
價討索ノ権利ヲ妨ケサルナリ然レ氏若シ其物
品賣人ノ庫中ニ之ナク既ニ他人ノ庫中ニ運遷
シテ蔵守ハ買人ノ為メニ右引渡シ證書ヲ己レ
ノ簿冊中ニ載セ或ハ蔵守其物品ヲ買人ノ代人
トナリテ所持スルヲ承諾スルキハ又此例ヲ
以テ論ス可カラサルナリ
然レ氏爰ニ甲氏ノ名ヲハテ西印度商會ニ托シ

置タル林木ヲ甲氏ヨリ乙氏ニ賣リタルニ其後
乙氏ヨリ之ヲ丙氏へ賣ルヲ約シ則チ木材ノ
品書ト引渡シ證書ヲ丙氏ニ与ヘタリ然ルニ右
商會ニテハ甲氏ヨリノ添付アラサレハ其木材
ヲ渡サ、ル趣ニ付キ則チ丙氏其添付ヲ得シト
セシニ間モナク分散ニ及ヒテ遂ニ其添付ヲ得
ス又其代價ヲモ拂ハサリケリ于時此詞訟ニ於
テハ元ヨリ丙氏ニ木材ノ引渡シテリタルニ非
ス故ニ乙氏ヨリ丙氏ニ對シ物品ヲ引止メテ代
價ヲ討索スルノ権利アラサルニ決定セリ
又買人其買取リタル物品ヲ賣人ノ庫ニ入置キ
テ賣人ニ蔵敷ヲ拂フト賣人物品賣人ノ手ニ存
スル間ハ未タ物品ノ引渡シ完ラシタルニ非ス

猶ホ賣人物品ヲ差止メテ代價討索ノ権利ヲ失
ハサルナリ蓋シ双方ノ約定ニテ敷金ヲ拂フ物
品猶ホ賣人ノ庫中ニ存スル如キハ敷金ヲ拂フ
ニ因テ必シモ十分ノ引渡シト爲スニ非サルヲ
以テナリ然レ氏賣人ヨリ買人ニ物品ヲ賣渡シ
買人既ニ之ヲ他人ニ轉賣シ而シテ賣人其又買人
ヨリ庫敷ヲ受取ルルハ賣人物品ヲ差留メテ代
價討索ノ権利ヲ失フ可キナリ
買人分散決定ノ後賣人ヨリ其賣渡シタル物品
ノ代價ヲ證明スルキハ其物品ヲ差押ヘテ代價
討索ノ権利ヲ失フナリ
又賣人ト買人トノ約定ニテ馬車ヲ賣渡スニ其
代價ハ爲替證書四枚ヲ以テ相拂フ可ク而シテ其

賣人代價爲
詞訟ヲ起スノ論

代價皆濟ニ至ル迄テ其馬車ハ賣人ノ所有タル
トテ決スルルハ即チ代價皆濟ニ至ラサレハ其
馬車ヲ取戻スノ約定タルヲ以テ買人死シテ後
チ右ノ證書不通用タルト虫氏賣人其車ヲ捕拿
スルト能ハサル趣ニ決定セリ
二凡ソ賣人代價ノ詞訟ヲ起スニハ縦令ヒ買人
ノ方ニ聊カ過失アルト虫氏元來懸貸ノ時期限
マリアルルルハ必ス之ニ依ラサレハ其詞訟ヲ起
スト能ハス故ニ今某ノ期限ヲ定メテ物品ヲ賣
渡シ而シテ其代價ノ半高ヲ即金ニテ拂ヒ残ルノ
半高ヲ後三箇月間ニ相拂フ可キ約定ニシテ
井ハ縦令ヒ買人約定通り先分ノ半高ヲ拂ヒ
ト虫氏賣人ニ於テハ残ル半高ノ期限即チ三箇

月ヲ經サレハ代價ノ為メ詞訟ヲ起スル能ハス
又若シ各種ノ物品ヲ某ノ時間中ニ残ラス引渡
ス可キ旨全約定ヲ以テ取極メ而メ賣人其内ノ
一部分ヲ渡スルハ賣人ニ於テ其約定ノ時間未
タ過キサル内ハ其既ニ渡シタル物品一部分ノ
代價ノ為メ詞訟ヲ起スル能ハス而メ賣人方ニ
テ全ク其約ヲ踐マサルハ買人其既ニ渡サレ
タル一部分ヲ還附スルヲ得ルナリ然レモ買
人若シ残分引渡ノ期限後迄テ其既ニ渡サレタ
ル分ヲ所持シアルハ其分大テノ代價ヲ拂ハ
サルヲ得ス
又買人約定通り物品ノ代價ヲ拂ハス而メ賣人
ヨリ買人ノ承知ナクシテ其品物ヲ取戻ストモ

論賣人轉賣ノ

氏賣人猶ホ其代價ノ為メ詞訟ヲ起スルヲ妨ケ
ス而メ此時ハ唯不正ノ廉ヲ以テ買人ヨリ賠償
ヲ出サシムルノ詞訟ヲ起スナリ
三東印度商會ニテ競賣ノ約定中ニ若シ買人ニ
過失アルハ賣人其物品ヲ他人ニ轉賣シ而メ
其物品ノ損失ト雜費トヲ買人ニ負擔セシムル
ノ明文ヲ約定中ニ登記スルヲ以テ例トス「エル
レンボロ」氏ノ說ニ由レハ法律ニ於テ暗ニ賣
人ニ此ノ如キ轉賣ノ權利ヲ与ヘサルト云フ然
レモ亦後此事一定シ買人若シ約定ノ物品ヲ受
取ルヲ欲セサルハ縱令ニ約定中ニ明文ヲ
ラサルトモ賣人代價ヲ受取ラサル賣人ハ他
賣スルヲ得テ買人ハ此ノ如キ轉賣ノ為メニ

生スル所ノ損失ニ付キ其責任ヲ免カレサルヲ
ニ決定セリ但シ此ノ如キ時ハ賣人ニ於テ買人
約定ノ物品ヲ受取ラサル為メニ生スル所ノ損
害ヲ巨細説明書ニ證記ヒサル可カラズ
四賣人物品ヲ賣リタルニ猶ホ之ヲ所持スル間
ハ其物品ヲ差押ヘテ代價討索ノ権利ヲ備ヘア
ルナリ而シテ賣人ハ其物品ヲ手離シタル後トモ
氏物品未タ買人ノ手ニ遷ラスシテ代價ヲ受取
ラス而シテ其内買人分散等ノ異変アルキハ元ヨ
リ其物品ヲ取戻スルヲ得ルナリ之ヲ途中物品
差押ヘノ權ト云フ
凡ソ途中物品差押ヘノ権利ヲ行フニ就テハ賣
人全ク其約定ヲ破断ト為ス可キ歟或ハ又賣人

途中差押ヘノ
権利ヲ行フノ論

ヲ恰モ物品ヲ手離サルト同一ノ位置ニ差置キ而シ
代價ヲ拂フ迄テ其物品ヲ保持セシム可キ歟此議
尚ホ未タ一定セサル所トス然レモ其内先ツ物品
ヲ留置キテ代價討索ノ意見ヲ最良トス可キナリ
途中物品差押ヘノ権利ハ即チ名称ニ於ル如ク物
品未タ買人ノ許ニ至ラサル途中ニ於テノミ行
ハル、ナリ而シテ從來ノ各例ヲ案スルニ物品猶
ホ運送人ノ手ニ之アリテ且ツ其途中ニ在ル間
ハ運送人ハ賣人ヨリ命シタルノ如何ニ拘ラス
凡テ其物品運送ノ途中ニ在ルヲ以テ論スルナリ
故ニ物品運送ノ途中ニ在リテ荷造リ人或ハ蔵
守等ノ如キ仲間ノ者ノ手ニ存スル内ハ乃チ荷
物途中ニ在ルヲ以テ論シ賣人ヨリ之ヲ取戻ス

物品途中ニ在ル
ヲ以テ論スルノ論

同法書

トヲ得而ノ運送人幾人ノ手ヲ經ル氏元來物品
送達ノ本處ニ達セサレハ之ヲ取戻ストヲ得ル
ナリ故ニ買人物品ヲ目方ニ懸ケ又其船賃ヲモ
拂ヒテ後チ其所有權ヲ得可キ處其物品ノ一部
未タ船ヨリ卸サスンテ目方ニ懸ルトナキ内ハ
賣人ノヲ取戻スノ權利ヲ保チ且ツ縱令ニ運送
人ノヲ積送ル可キ場所ニ至リテ既ニ買人ノ波
戸場ニ其物品ヲ卸シタル後ト虫氏買人船賃ヲ
拂ハサルニ於テハ運送人其物品ヲ差押ユルノ
權ニアルトニ決定セリ又賣買ノ約定ニ付キ賣
人ヨリ物品ヲ積送ル可キ苦ニテ先ニ其賣渡シ
證書ヲ郵船ニテ買人方ニ回シ置キ而ノ買人之
ヲ受取リタレ氏既ニ勢ニ破産ノ姿ニ立至リタ

ルヲ以テ未タ其物品ノ到着シナキ内且其代價
船賃等モ拂ハサル前其證書ヲ賣人ノ為ニ他人
ニ相渡シ置時ハ則チ賣人其約定ヲ破断トナシ
テ途中差押ヘノ權利ヲ行フトヲ得ルナリ
縱令ニ賣人物品ヲ積送リテ之ヲ買人ノ波戸場
ニ回ハシ而ノ買人其物品ノ書付ヲ受取ルト虫
氏其品未タ船中ニツアル内ハ矢張り途中ノ分
ニシテ買人ノ之ヲ所有スルト能ハス且又時トシ
テ買人ハ此土地ニテ物品ヲ陸上チサハル前ニ
賣渡ス事ノ習俗タルトニ干係チサハルナリ
又物品ヲ積送リテ之ヲ買人ニ渡ストニ付キ縱
令ニ其物品買人ノ波戸場支配人又ハ運送人
手ニ相渡ルト虫氏此支配人運送人ハ元ヨリ買

人ノ代人トシテ然ルニ非サレハ既ニ其者ノ手ニ渡リタル後ト虫氏未タ其物品元來差送ル可キ場所ニ達シタリト云フ可カラス故ニ其物品ニ付キ買入ニ於テハ賣人ノ物品差押ヘノ権利ヲ奪フ一能ハサルナリ
又買人ノ船舶ヲ以テ物品ヲ積送り而シテ其積送證書ニハ先方ヘ積行キテ後チ一旦之ヲ賣人手附ノ者ニ引渡ス可キ様認メアル中ハ物品ノ所有權未タ變セサルヲ以テ買人ヨリ賣人ニ對シテ途中差押ヘノ権利ヲ破ル一能ハス而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ縱令ヒ其證書中ニ船主ノ物品ヲ積込ムニ付キ無賃ニテ之ヲ相運ノ可キ趣ヲ登記シアル氏又甲比丹ニ於テ其物品未タ賣

人ノ手ヲ離レサルニ無賃ニテ回漕ス可キ趣ヲ以テ認メタル證書ニ署名シ以テ買人ヲシテ其如ク守ラシムルノ権利ヲ有セサルトノ如何ヲ問ハサルナリ

論 右ノ權利ヲ失フノ

然レ氏若シ積送證書中ニ全ク買人ノ為メニ物品ヲ積入レ途中ノ災害等總テ買人ノ引受ニテ最早賣人ノ方ニ關係シナキ趣ヲ以テ認メ而シテ其物品ヲ運送スル時或ハ物品買人ノ蔵ニテ引渡サル、時或ハ物品ヲ買人受托人ノ手ニ渡ス時或ハ買人自己ノ蔵ニテキヲ以テ即チ積送りタル場所ノ波戸場支配人又ハ荷造人等ノ如キ他人ノ蔵ヲ借りテ其物品ヲ受取ル時或ハ買人其物品ヲ置可キ場所ヲ取極メ迄一先此處ニ

置可キトノ事ニテ則チ其場ニテ物品ヲ相渡ス
時或ハ買人ヨリ其物品ヲ他ニ轉送ス可キ差
之アル迄テ一商賈之ヲ引受ク可キトノ事ニテ
則チ其者ノ手ニ物品ヲ引渡ス時或ハ買人ノ寓
所ニテ物品ヲ賣渡シ而シテ買人ノ注文セル
船舶ニ積込ミ其船ニテ他港ノ別入ヘ回入時等
総テ右等ノ手順ニテ物品ヲ引渡ス時ハ最早賣
人ヨリ運送引渡シノ手順相終リテ買人ヨリ賣
人ニ對シ途中差押ヘノ權利ヲ破ル事ヲ得而シ
其手順一度ニ終ル片ハ後チ其物品ヲ運送スル
氏賣人再ニ最前ノ權利ヲ得ルヲ能ハサルナリ
又爰ニ物品賣買ノ全約定アリ買人残ラズ其物
品ヲ領取ス可キ積リニテ其内一部分ヲ受取ル

片ハ則チ残ラズ引渡ノ手順相終リテ賣人物品
差押ヘノ權利即チ斷絶ス
又物品差押ヘノ權利ハ縱令ニ其賣買ノ取極メ
後其終其物品ヲ他ニ運送スルヲナシト雖モ時
トシテ賣人其權利ヲ失フヲアリ即チ若シ物品
ノ賣買取極リテ後其物品失張リ賣人ノ家宅ニ
在リテ買人再ヒ之ヲ他人ニ轉賣シ而シテ賣人其
他人ヨリ蔵敷ヲ受取リテ猶ホ其終ニ差置ク時
或ハ物品賣買ノ時別人ノ手ニ在ル物品ヲ賣人
承知ノ上ニテ買人ノ名前ニ書替ヘ或ハ買人ノ
符號ヲ記スル時ノ如キハ則チ賣人物品差押ヘ
ノ權利ヲ失フナリ然レモ賣人ヨリ買人ニ物品
ノ勘定旨ヲ送知シ蔵敷ヲ取テ天張リ其物品ヲ

物品到着場所ニ達
セサル前石 権利ヲ
失フ論

賣人ノ蔵ニ差置クヲ許ルハ其ハ賣人ニ對シ
テ途中差押ヘノ権利ヲ奪フ可カラサルナリ
買人物品到着ノ上己レノ便利勝手ヲ以テ之ヲ
運送人ノ蔵ニ差置カル可キ旨ヲ望ミ而メ其品
入用ノ時ハ何時モ渡サル可キ事ノ取極ヲ以テ
スル其ハ運送人ハ例ヘハ買人ノ代人蔵守ノ如
キ性格ヲ具フルヲ以テ賣人ニ於テハ途中物品
差押ヘノ権利ヲ失フナリ

一般ニ物品買人ヨリ申越シタル場所ニ未タ届
カサル内ハ其引渡シ濟カル分ニテ縦令ニ物品
ノ受取人買人ノ代人ニテ途中ニ於テ之ヲ己レ
ノ蔵ニ収メ先方ニ差送ル可キ趣ヲ以テ受領ス
ルト雖其賣人物品差押ヘノ権利ヲ失フニアラ

物品ニ符アリ
記スル論

ナルナリ然レ其物品未タ差送ル可キ場所ヘ
達セサル前ニ買人其運送人ノ所存ニ拘ラス自
ラ途中ニ於テ其物品ヲ受取リ或ハ又別ニ之ヲ
受取リタルト同一ノ所業ヲ行フ其ハ是ニ於テ
賣人差押ヘノ権利ヲ失フナリ

然レ其運送人ハ買人代人ノ性格ヲ以テ本主ノ
為メニ其物品ヲ所有ス可キ旨承知シテ
買人縦令ニ残ラス其物品ヲ買取ル可キ所存ナ
リト雖其運送人途中ニ於テ其物品ヲ取出シ而
メ之ニ符ヲ附ル事ノミニテハ賣人ニ對シテ
物品差押ヘノ権利ヲ破ルヲ得可キ歟未タ曾
テ疑議ヲ免カレサルナリ

積送證書ニ東
省ノ論

積送證書買人ノ手ニ之アリテ未タ裏書ナサハ

ル内ハ賣人ニ對シテ途中物品ニ差押ヘノ權利ヲ妨クルコトナシ然レ氏買人不明ノ事ナク實ニ貴重ノ趣意アリテ既ニ之ヲ他人ニ讓リタルハ景早賣人物品差押ヘノ權利アラサルナリ

然レ氏積送證書ヲ渡サスシテ唯物品ノ船積手形又ハ物品ノ引渡證書ヲ買人ニ相渡スノミニテハ買人貴重ノ約原アリテ之ヲ他人ニ相渡ス氏賣人ニ對シテ物品途中差押ヘノ權利ヲ破ルコト能ハサルナリ

又買人積送證書ヲ質入シ或ハ物品ヲ賣リ或ハ價值ノ書付ヲ承諾シ或ハ其一部分ヲ拂フト虫氏賣人ニ之カ爲メ物品差押ヘノ權利ヲ破ラルコトナシ而シテ賣人直改書ヲ買人ニ渡シテ後ト買

人若シ分散ニ及ッ其書付ヲ取戻スコトナク直チニ其物品ヲ差押ルコトヲ得ルナリ

又買人分散ノ上其物品他人ノ手ニ存スル内或ハ運送人買人ヨリ勘定ノ爲メ其物品ヲ所有シアル内又ハ代人買人ヨリ勘定ノ爲メ裏合セル積送證書ヲ所持シアル内等ノ如ク何レモ未タ其物品買人ノ手ニ渡ラサルハ賣人物品差押

ヘノ權利ヲ破ラルコトナシ又賣人代價ヲ全ク受取ラサル内ハ物品ヲ所有シ居ル可キ旨ヲ積送證書ニ認置クハ縦令ヒ買人ニ此證書ヲ渡スト虫氏物品差押ヘノ權利ヲ失フニ非サルナリ

此賣品差押ヘノ權利ハ必ス賣人ニ因テ行ハサ

明治

ル可カラス蓋シ物品ノ賣人モ非ス渡シ人ニ
モ非スシテ唯其代價保證人ノ如キ者ニテ此
權利ヲ行フ能ハス而シテ渡シ人受取リ人ニ物
品ヲ賣捌カセテ其利潤損耗ヲ兩分セントノ約
定ニテ其物品ヲ受取人ニ送り且ツ其物品ヲ右
受取人欲或ハ其手ノ者ニ相渡ス可キ為メニ積
送證書ヲ既ニ受取人ニ相送りタル時ト虫氏渡
シ人ヨリ之ヲ差押ユルヲ得ルナリ爰ニ一人
他国へ出張セル者アリ此国住居ノ商賈ヨリ其
出張人ニ買品ノ注文ヲ差送り出張人其注文ニ
従ヒ則チ右注文人ノ相識ラサル商賈ヨリ懸念
ヲ以テ物品ヲ買受ケ口錢ヲ取リテ其物品ヲ注
文人ニ送附スル中ハ商賈ニ於テ此出張人ヲ渡

人トシ注文人ヲ受取人トス即チ渡人ハ賣人ニ
シテ受取人ハ買人ナリ然レ氏右賣人ノ如キ者
ニ非スシテ唯物品ヲ手中ニ所持スル内ノミ
ヲ差押ユルヲ得テ之ヲ手離ス時ハ忽チ此ノ
如キ權利ヲ失フ者ハ右賣品差押ヘノ權利ヲ行
フ能ハサルナリ又賣品差押ヘノ權利ナキ人
一旦賣品ヲ引止メテ後其品ノ本主右物品引止
メノヲ確定スルト虫氏既ニ其品ヲ買人ノ手
ニ相渡シタル中ハ其確定十分ト云フ可カラス
蓋シ先人ノ差押ヘテ確定スル事ハ必ス其品ヲ
買人ニ渡サスシテ恰モ本主ノ自ラ此ノ如キ差
押ヘテ行ヒタルカ如キ時間中ニ為サハルヲ
得サレハナリ

右ノ権利ヲ行フ
如何ノ論

賣人ヨリ誰ヲ買人
ト認奇キノ論
此ハ代人ノ所ニ
詳ナリ

右ノ一般ノ規則

賣品差押へノ権利ヲ行フニハ必シモ賣人実ニ
其品ヲ持領スルヲ要セス唯途中其物品ヲ監
護スル人ニ差押へノ報ヲ出スヲ以テ足レリト
ス若シ夫レ物品猶ホ其途中ニアル間賣主ヨ
リ此ノ如キ報告ヲ出ス片ハ其後運送人又ハ波
戸場支配人ノ取計ニテ其品ヲ買人方ニ相渡ス
氏買人ヲシテ其物品ヲ掌握セシメサルナリ
五凡ソ代人ニ物品ヲ賣リタル詞訟ニ於テハ賣
人ヨリ其代人ノミテ相手取ル可キ歟或ハ其本
主ヲ相手取ル可キ歟此事ニ付キ時トシテ其區
別頗ル難シ故ニ此疑問一定ノ規則ニ至テハ既
ニ前編ニ説明セリ
凡ソ賣人ヨリハ実ニ物品ヲ賣人シタル者ノミ

ヲ買人トシテ相手取リ以テ責任ヲ負ハシムル
ヲ規則トス而シテ其賣買ノ事取極リタル後買人
ノ承知ニテ右商品ノ利潤ヲ分配ス可キ連中ト
成リタル者ノ如キハ賣人ニ對シテ代價ノ責任
ヲ負フヲナシ又商社ニ非カル者兩人組合テ一
箇ノ物品ヲ注文スルト雖モ若シ其商約ノ全体
ニ於テ右ノ兩人其物品ノ為メニ各々責任ヲ異
ニス可キ旨賣買双方ノ承諾ヲ以テスル片ハ此兩
人ハ賣人ニ對シ其品ニ就テ均シク責任ヲ受ル
ヲナシ又甲氏ヨリ乙氏ニ物品ヲ賣リタルニシ
氏一旦之ヲ買受タレ氏到底其代價ヲ拂フ可キ
目途ナキヲ以テ此品ヲ丙氏ニ譲リ丙氏ヨリ右
ノ代價ヲ拂フ可キ趣ヲ甲氏ニ約定シタル時ノ

同誌

詞訟ニ於テハ甲氏ト丙氏ト新々ニ賣買ヲ取組
ミタル事ニテ丙氏ハ乙氏ノ負債ヲ拂フ可キ約
定ニ非サルヲ決定セリ又被告甲氏ヨリ某ノ
物品ヲ買ヒ乙氏モ亦甲氏ヨリ某ノ物品ヲ買ヒ
タルニ甲氏ノ運夫間遼ニテ被告ニ送ル可キ物
品ヲ乙氏へ渡シ乙氏ニ渡ス可キ物品ヲ被告ニ
送リタリ此詞訟ニ於テ右ノ運夫乙氏ノ品ヲ返
濟致サレ度旨ヲ被告ニ頼入レタル時被告其品
ヲ返サスシテ代料ニテ之ヲ運夫ニ拂フ可シト
云ヒタル事ハ即チ被告運夫ヨリ其品ヲ買ヒタ
ル証拠トナルヲ以テ右運夫ヨリ被告ニ對シ更
ニ賣渡セル物品代價ノ詞訟ヲ助クルノ理アル
ヲ決定セリ

慈仁或ハ其他公益ヲ以テ企テタル病院ノ如キ
公館公舎ノ為メニ給備セル物品代價ノ詞訟ニ
於テハ其債主ニ對シテ右造営ノ事務ヲ処轄ス
ル記名ノ總代ニテ責任ヲ受可キヲ決定ス
又此ノ如キ總代ヲ定メサル前ニ諸事ヲ管理セ
シ人トノ約定ニテ其ノ商人某ノ物品ヲ懸貸ニ
テ其公舎ニ給備セルニ其後改メテ總代ト何ノ
約定モナク右公舎使僕ノ注文ニ從ヒ引續キテ
其品ヲ差送り右商人方ニテハ別段ニ其事ニ付
テ問合モ致サス又代價拂方ニ至リテハ誰人ノ
責任タル可キ歟其處モ承知ナクシテ之ヲ給備
スル井ハ天帳リ右總代社中ノ責任トナラサル
ヲ得ス然レ氏若シ總代ノ社中ニテ右物品ノ

運夫ニ相渡スヲ以テ
買人ノ責任トナルノ
論

代料ハ公舎資本金ノ中ヨリ拂フ可キ旨ヲ最初
ヨリ明ニ其商人ニ断リ而シテ商人之ヲ承知ノ上
ニテ物品ヲ給備スルハ蓋シ此規則ヲ以テ論
ス可カラサルナリ

爰ニ買品ノ注文アリテ賣人其品ヲ撰定ノ上運
送人ニ相渡サル可シトノ注文ニテ賣人其注文
ニ從ヒ某ノ物品ヲ撰擇シテ運送人ニ相渡スル
ハ其運送人ハ則チ買人ノ代人トナルナリ故ニ
此運送人ニ物品ヲ渡スルハ則チ買人ニ渡セル
ト同様ニテ其後ノ変事損失等ハ皆買人ノ引受
トナルナリ是ヲ以テ縱令ヒ其時買人方ヨリ運
車ノ種類等ニ付キ別段ノ指圖之ヲシト垂氏若
シ其品運送ノ途中ニ於テ損失スルハ買人猶

ホ其代價ヲ拂ハサルヲ得ス

前段ノ如キハ既ニ其賣渡シ十分セルヲ以テ縱
令ヒ其運送人不法ニ其品ヲ引止メテ買人ニ相
渡サ、ルト垂氏賣人ヨリ買人ニ對シテ賣渡セ
ル物品代價ノ爲メニ詞訟ヲ起スルヲ得ルナリ
且又其時買人右運送人ノ不法ヲ破リテ其品ヲ
掌握スルハ殊ニ以テ然リトス

然レ氏賣人ヨリ買人ノ注文品ヲ運送人ニ渡シ
而シテ其品紛失スルハ賣人之ヲ渡セル事ニ付
キ十分注意シテ少シモ落度之ヲク即チ簿記ヲ
等閑ニシ或ハ其品ノ受取看ヲ取ラス又ハ其品
ノ請合ヲ為サ、ル如キ次第ナキニ非サレハ買
人ニ對シ詞訟ヲ起シテ物價ノ責任ヲ負ハシム

明法道

ニ足ラサルナリ

グリーフ氏ヨリ、ヘーケ氏ニ對シタル詞訟ニ於テ左ノ如ク決定セリ、リパポール港ノ風習ニテコツヒ豆ヲ買フ者ハ之ヲ買ヒテヨリ二月間賣人ノ蔵内ニ蔵敷ヲ拂ハスシテ其俵差置ク事ヲ得ルナリ然レ氏右二月ノ内ニ賣人ヨリ賣品ヲ引渡シノ證旨ヲ買人ニ渡ス其ハ其引渡シ既ニ十分シテ其時ヨリ右ノ買人ハ則チ其所有權ヲ得ルナリ

本主ト代人ト賣約ノ論

他出ノ代人其本主ノ為メニ口錢ヲ取リテ物品ヲ買ヒ右主商ノ為メニ之ヲ船積シテ差送ル其ハ縱令ヒ其物品ノ賣人賣品ノ勘定旨ヲ右代人ノ名前ニテ相認メ且ツ代人ヨリ其代料ノ承知

ヲ得ルト東氏代人ハ其本主ヲ右物品ノ買人トシテ責任ヲ負ハシムルヲ能ハス

又若シ本主ヨリ手数料ヲ与ヘテ物品ヲ賣捌カシメシカ為メニ之ヲ他出ノ代商ニ引渡シ而シテ其物品ニ付キ云々ヲ生スルハ右ノ引渡シヲ以テ本主ヨリ代人ニ對シ賣渡シタル物品ノ名義ヲ以テ詞訟ヲ起スヲ能ハサルナリ

詞訟手順ノ論

六通例ノ詞訟ニ於テ賣渡セル物品ノ代料ヲ回彼スルニハ原告ヨリ被告ニ賣渡セル物品ノ代料トシテ被告ヨリ原告ニ拂フ可キ金子ノ為メニ被告ヲ訴訟スル趣ヲ演ルヲ以テ常則トスルナリ又若シ約定ニ於テ他ノ箇條總テ十分ニ整フト東氏買人其品ヲ引取ラスシテ未タ賣人ノ

明治

手ニ存スル中ハ賣約取極メノ名義ヲ以テ詞訟
ヲ起ス一ヲ常則トスルナリ
然レ氏賣品ノ代料回復ノ詞訟ニ於テハ時トシ
テ各件ヲ巨細ニ説明スル一ヲ要スルナリ
第一若シ賣人物品ヲ賣リタレ氏其代價ニ付テ
ハ買人ニ對シテノ詞訟ニ之ナク其代價ヲ請合
ヒタル請人ニ對シテノ詞訟ニ之アル中ハ其說
明各事巨細ニ詳記セサル可カラズ
第二約定既ニ整フト虫氏未タ其品ヲ引渡サス
亦引渡シ同様ノ所為モ取行ハス而メ其品ノ所
有權未タ買人ニ遷ラサル中ハ買人ヲ訴ルニ其
賣品ヲ受取ラサル趣ヲ以テス可キナリ
第三約定ノ條款ニ從テ物品ノ代料ヲ為替手形

或ハ金子預リ證書ニテ拂フ可キ款又ハ代價ノ
内幾分ハ為替手形ニテ拂ヒ幾分ハ正金ニテ拂
ハントノ取極ニテ買人何レニテモ之ヲ拂ハサ
ル中ハ賣人ヨリ其趣ヲ各事巨細ニ説明スル一
肝要ナリ而メ其物品懸賣ヲ以テスル中ハ其手
形ノ拂モ正金ノ拂モ右懸貸ノ期限ヲ過サル内
ハ之ヲ回復スル一能ハサルナリ
又若シ賣品代價ノ為メニ為替手形ヲ渡サレ而
メ其手形通用ガサ、ル中ハ賣人ヨリ物品代價
ノ詞訟ヲ起ス一ヲ得可シ然レ氏其手形通用中
ハ代價ノ詞訟ヲ言通ス一ヲ得ス而メ又買人其
買品代價ノ為メトシテ則チ代價ノ金高ヨリ多
キ金高ノ為替手形ニ裏合シテ之ヲ賣人ニ渡シ

賣人ヨリ其差數ヲ正金ニテ受取リ而シテ賣人未
タ其手形ヲ正金ニ代替ヘサル内ニシテ紛失ス
ルハ賣人ヨリ其品ノ代料並ニ紛失シタル手
形ノ為メニ買人ニ對シテ詞訟ヲ起スル能ハス
然レ氏若シ買人欺罔ノ所為ヲ以テ物品ヲ買取
リ而シテ其代價ノ為メニ為替手形ヲ渡スルハ縱令
シ其手形ノ通用中ト雖賣人ヨリ約定ヲ破テ
物品取戻ノ詞訟ヲ起スルヲ得ルナリ

第四若シ爰ニ工事勞役及ヒ器材共全約定ヲ以
テスルハ其器材ノ代價ハ賣品ノ詞訟ヲ以テ
回復スルヲ能ハス家宅附屬品ノ代價モ賣品ノ
詞訟ヲ以テ回復ス可カラス家畜ノ代價ニ於ル
モ亦同一トス而シテ此等ノ詞訟ニ於テハ家財附

屬品家畜資産ト一ニ明カニシテ詳記セサル可
カラス

第五若シ物品ノ代價トシテ正金ヲ以テ拂フ可
キ約定ニ非ス物品ト代替ニシテ拂フ可キ交易
ノ約定ニシテ其一方ヨリ物品ヲ給備セサルハ
ハ必ス詞訟ハ約定ノ物品ヲ渡サ、ル趣ヲ以テ
起サ、ル可カラス而シテ此交易ノ約定後新ニ其
物品ノ代價ヲ正金ニテ拂フ可キ事ヲ改約スル
ニ非シレハ賣品代價ノ詞訟ヲ以テ言通スル能
ハサルナリ

又若シ物品ノ代價ヲ半ハ物品ニテ渡シ半ハ正
金ニテ拂フ可キ約定ヲ以テスルハ必ス賣人
ヨリ各個巨細ニ其趣ヲ説明セサル可カラス然

レ氏此ノ如キ約定ニテ其物品ニテ拂フ可キ分
ハ既ニ相濟ミ金子ノ分ノミ相拂ハサルハ賣
品代價ノ詞訟ヲ以テ其金子ヲ回復スルヲ得
ルナリ

若シ數種ノ賣品一ノ全約定中ニアルハ買人
唯其内ノ一兩品ノミヲ受取ルニ及ハス而シテ若
シ賣人ヨリ唯一兩品ヲ渡スハ買人ヨリ之ヲ
返附スルノ權アリ然レ氏買人若シ其渡サレタ
ル一兩品ヲ受取リテ約定ノ期日ヲ過ル迄之
ヲ所有シアルハ既ニ受取リタル物品丈ノ
代價ヲ拂ハサルヲ得ス又若シ買人ヨリ某ノ
種類ノ物品ヲ注文シ然ルニ注文ト相違ノ品ヲ
送ラレ買人其全部ヲ賣人ニ返ス可キ其全部

ヲ返サスシテ其内一部分ヲ扣留ノ置クハ其
一部分丈ノ代價ヲ拂ハサルヲ得ス
又物品若シ買人ノ心ニ適ハサルハ之ヲ返却
ス可ク又返サ、ルハ之ヲ賣ル可シトノ約定
ニテ其品ヲ相渡シ而シテ相当ノ時間又ハ約定ノ
期日ヲ過ル迄之ヲ返サ、ルハ則チ賣人ヨ
リ物品ヲ賣与セル代價ノ詞訟ヲ起スヲ得ル
ナリ又原告ヨリ物品ヲ被告ニ渡ス時若シ其品
被告ノ手ニ之アル内ニ損害スルハ被告之ヲ
買取リテ其代價ヲ拂フ可シトノ約定ニテ相渡
シ其後此事ニ付キ詞訟トナリタルニ則チ賣渡
セル物品ノ詞訟ヲ起シテ其代價ヲ回復ス可キ
趣ニ決定セリ然レ氏亦賣人ヨリ買人ニ物品ヲ

賣与スル時ニ若シ某買人某ノ時限迄テニ右ノ
代價ヲ拂ハサルハ賣人方ニテ其物品ヲ他人
ニ轉賣シ而シテ其又賣スル事ニ付キ賣人ニ損耗
ヲ引起スルハ買人方ニテ之ヲ引受可キ約定ヲ
以テスルハ買人前段ノ時限ニ代價ヲ拂ハサ
ル時ニ当リテ賣人ヨリ賣与セル物品又ハ賣与
取極リノ物品ト云ヘル名義ヲ以テ詞訟ヲ起ス
ル能ハサルナリ

六買人ノ權

縱令ニ賣買ノ約定ニテ物品所持ノ權利ハ買人
ノ手ニ遷ルト虫氏買人ハ唯此約定ニ因テ微淺
ノ權利ヲ得タルノミニテ懸貸ノ時限ヲ取極メ
タル時ノ外未タ其代價ヲ拂ハサル内ハ決シテ

所持ノ權ヲ得ル
論

物品ヲ渡サレハ
買人詞訟ヲ起ス
論

其品所持ノ權ヲ得ルヲ能ハサルナリ

一買人約定ヲ結テ物品ヲ買フト虫氏未タ其代
價ヲ拂ハサル内ハ賣人ニ對シ賣品ヲ渡サ、ル
ヲ不法トシテ之ヲ訴フルヲ能ハサルナリ又縱
令ニ賣人ヨリ買人ニ引渡ス可キ物品ヲ所持セ
サル氏約定ノ時日ニハ買人ヨリ一應代價ノ拂
方并ニ物品引取ノ事ヲ申入レサルヲ得ス爰
ニ原告甲氏商會ト被告トノ約定ニ被告ハ甲氏
商會ヨリ羊毛三拾俵ヲ買ヒ又甲氏商會ハ被告
ヨリ若干量ノ短羊毛ヲ買フ可ク且又三箇月ニ
金貳百五拾磅ノ爲替手形ヲ取組ム可キ趣ヲ約
定セシニ其後甲氏商會ハ被告ノ羊毛ヲ渡サ、
ルヲ以テ訴訟ニ及ヒケレハ元來右三箇條共同

一ノ全約定タルヲ以テ原告ヨリモ羊毛ヲ被告ニ相渡シテ自己ノ約義ヲ遂ケタル趣ヲ述ルニ非サレハ被告ヨリ短羊毛ヲ渡サ、ル違約ノ廉ヲ以テ詞訟ヲ起ス、能ハサル趣ニ決定セリ然レ氏被告賣人某ノ價ニテ物品ヲ賣リ而シテ原告買人ヨリ引渡シノ望ミアルハ何時ニテモ之ヲ渡ス可キ約定ノ處被告賣人ニテ渡サ、ルニ因テ原告買人ヨリ詞訟ヲ起サントスルニハ實ニ右代價ヲ受取ラレ度旨ヲ賣人ニ申入タル事ヲ説明スルニ及ハス唯物品ノ引渡シヲ望ミタルトモ其物品ヲ受取ル可キ用意ヲ致シ既ニ約定ノ代價ヲ備ヘアル由ヲ説明スルヲ以テ十分トスルナリ

民法

物品到着ノ上賣子論

又買人ヨリ望ミ次第物品ヲ引渡ス可キ約定ヲ以テスルハ賣人其品ヲ他人ニ轉賣スル歟又ハ他ノ事故ニテ之ヲ買人ニ渡ス事ヲ得サル歟ノ外ハ買人自身ニテ賣人方ニ往ク歟又ハ書面ニテ物品引渡シノ事ヲ申入タル上ニ非サレハ物品ヲ渡サ、ル廉ヲ以テ賣人ニ對シ詞訟ヲ起ス、能ハサルナリ又賣品某ノ期日ニ或ハ某ノ期日前ニ相渡サ、ル可キ旨兼テ約定ノ期限アルニ於テハ賣人ヨリ右期日ノ夜十二時迄ニ其品ヲ検査スル時間ヲ与ヘテ之ヲ引渡スハ買人某物品ヲ受取ラサ、ルヲ得ス凡ソ船舶ニテ到着ス可キ物品ヲ賣リ又ハ到着

ノ上ニテ之ヲ賣ラントノ約定ニ於テハ其物品
通商航海ノ常便ヲ以テ到着ナサ、ル氏一般賣
人ノ責任ニ歸スルヲナシ蓋シ此ノ如キ約定ニ
於テハ唯某ノ船舶某ノ物品ヲ積来ラハ之ヲ賣
ント迄テノ約定タルヲ以テナリ
又船舶到着ノ上成丈ク速クニ某ノ物品ヲ引渡
ス可ク遅クモ某ノ日ヲ過ク可カラサルトノ約
定ヲ以テスルハ其期日ヲ過テ後賣人ヨリ其
品ヲ渡サントスル氏買人必ス之ヲ受取ルニ及
ハサルナリ爰ニ甲氏ト乙氏トノ約定ニ於テ既
ニ「シンガポール」港ヨリ積出ニ成リテ龍動ニ到
着ス可キ「ガムビール」尺印八百五箇「上」印三百六
十五箇都合千百十七箇ヲ甲氏ヨリ乙氏ニ賣子

スル事ヲ取極メタル時ノ詞訟ニ於テハ右ノ品
既ニ積出ニ成リテ當時海路中ニ在リト迄テ
ノ請合タルトニ決定セリ
又賣品買人方へ到着ノ時ヨリ三箇月ノ懸貸ニ
テ海上ノ請合ヲ立テ、物品ヲ積送ル可キ約定
ヲ取結ヒ而シテ海上ノ請合ヲ買人ノ名前ニテ證
書ヲ取リ而シテ其品ヲ送リタルハ右積出ノ時
ヨリ其品ノ所有權直チニ買人ニ移リ諸事買人
ノ利益トナルヲ以テ船主ノ等閑ニ由テ右ノ物
品損害スルハ買人ヨリ船主ニ對シテ詞訟ヲ
起スノ權利アル可キトニ決定セリ
又甲氏ナル者其代商丙氏ノ手ヲ以テ「リ」ガ港ニ
テ某ノ船舶ニ積込ル可キ丈、ケノ麻ヲ残ラスシ

氏ニ賣渡ス可キヲ約定セリ但シ多ク氏三百
噸ヲ過ク可カラスト云ヘリ然ルニ丙氏ハ甲氏
ノ為メ其船舶ニ唯七十一噸許ノ麻ヲ積ミ而メ
他客ノ為メニ三百噸余ノ麻ヲ積込ミタル故乙
氏則チ此事ヲ詞訟ニ及ヒケルニ時ノ裁官「エル
レンボロ」氏断シテ云ク此約定ノ模様ニテハ
麻ノ分量丙氏甲氏ノ為メニ積込ミタル程ニテ
然ル可キ事ナリ而メ甲氏ハ乙氏ニ對シ七十一
噸ヨリ餘分ノ責任ヲ受可カラサルトニ決定セ
リ
又賣品ヲ引渡ス可キ約定十分ナルハ賣人封
港ノ難ニ遇フ歟或ハ他ノ道レ難キ異變ニ由テ
遂ニ約定ヲ果スル能ハサル歟ノ趣ヲ述ルト云

氏此事ニ托シテ賣人ハ決シテ詞訟ヲ防言スル
ト能ハサルナリ

約定ノ期日ニ物品ヲ引渡サ、ル詞訟ニ於テ違
約損償ノ金高ハ賣人其品ヲ賣リタル約定面ノ
直段ト買人ニ之ヲ受取ル可キ時同品ヲ買得可キ
市中ノ相場トノ相違ヲ以テ之ヲ定ムルナリ而
メ賣買ノ約定ヲ取結ヒタル後其品ヲ引渡ス可
キ期日ノ前賣人方ヨリ石ノ品ヲ他人ニ又賣リ
セルヲ以テ約定ヲ遂ケ難キ旨ヲ兼テ申入ル、
ト云氏買人方ニテ此事ヲ兼知セサルハ右ノ
規則ヲ以テ損害ヲ償ハシムルヲ得ルナリ又
買人ヨリ既ニ其品ノ代價トシテ為替證書ヲ賣
人ニ渡置ケル此ノ如ク賣人ヨリ破約スルハ

買人ハ先ッ其為替證書ヲ不通トシ而シ其違約ノ詞
訟ヲ起シテ右同一ノ損償ヲ出サシムルヲ得
ルナリ

二以前ハ賣人ヨリ物品ヲ引渡サ、ル事ニ付キ
買人ヨリ詞訟ヲ起シテ唯破約ノ償ヲ取ルノ外
他事ナシ目今ハ否ラスウエクトルヤノ定律第
十九卷第九十七篇第二章ニ從ハハ凡ソ正金ニ
テ賣買セル物品ヲ賣人ヨリ引渡サスシテ破約
セル詞訟ニ於テハ原告ノ願ニ由リ其詞訟ヲ審
断スル裁官ノ許可ヲ得テ陪審其事情ヲ審調シ
原告ノ演ル所理アルハ其未ッ引渡ニ成ラサ
ル物品ハ何品ナル歟又若シ右引渡ニ付キ原告
ヨリ被告ニ拂フ可キ金子アルハ其金高何程

ナル歟又其次第ニ由リ詞訟ノ裁許ニテ原告物
品ヲ受取リタル上猶ホ幾何ノ損償ヲ取ル可キ
ヤ又若シ被告其品ヲ引渡サ、ルハ何程ノ損
償ヲ出シテ然ル可キ歟此等ノ件々委細取調ヘ
タル上ニテ之ヲ裁許シ而シ原告ヨリ拂フ
可キ金子アルハ之ヲ拂ヒテ物品ヲ受取ル可
キ裁命ヲ下シ被告ハ則チ損償ヲ拂テ其破約ヲ
償ヒ其物品ヲ渡サ、ラント欲スル氏之ヲ聽ル
サ、ルナリ

